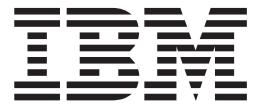


CICS Transaction Server for z/OS
バージョン 5 リリース 3



CICSplex SM WUI ガイド

CICS Transaction Server for z/OS
バージョン 5 リリース 3



CICSplex SM WUI ガイド

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 171 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 3 (製品番号 5655-Y04) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC34-7451-00

CICS Transaction Server for z/OS

Version 5 Release 3

CICSPlex SM Web User Interface Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1999, 2015.

目次

前書き	v	ビュー・エディター	21
本書の対象読者	v	ユーザー・エディター	22
必要な知識	v		
Knowledge Center 内のトピックの場所	v		
CICS システム接続	vi		
CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの Web ブラウザー	vii		
CICSplex SM に関する追加情報	vii		
CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 5 リリース 3 の変更点	ix		
第 1 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース	1		
Web ユーザー・インターフェースの機能およびフィーチャー	1		
各国語サポート	2		
対話式プロシージャーの例	3		
WUI システムの概要	3		
Web ユーザー・インターフェースの制御	3		
管理	3		
セキュリティー	4		
カスタマイズされた Web ユーザー・インターフェースの作成	4		
第 2 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのメイン・コンポーネント	5		
CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのフレーム	5		
Web ユーザー・インターフェースのアイコン	5		
ナビゲーション・フレーム	7		
作業フレーム	8		
支援フレーム	9		
ビュー	9		
タイトル	9		
ビューノミネーション名	10		
メッセージ領域	10		
選択基準および最新表示域	10		
フォーム	11		
選択リストおよび入力フィールド	15		
リンク	17		
注釈	17		
ボタン	17		
メニュー	18		
メッセージ領域	19		
選択基準領域	19		
メニュー選択	20		
ユーザーのお気に入り	20		
コンテキスト、CMAS コンテキスト、およびスクープ	21		
第 3 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの使用	23		
CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースへのアクセス	23		
Web ユーザー・インターフェースのヘルプ	23		
WUI メッセージのヘルプ	24		
WUI でのサインオン	25		
パスワードの変更	27		
WUI メインメニュー	28		
前の表示に戻る	29		
オープン・リンク	29		
ナビゲーション・フレームの項目の展開と縮小	29		
新規ウィンドウのオープン	30		
ウィンドウのクローズ	30		
サインオフ	30		
ハイパーリンクの使用	30		
WUI ビューまたはメニューの選択	31		
WUI でのデータの入力	35		
WUI での選択基準	38		
コンテキストおよびスコープ	39		
ビューのソート	40		
ビューの集計	41		
ビューの最新表示	42		
要求時の最新表示	42		
自動最新表示	43		
リソースに対する操作	43		
属性の変更とパラメーターの入力	45		
ビューの印刷	46		
データのフィルタリング	46		
フィルターの展開および縮小	47		
関係演算子	47		
値	48		
WUI のレコード・カウント警告	49		
CICSplex SM 定義をマップする方法	51		
CICSplex SM 定義のマップの表示	57		
第 4 章 Web ユーザー・インターフェースの管理	59		
CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・トランザクション (COVC)	59		
Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始および停止	60		
状況詳細の表示	61		
ユーザー・セッションの表示	62		
WUI 定義のインポートおよびエクスポート	64		
トレース・フラグの設定	72		

Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ	72	Web ユーザー・インターフェース提供のビューおよびメニュー	113
IBM 提供のビュー定義およびメニュー定義のセット	73	カスタマイズされたメニューの作業	113
出力ログ (EYULOG)	74	カスタマイズされたビュー・セットの作業	114
カスタマイズ可能なヘルプのソース	75	カスタマイズされたビューの作業	116
Web ユーザー・インターフェースから外部サーバーへのアクセス	75	ビュー・コンポーネントの作業	121
WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供	75	カスタマイズしたマップ・オブジェクトの使用	125
接頭部	76	更新の適用または拒否	129
パス	76	タスクの例	130
選択基準	78		
WUI オブジェクト名の指定	79		
例	79		
セキュリティに関する考慮事項	80		
セキュリティをアクティブにしての Web ユーザー・インターフェース・サーバーの実行	81		
WUI セキュリティ・プロファイルの例	83		
セキュリティがアクティブでない Web ユーザー・インターフェース・サーバーの実行	84		
CMAS および MAS トレース・フラグの設定	84		
第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ	87		
ユーザーのお気に入りの管理	87		
お気に入りのエディターによるお気に入りの管理	88		
他の WUI ユーザーのお気に入りの作成および管理	90		
ユーザー・グループ・プロファイル	92		
ユーザー・グループ・プロファイルの作成および管理	94		
カスタマイズされた WUI メニュー、ビュー、およびマップ	98		
カスタマイズされたビュー・セットおよびビュー	98		
カスタマイズされたメニュー	105		
カスタマイズされたマップ・オブジェクト	106		
データの表示	107		
属性	109		
パラメーター	110		
アクション・ボタン	110		
カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ	111		
Web ユーザー・インターフェース・サーバーによってサービスが提供されるページを作成する際の考慮事項	112		
ビュー・エディターの使用	112		
ビュー・エディターのアクセス	113		
付録. Web ユーザー・インターフェース HTML	169		
特記事項	171		
商標	173		
参考文献	175		
CICS Transaction Server for z/OS の CICS ブック	175		
CICS Transaction Server for z/OS の CICSPlex SM ブック	176		
他の CICS 資料	176		
アクセシビリティー	179		
索引	181		

前書き

本書では、以下のとおり CICSplex® SM Web ユーザー・インターフェースについて説明します。

- 1 ページの『第 1 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース』では、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの概要を示します。
- 5 ページの『第 2 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのメイントップ・コンポーネント』では、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのフィーチャーについて説明します。
- 23 ページの『第 3 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの使用』では、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの使用方法について説明します。
- 59 ページの『第 4 章 Web ユーザー・インターフェースの管理』では、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの管理方法について説明します。
- 87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』では、ビュー・エディターを使用して CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースをカスタマイズする方法について説明します。

本書の対象読者

本書は、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースを使用するための情報またはガイダンスが必要なユーザーを対象としています。 例えば、システムの設計者およびプログラマーや、このインターフェースのセットアップや管理保守を行う担当者などが対象となります。

必要な知識

本書は、読者が CICS® Transaction Server for z/OS® の CICSplex SM エレメントに精通されていることを前提としています。 CICSplex SM 操作ビューおよびリソース・テーブルに関する知識があると役に立ちます。 さらに、オペレーターが CICS の操作に精通し、管理者が CICSplex SM、CICS、および TCP/IP の管理に精通し、エンド・ユーザーが Web ブラウザーに精通していることが前提となります。

Knowledge Center 内のトピックの場所

本書のトピックは、CICS Transaction Server for z/OS の Knowledge Center でも見つけることができます。 Knowledge Center では、コンテンツ・タイプを使用して情報の表示方法が構成されています。

Knowledge Center のコンテンツ・タイプは全体としてタスク指向になっています。 例えば、アップグレード、構成、インストールなどです。 他にも、参照、概要、およびシナリオまたはチュートリアル・ベースの情報などのコンテンツ・タイプがあ

ります。以下のマッピングは、本書内のトピックと Knowledge Center のコンテンツ・タイプの間の関係を示しています。外部の Knowledge Center へのリンクもあります。

表 1. Knowledge Center のコンテンツ・タイプへの PDF トピックのマッピング：この表は、PDF のトピックと Knowledge Center のコンテンツ・タイプのトピックとの関係をリストしています。

本書のトピックのセット	Knowledge Center での場所
<ul style="list-style-type: none"> 1 ページの『第 1 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース』 23 ページの『第 3 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースの使用』 59 ページの『第 4 章 Web ユーザー・インターフェースの管理』 87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』 141 ページの『第 6 章 クライアント・アプリケーション・データ・インターフェース』 	<ul style="list-style-type: none"> Product overview Administering Configuring チュートリアルとデモ 『Reference』の『System programming reference』

CICS システム接続

このリリースの CICSplex SM は、直接接続する CICS システムを制御するために使用できます。

このリリースの CICSplex SM に接続可能な CICS システムは以下のとおりです。

- CICS Transaction Server for z/OS 3.1
- CICS Transaction Server for z/OS 2.3
- CICS Transaction Server for z/OS 2.2
- CICS Transaction Server for OS/390® 1.3

このリリースの CICSplex SM を使用して、CICSplex SM の以前のリリースに接続および管理されている、サポート対象リリースの CICS が実行されているシステムを制御することができます。ただし、直接接続可能なリリース・レベルの CICS (上記にリストされているもの) が、CICSplex SM の以前のリリースに接続されている場合には、CICSplex SM を現行リリースにマイグレーションして、拡張管理サービスの利点を十分に利用されることを、強くお勧めします。これを行う方法については、「*CICS Transaction Server for z/OS CICS TS V2.3 からのマイグレーション*」を参照してください。

表 2 は、サポートされているどの CICS システムが、どのリリースの CICSplex SM に直接接続できるかについて示しています。

表 2. 直接接続が可能な CICS システム (CICSplex SM リリース別)

CICS システム	CICS TS 3.1 の CICSplex SM コンポーネント	CICS TS 2.3 の CICSplex SM コンポーネント	CICS TS 2.2 の CICSplex SM コンポーネント	CICS TS 1.3 の CICSplex SM コンポーネント
CICS TS 3.1	はい	いいえ	いいえ	いいえ
CICS TS 2.3	はい	はい	いいえ	いいえ

表2. 直接接続が可能な CICS システム (CICSPlex SM リリース別) (続き)

CICS システム	CICS TS 3.1 の CICSPlex SM コンポ ーネント	CICS TS 2.3 の CICSPlex SM コンポ ーネント	CICS TS 2.2 の CICSPlex SM コンポ ーネント	CICS TS 1.3 の CICSPlex SM コンポ ーネント
CICS TS 2.2	はい	はい	はい	いいえ
CICS TS 1.3	はい	はい	はい	はい
TXSeries® 4.3.0.4	いいえ	はい	はい	いいえ
TXSeries 5.0	いいえ	はい	はい	いいえ

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースの Web ブラウザー

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースを使用するには、以下をサポートする Web ブラウザーが必要です。

- HTML 4.0 以降 (フレームおよびテーブルを備える)
- HTTP 1.0 または 1.1
- HTTP Cookie のサポート

ご使用のブラウザーが以下をサポートしている場合は、追加の機能を利用できます。

- Java™ 1.0.2 クラス
- JavaScript 1.1 スクリプト
- 複数のブラウザー・ウィンドウ

必要な機能を備えたブラウザーの例として、Netscape Navigator 4.5、Netscape Communicator 4.75、Netscape 6.0、および Microsoft Internet Explorer 5.0 などがあります。

CICSPlex SM に関する追加情報

CICSPlex SM に関する追加情報を、以下のワールド・ワイド・ウェブで入手できます。

<http://www-3.ibm.com/software/ts/>

CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 5 リリース 3 の変更点

このリリースに加えられた変更点に関する情報は、Knowledge Center の『新機能』または以下の資料を参照してください。

- *CICS Transaction Server for z/OS 新機能*
- *CICS Transaction Server for z/OS CICS TS バージョン 5.3へのアップグレード*

リリース後に本文を技術的に変更した箇所は、その箇所の左側に縦線 (|) 引いて示しています。

第 1 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (WUI) は、ご使用の Web ブラウザ用にカスタマイズ可能な、プラットフォームに依存しないインターフェースです。

Web ユーザー・インターフェースの機能およびフィーチャー

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (WUI) は、CICS CICS リソースのモニターと制御に必要なすべての操作および管理タスクの実行に使用できる、使いやすいインターフェースを提供しています。Web ユーザー・インターフェースには、Web ブラウザを起動できる場所であればどこからでもリンクできます。

WUI には、すべてのシステム管理タスクを容易にするためのリンクされたメニューおよびビューのセットが備わっています。

WUI を、ビジネス手順を反映して個別ユーザーの必要に適合するようにカスタマイズすることもできます。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースによって、以下のことを行えます。

- ユーザーに参照させたい情報だけを表示する、明確で整理されたメニューおよび表示 (ビュー と呼ばれる) を作成します。
- データをタスク指向の方法で構成します。以下のことを行うことができます。
 - リソース・カテゴリー、ユーザー・タスク、またはアプリケーション別にユーザー・インターフェースを編成する。
 - ビュー間のリンクを定義する。
 - ディスプレイに表示されるボタンとそれらから実行されることを定義する。
- データ・レイアウトをカスタマイズします。以下のことを行うことができます。
 - 必要な数だけ同じオブジェクトのビューを設定し、それぞれのビューでユーザー・タスク別に異なるデータ選択を表示する。
 - Java が使用可能となっている Web ブラウザーがある場合、データのグラフィカル表示を使用できる。例えば CICS 領域でアクティブなタスクの数を示す棒グラフ、またはフィールドに定義したしきい値に応じて、色が変化するか明滅するように構成できる警告ライトのいずれかを表示できます。
- ビジネス上の必要に適合するように、ビューのテキストおよび外観をカスタマイズします。以下のことを行うことができます。
 - ビジネスに適した用語を使用する。
 - 注釈およびカスタマイズされたヘルプのために、ユーザーの各国語を使用する。
 - フィルターを使用して表示されるデータを制限することにより、ユーザーがそのタスクに関連したデータだけを見るようにする。
 - 連絡先名や電話番号など、ユーザーの役に立つ情報を組み込む。

- アクション・ボタンに書き込まれるテキストを定義する。
- メニュー選択ごとに、ユーザーのタスクに役立つ説明文を追加する。
- CICS 領域のビューにシャットダウン・ボタンなど、ビューごとにタスクを実行するためのボタンを提供する。
- 素早く簡単にアクセスできるよう、お気に入りのセットにビューを割り当てます。こうすると、頻繁に使用されるビューにたった 1 回のクリックでアクセスできるようになります。管理者には、他のユーザーのお気に入りを更新する追加の権限があります。
- ユーザーがタスク遂行のために参照する必要のあるデータを表示します。以下のことを行うことができます。
 - ユーザー・グループのプロファイルを作成する。これらのプロファイルには、デフォルト・コンテキスト、有効範囲、CMAS コンテキスト、メニュー、および結果セットの警告数などの情報が含まれています。このようにして管理者はいろいろなユーザー・グループに合わせて WUI を構成し、個人のニーズに合わせたインターフェースを提供することができます。
 - ユーザーに参照させたい情報をだけを表示する。
 - どんな情報を修正できるか、およびどこでどのようにその修正を行うかを制御する。例えば、操作が必要なことやデータを変更する必要があることをユーザーが確認するようにすることができます。入力フィールドを表示専用または事前設定値に制限できます。
 - アクションが実行されることをユーザーが確認するように求める確認パネルを提供して、安全性を増し加える。
 - 大量の数のレコードを生成するビューを開く前に、WUI が警告を出すように設定する。こうすると、不必要的待ち時間が削減されるのでパフォーマンスが向上します。
- ユーザーのタスク操作をガイドするメニューの作成。企業内で行われる各タスクについて、どの CICSPlex SM オブジェクトがそのタスクに関係するかがわかれれば、それらのオブジェクトを含むタスク・メニューを作成することができます。このようにして、企業の業務手順に合わせたメニューを作成することができます。
- それぞれのビューやメニューについて、カスタマイズされたヘルプ情報を各国語で提供する。例えば、実行されるタスクの説明、特定場所の連絡先名および電話番号を提供することができます。そのようなヘルプ文書は、Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして機能するように選択された CICS システム上に配置するか、または各メニューおよびビューを、外部サーバーの既存の Web ベースの手順マニュアルにリンクさせることができます。
- ビュー・エディター、ユーザー・エディターと特定のメニュー、ビュー、およびヘルプ・パネルを無許可アクセスから保護する。

各国語サポート

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースは、日本語、中国語（簡体字）、および米国英語のグローバリゼーション・サポートを提供します。

対話式プロシージャーの例

対話式プロシージャーの例は、アクティブ・ワークロードでターゲット領域をシャットダウンするための、プロシージャー内のステップを含むメニューから構成されることがあります。

1. ワークロードのアクティブ・ターゲット領域を表示します。

このビューから、ターゲット領域を選択して、それを静止します。

2. 選択されたワークロードのアフィニティーを表示します。

ターゲット領域をシャットダウンすることにより影響を受けるアクティブなアフィニティーがないことを確認します。

3. 領域内のアクティブ・タスクを表示します。

ターゲット領域内のアクティブ・タスクを確認します。

4. CICS ターゲット領域を表示します。

ターゲット領域をシャットダウンします。

WUI システムの概要

Web ユーザー・インターフェースへは、専用の CICS 領域である WUI サーバーに接続する、標準的な Web ブラウザー・ソフトウェアを使用してアクセスします。

複数の WUI サーバーをアクティブにすることができます。例えば、さまざまな言語を使用する必要がある場合や、さまざまなサーバーに対してさまざまなシステムを使用可能にする必要がある場合などがあります。Web ブラウザー・クライアントは、CICS Web インターフェースを介して、HTTP 要求により Web サーバーに接続します。

WUI サーバーは、CICSplex SM ローカル MAS として実行して、接続先の CMAS を介して管理対象リソースと通信します。

すべてのメニューおよびビューディニティは、サーバー・リポジトリに保管されます。WUI サーバーごとに、1 つのリポジトリがあります。メニューおよびビューディニティは、バックアップのため、他のサーバーに定義を配布するため、および製品の新規リリースにアップグレードする際にメニューおよびビューを転送するために、エクスポートすることができます。

Web ユーザー・インターフェースの制御

WUI の制御方法を決める際には、管理、セキュリティー、およびカスタマイズについて検討する必要があります。

管理

WUI は、管理トランザクション COVC を提供します。

COVC により、以下のことを行えます。

- Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始およびシャットダウン

- サーバー状況の表示
- 現在のユーザー・アクティビティーの表示およびアクティブ・ユーザー・セッションの終了
- リポジトリ一定義のインポートおよびエクスポート
- トレース・フラグの設定

セキュリティー

Web ユーザー・インターフェースは、CICSplex SM のために、既存の RACF®（または他の外部セキュリティー・マネージャー）のセキュリティー・プロファイルを使用します。

アクセスは、サインオン時にユーザー ID およびパスワードによって制御されます。

追加のセキュリティーを設定して、特定の Web ユーザー・インターフェースのメニュー、ビュー、およびヘルプ・パネル、そしてビュー・エディターへのアクセスを制御できます。

Secure Sockets Layer (SSL) サポートを使用して、接続に暗号化を提供することもできます。

これらのセキュリティー機能を設定する方法については、80 ページの『セキュリティーに関する考慮事項』を参照してください。

カスタマイズされた Web ユーザー・インターフェースの作成

WUI は、ビジネス上の必要に合わせてカスタマイズするように設計されています。

カスタマイズされたインターフェースの作成では、以下のことが網羅されます。

- ビジネス・タスクおよびタスク間の関係についての分析
- オペレーター・システム・プログラマーなど、特定の要件があるユーザー・グループのグループ・プロファイルの作成
- メニューおよびビューの調整、および付加的な文書の追加

Web ユーザー・インターフェースは既存のプロシージャーを伴うように設計されているので、インターフェースを作成する際のメインタスクは、メニューおよびビューを特定のユーザー・グループ用に調整してから、必要とされる付加的な文書を追加することです。 提供されているビューおよびメニューのセットを開始点として使用すると、このタスクで役立ちます。

第 2 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのメイン・コンポーネント

このセクションでは、CICSplex Web ユーザー・インターフェースのメイン・コンポーネントおよび共通機能についての概要を簡潔に示しています。

ここでは、以下のトピックについて説明します。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのフレーム

WUI は、フレーム・ベースのインターフェースを活用します。

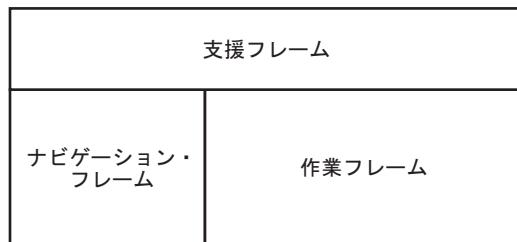


図 1. CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースによって使用されるフレーム・ベースの表示

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース表示は、以下の 3 つのフレームから構成されます。

- ナビゲーション・フレーム
- 作業フレーム
- 支援フレーム

CICSplex Web ユーザー・インターフェースのフレームには、アイコンおよびリンクが含まれることがあり、それらによって Web ユーザー・インターフェース内をナビゲートすること、ヘルプなどの Web ユーザー・インターフェース機能にアクセスすること、および Web ユーザー・インターフェースのセッションを管理することができます。

Web ユーザー・インターフェースのアイコン

WUI はアイコンを使用して、アクションの開始、または追加情報の伝達を行います。

アイコンの種類：

- ユーザーがマウスなどのデバイスでポイントして特定の機能を選択できる、グラフィック・シンボル。 グラフィック・シンボル・アイコンを選択すると、アクションが実行されます。 例えば、「戻る」アイコンを選択すると、直前のメニューまたはビューが表示されます。 6 ページの表 3 に示されているアイコンは、グラフィック・シンボルの例です。

- イメージから構成される、オブジェクト（ファイルやフィールドなど）のグラフィカル表現。このタイプのアイコンを選択することで得られる特別な効果はありませんが、アイコンにより追加情報が伝えられる場合があります。

Web ユーザー・インターフェースでは次のアイコンを使用しています。

表 3. WUI アイコン

アイコン	説明	意味
	お気に入りにビューを追加	現在のビューをユーザーのお気に入りのリストに追加します。
	大文字小文字の区別のあるフィールド	入力フィールドが大文字小文字を区別することを示しています。
	縮小	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーション・フレームでグループを縮小表示します。 フィルター領域を縮小表示します。
	すべて縮小	マップ・ビュー上の縮小可能な要素をすべて閉じます。
	すべてのレコードを選択解除	表形式ビューですべてのレコードを選択解除します。
	動的選択リスト	動的選択リストを生成できるフィールドにマークを付けます。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーション・フレームでグループを展開します。 フィルター領域を拡張します。
	すべて展開	マップ・ビュー上の展開可能な要素をすべて開きます。
	戻る	直前のメニューまたはビューに戻ります。作業フレームとアシスタンス・フレームの両方に、「戻る」アイコンがあります。
	前のメニューに戻る	ウィンドウに表示された最後のメニューに戻ります。
	最初に戻る	このウィンドウで最初に表示したページに戻ります。
	一般ヘルプ	Web ユーザー・インターフェースのヘルプ・コンテンツ・ページを開きます。
	この表示のヘルプ	現在のビューまたはメニューに対する特定のヘルプを開きます。
	左方にマップ	関連する上位レベル・リソースのマップを表示します。
	右方にマップ	関連する下位レベル・リソースのマップを表示します。

表3. WUI アイコン (続き)

アイコン	説明	意味
	印刷プレビュー	ビューを印刷する体裁で新しいウィンドウに表示します。
	必須パラメーターまたは属性	入力が必要なフィールドにマークを付けます。
	すべてのレコードを選択	表形式ビューですべてのレコードを選択します。
	昇順にソート	列のデータを昇順にソートします。
	降順にソート	列のデータを降順にソートします。
	集計	選択された列に基づきビューのデータを集計します。

ナビゲーション・フレーム

ナビゲーション・フレームは画面の左側に表示され、ビューまたはメニューの表示あるいはアクションの実行を行うための項目を含んでいます。

ナビゲーション・フレームは画面の左側に表示され、ビューまたはメニューの表示あるいはアクションの実行を行うための項目を含んでいます。表示される項目は、構成および権限によって異なります。例えば、ユーザーに画面をカスタマイズする権限がない場合には、ビュー・エディターへのリンクは示されません。ビュー・エディターについて詳しくは、21ページの『ビュー・エディター』を参照してください。

ナビゲーション・フレーム内にあるリンクのタイプは、以下のとおりです。

メニューおよびビュー

選択されると、作業フレームの内容を他のメニューまたはビューに設定できるリンク。

外部リンク

新しい Web ブラウザー・インスタンスを起動する外部 URL へのリンク。

標準リンク

これらは自動的に表示されるもので、カスタマイズできません。

オープン・リンク

ホーム

現在の内容および有効範囲を使用してホーム・メニューを開きます。

「戻る」アイコンを使用して、現在の表示に戻ることができます。

前のメニューを繰り返す

現在の内容および有効範囲を使用して最後に表示されたメニューを開きます。「戻る」アイコンを使用して、現在の表示に戻ることができます。

特殊リンク

「お気に入りエディター」リンク

Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ・ツールであるお気に入りエディターを含む新しいウィンドウを開きます。これは、1つ以上のお気に入りを作成したユーザーだけが使用できます。

「ビュー・エディター」リンク

Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ・ツールであるビュー・エディターを含む新しいウィンドウを開きます。これは、適切な権限を持つユーザーだけが使用できます。

「ユーザー・エディター」リンク

Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ・ツールであるユーザー・エディターを含む新しいウィンドウを開きます。これは、適切な権限を持つユーザーだけが使用できます。

「新規ウィンドウ」リンク

現在の選択条件を使用して、現行ビューまたはメニューに対する個別の Web ユーザー・インターフェース表示を含む新しい Web ブラウザー・ウィンドウを開きます。

「ウィンドウを閉じる」リンク

Web ブラウザー・ウィンドウを閉じます。

「サインオフ」リンク

Web ユーザー・インターフェース・セッションからサインオフします。

ナビゲーション・フレーム内のいくつかの項目は、6ページの表3に示されている展開および縮小アイコンを使用して、他のグループから独立して展開および縮小可能なグループになっていることがあります。

作業フレーム

作業フレームは、対話のためにデータがユーザーに提示される領域です。

作業フレームには、以下のものが表示されます。

- 表示される情報のタイトル。
- 表示のためのカスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプへのリンク。
- メッセージ領域。1つ以上のメッセージと、表示されている1つまたは複数のメッセージに関する説明へのリンクを含みます。
- 選択基準および最新表示域。コンテキスト、有効範囲、およびフィルターを設定すること、および現在表示されているメニューまたはビューを最新表示することを可能にします。
- 以下のいずれかのフォーマットによる、作業要求の結果。
 - 1つ以上のリンクを選択できる関連トピックのリストであるメニュー。
 - あるリソース・タイプの複数のレコードに関するフォーマット済み情報を表示する、表形式ビュー。
 - 単一のリソース・インスタンスに関する情報を表示する、詳細ビュー。
 - アクションをコミットするか、取り消すか、または追加の入力を行うかのオプションを可能にする、確認パネル。

- ユーザーのサインオン情報の入力を求める対話式パネルである、サインオン・パネル。
- タイトルおよび情報メッセージを含み、追加データのない、簡単なメッセージ表示。

支援フレーム

支援フレームには、製品名、Web ユーザー・インターフェース・ヘルプにリンクするアイコン、IBM® ロゴ、および「最初に戻る」、「前のメニューに戻る」、そして「戻る」アイコンが含まれています。

ビュー

ビューは、特定の方法で指定の管理下オブジェクトと対話するための表示フォーマットです。ビューはビュー・セットの中にあります。ビューには、CICS リソースまたは CICSplex SM 定義についての情報を表示することができます。

さまざまなビューのタイプには、以下のものがあります。

表形式 複数のレコードからのデータを表示します。

詳細 1 つのレコードからのデータを表示します。

マップ 関連したリソース定義のグループ間の関係を表示します。

マップについて詳しくは、51 ページの『CICSplex SM 定義をマップする方法』を参照してください。

ビューは、以下に示すいくつかの可能なコンポーネントで構成されています。

- タイトル
- メッセージ領域
- 選択基準および最新表示域
- フォーム
- リンク
- 注釈
- アクションおよび確認ボタン
- ヘルプ・リンク
- リソース名およびビュー名

ビュー・セットは、1 つのオブジェクトを管理するために一緒に使用される関連した複数のビューです。ビュー・セットは、通常、関連する確認パネルのある 1 つ以上の詳細ビューにリンクされている単一の表形式ビューから構成されます。

マップは、関連したリソース定義のグループ間の関係を表示する特殊なタイプのビューです。詳細については、51 ページの『CICSplex SM 定義をマップする方法』を参照してください。

タイトル

ビューのタイトルは、ページの上部に表示されるビューの記述名です。

このタイトルは、関連付けられたリンクでのメニューと似ていますが、必ずしも同じではありません。 タイトル領域には、この表示に対するカスタマイズ可能なヘルプへのリンク、印刷プレビュー・アイコン、およびリソース・アイコンが含まれます。

この領域は、常に存在します。

Web ブラウザーが JavaScript をサポートしている場合、Web ブラウザーおよびオペレーティング・システムの機能によっては、以下のようにタイトルが Web ブラウザー・ウィンドウ・タイトルにも表示されることがあります。

<view title> - <userid> - <applid> - CICSPlex SM WUI

ここで、

- <applid> は、WUI サーバーの CICS アプリケーション ID です。
- <userid> は、サインオンしているユーザー ID です。
- <view title> は、作業フレームの上部に表示されるタイトルです。

JavaScript がアクティブではない場合、<view title> はウィンドウ・タイトルに表示されません。

ビューア名とリソース名

この情報は、ビューの下部の作業フレームの下に表示されます。これは常に存在します。

リソース名は、ビューに関連付けられたリソース・オブジェクトの名前です。各リソース・オブジェクトは、リソース・テーブルによって表されます。

IBM によって CICSPlex SM と共に提供されるすべての WUI ビューは、EYUSTARTObject.viewtype という名前になります。ここで、object は関連付けられたリソース・オブジェクトの名前であり、viewtype はビューのタイプを記述しています。例えば、EYUSTARTTASK.TABULAR という名前のビューは、アクティブ・タスクをリストする表形式ビューです。これは、TASK という名前のリソース・テーブルから派生しています。EYUSTARTCSYSDEF.CREATE は、新しい CICS システム定義の作成に使用される定義ビューです。これは、CSYSDEF という名前のリソース・テーブルから派生しています。

この文書中で、ビューはファイルまたはリソース名ではなくメニュー名によって示されます。

メッセージ領域

この領域には、WUI メッセージが表示されます。メッセージ番号をクリックすると、表示されているメッセージの説明を表示できます。

メッセージ領域は、必要なときに自動的に表示されます。

選択基準および最新表示域

この領域では、コンテキストと有効範囲を設定すること、および現在表示されているビューを最新表示することができます。

以下の 2 つの方法でビューを最新表示することができます。

- 要求時の最新表示
- 自動最新表示

選択基準の設定方法について詳しくは、38 ページの『WUI での選択基準』を参照してください。

この領域は適切に自動表示されますが、その内容はビュー・エディターを使用してカスタマイズできます。ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。

要求時の最新表示

使用可能な場合には、選択基準および最新表示域にある「**Refresh (最新表示)**」ボタンを選択することにより、表示されているビューをいつでも最新表示できます。

自動最新表示

自動最新表示の機能は、Javascript が使用可能な Web ブラウザーを使用している場合にのみ使用可能となります。自動最新表示の機能によって、ビュー内のデータを更新する頻度を制御できます。

自動最新表示について詳しくは、42 ページの『ビューの最新表示』を参照してください。

フォーム

これは作業フレームに表示される情報です。データがある場合には、常にフォームが存在します。

フォームの内容は、表示されているビューのタイプによって異なります。

表形式 リソース・タイプの複数インスタンスから選択された属性、または集計されたレコードを示す表示。ビューは、複数のページから構成されることがあります。必要なページ番号を入力して任意の使用可能なページにジャンプすること、または「**Next (次へ)**」および「**Previous (前へ)**」ボタンを使用して使用可能なページを 1 つずつ表示することができます。

表形式ビュー内の各属性は、別々の列に表示されます。「**Record (レコード)**」列の上部にある



(すべて選択) および



(選択をすべて解除) アイコンによって、アクションのための 1 つ以上のレコードを選択できます。これらのアイコンを使用して、選択基準に適合するすべてのレコードを選択または選択解除することができます。また、「すべて選択」アイコンと「**Record (レコード)**」列のチェック・ボックスとを組み合わせてすべてを選択してから、いくつかを選択解除することもできます。

表形式ビューの特殊な形式である集計表示では、「Record count (レコード・カウント)」列内の数は集計情報の單一行に組み合わされたレコードの数を示します。レコードの総数および集計での表示ページ数は、集計テーブルの上と下に示されます。左端の列にあるチェック・ボックスを選択することにより、集計行のすべての項目に対してアクションを実行できます。

列タイトル・ボックス内の上矢印および下矢印のアイコン（6ページの表3を参照）は、列の内容を昇順または降順でソートできることを示しています。表形式ビューをソートする方法については、40ページの『ビューのソート』を参照してください。

列タイトル・ボックスの集計アイコン（6ページの表3を参照）は、その列を使用してビュー内のデータを集計できることを示しています。

表形式ビューのソートおよび集計に使用されるフィールドは、Webユーザー・インターフェース・ビュー・エディターを使用してビューを作成するときに定義されます。詳細については、41ページの『ビューの集計』を参照してください。

いくつかの属性値は、他のビューへのリンクとして示されることがあります。リンクを選択すると、関連情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Active task' view in the CICSplex SM Web User Interface. The interface has a left sidebar with various navigation links like Open, Home, Alerts, Regions, Activity, Connectivity, Files & DB2, Journals, Queues, Transactions, Programs, Enterprise Java, History, Administration, and Special. The main content area is titled 'Active task' and shows a table of 7 records collected at 2006/08/06 22:10:16. The table has columns for Record, CICS system name, Task ID, Transaction ID, Dispatch status, User ID, Principal facility, VTAM LU name, Task priority, Transaction class, and Time task has been suspended. The table header includes icons for sorting and filtering. Below the table are buttons for Set attributes... and Purge... and a note about resource and view names.

Record	CICS system name	Task ID	Transaction ID	Dispatch status	User ID	Principal facility	VTAM LU name	Task priority	Transaction class	Time task has been suspended
1	JJCWUI1	0000022	CONL	RUNNING	JCOLLET				255 DFHTCL00	0:00:00
2	JJCWUI1	0000029	COVG	SUSPENDED	JCOLLET				255 DFHTCL00	0:00:10
3	JJCWUI1	0000035	COIO	SUSPENDED	JCOLLET				255 DFHTCL00	0:00:00
4	JJCWUI1	0000037	COIE	SUSPENDED	JCOLLET				255 DFHTCL00	0:00:12
5	JJCWUI1	0001512	COVA	SUSPENDED	JCOLLET				150 DFHTCL00	0:00:31
6	JJCWUI1	0003770	COVA	SUSPENDED	NOOR				150 DFHTCL00	0:00:00
7	JJCWUI1	0003835	COVP	SUSPENDED	CICSUSER				75 DFHTCL00	0:00:00

7 records on 1 pages.
Resource name: TASK. View name: EYUSTARTTASK.TABULAR

図2. 表形式ビュー

詳細 リソースの特定のインスタンスに対する詳細な属性情報の選択結果を、1列

または 2 列の形式で示す表示。 属性は、フィールドを変更できるように、入力フィールドに表示されることもあります。 詳細表示では、情報が属性ラベル、属性値、およびオプションの注釈から構成されます。

属性ラベルは、他のビューへのリンクとすることができます。

属性値は、変更可能にして、独自の値を入力できるようにすることができます。

単一列の詳細ビューの例については、図 3を参照してください。

The screenshot shows the CICSplex SM Web User Interface with the title 'Active task'. The main content area displays various task details in a tabular format. On the left, there is a sidebar with navigation links for Alerts, Regions, Activity, Connectivity, Files & DB2, Journals, Queues, Transactions, Programs, Enterprise Java, Administration, and Special functions like Refresh, View editor, User editor, New window, Close window, and Sign off. At the bottom of the sidebar is a 'Special' section with links for Identification details, Clocks and timings, Settings, Request counts, Comms requests, Storage usage, TCP/IP usage, CICS BTS requests, and CPU and TCB information. At the very bottom of the interface are two buttons: 'Apply changes' and 'Purge...'. The status bar at the bottom right indicates 'Resource name: TASK. View name: EYUSTARTTASK.DETAILED'.

Active task	
EYUVC1280I 6 records collected at 08/31/04 08:47:17.	
CICS system name	IYK3ZDB3
Task ID	0000019
Transaction ID	CONL
User ID	DBUSBY
General Information	
Principal facility	
Transaction class	DFHTCL00
Task priority	255
Dispatch status	Running
Purgeability status	Notpurgeable
Time task has been suspended	0:00:00
VTAM LU name	'0000000000000000'X
Local unit of work (UOW) ID	BBBB2B739060EDC40000000000000000
Identification details	
Clocks and timings	
Settings	
Request counts	
Comms requests	
Storage usage	
TCP/IP usage	
CICS BTS requests	
CPU and TCB information	

図 3. 詳細ビュー

確認パネル

この表示は、詳細表示と似ていますが、要求したアクションを選択されたりソースに適用することを確認するように要求します。

確認パネルには、以下のボタンが含まれることがあります。

表4. 確認パネルのボタン

ボタン	意味
はい (残りの n 個もすべて含む)	選択リストにあるこのリソースと残りのすべてのリソースについてアクションを実行します。 n は残りのレコード数です。
はい	このリソースについてのみアクションを実行し、選択リストの次のリソースの詳細を表示します。
いいえ (残りの n 個もすべて含む)	選択リストにあるこのリソースと残りのすべてのリソースについて操作を取り消します。 n は残りのレコード数です。
いいえ	このリソースについてはアクションを実行せず、選択リストの次のリソースの詳細を表示します。

確認パネルには、いくつかのアクションのためのパラメーターが含まれていることがあります。チェック・ボックスまたはラジオ・ボタンを選択すること、または入力フィールドに値を入力してアクション用のパラメーターを指定することができます。

必須パラメーターは、アイコン でマークが付けられています。図4に、確認パネルの例を示します。

The screenshot shows the 'Shutdown' configuration page in the CICSplex SM Web User Interface. The left sidebar contains navigation links such as Open, Home, Repeat last menu, General views, View menus, Favorites, Special, Favorites editor, View editor, User editor, New window, Close window, and Sign off. The main content area is titled 'Shutdown' and includes the following fields:

- CICS system name:** IYCQST04
- Shutdown type:** Radio buttons for NORMAL (selected), IMMEDIATE, and TAKEOVER.
- Shutdown assist transaction name:** Input field with a checked checkbox.
- No shutdown assist transaction:** Input field with a checked checkbox.
- Shutdown with dump:** Input field with a checked checkbox.
- No automatic restart:** Input field with a checked checkbox.
- Shutdown PLT suffix value:** Input field with a checked checkbox.
- XLT value:** Input field with a checked checkbox.

At the bottom of the form, there are three buttons: 'No to 3 remaining', 'No', 'Yes', and 'Yes to 3 remaining'. A note at the bottom right states: 'Resource name: CICSRGN. View name: EYUSTARTCICSRGN.SHUTDOWN'.

図4. 確認パネル

属性

さまざまなタイプのフォームには、CICSplex SM リソースのインスタンスに含まれる情報の簡単なテキスト表記として示される属性 が含まれることができます。属性は、警告ライトまたは棒ゲージなどのグラフィック表示として示されることもあります。

テーブル表示上のすべての属性は表示専用ですが、詳細フォームにはユーザーが独自の値を入力できる対話式制御が含まれることがあります。

例えば、ローカル・トランザクションの優先順位を変更する場合を考えます。ローカル・トランザクションのビューからトランザクション名を選択できます。これにより、トランザクションの詳細ビューが表示されます。 使用可能であれば「Priority (優先順位)」入力フィールドに優先順位を入力して、入力フィールドの隣のチェック・ボックスを選択してから、「Set (設定)」ボタンまたは変更を適用するボタンを選択して値を変更します。

詳細については、45ページの『属性の変更とパラメーターの入力』を参照してください。

パラメーター

パラメーターは確認パネルにのみ表示され、アクションに対して指定できます。

例えば、CICS 領域のシャットダウン確認パネルでは(14ページの図4を参照)、シャットダウン・アクション用に通常、即時、またはテークオーバーのパラメーターを指定する機会があります。 詳細については、45ページの『属性の変更とパラメーターの入力』を参照してください。

選択リストおよび入力フィールド

属性およびパラメーター値は、選択リストおよび入力フィールドを使用してビューに入力されます。

選択リスト

選択リストには、ビューにおいて指定の属性またはパラメーターに対してユーザーが使用可能な値の完全なリストが含まれています。選択リストによって、適切な属性またはパラメーター値をリストから選択できます。

動的選択リスト

タスク・ガイド、表ビュー、および詳細ビュー内の入力フィールドの特定の属性やパラメーターによって、動的選択リストを生成できます。選択リストを生成できるフィールドは、テキスト入力ボックスの右側にあるアイコン



によってマーク付けされています。リソース入力フィールドでは、アイコンをクリックすると以下のようないい面が開きます。

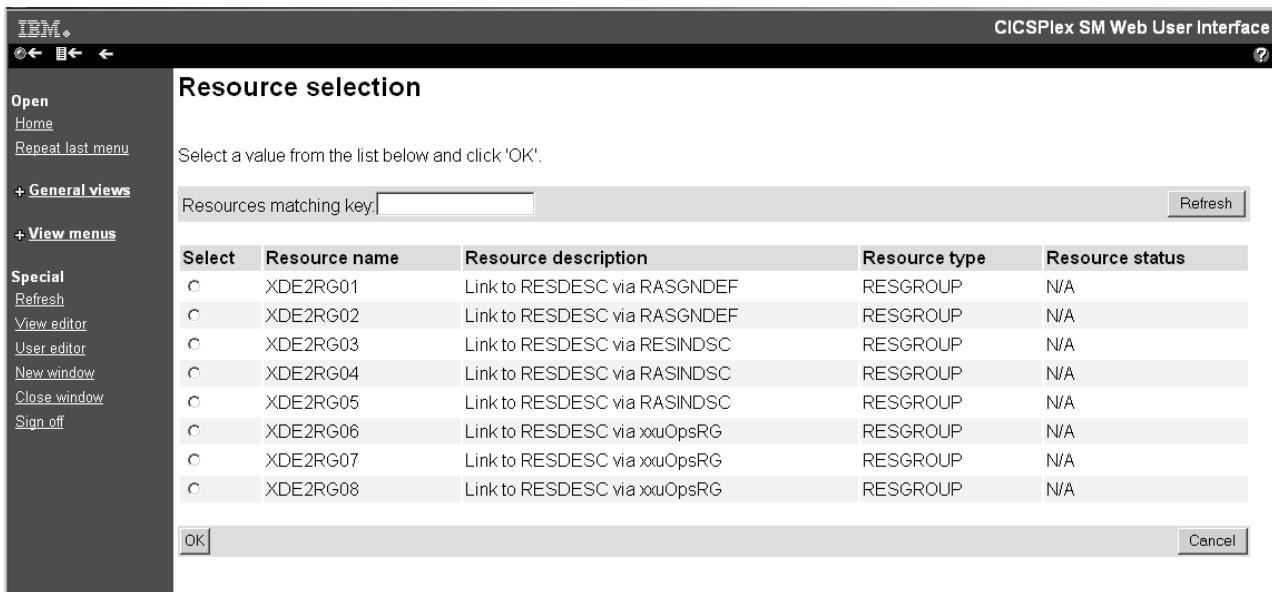


図5. リソース選択リスト画面

有効な値は、リソース・タイプ別に分類された表形式で画面に表示されます。リストから選択するには、ラジオ・ボタンを選択して「OK (了解)」をクリックします。

選択リストの画面には、リストをフィルターに掛けるために現在使用されている値のある入力フィールドが含まれます。新しいフィルターを使用するには、入力フィールドに新しい値を入力してから「Refresh (最新表示)」をクリックします。

フィルター、コンテキスト、およびスコープ・フィールドでは、動的選択リストを生成できません。

属性選択リストの画面には、基本テーブルの属性のすべて、またはフィルターに掛けられたサブセットが、属性名でソートされて表示されます。これらは主に、評価定義の作成に使用されます。

フィルター値を指定することによって、選択リストに表示される値の数を減らすことができます。これらのフィルターは = (等号) 演算子だけを使用するので、通常 WUI で使用されるフィルターとは異なります。ワイルドカード記号 * (アスタリスク) および + (正符号) を通常の方法で使用して (DW* など)、属性の値として総称値を入力できます。その後、選択リスト画面で、画面の上部のボックス内に示されるフィルター値を変更することにより、リストに表示される値を変更できます。

注: 総称文字を含まない値を入力する場合も、選択リストに値が表示されるかどうかには関係なく、この値がフィルターとして使用されます。

入力フィールド

入力フィールドによって、ユーザーは属性またはパラメーター値を入力できます。大/小文字を区別するフィールドは、アイコン によってマーク付けされます。

リンク

リンクにより、あるビューにあるフィールドを別のビューにある関連情報と結び付けることができます。

リンクは、以下の場所を起点とすることができます。

- 表形式表示での属性値
- 詳細形式表示での属性ラベル
- 詳細形式表示での静的テキスト

リンクには、次の 2 つのタイプがあります。

- 同じビュー・セット内の特定のリソースに関する代わりの詳細へのリンク。 表示されたデータは更新されません。
- 他のビュー・セットの関連リソースに対するリンク。 例えば、タスクからトランザクションへのリンクなど。 リンクの結果、そのとき収集される新しいデータが表示されます。 このタイプのリンクは、ターゲット・リソースを表すアイコンでマークされています。

リンク・フィールドは、Web ブラウザーでの通常の方式によって強調表示されます。

注釈

表示のさまざまな箇所で、固定注釈の形式で追加情報を示すことができます。 注釈は、必要な任意の短い注記を示すために使用できます。

ビューおよびメニューの注釈

これらはビューまたはメニュー上に適用可能で、ビューのデータ表示の下、またはメニューの項目の上に示されます。

例えば、19 ページの図 6 に示されているメニューでは、メニュー注釈は以下のとおりです。 「Welcome to your Home menu. Please select a task from the following list. Use the 'Help' link for further information.」

属性注釈

詳細ビューおよび確認パネルでは、それぞれの個別の属性またはパラメーターに関する短い注記が存在することができます。 属性注釈は、該当する属性の右側に示されます。

メニュー選択注釈

メニュー選択注釈は、メニュー選択の下に示されます。

例えば、19 ページの図 6 に示されているメニューでは、メニュー選択「CICS regions (CICS 領域)」の下にある「Display list of active CICS regions.」の文がメニュー選択注釈です。

ボタン

ボタンはビューで作業域の下部に表示されます。

これらには以下のものがあります。

- 「使用不可」や「ページ」など、リソースに対するアクションを開始するアクション・ボタン。

- 「マップ」など、特殊なタイプのビューを生成するボタン。これらは、詳細フォームおよび表フォームの両方に表示されます。
- タスクの完了を確定するかまたは取り消すためのボタン（例えば、「いいえ（残りの n 個もすべて含む）」、「いいえ」、「はい」、「はい（残りの n 個もすべて含む）」）。これらは確認パネルに表示されます。

ボタンによって、以下のことを行えます。

- 適切なコマンドを発行して、一時パネルを使用することなく同じまたは異なるビューを表示します。これは、確認を必要としない直接のアクション、またはリソース・マップを生成するマップ・コマンドの場合です。
- アクションを確認するためのパネルを表示します。そのパネルには、追加の入力のためのフィールドがある場合もあります。これらのアクション・ボタンでは、ラベルの末尾に省略符号 (...) が自動的に付加されます。

詳細ビューでは、ビューに表示されたリソースに対してアクションが実行されます。ただし、表形式ビューでは、最初の列に表示されるチェック・ボックスを選択することにより、1つのアクションに対して複数のレコードにマークを付けることができます。すべてのレコードに対してアクションを実行する場合には、「すべて選択」アイコンを使用できます。「選択をすべて解除」アイコンを使用して、選択をクリアすることもできます。表形式ビューおよび集計ビューで選択されたレコード数は、表形式の情報の上に「 n records on n pages (n ページ上に n レコード)」として表示されます。

1つのアクションに対して複数のレコードにマークを付ける場合、その動作はアクションのタイプに基づいて以下のようにになります。

確認を必要としない直接のアクション

アクションは、マークされたすべてのレコードに対して実行されます。操作が完了すると、すべてのチェック・マークがリセットされてビューが再表示されます。

確認パネルを必要とするアクション

マークされた最初のレコードに対して確認パネルが表示され、それには「はい」、「いいえ」、「はい（残りの n 個もすべて含む）」、および「いいえ（残りの n 個もすべて含む）」ボタンの少なくとも1つが含まれます。「はい」または「いいえ」ボタンが選択された場合、アクションは実行されるか実行されないかのどちらか該当する方となり、確認パネルが次にマークされたレコードに対して表示されて、以降も同様になります。「はい（残りの n 個もすべて含む）」アクションが選択された場合、アクションは、マークされた残りのすべてのレコードに対して実行されます。

操作が完了すると、すべてのチェック・マークはリセットされます。

メニュー

メニューは、項目を選択できる関連したトピックのリストです。

項目は、オプションで複数のグループに編成できます。メニューの例については、Web ユーザー・インターフェースのメインメニューを示す 19 ページの図 6 を参照してください。これは Web ユーザー・インターフェースに正常にログオンした後に表示されるデフォルトのメニューです。ナビゲーション・フレームで「Home (ホ

ーム)」を選択すると、ここに戻ることができます。

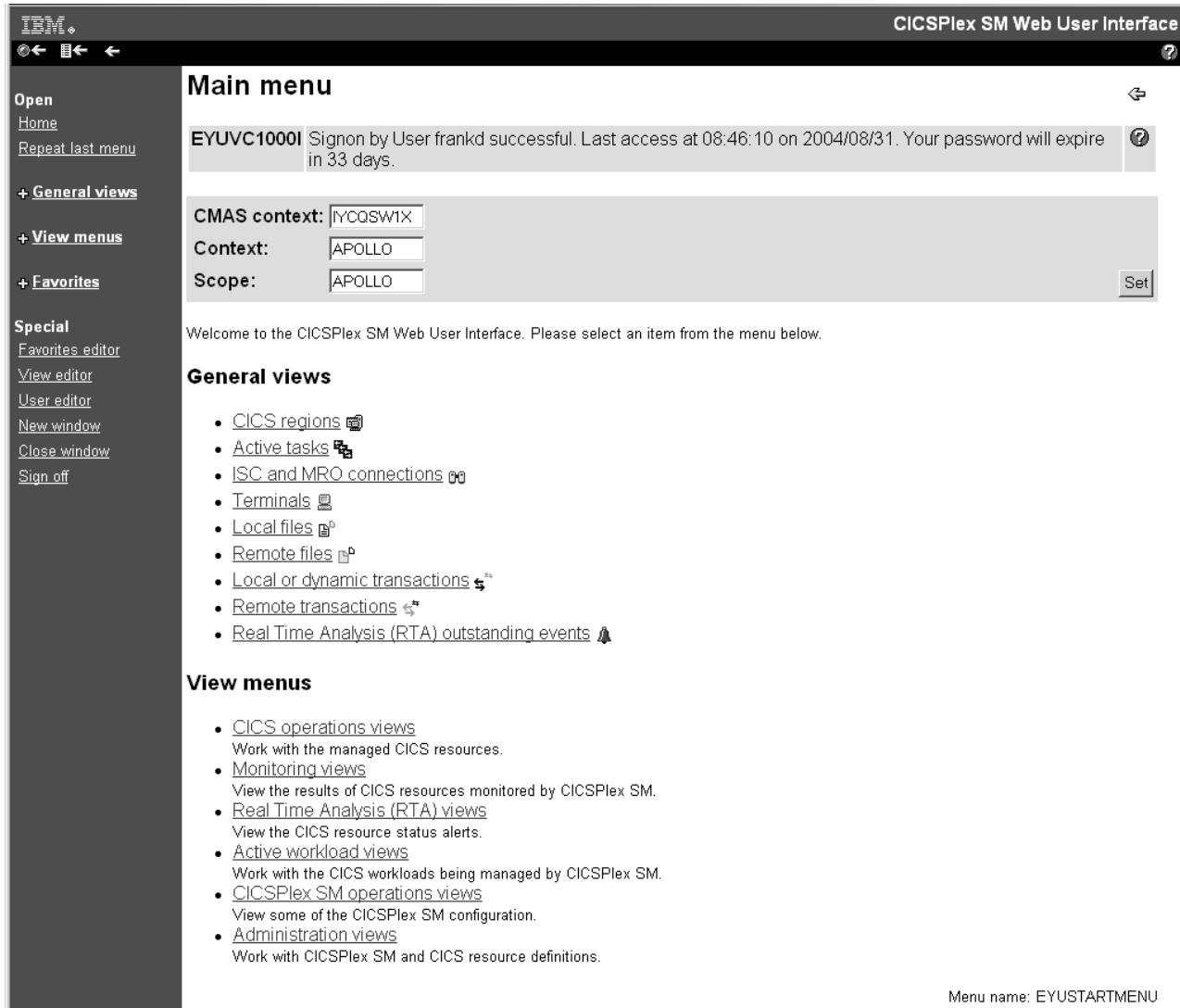


図6. Web ユーザー・インターフェースのメインメニュー

メッセージ領域

この領域にはメッセージが表示され、表示されているメッセージの説明へのリンクが含まれます。

この領域は、必要なときに自動的に表示されます。

選択基準領域

この領域によって、現行のメニューからナビゲートするときに使用されるコンテキストとスコープを設定できます。

この領域は適切に自動表示されますが、その内容はカスタマイズできます。

メニュー選択

メニュー選択は、ビュー、メニュー、または場合によっては、外部 Web ページにリンクします。

さまざまな選択項目のタイプには、以下のものがあります。

- メニュー・リンク

これらは他のメニューへのリンクです。

- ビュー・リンク

これらはデータのビューへのリンクで、特定の選択基準を設定する可能性があります。

- 外部リンク

これらは外部 Web サーバーによってサービスされるページ (その内容は別の Web ブラウザー・ウィンドウに表示されます) へのリンクです。

リンクのタイプおよび宛先に加えて、選択基準が定義されていることもあります。例えば、次のようなことができます。

- CICSplexes のメニューの作成 (各項目は同じメニューに連結していますが、ハードコーディングされたコンテキストが異なります)。
- アプリケーションのメニューの作成 (この場合も、各項目は同じメニューに連結していますが、論理スコープが異なります)。
- 特定のワークフロード用にアクティブなターゲット領域ビューへのリンクを作成します。

ユーザーのお気に入り

ユーザーのお気に入りによって、すべての WUI ユーザーは、表形式ビューおよび詳細ビューをアクセスが容易で編集可能なお気に入りメニューとして隨時に保管できるようになります。

こうすると、頻繁に使用されるビューにたった 1 回のクリックでアクセスできるようになります。管理者には、他のユーザーのお気に入りを更新する追加の権限があります。

ユーザーのお気に入りへのハイパーアリンクは、WUI ビューおよびメニューのナビゲーション・フレームにある見出し「**Favorites (お気に入り)**」の下に表示されます。

ユーザーのお気に入りを管理するには、次の 2 つの方法があります。

- お気に入りエディターを使用して、独自のユーザーのお気に入りリストを作成、更新、または削除できます。その手順については、88 ページの『お気に入りのエディターによるお気に入りの管理』を参照してください。
- 必要な権限を持つシステム管理者の場合は、ユーザー・エディターを使用して他のユーザーのお気に入りを管理できます。その手順については、90 ページの『他の WUI ユーザーのお気に入りの作成および管理』を参照してください。

コンテキスト、CMAS コンテキスト、およびスコープ

メニューの選択基準領域およびビューの選択基準と最新表示域領域で、現行のメニューからナビゲートするときに使用されるコンテキスト、CMAS コンテキスト、およびスコープを設定できます。すべての操作で、コンテキストまたは CMAS コンテキストのどちらかが使用されます。

コンテキスト、CMAS コンテキスト、およびスコープは、以下のとおりです。

- **コンテキスト**
CICSplex 名であり、ほとんどすべてのビューで使用されます。
- **CMAS コンテキスト**

CMAS の名前です。 CMAS 状況や、CMAS に接続された CICSplexes など、CMAS レベルの構成データを表示しているときにのみ使用されます。

- **スコープ**

CICSplex、CICS グループ、MAS、または論理スコープ名です。 スコープはコンテキストのサブセットであり、CICSplex SM コマンドの効果を特定の CICS システムまたはリソースに制限します。 CMAS コンテキストが使用されている場合、スコープは無視されます。 スコープは、特定のリソース・タイプに対してのみ使用されます。

ビュー・エディター

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのビュー・エディターによって、カスタマイズされたビュー、メニュー、およびマップを作成できます。 提供されたビューまたはメニューをモデルに使用して独自のバージョンを作成すること、または最初から開始することができます。 例えば、特定のタスクまたはデータのセットに適用されるビューを作成できます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーがセキュリティーをアクティブにして実行している場合、指名されたユーザーだけにビュー・エディターを制限できます。 関連する権限がある場合のみ、ナビゲーション・フレームにビュー・エディターへのリンクが表示されます。

作成する各ビューは、単一の CICSplex SM 管理下オブジェクトに基づいています。 表示する属性、およびそれらが表示されるフォーマットを選択することができます。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースには、提供されたまま使用したり、独自のカスタマイズ・ビューを作成する基として使用できる、ビューのセットが含まれています。

ビュー・エディターの詳細については、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。

ユーザー・エディター

ユーザー・エディターによって、管理者は WUI ユーザーのユーザー・グループ・プロファイルを作成できます。

個々のユーザーが WUI にログオンする時に何が表示され、何を行うかを、それらのユーザーが所属しているユーザー・グループのプロファイルを使用して制御することにより、WUI をいろいろなユーザー・グループの必要にあわせて調整することができます。 例えば、ビュー・エディターを使用して操作ビューのみが含まれている新規の WUI メニューを作成し、ユーザー・グループのデフォルトのメニューになります。 こうすることにより、この種のタスクのみを実行する必要があるユーザー用に簡略化された操作 WUI が提供されることになります。

ユーザー・グループ・プロファイルには、以下の情報を組み込むことができます。

結果セット警告のカウント

デフォルト・メインメニューの名前

デフォルト・ナビゲーション・メニューの名前

デフォルト・コンテキスト

デフォルト有効範囲

デフォルトの CMAS コンテキスト

デフォルト・マップ・オブジェクト

強制フィルター確認のフラグ

マップ縮小カウント

プロファイルにこれらの値のいくつかが指定されていない場合、例えばデフォルト・メニュー値がブランクの場合には、対応する WUI サーバー初期設定パラメーター値が使用されます。 プロファイルに無効値が設定された場合、例えば指定されたデフォルト・メニューが存在しない場合なども、そのようになります。

第 3 章 CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースの使用

このセクションでは、CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースの使用方法について説明します。

ここでは、以下のトピックについて説明します。

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースへのアクセス

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースにアクセスするには、Web ブラウザに有効な URL を指定する必要があります。これはシステム管理者から提供されます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーにアクセスするすべての URL は、以下の 3 つのフォーマットのいずれかで開始します。

- `http://hostname:port/`
- `http://hostname:port/CICSPlexSM`
- `https://hostname:port /CICSPlexSM`

SSL (Secure Sockets Layer) を使用する場合

hostname および *port* は、CICS Web Interface リスナーまたはセキュア・サーバーの IP アドレスを表します。

なお、システム管理者は異なる URL を提供することもあります。

有効な URL を入力した場合、「**Begin Signon (サインオンの開始)**」ボタンのある「**Welcome (ウェルカム)**」パネルが表示されます。この時点で、その URL にブックマークを付けて、Web ユーザー・インターフェース・サーバーにアクセスするたびに URL を入力する必要がないようになります。

関連トピック

75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』

Web ユーザー・インターフェースへは、標準的な Web ブラウザ・ソフトウェアを使用してアクセスします。WUI へは、Web ブラウザを起動できれば、有効な URL を指定することによってどの場所からでもリンクできます。

79 ページの『例』

以下の例は、有効な URL フォーマットを示しています。

Web ユーザー・インターフェースのヘルプ

ヘルプ情報は WUI のすべてのビューおよびメニューからアクセス可能です。3 つのレベルのヘルプが使用可能です。

一般 WUI ヘルプ

このヘルプを表示するには、ビューまたはメニューのアシスタンス・フレームの右にあるヘルプ・アイコン () をクリックします。これにより、新

しい Web ブラウザー・ウィンドウに「**Web User Interface Help Contents (Web ユーザー・インターフェース・ヘルプのコンテンツ)**」ページが開きます。これには、インターフェースに関する概要情報へのリンクが含まれます。また、用語集も含まれます。ヘルプ情報はカスタマイズできます。カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプの内容および編成は、サイトに特定のものです。

CICS Information Center

このインフォメーション・センターに WUI から直接アクセスするには、WUI 一般ヘルプ・アイコンのすぐ左にあるアシスタンス・フレーム上の「**Information Center**」リンクをクリックします。この機能が使用可能となるのは、CICS システム初期設定パラメーター INFOCENTER を WUI 開始構成で指定した場合だけです。

ビューに特定のヘルプ

WUI の各ビューおよびメニューには、それ自身のヘルプ情報の固有のページがあります。ヘルプ・ページを表示するには、ビューまたはメニュー・タイトルの反対側で、作業フレーム内のアシスタンス・フレームの下にあるヘルプ・アイコン (?) をクリックします。ヘルプは別の Web ブラウザー・ウィンドウ内に表示されます。

ビューの場合、ヘルプ・ページには、ビュー自体の概要、およびビューにより表フォーム内に含められたフィールド、フィルター、アクションに関する固有情報が含まれています。

メニューの場合、ヘルプ・ページには、メニュー自体、および各メニューのフィルター、グループ、項目に関する一般情報が含まれています。

ヘルプ・ページには、デフォルトでは、情報の各項目がビューまたはメニューに表示されるのと同じ順序で表示されます。ただし、テーブル内の項目が 9 個を超える場合は、指定された列内に指定されたストリングを含む行のみが表示されるように、情報をフィルターに掛けることができます。この機能は、Microsoft Internet Explorer または Firefox バージョン 5.0 以上などの Mozilla ベースの Web ブラウザーを使用するときにのみ使用できます。また、JavaScript が使用可能になっている必要があります。

ヘルプは、ビュー・エディターを使用して自分で作成したビューとメニューでも使用できます。各リソース・テーブルには、その派生されたビューの概要および属性とアクションごとのヘルプ・テキストが提供されます。提供される概要是、自分で書き直したテキストに置き換えることができ、この置き換えを行うとそれ以降、このテキストが提供されるヘルプに優先して表示されます。ヘルプ・ページ上の個々のフィールド、フィルター、およびその他の項目に対して提供されるヘルプ・テキストは、編集できません。

提供されるヘルプは、特定の属性が提供されるビュー内に存在しているかどうかに関係なく、すべてのリソース・テーブル属性で使用できます。

WUI メッセージのヘルプ

Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・ヘルプは、Web ユーザー・インターフェースによって発行されるメッセージについて説明します。

以下の 2 つの方法で、メッセージのヘルプを取得できます。

- メッセージが Web ユーザー・インターフェースのビューに表示されるとき、メッセージ番号をクリックすると、Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・ヘルプで、表示されたメッセージについての解説が示されます。
- Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・ヘルプのコンテンツ・ページにアクセスして、適切なリンクを選択することにより、関心の対象となるメッセージのグループを選択します。Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・ヘルプのコンテンツ・ページには、Web ユーザー・インターフェース・ヘルプのメッセージ・リンクを選択するか、または Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・グループの下部にあるメッセージ・コンテンツ・ページのリンクを選択してアクセスできます。

WUI でのサインオン

WUI の「Welcome (ようこそ)」パネルで「**Begin Signon (サインオンの開始)**」を選択して、WUI の「Signon (サインオン)」パネルを開きます。

使用している Web ブラウザーが複数ウィンドウをサポートしている場合、「Signon (サインオン)」パネルは新規のウィンドウに表示されます。以下の情報を入力します。

- ユーザー :

現在のパスワードを入力します。

- パスワード:

セキュリティーが有効の場合、パスワードまたはパスワード・フレーズを入力します。入力したパスワードは表示されません。このフィールドは、Web ユーザー・インターフェースが外部セキュリティー・マネージャー (ESM) によって保護されている場合にのみ表示されます。ESM が大/小文字混合のパスワードをサポートしており、このサポートがアクティブの場合、パスワード・フィールドの横にアイコンが表示され、パスワードを大/小文字混合で入力できることが示されます。入力するパスワードが 1 文字から 8 文字の場合は、標準パスワードと見なされます。長さが 9 文字から 100 文字の場合は、パスワード・フレーズと見なされます。

- 新規パスワード:

パスワードを変更する場合は、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを入力します。新規のパスワードまたはパスワード・フレーズは表示されません。このフィールドは、Web ユーザー・インターフェースが ESM によって保護されている場合にのみ表示されます。パスワード・フレーズの変更のために 1 文字から 8 文字のパスワードを使用することはできません。同様に、1 文字から 8 文字のパスワードの変更のために 9 文字から 100 文字のパスワード・フレーズを使用することはできません。

パスワード・フレーズの入力に複数のユーザー・インターフェースを使用する場合は、すべてのインターフェースでサポートされる文字のみを使用する必要があります。RACF を使用する場合、パスワード・フレーズ用の RACF インストール・システム出口を使用して、文字セットを制限できます。

注: パスワード・フレーズの最小の長さは、RACF パスワード・フレーズ出口 ICHPWX11 で制御できます。 ICHPWX11 が存在し、この出口で許可される場合、9 文字から 100 文字のパスワード・フレーズを指定できます。 ICHPWX11 が存在しない場合は、14 文字から 100 文字のパスワード・フレーズを指定する必要があります。

- **新規パスワードの確認 :**

パスワードを変更する場合、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力します。入力したパスワードは表示されません。このフィールドは、Web ユーザー・インターフェースが ESM によって保護されている場合にのみ表示されます。

- **グループ:**

Web ユーザー・インターフェースのユーザー・グループ・プロファイル名として使用される、ESM で定義されたグループの名前を入力します。ユーザー ID は、ESM 内のグループに接続されている必要があります。そうでない場合、その値は無視されます。

このフィールドが表示されるのは、Web ユーザー・インターフェースが ESM によって保護されており、Web ユーザー・インターフェースのシステム・パラメーター SIGNONPANEL(ENHANCED) (デフォルト値) が指定されている場合のみです。

JavaScript がアクティブな場合、このフィールドには直前に使用された値が既に入っていることがあります。

- **再接続:**

このサーバー上で既にアクティブ・セッションが実行しているとき、その既存のセッションを終了して再びサインオンする場合には、このチェック・ボックスを選択します。

- 「**Signon (サインオン)**」ボタン

サインオンのための該当するフィールドに入力した後に、このボタンを選択します。

- 「**Clear (クリア)**」ボタン

「Signon (サインオン)」パネル上のすべてのフィールドをクリアするには、このボタンを選択します。

「Signon (サインオン)」ボタンを選択したときに、このサーバーで実行中のアクティブ・セッションがない場合、要求した画面 (通常はホーム・メニュー) が表示されます。

このサーバーに既にサインオンしているときに、「**Reconnect (再接続)**」ボックスを選択しなかった場合、サインオン処理は失敗し、既にサインオンしていることを警告するメッセージが出されます。「Signon (サインオン)」パネルが再度表示されますので、もう一度やり直してください。

このサーバーでアクティブ・セッションを実行中のときに、「Reconnect (再接続)」チェック・ボックスを選択した場合、アクティブ・セッションは停止され、新規セッションが作成されます。要求した表示(通常はホーム・メニュー)が表示されます。

Web ユーザー・インターフェースが外部セキュリティー・マネージャによって保護されていない場合、「Password (パスワード)」、「New Password (新規パスワード)」、および「Verify New Password (新規パスワードの確認)」フィールドは「Signon (サインオン)」パネルに表示されません。

パスワードの変更

Web ユーザー・インターフェースにサインオンするときに、パスワードまたはパスワード・フレーズを変更できます。パスワードを変更できるのは、Web ユーザー・インターフェースが RACF などの外部セキュリティー・マネージャ (ESM) を使用して保護されている場合に限られます。

このタスクについて

Web ユーザー・インターフェースを使用してパスワードまたはパスワード・フレーズを変更すると、TSO、CICS、および CMCI など、同じ外部セキュリティー・マネージャのユーザー ID を共用する他のすべてのホスト・インターフェースについても変更されます。パスワード・フレーズの入力に複数のユーザー・インターフェースを使用する場合は、すべてのインターフェースでサポートされる文字のみを使用してください。

サインオン時にパスワードまたはパスワード・フレーズを変更するには、以下のようにします。

手順

1. WUI の「Welcome (ようこそ)」パネルで「Begin Signon (サインオンの開始)」を選択して、WUI サインオン・パネルを開きます。
2. 現在のパスワードを入力します。
3. 「Password (パスワード)」フィールドに、現在のパスワードまたはパスワード・フレーズを入力します。入力するパスワードが 1 文字から 8 文字の場合、ESM はご使用のユーザー ID に関連付けられた標準パスワードを使用して新規パスワードを検証します。長さが 9 文字から 100 文字の場合、ESM はご使用のユーザー ID に関連付けられたパスワード・フレーズを使用して新規パスワードを検証します。
4. 「New Password (新規パスワード)」フィールドに、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを入力します。「Password (パスワード)」フィールドに標準パスワードを入力した場合は、1 文字から 8 文字の標準パスワードをこのフィールドに入力する必要があります。「Password (パスワード)」フィールドにパスワード・フレーズを入力した場合は、9 文字から 100 文字の新規パスワード・フレーズをこのフィールドに入力する必要があります。
5. 「Verify New Password (新規パスワードの確認)」フィールドに、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力します。
6. すでにこの Web ユーザー・インターフェース・サーバーでセッションが実行されている場合は、「Reconnect (再接続)」チェック・ボックスを選択します。

7. 「Signon (サインオン)」をクリックします。新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを使用して、Web ユーザー・インターフェース・サーバーにサインオンします。

WUI メインメニュー

正常にサインオンすると、ホーム・メニュー、および使用可能なすべてのリンクを含むナビゲーション・フレームが表示されます。

メインメニューには、CMAS コンテキスト、コンテキストおよびスコープ (適用される場合) を設定するための選択基準および最新表示域が表示され、それには他のメニュー、ビュー、および外部 Web ページへのリンクを含めることができます。

Web ユーザー・インターフェースのメインメニューは、Web ユーザー・インターフェースに正常にログオンした後に表示されるデフォルトのメニューです。ナビゲーション・フレームで「Home (ホーム)」を選択すると、ここに戻ることができます。

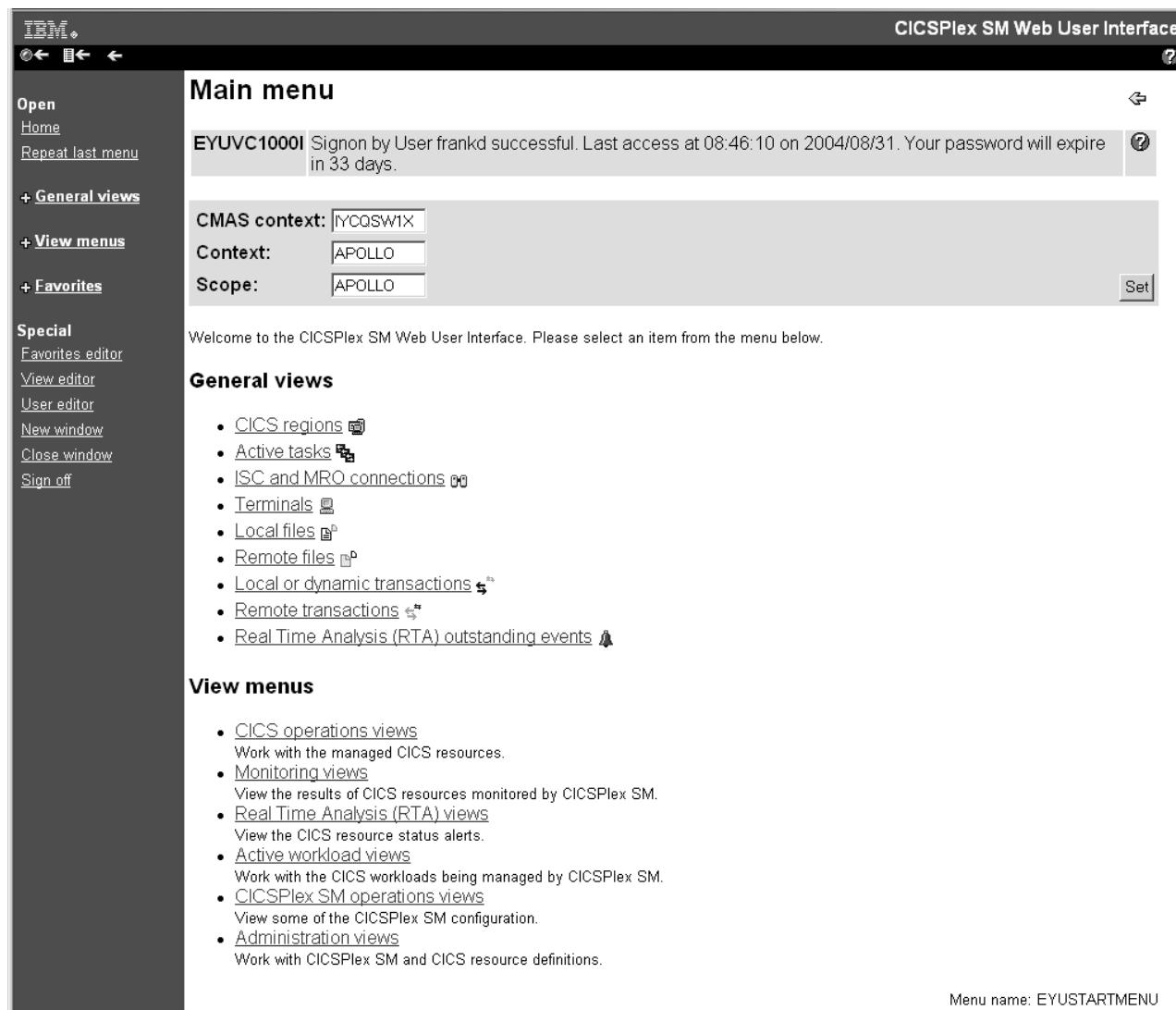


図7. Web ユーザー・インターフェースのメインメニュー

カスタマイズされたメインメニューを作成する方法については、98 ページの『カスタマイズされた WUI メニュー、ビュー、およびマップ』を参照してください。

前の表示に戻る

アシスタンス内の 3 つのアイコンによって、直前の表示に戻ることができます。



最初に戻る。このウィンドウで最初に表示したページに戻ります。



前のメニューに戻る。ウィンドウに表示された最後のメニュー (存在する場合) に戻ります。



戻る。直前のメニューまたはビューに戻ります。

オープン・リンク

オープン・リンクは、ナビゲーション・フレームに表示されます。

ホーム 現在の内容および有効範囲を使用してホーム・メニューを開きます。「戻る」アイコンを使用して、現在の表示に戻ることができます。

前のメニューを繰り返す

現在の内容および有効範囲を使用して最後に表示されたメニューを開きます。「戻る」アイコンを使用して、現在の表示に戻ることができます。

ナビゲーション・フレームの項目の展開と縮小

ナビゲーション・フレーム内のいくつかのメニュー選択は、複数のグループに編成して、タイトル (縮小されている) のある単一の項目としてナビゲーション・フレーム内に表示できます。

展開アイコン (+) がタイトルの隣に表示されます。展開アイコンまたはグループのタイトルを選択した場合、そのグループ内のメニュー選択が展開して、展開アイ

コンは縮小アイコン (-) に置き換えられます。この例は 39 ページの『コンテキストおよびスコープ』に示されています。縮小アイコンまたはグループのタイトルを選択すると、メニュー選択のリストが再び縮小します。

ビュー・エディターを使用して、メニュー選択を複数のグループに編成します。ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。

新規ウィンドウのオープン

ナビゲーション・フレームで「New Window (新規ウィンドウ)」リンクを選択して、新しいウィンドウを開くことができます。

Web ブラウザーで一度に複数のウィンドウを開くことが可能な場合、データの新しいインスタンスを表示した新しいウィンドウが作業フレームに開きます。データの 2 つのインスタンスは、互いに独立しています。データを最新表示するまでは、1 つのウィンドウで実行する操作は、他方のウィンドウに表示されるデータに影響を与えません。

ユーザーが一度に開くことのできるウィンドウの数は、63 までに制限されています。

Web ブラウザーが複数のウィンドウをサポートしない場合、新しいウィンドウが開きますが既存のウィンドウは非表示になります。

ウィンドウのクローズ

ウィンドウは、そのウィンドウのタイトル・バーにある閉じるためのボックスが使用可能な場合にはそれを選択するか、またはナビゲーション・フレームにある「Close window (ウィンドウを閉じる)」リンクを使用するなどの、通常の方法で閉じることができます。

同時に開くことを許可されたウィンドウ数の限度を超えないように、1 つ以上のウィンドウを閉じなければならないことがあります。

サインオフ

WUI からのサインオフは、2 段階のプロセスとなります。

以下の方法で、Web ユーザー・インターフェースからサインオフします。

1. いずれかのウィンドウのナビゲーション・フレームにある「Sign off (サインオフ)」リンクを選択します。次に、
2. 通常の方法ですべてのウィンドウを閉じるか、または Web ブラウザーを終了します。

ハイパーリンクの使用

ハイパーリンクは、1 つの表示のフィールドを別の表示の関連情報に接続します。それらは、Web ブラウザーでの通常のスタイルで表示されます。

ハイパーリンクは、以下の機能のいずれかを実行します。

- メニュー選択から別のメニュー選択へのリンク。
- メニュー選択からビューへのリンク。
- 同じビュー・セット内の特定のリソースに関する代わりの詳細へのリンク。
- 他のビュー・セットの関連リソースに対するリンク。例えば、タスクからトランザクションへのリンクなど。
- 新しいウィンドウに別の Web サーバーからのデータを表示するリンク。

ハイパーリンク・フィールドは、ビュー・エディターを使用して定義できます。 ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。

リンクは、Web ブラウザーでの通常の方法で表示および機能します。

WUI ビューまたはメニューの選択

ナビゲーション・フレームまたは作業フレームのどちらかでリンクを選択することにより、ビューまたはメニューを選択できます。 目的のビューまたはメニューに到達するまでに、複数のメニューから選択項目を選択しなければならないこともあります。

例えば、CorbaServers の状況を調べたい場合、CICS 操作ビューを選択して、 32 ページの図 8 に図示されているメニューを表示します。

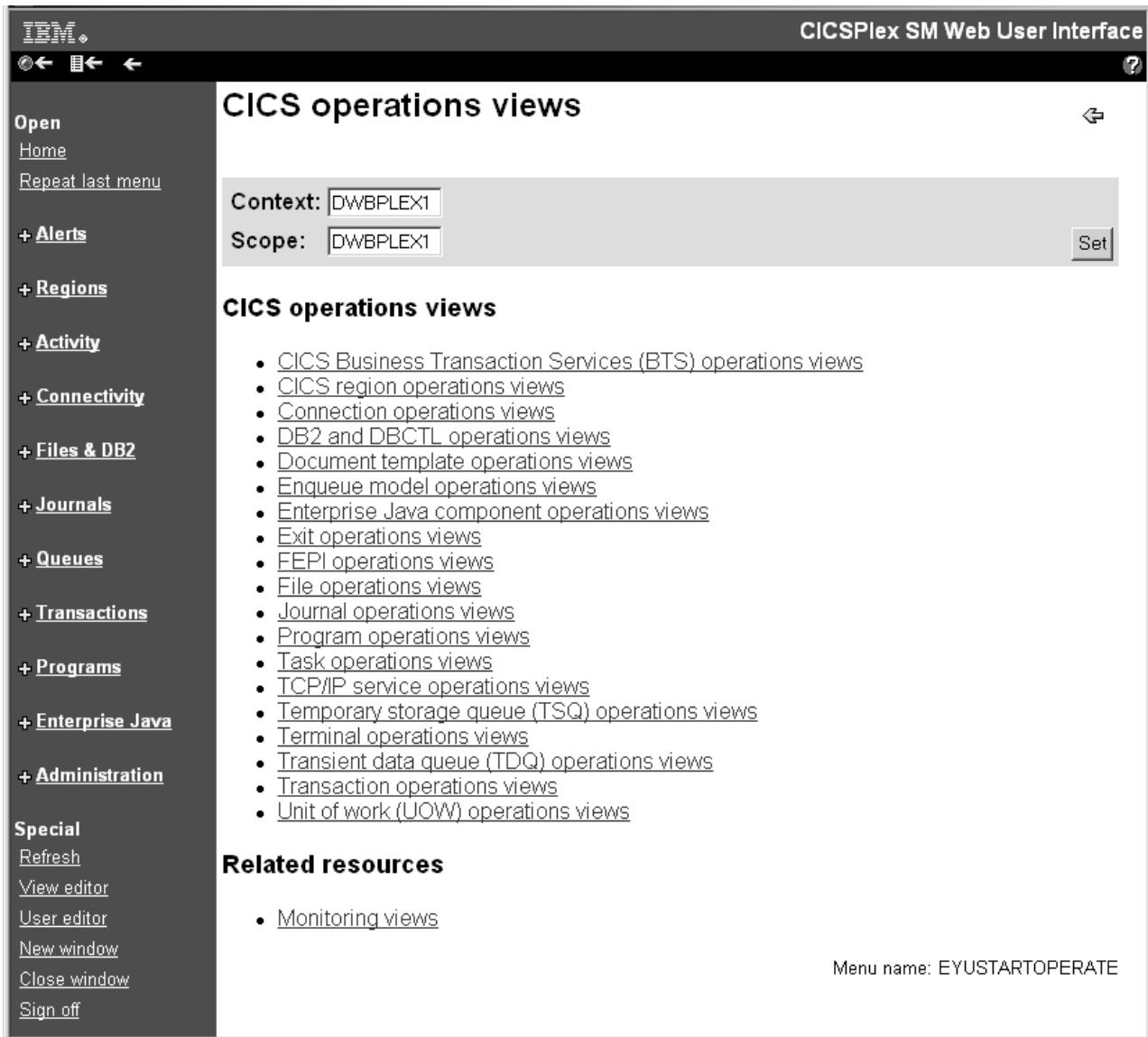


図8. 操作メニューの例

ここから、「Enterprise Java component operations views (Enterprise Java コンポーネント操作ビュー)」を選択して、33ページの図9に示されているメニューを開きます。



図 9. Enterprise Java コンポーネント操作ビュー・メニュー

ここで、「CorbaServers」リンクをクリックして、34 ページの図 10に示されている表形式ビューを表示します。

IBM. CICSplex SM Web User Interface

Open Home Repeat last menu

+ General views + View menus + Favorites

Special Favorites editor View editor User editor New window Close window Sign off

CorbaServer

EYUVC1280I 2 records collected at 2004/08/31 10:08:18.

Context: APOLLO Scope: APOLLO Automatic refresh: 60 seconds.

CorbaServer name: Aa Refresh

2 records on 1 pages.

Record	CICS system name	CorbaServer name	CorbaServer status	CorbaServer state usage	TCP/IP host address
1	IYCRST54	CGC1	ENABLED	Not applicable	winmvs27.hursley.ibm.com
2	IYCRST54	EJB1	DISABLED	Not applicable	hostname.company.com

2 records on 1 pages.

Scan... Publish... Retract... Discard...

Resource name: EJCOSE. View name: EYUSTARTEJCOSE.TABULAR

図 10. CorbaServer 表形式ビューの例

表形式ビュー内のリンクを選択して、詳細ビューを表示できます。例えば、図 10に示されている「CorbaServer name (CorbaServer 名)」列のリンクの 1 つを選択すると、35 ページの図 11に示されている詳細ビューが表示されます。

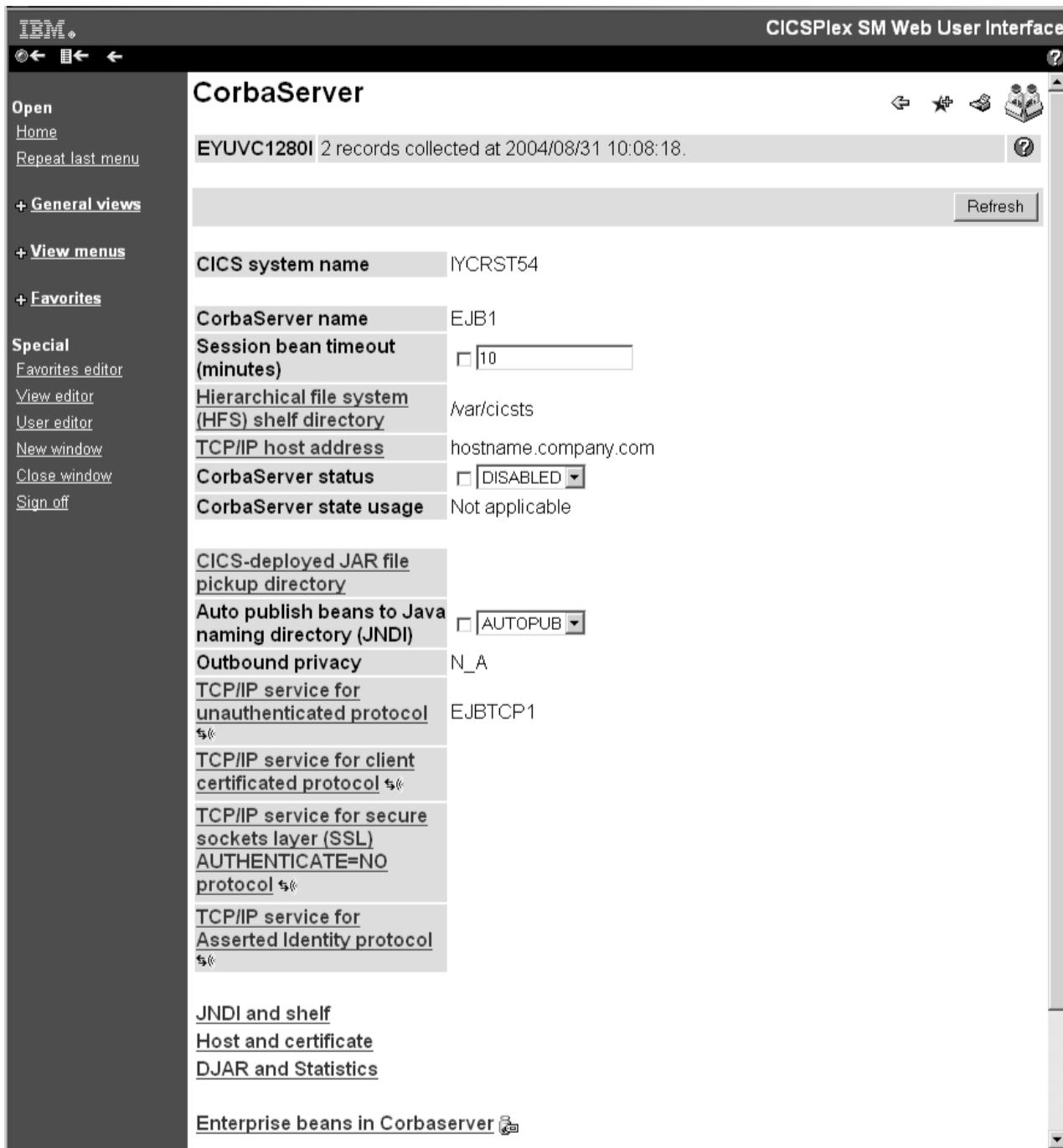


図 11. CorbaServer EJB1 の詳細

WUI でのデータの入力

データを入力するとき、入力ボックスに値を入力するか、または選択リストから項目を選択できます。例えば、ファイル状況値の選択リストから ENABLED または DISABLED を選択できます。

属性を変更しているとき、またはデータをフィルター処理しているときは、WUI フィールドへのデータ入力に適用される以下の規則に従うように注意する必要があります。

文字値

文字値は直接表示されますが、次の点に注意する必要があります。

- アイコン  によってマーク付けされたフィールドは大/小文字が区別されるので、それらのフィールドの値も大/小文字が区別されます。例えば、大/小文字を区別するフィールドでは、トランザクション ID 「PAY1」、「Pay1」、および「pay1」はすべて異なるトランザクションを表します。
- フィルターには総称文字を使用することができます。38 ページの『WUI の選択基準』を参照してください。
- 特殊文字、つまり引用符と印刷不能文字は、以下のように扱う必要があります。
 - 文字ストリングに单一引用符が含まれる場合は、そのストリングを单一引用符で囲んで、次のように文字を繰り返す必要があります。
`'Transaction for ''Payroll'' Application'`
 - 印刷不能文字を含む文字フィールドは、单一引用符で囲まれた 16 進表記で入力して、最後に文字 X を付けます。例えば次のようになります。
`'DDFF0400DDFF0400DDFF0400'X`
 - 印刷不能文字は、ストリングの印刷可能セグメントから正符号 '+' を使用して分離する必要があります。例えば、次のようになります。
`'HI+'+'0000'X+'THERE'`

これは引用符には適用されません。

- 印刷不能セグメントにアスタリスクや正符号などの総称文字が含まれる場合、その文字は直接入力できます。例えば、次のようになります。
`'00*'X` は `'005C'X` と等しく、
`'00+00'X` は `'004E00'X` と等しくなります。
- 末尾のスペースは除去されます。ストリングが有意のスペースで始まる、または終わる場合、そのストリングは单一引用符で囲む必要があります。

CVDA または EYUDA 値

値を入力します。これらの値は大文字小文字の区別がなく、大文字小文字を任意に組み合わせて入力できます。

日付

ユーザーの Web ユーザー・インターフェース・サーバー用に構成されたフォーマットおよび日付の分離文字を使用して、日付を入力します。フォーマットおよび日付の分離文字はそれぞれ、Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーター DATEFORMAT および DATESEPARATOR を使用して定義されます。

注:

1. 行ゼロは使用できますが、オプションです。
2. すべての日付エレメント、つまり日、月、年を指定する必要があります。

3. DATEFORMAT パラメーターで 2 桁の年フォーマットが指定されている場合、2 桁の入力は 1980 以上で 2079 以下の範囲にあると推定されます。

時刻

ユーザーの Web ユーザー・インターフェース・サーバー用に設定された時刻分離文字および小数部分離文字を使用して、時刻を入力します。時刻分離文字および小数部分離文字はそれぞれ、Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーター TIMESEPARATOR および DECIMALSEPARATOR を使用して定義されます。

注:

1. 先行ゼロは使用できますが、オプションです。
2. 欠落しているフィールドは、ゼロと推定されます。例えば、"9" は "9:00:00" という意味です。

数値

以下のいずれかのフォーマットで、必要な数値を入力します。

- 10 進整数値として。例えば、100000 は 100000 と表示されます。
- 10 進整数値として、サーバーに構成された千位の分離文字を使用。千位の分離文字が使用される場合、それらは正確に 3 桁ごとに配置される必要があります。例えば、100000 は 100,000 と表示されます。

このフォーマットが適用されるのは、長さ 4 から 8 バイトの属性だけです。

- 小数点以下の桁数が 1 または 3 の 10 進数として、サーバー用に構成された小数点を使用。例えば、100000 は小数点以下の桁数が 1 のときは 100000.0、小数点以下の桁数が 3 のときは 100000.000 と表示されます。
- 小数点以下の桁数が 1 または 3 の 10 進数として、サーバー用に構成された小数点および千位の分離文字を使用。千位の分離文字が使用される場合、それらは正確に 3 桁ごとに配置される必要があります。例えば、100000 は小数点以下の桁数が 1 のときは 100,000.0、小数点以下の桁数が 3 のときは 100,000.000 と表示されます。

このフォーマットが適用されるのは、長さ 4 から 8 バイトの属性だけです。

- 表示される整数が最小の非ゼロ値になるような接尾部、およびサーバーに構成された千位の分離文字を使用。キロバイト (KB)、メガバイト (MB)、ギガバイト (GB)、テラバイト (TB)、ペタバイト (PB)、およびエクサバイト (EB) がサポートされています。例えば、100000 は 98KB と表示されます。

このフォーマットが適用されるのは、長さ 4 から 8 バイトの属性だけです。

- 小数点以下の桁数が 1 の概数として、サーバーに構成された小数点を使用。キロバイト (KB)、メガバイト (MB)、ギガバイト (GB)、テラバイト (TB)、ペタバイト (PB)、およびエクサバイト (EB) がサポートされています。例えば、100000 は 97.7KB と表示されます。

このフォーマットが適用されるのは、長さ 4 から 8 バイトの属性だけです。

- 小数点以下の桁数が 3 の概数として、サーバーに構成された小数点を使用。キロバイト (KB)、メガバイト (MB)、ギガバイト (GB)、テラバイト (TB)、ペタバイト (PB)、およびエクサバイト (EB) がサポートされています。例えば、100000 は 97.656KB と表示されます。

このフォーマットが適用されるのは、長さ 4 から 8 バイトの属性だけです。

16 進数フィールド

16 進数ストリングを扱うには、次の 2 つの方法があります。

- 文字ストリング内の印刷不可能な文字に使用する方法と同じ方法を使用する。
- 先頭文字が单一引用符の場合はそのフィールドが文字ストリングとして表示され、その他の場合は 16 進形式で表示される。

総称文字の例と、文字フィルターおよび 16 進フィルターでのその影響については、49 ページの表 7 を参照してください。

WUI での選択基準

選択基準は、照会の実行対象となるオブジェクトを指定します。それらは WUI ビューの選択基準および最新表示域、およびメニューの選択基準領域に表示されます。選択基準は、照会の実行対象となるオブジェクトを指定するために使用されます。

これらの基準は、以下のとおりです。

• コンテキスト

CICSplex 名であり、ほとんどすべてのビューで使用されます。

• CMAS コンテキスト

CMAS の名前です。 CMAS 状況や、CMAS に接続された CICSplexes など、CMAS レベルの構成データを表示しているときにのみ使用されます。

• スコープ

CICSplex、CICS グループ、MAS、または論理スコープ名です。スコープはコンテキストのサブセットであり、CICSplex SM コマンドの効果を特定の CICS システムまたはリソースに制限します。 CMAS コンテキストが使用されている場合、スコープは無視されます。スコープは、特定のリソース・タイプに対してのみ使用されます。

• パラメーター・フィルター

パラメーター・フィルターは、一部のリソースでのみ必要となります。パラメーターごとに、値を定義します。例えば、WLMAWTOR オブジェクトのビューにアクセスするには、ワーカロード名を入力する必要があります。

• 属性フィルター

属性フィルターは、すべてのリソースでオプションです。属性フィルターによって、単一の属性と単一の値（または属性が文字ストリングの場合は、パターン）とを比較できます。等号や不等号などの関係演算子を使用できます。

注: Web ユーザー・インターフェースは、WLM アクティブ・ビュー内の属性ファイルターで、正符号 (+) やアスタリスク (*) などの総称文字の使用をサポートしていません。これは以下のビューに適用されます。

EYUSTARTWLMATAFF
EYUSTARTWLMATGRP
EYUSTARTWLMATRAN
EYUSTARTWLMAWAOR
EYUSTARTWLMAWDEF
EYUSTARTWLMAWTOR

すべての操作で、コンテキストまたは CMAS コンテキストのどちらかが使用されます。

選択基準は、いくつかのレベルで指定できます。複数のビューおよびメニューの中をナビゲートするとき、選択基準は各レベルで定義されて、適切であれば下位に伝搬されます。さらに、いくつかのビューおよびメニューでは、現行表示のために選択基準を動的に変更できます。

選択基準を(明示的に、またはリンクを介して暗黙的に)変更すると、現在のビューまたはメニューと、後続のビューまたはメニューだけが影響を受けることに注意してください。直前のビューまたはメニューに戻る場合、選択基準は復元されます。

コンテキストおよびスコープ

CMAS コンテキスト、コンテキスト、およびスコープのフィールドによって、特定のビューに表示されるデータの限度を定義できます。

Web ユーザー・インターフェースは、各ビューで表示されているデータのタイプに適したコンテキストを選択します。ビュー・エディターを使用して、ビューに CICSplex 名、CMAS 名、またはその両方が表示されるように選択できます。

ビュー・エディター(ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照)を使用してコンテキストおよびスコープのフィールドを表示専用、変更可能、または非表示のいずれかに定義します。例えば、以下が表示されるようにすることができます。

- 構成ビューに、CMAS コンテキスト・フィールドのみ。
- 操作ビューに、コンテキストおよびスコープの両方のフィールド。
- 最上位のビューに、初期値の設定が可能な CMAS コンテキスト、コンテキスト、およびスコープのフィールド。

コンテキストおよびスコープのフィールドの例は、40 ページの図 12 に示されています。

それが許可されているビューでは、コンテキストおよびスコープを変更できます。コンテキストおよびスコープを変更する方法は以下のとおりです。

- コンテキストおよびスコープの新しい値を入力します。両方の値を変更する必要はありません。
- 「Refresh (最新表示)」または「Set (設定)」ボタンを選択して、新しい値を入力します。

コンテキストおよびスコープのフィールドをクリアすることはできません。それらのフィールドが存在する場合には、常に値が含まれている必要があります。

コンテキストおよびスコープの設定はデフォルトで継承されますが、メニューまたはビューへのリンクによって指定変更されることもあります。 値がいったん設定されると、その値は変更されるまで後続のすべてのビューまたはメニューによって使用されます。 変更されたコンテキストおよびスコープの設定は、現行のビューおよびすべての後続のビューだけに適用されます。 前のビューまたはメニューに戻る場合、コンテキストおよびスコープの値は復元されます。

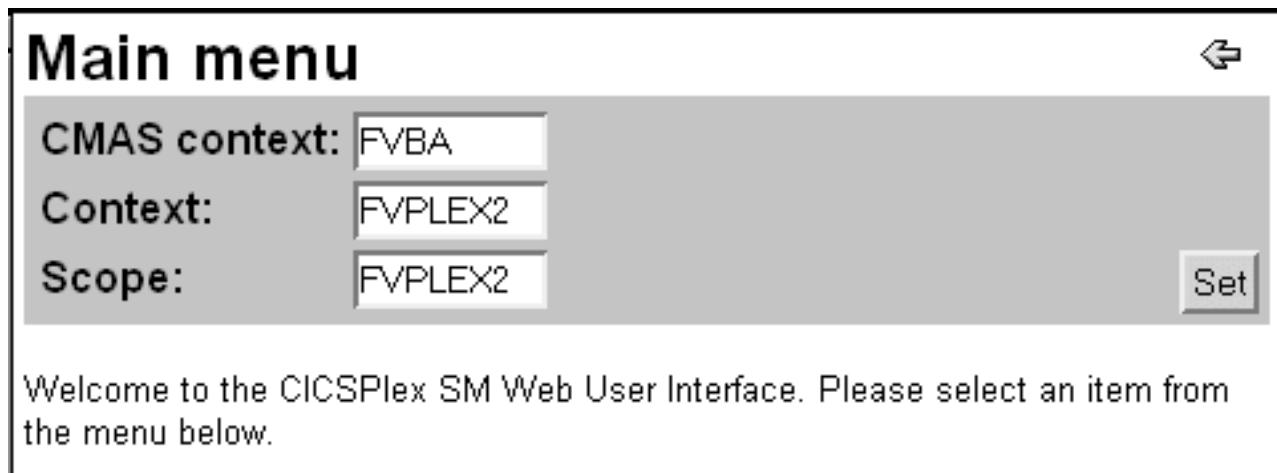


図 12. コンテキストおよびスコープのフィールドを示しているメニュー・パネルの部分

ビューのソート

表形式ビューの列にあるデータは、昇順または降順にソートできます。 EYUDA 値および CVDA 値の場合、フィールドは、Web ユーザー・インターフェースが表示する文字の値ではなく数値に関してソートされます。 データをソート可能にするかどうかは、ビューの作成者がビュー・エディターを使用して決めます。

ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。 データがソート可能である場合、列タイトル・フィールドには昇順ソートのアイコンおよび降順ソートのアイコンが含まれます。

- データを昇順にソートするには、昇順ソートのアイコン () を選択します。
 - データを降順にソートするには、降順ソートのアイコン () を選択します。
- 昇順ソートおよび降順ソートのアイコンの例は、34 ページの図 10 を参照してください。

ビューの集計

データ要求の結果として、複数の表示ページに渡る可能性のある多くの行の情報が
出力されることがあります。 表示されるデータの量は、集計フィールドとして定義
された任意のフィールドを使用して集計することができます。

データの集計に使用できるフィールドには、列の上部に集計アイコン () があ
ります。 そのアイコンを選択すると、各項目についての情報が融合されて、集計ビ
ューが表示されます。

集計ビューは特殊な形式の表形式ビューで、結果セット内の個別の値ごとに 1 行が
あります。 集計ビューの「Record count (レコード・カウント)」列は、集計情報の
行を形成するために結合された、前の表形式ビューからのレコード数を示していま
す。 この列の項目はハイパーリンクです。 これらのハイパーリンクの 1 つをクリ
ックすると、新規の表形式ビューにレコードが展開されます。

情報が集計される方法は、ビューの設計者による選択と、各列のデータのタイプに
依存します。 提供されるすべてのビューは、以下のようにデフォルトの集計タイプ
を使用します。

- 文字フィールドでは、集計データは基礎となるレコードすべてに共通の文字を示
し、共通ではない文字に対してはアスタリスク (*) を表示します。 例えば、
LOCTRAN オブジェクトの集計ビューでのトランザクション ID フィールドなど
の文字フィールドには、集計値 C*, DS*, ABCD、または **** などが含まれる
ことがあります。
- CVDA および EYUDA 値では、集計行を形成しているすべてのレコードに共通
の値がある場合、その値が表示されます。 そうでない場合は、テキスト・ストリ
ング Summable が表示されます。 Summable は、この列の値がまちまちであ
るために集計できないことを意味します。
- 数値および 16 進フィールドでは、関連する CICSplex SM リソース・テーブル
でフィールドに指定された方法でデータが扱われます。

左側の「Record (レコード)」列でレコード番号の隣にあるチェック・ボックスを選
択することにより、集計行のすべての項目に対してアクションを実行できます。

データの集計には、一度に 1 つのフィールドだけを使用できます。 別のフィール
ドを使用して同じデータを集計するには、「戻る」アイコン () を選択して

現在のテーブル表示に戻ってから他方のフィールドの集計アイコンを選択します。

例えば、トランザクション・クラスによりトランザクションを集計するには、メイ
ンメニューから「Local or dynamic transaction (ローカルまたは動的トランザクシ
ョン)」を開いてから、「Transaction class name (トランザクション・クラス名)」
列で集計アイコンをクリックして、 42 ページの図 13 のような集計ビューを表示し
ます。

Local or dynamic transactions												
EYUVC1280I 192 records collected at 05/05/09 10:50:02.												
Context='DWDPLEX1' Scope='DWDPLEX1'											Automatic refresh: <input type="checkbox"/> 60 seconds. <input type="button" value="Refresh"/>	
Summarized on Transaction class name												
3 records on 1 pages.												
Record count	Record	CICS system name	Transaction ID	Enabled status	Number of times transaction used	First program name	Transaction priority	Transaction class name	Purgeability option	Installation time		
		▼▲	▼▲	▼▲	▼▲	▼▲	▼▲	▼▲▼	▼▲	▼▲		
1	□	2	IYK3ZDD4	C***	Enabled	0 DFHZC***	254 DFHCOMCL	Purgeable	05/01/09 09:02:20			
2	□	189	IYK3ZDD4	****	Enabled	208 *****	137 DFHTCL00	Summunlike	05/01/09 09:02:26			
3	□	1	IYK3ZDD4	CTSD	Enabled	0 DFHTSDQ	254 DFHTSDEL	Notpurgeable	05/01/09 09:02:13			
3 records on 1 pages.												
<input type="button" value="Set attributes..."/>	<input type="button" value="Enable..."/>	<input type="button" value="Disable..."/>	<input type="button" value="Discard..."/>									

Resource name: LOCTRAN. View name: EYUSTARTLOCTRAN.TABULAR

図 13. 集計された「Local or dynamic transaction (ローカルまたは動的トランザクション)」ビューの詳細

集計レコードの展開

集計ビューで、「Record count (レコード・カウント)」列の数値の 1 つをクリックすることにより、選択された集計レコードを展開できます。これにより、集計レコードごとに項目が含まれる新しい表形式ビューが開きます。このビューには、元の集計が実行されたときのままのシステムの状態が表示されます。リアルタイム表示にする場合は、「最新表示」をクリックするか、または隣接するラジオ・ボタンをクリックして最新表示間隔（デフォルトは 60 秒）を設定し、自動最新表示機能を設定できます。

展開された表形式ビューには、このビューに定義された通常のフィルター、および集計ビューの展開に使用されるフィルターが表示されます。例えば、「Transaction class name (トランザクション・クラス名)」列上に集計される「ローカルまたは動的トランザクション」(EYUSTARTLOCTRAN) ビューの場合では、使用回数のフィルターと値は、前に適用されたすべてのフィルターに加えて展開ビュー上に表示されます。

展開ビューとは、フィルターの掛けられた通常の表形式ビューです。展開ビューに対して、追加の集計など、表形式ビューに対して通常許可されているアクションをさらに実行できます。展開ビュー上の「戻る (back)」ボタンをクリックすると、展開ビューの起動元の集計ビューに戻ります。

ビューの最新表示

ビューを最新表示するには、次の 2 つの方法があります。それらは、オンデマンドの最新表示および自動最新表示です。

要求時の最新表示

使用可能な場合には、選択基準および最新表示域にある「Refresh (最新表示)」ボタンを選択することにより、表示されているデータをいつでも最新表示できます。

「Refresh (最新表示)」ボタンは、前のビューで収集されたデータのビューには使用できません。例えば、表形式ビューに示された 1 つのレコードに対して開かれている詳細ビューのデータを最新表示するには、以下のようにします。

- ・「戻る」アイコンを選択して、元の表形式ビューに戻ります。
- ・「Refresh (最新表示)」ボタンを選択します。

注: 「Refresh (最新表示)」ボタンは、メニューおよび確認パネルでは使用可能になりません。

自動最新表示

自動最新表示の機能によって、表示を自動的に更新したり、ビュー内のデータを更新する頻度を制御したりできます。これは、Javascript が使用可能な Web ブラウザを使用している場合にのみ使用可能となります。

ビュー・エディターを使用して、自動最新表示機能をデフォルト値によって使用可能にするか、またはビューでは使用不可にするかを定義できます。自動最新表示が使用可能な場合、入力フィールドおよびチェック・ボックスが選択基準および最新表示の領域に表示されます。以下のことを行うことができます。

- ・チェック・ボックスを選択してチェック・マークを入れることにより、自動最新表示をオンにします。
- ・チェック・ボックスを選択してチェック・マークを外すことにより、自動最新表示をオフにします。
- ・以下のように、表示を最新表示する間隔を変更します。
 - 新しい値を入力フィールドに秒数で入力します。
 - チェック・ボックスにチェック・マークが含まれていることを確認します。
 - 「Refresh (最新表示)」を選択します。

注: 自動最新表示は、Web ユーザー・インターフェースのシステム・パラメーター AUTOREFRESH に基づいて、WUI サーバーにおいて非アクティブ化できます。

リソースに対する操作

詳細ビューでは、1 つのリソースを対象にした操作だけを実行できます。表形式ビューでは、関連するリソースを選択することによって、1 つ以上のリソースを対象にした操作を実行できます。リソースを選択するには、表示された各リソースの隣のチェック・ボックスを選択するか、またはチェック・ボックス列のタイトル・ボックスにある「Select all (すべて選択)」および「Deselect all (選択をすべて解除)」アイコンを使用して、選択基準に適合するすべてのリソースを選択または選択解除できます。1 つまたは複数のリソースを選択した後に、適切なアクション・ボタンを選択して操作を実行します。

ファイルを開くなどのいくつかの操作では、選択されたすべてのリソースに対してアクションが即時に実行されます。ジャーナルのフラッシュや CICS 領域のシャットダウンなど、システムのユーザーに相当の影響を与える可能性のある操作の場合は、確認パネルが表示されることがあります。

確認パネルを使用するには、以下のようにします。

- 選択した最初のリソースの詳細表示が、要求したアクションを確認するためのパネルと共に示されます。必要なリソースがあることを確認してください。パラメーターを変更することもできます。
- 該当するボタンを選択して、必要なアクションを確認するかまたは取り消します。通常は以下のボタンがあります。

表 5. 確認パネルのボタン

ボタン	意味
はい (残りの n 個もすべて含む)	選択リストにあるこのリソースと残りのすべてのリソースについてアクションを実行します。
はい	このリソースについてのみアクションを実行し、選択リストの次のリソースを表示します。
いいえ (残りの n 個もすべて含む)	選択リストにあるこのリソースと残りのすべてのリソースについて操作を取り消します。
いいえ	このリソースについてはアクションを実行せず、選択リストの次のリソースの詳細を表示します。

例えば、ジャーナル DFHLOG (MVS™ ログ・ストリーム名は FVCPSM.IYK3Z8BC.DFHLOG) および DFHSHUNT (MVS ログ・ストリーム名は FVCPSM.IYK3Z8BC.DFHSHUNT) をフラッシュする場合、まず両方のジャーナルの横にあるチェック・ボックスを選択してから、「Flush (フラッシュ)」アクション・ボタンを選択します。

最初に図 14に示されているような DFHLOG ジャーナルのための確認パネルが表示され、「Yes (はい)」確認ボタンを選択すると、DFHSHUNT ジャーナルのための確認ボタンが表示されます。代わりに、DFHLOG の確認パネルで「Yes to 2 remaining (はい (残りの 2 個もすべて含む))」確認ボタンを選択することもできます。その場合、DFHSHUNT の確認パネルは表示されません。

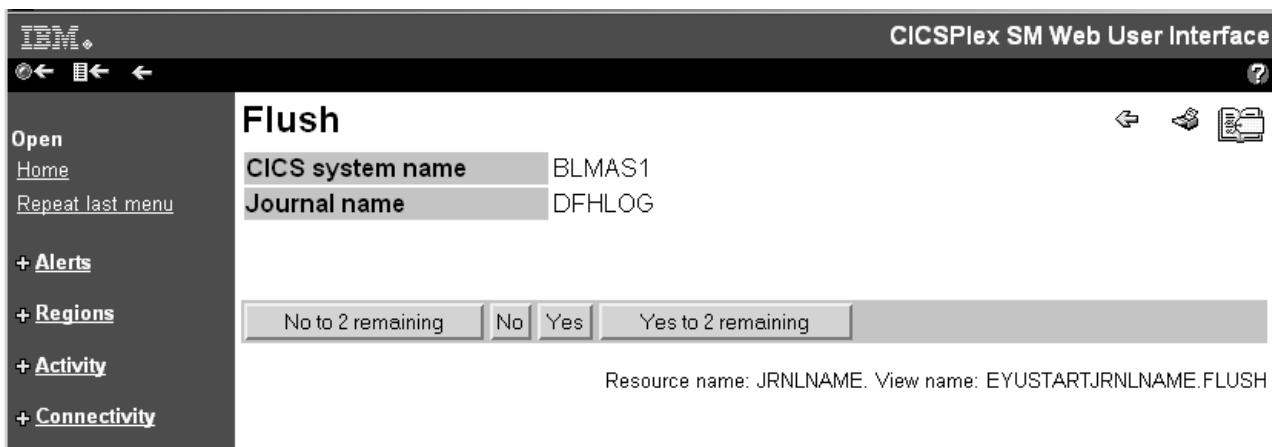


図 14. DFHLOG ジャーナルをフラッシュするための確認パネル

代わりに、詳細ビューから単一のリソースを 1 つずつ処理することもできます。例えば、最初に MVS ログ・ストリーム名が CTS.V220.IYCRST16.DFHLOG のジャーナル DFHLOG をフラッシュするために、35 ページの図 11で示されているような詳細ビューを表示するとします。その後、「Flush (フラッシュ)」ボタンを選択

すると、44 ページの図 14 に示されている確認パネルが表示されます。ここで、「Yes (はい)」ボタンを選択できます。該当する DFHSHUNT ジャーナルについても、同様です。

属性の変更とパラメーターの入力

一部の詳細ビューおよび確認パネルでは、アクションに対する属性を変更すること、またはパラメーターを指定することができます。

以下の方法で、リソースに対する属性値を変更できます。

- 選択ボックスがある場合、プルダウン・リストから属性値を選択します。必要な場合、属性の横にあるチェック・ボックスを選択してチェック・マークを挿入します。Javascript が使用可能な Web ブラウザーを使用している場合、チェック・マークはチェック・ボックスに自動的に設定されます。属性値を選択した後に、それを変更しないことに決める場合、チェック・ボックスを選択してチェック・マークを外します。
- データ入力フィールドがある場合、35 ページの『WUI でのデータの入力』の規則に従って、属性値を入力します。必要な場合、属性の横にあるチェック・ボックスを選択してチェック・マークを挿入します。Javascript が使用可能な Web ブラウザーを使用している場合、フィールドの外部で選択を行うと、チェック・マークがチェック・ボックスに自動的に設定されます。属性値を入力した後に、それを変更しないことに決める場合、チェック・ボックスを選択してチェック・マークを外します。
- 適切なアクション・ボタンを選択して操作を実行します。

以下のように、パラメーター値を指定または変更できます。

- 選択ボックスがある場合、プルダウン・リストからパラメーター値を選択します。必要な場合、パラメーターの横にあるチェック・ボックスを選択してチェック・マークを挿入します。Javascript が使用可能な Web ブラウザーを使用している場合、属性値を変更すると、チェック・マークがチェック・ボックスに自動的に設定されます。パラメーター値を選択した後に、それを指定しないことに決める場合、チェック・ボックスを選択してチェック・マークを外します。
- データ入力フィールドがある場合、35 ページの『WUI でのデータの入力』の規則に従って、パラメーター値を入力します。必要な場合、パラメーターの横にあるチェック・ボックスを選択してチェック・マークを挿入します。Javascript が使用可能な Web ブラウザーを使用している場合、フィールドの外部で選択すると、チェック・マークがチェック・ボックスに自動的に設定されます。パラメーター値を入力した後に、それを指定しないことに決める場合、チェック・ボックスを選択してチェック・マークを外します。
- ラジオ・ボタンがある場合、必要な値を選択します。1 つを選択する必要があります。
- チェック・ボックスがある場合、選択してチェック・マークを挿入するか、またはチェック・マークを外します。
- 適切なアクション・ボタンを選択して操作を実行します。

35 ページの図 11 には、この DFHLOG ジャーナルを使用可能または使用不可にするための選択ボックスの例が示されています。

ビューの印刷

WUI ビューには、印刷を容易にするための「印刷プレビュー」アイコンが組み込まれています。

ビューを印刷するための推奨される手順は、以下のとおりです。



- ・「印刷プレビュー」アイコン () を選択します。新しいウィンドウが開いて、印刷用の表示が示されます。
- ・Web ブラウザーの通常の機能を使用して、ウィンドウの内容を印刷します。

注: 画面に示されている現行ページだけではなく、選択基準と一致するすべてのレコードが印刷されます。

- ・印刷プレビュー・ウィンドウを閉じます。

印刷プレビュー・ウィンドウを閉じる前に元のウィンドウを使用する場合、データが印刷プレビュー・ウィンドウで使用可能ではなくなったことを示すメッセージが発行されます。

データのフィルタリング

CICSplex SM 管理下オブジェクトのデータを要求すると、大量の管理下オブジェクト・レコードが生成されることがあります。 フィルターを使用しないと、Web ユーザー・インターフェースは現在のコンテキストおよびスコープ内に存在するすべての管理下オブジェクト・レコードを戻します。 フィルターを使用して、要求によって取り出されるリソースの数を制限できます。

ビュー・エディター (ビュー・エディターについて詳しくは、87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください) を使用して、ビューで使用可能となるフィルターを選択し、それらのフィルターが表示される順序を決めます。

フィルターには、次の 2 つのタイプがあります。

- ・パラメーター。 パラメーターごとに、値を定義します。
- ・属性。 属性ごとに、関係演算子および値の 2 つのフィールドを定義します。

属性値をフィルター処理することにより、予期されない結果がときどき生じるいくつかの状況があります。

- ・属性値は、Web ユーザー・インターフェースのビューで、小数点以下の桁数が最大 3 までの概数で示されます。 内部値は通常これよりも精密なので、フィルター一値と一致しないことがあります。 例えば、ある属性の値が 4000 バイト、つまり 3.90625KB であるとします。 フィルター値として設定できる最も詳細な値は 3.906 (小数点以下が 3 桁まで) なので、値が 4000 バイトの属性は表示されません。
- ・特定の属性に対して、1 つのフィルター式だけを使用できます。 同じ属性に対して複数のフィルター式を指定する場合、それらの式の 1 つだけが適用されます。 他の式は無視されます。

フィルターを適用するには、「Refresh (最新表示)」ボタンを選択します。

フィルターを消去するには、フィールドの内容を削除するか、または選択リストからブランク・オプションを選択して、「**Refresh (最新表示)**」ボタンを押します。

選択基準が設定された後に、該当するメニューまたは該当するデータがビューに表示されます。

フィルターの展開および縮小

表形式ビューのフィルターは、大きな画面スペースを占めることがあり、表示できるデータの量を制限します。その影響を軽減するために、フィルターを変更していないときにはそれらを縮小することができます。変更するときには、再びそれらを展開できます。

フィルターを縮小するには、フィルター領域の左上にある縮小（負符号）アイコンをクリックします。

フィルターを展開するには、フィルターの展開（正符号）アイコンをクリックします。

デフォルトでフィルターを展開された状態または縮小された状態のどちらで表示するかを決めるには、以下のようにオプションの WUI サーバー初期設定パラメーターを使用します。

FILTERSTYLE(EXPAND/COLLAPSE)

このパラメーターを指定しない場合、デフォルトで WUI は展開された状態でフィルターを表示します。

フィルターが非デフォルトの状態になっているビューから他のビューにナビゲートすると、新しいビューでのフィルター領域は FILTERSTYLE パラメーターに指定されたデフォルト・フィルター設定に戻ります。

同じ WUI セッション内で、あるビューから外部にナビゲートした後に元に戻る場合、フィルターはそのビューが最後に表示されていたときの状態のままになります。

関係演算子

関係演算子は、属性に対してのみ指定されます。

関係演算子は、表 6 に示されています。

表 6. 関係演算子

演算子	意味
=	等しい
<>	等しくない
>	より大きい
<	より小さい
>=	より大か等しい
<=	より小か等しい

値

値は、パラメーターと属性の両方に対して指定できます。

値には、次の 2 つのタイプがあります。

- 選択リストから選択する値
- 入力フィールドに入力する値

選択リストの値

パラメーターまたは属性値を選択リストから選択できます。 例えば、「Enable (使用可能)」状況フィールドは ENABLED または DISABLED の選択項目を提供できます。

入力ボックスの値

パラメーターまたは属性値を入力ボックスに入力できます。 入力ボックスに入力される値には、以下のものがあります。

- 文字ストリング
 - トランザクション ID などのように大/小文字混合の値が許可される文字属性では、フィルター文字値は大/小文字を区別することに注意してください。
 - 特殊文字、つまり引用符と印刷不能文字は、35 ページの『WUI でのデータの入力』で説明されているように使用できます。
 - 必要であれば、総称文字を使用できます。 フィルターで総称文字を使用するための規則は、以下のとおりです。
 - アスタリスク (*) は、ゼロを含む任意の数の文字を表します。 これはストリング内の最後の文字か唯一の文字でなければなりません。 例えば、次のようにになります。
 - ABC* は、文字 ABC で始まるすべての値という意味です。
 - * は、すべての値という意味です。
 - 正符号 (+) は単一の文字を表し、任意の位置で使用できます。 例えば、次のようにになります。
 - TERM0+ は、TERM0 で始まるすべての 6 文字の値という意味です。
 - A+BC+DE は、2 番目と 5 番目の位置に任意の文字があり、1 番目の位置に A、3 番目の位置に B、4 番目の位置に C、6 番目の位置に D、7 番目の位置に E がある、7 文字のすべての値という意味です。
 - 16 進数ストリング。 終端アスタリスク (*) をフィルター文字として使用する場合、その直前には偶数個の 16 進数字がなければなりません。

注: フィルター内に総称文字を直接表記すると、リテラル・ストリングとして扱われます。 例えば、

'AB*'X は AB5C と等しくなります。

フィルター内で総称文字の直前に 16 進数ストリングがある場合、それは総称文字として扱われます。 例えば、

'AB'X* は AB* と等しくなります。

16 進数ストリング内で正符号 (+) をフィルター文字として使用することはできません。

総称文字の例と、文字フィルターおよび 16 進フィルターでのその影響については、表 7を参照してください。

- 数値データと CVDA または EYUDA 値については、35 ページの『WUI でのデータの入力』の規則に従ってください。

表 7. 総称文字の使用

総称および引用符	HEX 属性	Char 属性
引用符で囲まれた総称 'HELLO*' 'F1F2F3*'X 'F4+F5'X	リテラル・マッチ C8C5D3D3D65C F1F2F35C F44EF5	総称マッチ HELLO* 123* 4+5
引用符の外の総称 'HELLO'* 'F1F2F3'X*	総称マッチ C8C5D3D3D6* F1F2F3*	無効
引用符のない総称 HELLO* F1F2F3* F4+F5	総称マッチ HELLO invalid F1F2F3* + invalid	総称マッチ HELLO* F1F2F3* F4+F5

注: 関係演算子と総称文字とを組み合わせる意味がない場合には、エラーが出されます。 総称文字に意味があるのは、文字属性で "=" および "<>" 関係演算子と共に使用するときだけです。 それらをパラメーターまたは数値に使用することはできません。

WUI のレコード・カウント警告

レコード・カウント警告を設定すると、ビューを開く要求によって戻されるデータ量が許容できないほど大きくなりそうな場合に、WUI から警告が出されます。

レコード・カウント警告メカニズムを使用すると、要求が実行される前に、ビューのフィルターを変更することや、その要求を確定したり取り消したりすることが可能になります。

この機能はすべてのリソースには適用されません。以下のリソースに関連した WUI ビューに対してのみ、レコード・カウント警告を設定できます。

表 8. リソースおよびレコード・カウント警告

RESOURCE	RESOURCE	RESOURCE
ATOMSERV	EXITTRUE	PARTNER
BUNDLE	EXTRATDQ	PIPELINE
BUNDPART	FEPICONN	PROCTYP
CMDT	FEPINODE	PROFILE
CONNECT	FEPIPOOL	PROGRAM
DB2CONN	FEPITRG	REMFILE
DB2ENTRY	INDTDQ	REMTDQ

表8. リソースおよびレコード・カウント警告 (続き)

RESOURCE	RESOURCE	RESOURCE
DB2TRN	INTRATDQ	REMTRAN
DOCTEMP	IPCONN	RQMODEL
DSNAME	JRNLNNAME	SYSDDUMP
ENQMODEL	JVMSERV	TCPPIPS
EPADAPT	LIBRARY	TERMNL
EVCSDATA	LOCFILE	TRANDUMP
EVCINFO	LOCTRAN	TSMODEL
EVCSSOPT	MODENAME	URIMAP
EVCSSPEC	OSGIBUND	WEBSERV
EVNTBIND	OSGISERV	XMLTRANS
EXITGLUE		

注: 警告カウント・メカニズムは、以下のリソースに対しては機能しません。

- PIPELINE、WEBSERV、URIMAP、LIBRARY (CICS TS 4.1 より前のリリース・レベルの CMAS がネットワークに接続されている場合)。
- プラットフォーム上にデプロイされたアプリケーションの専用リソース。

警告メカニズムを起動するために必要なレコード数を指定するには、以下のようにします。

- WUI サーバー構成の際に、**DEFAULTWARNCNT** WUI サーバー初期設定パラメーターに値を設定します。**DEFAULTWARNCNT** には、0 から 99999999 の派生の整数値を指定することができます。このパラメーターはオプションです。
- ユーザー・グループ・プロファイルに警告レコード・カウント値を設定して、同じ値をその WUI ユーザー・グループのすべてのメンバーに適用します。その手順については、94 ページの『ユーザー・グループ・プロファイルの作成および管理』を参照してください。

デフォルト値は 0 であり、これは警告が発行されないことを意味します。

ユーザー・グループに設定される値は、**DEFAULTWARNCNT** パラメーターの設定値よりも優先されます。警告を出す前に、WUI はサインオンしているユーザーがユーザー・グループに関連付けられているかどうかを確認します。この関連付けが行われるのは、セキュリティー・スイッチをオンにして WUI が実行されている場合のみです。関連付けられている場合、WUI はそのユーザー・グループに指定された値を警告カウントに使用します。ユーザーがユーザー・グループに属していない場合、または最大値が設定されていない場合には、WUI は **DEFAULTWARNCNT** パラメーターに設定された値を使用します。

警告カウントの値が 0 よりも大きい場合、WUI は戻される可能性のあるレコードのセットのサイズを調べます。この検査により、戻される可能性のあるレコードの最大数を推定できます。基本キー・フィールドの最初の部分に関連付けられているもの以外のフィルターは無視されるために、この推定は常に正確とは限りません。

WUI の場合、この推定の値が警告カウントの値よりも大きい場合、図 15にあるような警告画面が表示されます。

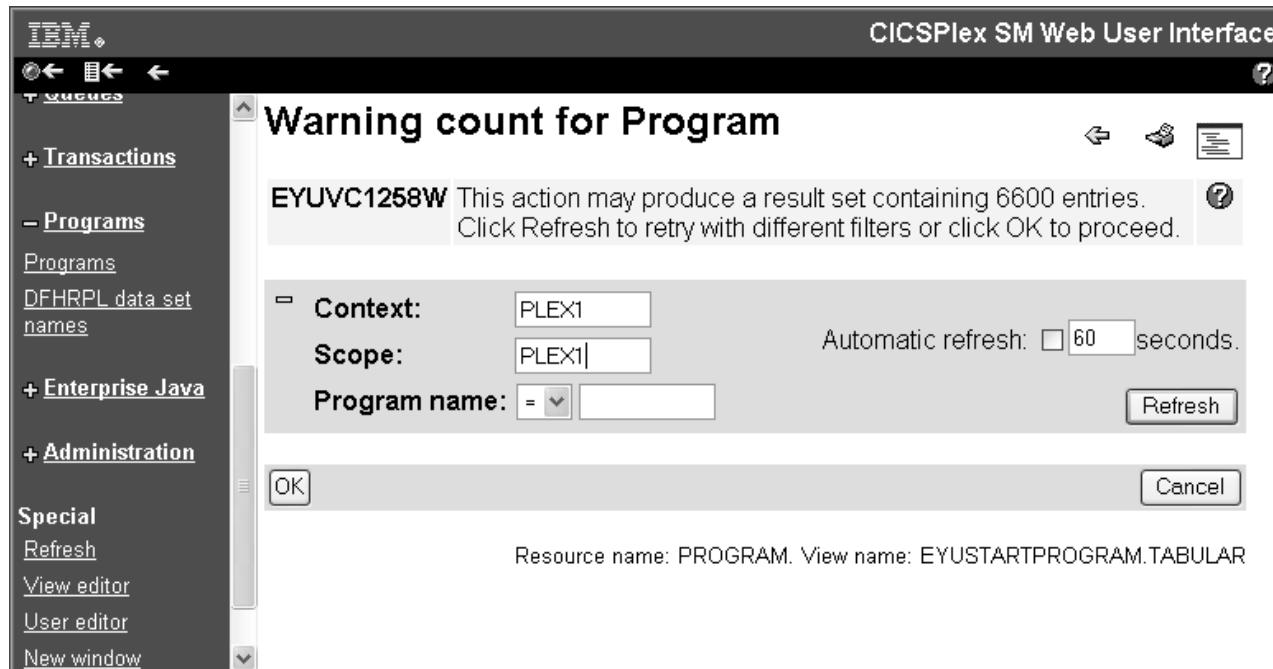


図 15. 警告カウント画面

「Refresh (最新表示)」をクリックすると、新しい要求が実行されます。これにより、警告カウント画面内にある基本キー・フィールドを変更して、より小さい結果セットを生成するための新しいフィルター値をテストできるようになります。その他のフィルターは、最初の要求のときと同じ場所に残ります。戻される結果のセットが警告カウント限度よりも小さくない場合、警告カウント画面が再表示されて、最初の警告カウント・メッセージが出されます。そのサイズが警告カウント限度よりも小さい場合、警告カウント画面が再表示されます。

画面の下部にある「OK (了解)」をクリックすると、戻される結果の数には関係なく、現在の要求が実行されます。

「Cancel (取り消し)」をクリックすることは、Web ブラウザーで戻るためのリンクを押すことと同じで、直前の画面が再表示されます。

注: Web ユーザー・インターフェースのシステム・パラメーター
RESOURCELIMIT(WARNING|FAIL) により、警告カウントのオーバーライドが可能かどうかを制御します。

戻り値が警告カウント値以下の場合は、通常どおりに WUI ビューが表示されます。

CICSplex SM 定義をマップする方法

WUI マップを使用して、データ・リポジトリ内にあるリソース定義の間の関係を示すビジュアル表示を生成します。

CICSplex SM に対して定義された各 CICS リソース定義間の関連は、複雑で視覚化が難しい場合があります。例えば、CICS システムは 1 つの仕様に関連付けることができ、この仕様に 1 つ以上のグループが含まれている場合があります。一方、グループには定義が含まれている場合があります。このタイプの構造は、多くの場合ツリーの分岐として表現されます。WUI マップは、この選択したリソースのツリー構造のビジュアル表示を生成する方式です。この表示では、ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 定義、リソース・モニター (MON) 定義、リアルタイム分析 (RTA) 定義、またはワークロード管理 (WLM) 定義を表現することができます。マップを使用すれば、各定義間の関係が予期したものになっていることを検査することができます。

リソース定義を表示するすべての IBM 提供の表形式ビューと詳細ビューには、クリックしてマップを生成するためのマップ・ボタンが組み込まれています。デフォルトでは、マップには選択した定義によって参照される各定義が表示されます。つまり、下位レベルをマップします。この操作を「右方にマップ」操作と呼びます。例えば、選択したリソースが WLM 仕様の場合は、マップには関連付けられた WLM グループ、定義、およびトランザクション・グループが表示されます。ただし、選択したリソースが既に最も低いレベルにある場合は (例えば、WLM トランザクション・グループまたは BAS リソース定義)、マップにはすべての上位レベルの関係が表示されます。トランザクション・グループの場合は、マップには関連付けられた定義、グループ、および仕様が表示されます。この操作を「左方にマップ」と呼びます。

マップを解釈する方法

典型的なマップは、図 16 に示されています。

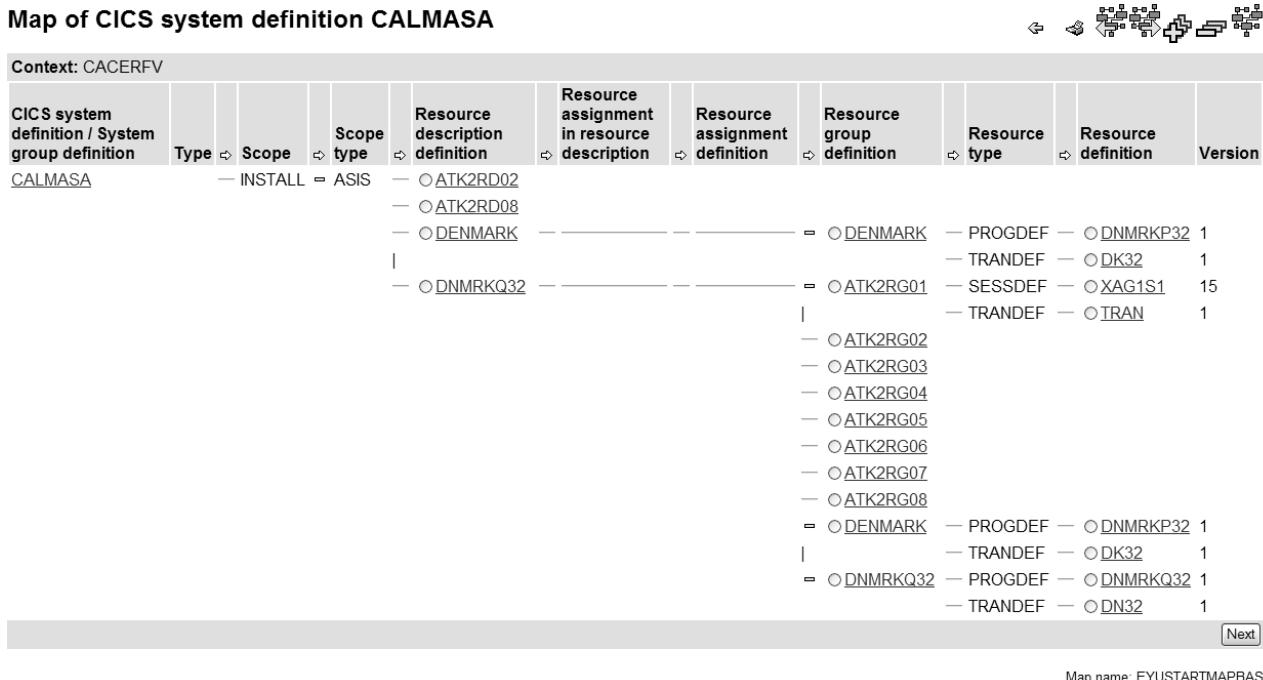


図 16. 標準的なマップ・ビューの図

マップ・ビューの上部には、以下のことを実行できる各アイコンが左から右に向かってあります。

- 前の詳細ビューに戻る
- 印刷形式のマップ・ビューを表示する。
- 選択したリソース定義のマップの左側のビューに切り替える。
- 選択したリソース定義のマップの右側のビューに切り替える。
- マップ表示上のすべての定義を展開する。
- マップ表示上のすべての定義を縮小する。

マップには、 (お気に入りへの追加) アイコンはありません。マップには、お気に入りの 1 つとしてブックマークを付けることはできません。

表形式ビュー上で複数のリソースを選択した場合は、「次へ」をクリックして、選択した次のリソースのマップを表示することができます。

マップは、デフォルトでは常に展開された状態で表示されます。ただし、WUI サーバー初期設定パラメーターの DEFAULTMAPCOLL を使用して、このデフォルトの動作を変更することができ、また、ユーザー・グループ・プロファイルを指定する場合は、ユーザーの特定のグループに対してこのデフォルトの動作を変更することもできます。

マップは 4 列から 18 列までの列を持つテーブルです。マップには 2 つの異なるタイプの列、リソース列と結合列があります。

リソース列には、オブジェクトのリソース名が含まれています。ヘッダーには、この列が関連している定義のタイプ、例えば、WLM 仕様、WLM グループなどが表示されます。リソース名はハイパーリンクとして機能します。リソース名をクリックすると、その詳細ビューが開きます。

リソース名の代わりに、リソース列には、以下の記号の 1 つを含めることができます。

水平線 直接結合された、さらにレベルの高いリソース名があることを示します。
それに対応するリソース名はありません。

アスタリスク

この行が縮小された状態にあることを示します。このセルは、縮小を実行したリソースよりも下位レベルにあります。

破線 (- - - -)

BAS リソース定義のマップ上の RASINDSC 列のみで表示されます。これは、RASINDSC オブジェクト内のフィールドによって生成された RESDESC と RESGROUP の間に関連があることを示します。この記号がない場合は、RESDESC と RESGROUP の間の関連が直接的な結合にすぎなかったことを意味します。

結合列は、マップ・ビュー上の各リソースの間に表示されます。結合列のヘッダーには、マップを読み取る必要がある方向、つまり、「右方にマップ」(レベルを下げ

る) 操作用の右側を向く矢印、および「左方にマップ」(レベルを上げる) 操作用の左側を向く矢印を示すアイコンが含まれます。結合列には、以下の記号の 1 つが含まれます。

横棒 この横棒の両方の側の列内の値が結合されていることを示しています。この横棒により、リソースがブランク・スペースおよび縦棒文字に結合される場合があります。この場合、リソースがテーブルを上方へ移動する際に検出された最初の適切なリソース名に関連することを意味しています。例えば、52 ページの図 16 では、リソース・グループ定義の ATK2RG02 は 1 つの横棒文字でセルに結合されています。この接続は、ATK2RG02 がテーブルを上方へ移動する際に検出された最初の適切なリソースであるリソース記述 DNMRKQ32 に関連付けられていることを意味しています。

展開アイコンまたは縮小アイコン

横棒と同様に関連を示しています。ただし、これらのアイコンは、マップの一部の展開および縮小にも使用されます。あるリソースに複数の下位レベルのリソースが関連付けられている場合、例えば、複数のリソース定義を持つ 1 つのリソース・グループの場合は、このリソースの左側の接続列には縮小アイコンが含まれています(展開された状態の場合)。縮小アイコンは、行を縮小した場合には、展開アイコンに変わります。

垂直バー

リソースに兄弟があり、複数の下位レベルの関連があることを示しています。兄弟のリソース名がレンダリングされるまで、列内の各セルにバーが表示されます。

「リソース定義」などのマップ上の一列には、その列内に複数のリソース・タイプが含まれています。そのような場合、それらのリソースのリソース・タイプを含む追加の列が表示されます。

隣接するラジオ・ボタンを選択し、「右方にマップ」アイコンまたは「左方にマップ」アイコンをクリックして、「右方にマップ」または「左方にマップ」の操作をマップ上に表示されたほとんどのリソースに対して開始することができます。この例外は、CICS システム名または CICS グループ名です。これは、マップ操作をこれらのリソースに対してさらに実行しても、これ以上有益なデータをもたらさないためです。「右方にマップ」コマンドでは、現在のデータのみが再表示されます。「左方にマップ」コマンドでは、CICS システム名または CICS グループ名のみが表示されたマップが作成されます。

マップ画面上のいくつかの列は、実際のリソースを表示するのではなく、関係(例えば、BAS マップ上のスコープ・タイプなど)についての追加情報を提供します。これらは本当のリソースではないため、それらに対して「左方にマップ」または「右方にマップ」の操作を実行することはできません。

ヒント: スクリーン・リーダーを使用している場合は、リーダーがマップに含まれた情報を正しく解釈するために適切に構成されていることを確認する必要があります。特に、以下の項目に注意してください。

- スクリーン・リーダーの句読モードを、すべての記号を発声または表示するように設定してください。これは、縦棒記号が、マップ上のエレメント間の関係を示

すためです。スクリーン・リーダーが縦棒記号を発声または表示するようにセットアップされていない場合、スクリーン・リーダーはマップ・エレメント間の関係を判別することはできません。

- スクリーン・リーダーのテーブル・モード・オプションを使用してください。これにより、マップが意図された論理的順序で読み取られるようになります。

WUI は、4 つのデフォルト・マップ・オブジェクトを提供します。それらには、以下のような名前が付いています。

EYUSTARTMAPBAS: ビジネス・アプリケーションのサービス定義のマップの生成用

EYUSTARTMAPMON: モニタ一定義のマップの生成用

EYUSTARTMAPRTA: リアルタイム分析定義のマップの生成用

EYUSTARTMAPWLM: ワークロード管理定義のマップの生成用

各マップ・オブジェクトには、リソース列から指定されたリソースの詳細ビューへのリンクが含まれています。ビュー・エディターを使用して自分で作成したマップ内では、リンクをカスタマイズして、独自にカスタマイズしたビューなどの異なる宛先を指示することができます。

また、自分で設計した WUI ビュー上でマップ機能を使用することもできます。WUI のビュー・エディターには、マップ・ボタンを定義オブジェクト用の表形式ビューまたは詳細ビュー上に組み込むオプションがあり、またカスタマイズされたマップを作成および編集するためのオプションもあります。

フル機能 BAS でマップを解釈する方法

フル機能 BAS でのマップは、非常に複雑なことがあるので、追加の解説が必要です。

フル機能 BAS では、ターゲット・スコープを以下の 3 つの場所に指定できます。

- リソース割り当てに (RASGNDEF)
- リソース割り当てとリソース記述との間のリンクに (RASINDSC)
- リソース記述自体に (RESDESC)

ターゲット・スコープを 3 つの場所すべてに指定した場合、リソース割り当てが優先されて、次にリソース割り当てとリソース記述との間のリンク上、そして最後にリソース記述上のターゲット・スコープとなります。

「Resource assignment definitions (リソース割り当て定義)」ビューでリソース割り当てを選択してから「左方にマップ」操作を実行する場合、これは以下のように示されます。

表 9. リソース記述のスコープがリソース割り当てによって指定変更されることを示す、リソース割り当ての「左方にマップ」操作の結果

CICS システムまたはシステム・グループ	スコープ	スコープ・タイプ	リソース記述	リソース記述内のリソース割り当て	リソース割り当て
SYSTEM1	TARGET	—	ASIS	—	<----->
SYSTEM2	TARGET	—	FILEDEF	—	—

この結果は、SYSTEM1 がリソース割り当て ASSIGN1 によって指定変更されたために、リソース記述 MYDESC 内の FILEDEF リソースが SYSTEM1 にはインストールされないことを示しています。それは代わりに SYSTEM2 にインストールされます。SYSTEM1 との関連は、<-----> 記号があるので、簡単な物理関係であることが分かります。ASSIGN1 は SYSTEM2 に直接関連付けられていて、<-----> 記号がないことにより物理関係は存在しないことが示されているので、図の 2 行目は指定変更であると推測できます。

以下のように、システム列で重複が生じることがあります。

表 10. リソース記述のスコープがリソース割り当てによって指定変更されないことを示す、リソース割り当ての「左方にマップ」操作の結果

CICS システムまたはシステム・グループ	スコープ	スコープ・タイプ	リソース記述	リソース記述内のリソース割り当て	リソース割り当て
SYSTEM1	TARGET	— ASIS	— — MYDESC	— <----->	— ASSIGN1
SYSTEM1	TARGET	— FILEDEF	— — —	— — —	—

この結果は、リソース割り当てがインストールのターゲットを指定変更していないか、または指定変更が MYDESC ターゲット・インストールと同じであることを示しています。

最初の例は、指定変更がリソース割り当てだけで行われる場合を扱っています。リソース割り当てとリソース記述との間のリンク上 (RASINDSC) で指定変更することもできます。これは以下のように示されます。

表 11. RASINDSC 上に指定されたスコープがリソース割り当てによって指定変更されることを示す、リソース割り当ての「左方にマップ」操作の結果

CICS システムまたはシステム・グループ	スコープ	スコープ・タイプ	リソース記述	リソース記述内のリソース割り当て	リソース割り当て
SYSTEM2	TARGET	— FILEDEF	— — —	— <----->	— ASSIGN1
SYSTEM1	TARGET	— ASIS	— MYDESC	—	—
SYSTEM3	TARGET	— FILEDEF	— — —	— — —	—

この場合、<-----> 記号は指定変更が RASINDSC リソース内で生じることを示します。ただし、インストールが行われる場所を示す最後の行は、リソース割り当て ASSIGN1 が SYSTEM3 を指していることを示しています。この行は、リソース割り当て内のターゲット・スコープが RASINDSC を指定変更していることを示しています。指定変更が除去された場合、結果は以下のようになります。

表 12. RASINDSC がリソース割り当てによって指定変更されないことを示す、リソース割り当ての「左方にマップ」操作の結果

CICS システムまたはシステム・グループ	スコープ	スコープ・タイプ	リソース記述	リソース記述内のリソース割り当て	リソース割り当て
SYSTEM2	TARGET	— FILEDEF	— — —	— <----->	— ASSIGN1
SYSTEM1	TARGET	— ASIS	— MYDESC	—	—
SYSTEM2	TARGET	— FILEDEF	— — —	— — —	—

この配置は、RASGNDEF および RASINDSC の両方のスコープが等しい場合にも生じます。

関連トピック

106 ページの『カスタマイズされたマップ・オブジェクト』
ビュー・エディターを使用して、独自のカスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成、編集、コピー、または削除できます。 カスタマイズされたマップ・オブジェクトには、指定したビューへのハイパーリンクが含まれることがあります。 マップ・ボタンを追加して、カスタマイズされた定義ビューへのマップ機能を使用可能にすることもできます。

125 ページの『カスタマイズしたマップ・オブジェクトの使用』
ビュー・エディターを使用して、カスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成および編集できます。

CICSplex SM 定義のマップの表示

すべての IBM 提供の定義ビューを含む、ボタン・バーにマップ・ボタンが表示される WUI 表形式ビューまたは詳細定義ビューでは、関連したリソースのマップを生成できます。

始める前に

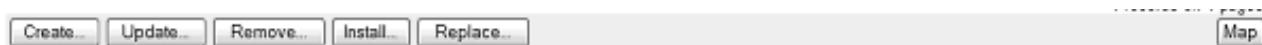


図 17. マップ・ボタンが示されている、定義ビューからの詳細

このタスクについて

リソースのマップを生成するには、適切な表形式ビューを開いて、以下のステップに従います。

手順

- 開始点としてリソースを選択します。以下の 2 つの方法でこれを行うことができます。
 - リソースの隣にあるチェック・ボックスを選択します。複数のチェック・ボックスを選択する場合、選択された各リソースのマップを順番に表示するオプションがあります。
 - リソース名をクリックして、そのリソースの詳細ビューを開きます。
- 対象となる機能領域を選択します。いくつかのリソースから、複数の関連定義のセットをマップできます。

例えば、CSYSGRP および CSYSDEF リソースでは、BAS、モニター、RTA、または WLM リソースをマップできます。PERIODEF リソースでは、モニターまたは RTA をマップできます。RESGROUP、WLMDEF、RTASPEC などの他のリソースは、関連定義の単一のセットに制限されています。

選択したリソースに対する選択項目が存在する場合、58 ページの図 18 に示されているように、「Map (マップ)」ボタンの隣にリストが表示されます。

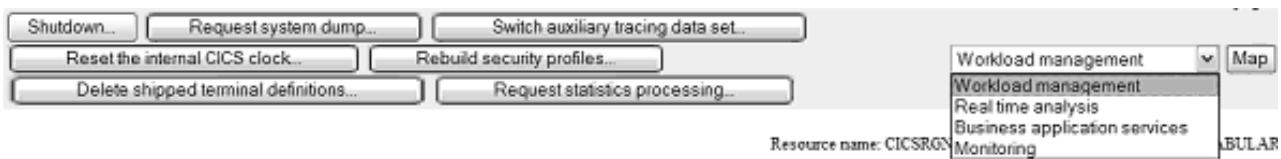


図 18. 「Map (マップ)」ボタンと関連リストを示している CICSRGN 表形式ビューからの詳細

リストを開いて選択項目を強調表示することにより、選択を行います。

3. 「Map (マップ)」をクリックして、選択されたリソースのマップを生成します。

タスクの結果

ここで、選択されたリソースとその関連リソースの表現を表示しているマップ画面が開きました。選択されたリソースが既に最下位にあるのでなければ、表示されたマップには、選択されたリソースの下位にあるすべてのリソースが示されます。デフォルトでは、マップは通常どおり完全に展開された状態になります。WUI サーバー初期設定パラメーターの DEFAULTMAPCOLL を使用して、このデフォルトの動作を変更することができます。この状態は、マップ・ビューの上部にある「Expand all (すべて展開)」および「Collapse all (すべて縮小)」ボタンを使用して制御できます。

次のタスク

ここで、開始点となる 1 つのリソースを選択した後に「Map left (左方にマップ)」または「Map right (右方にマップ)」をクリックすることにより、リストされている任意のリソースのマップを生成できます。

表形式ビューで複数のチェック・ボックスを選択してマップを起動した場合、「Next (次へ)」をクリックすることにより、選択結果から次のリソースのマップを生成できます。

第 4 章 Web ユーザー・インターフェースの管理

この資料では、Web ユーザー・インターフェースの管理方法を、管理者に説明します。

ここでは、以下のトピックについて説明します。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・トランザクション (COVC)

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバー・コントローラー・トランザクション (COVC) は、Web ユーザー・インターフェース・サーバー CICS 領域に接続された端末で管理者が使用するために提供されています。

このトランザクションの機能は、次のとおりです。

- Web ユーザー・インターフェース環境を開始またはシャットダウンする。
- Web ユーザー・インターフェース状況情報のサマリーを表示する。
- アクティブなユーザー・セッションの詳細を表示して、セッションを個別に終了できるようにする。
- 提供された、およびカスタマイズされた、ビューおよびメニュー定義、マップ・オブジェクト、ユーザー・オブジェクト、およびユーザー・グループ・プロファイルを含む、Web ユーザー・インターフェースのリポジトリ情報インポートおよびエクスポートします。
- トレース・フラグを動的に設定する。

COVC とだけ入力して、その後に他のコマンドをそれ以上何も入力せずに COVC トランザクションを実行すると、60 ページの図 19 に示すように CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース制御パネルが表示されます。

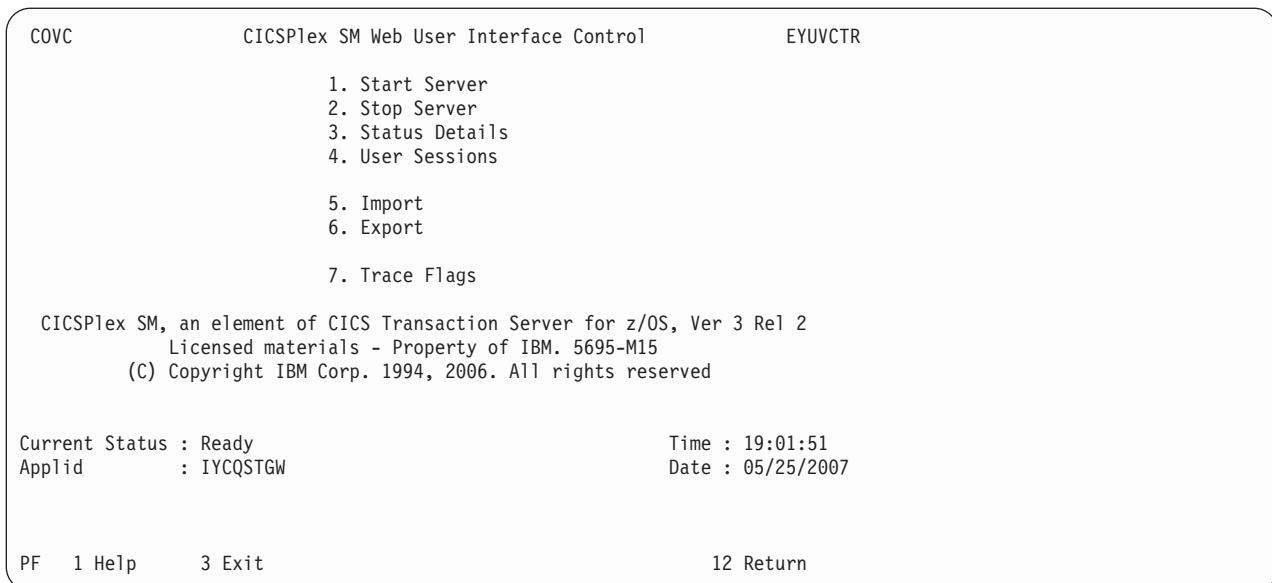


図 19. CICSplex Web ユーザー・インターフェースの制御パネル

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始および停止

PLT 処理の際に Web ユーザー・インターフェース・サーバーがまだ開始されていない場合、COVC 制御パネルから「**Start Server (サーバーの開始)**」オプションを選択してそれを開始できます。Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始が要求されたことを示すメッセージ EYUVS0900I が制御パネルで発行されます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーを停止するには、COVC 制御パネルから「**Stop Server (サーバーの停止)**」オプションを選択します。Web ユーザー・インターフェース・サーバーの停止が要求されたことを示すメッセージ EYUVS0901I が制御パネルで発行されます。

注: COVC トランザクションを使用する Web ユーザー・インターフェース・サーバーの停止は、COVC のトランザクションが完了したときに Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして機能する CICS システムをシャットダウンします。

次のコマンドを発行して、Web ユーザー・インターフェース・サーバーを開始することもできます。

COVC START

次のコマンドを発行して、Web ユーザー・インターフェース・サーバーを停止することもできます。

COVC STOP

MVS Modify コマンドを使用して、COVC START および COVC STOP コマンドを CICS 端末またはコンソールから発行できます。

既に開始している Web ユーザー・インターフェース・サーバーを開始しようとした場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーが現在アクティブであることを示すメッセージ EYUVS0902W が発行されます。同様に、既に停止している

Web ユーザー・インターフェース・サーバーを停止しようとした場合、 Web ユーザー・インターフェース・サーバーが現在は非アクティブであることを示すメッセージ EYUVS0903W が発行されます。

WUI サーバー領域をシャットダウンする際、CEMT、CICS Explorer®、または WUI CICSRGN ビューは使用しません。これら的方式を使用する場合、CICSplex SM クリーンアップは行なわれません。この状況で、メッセージ EYUXS0910I、EYUXS1014I、EYUXS1019W および EYUXS1016E と、以下の例のようなタイトルの SVC ダンプを受け取る場合があります。

```
EYU9XSTR Dump,jobname,applid,sysname,LMAS,COVA,0000000,TRCV,EYU9XSTR,dd/mm/yyyy,hh:mm:ss
```

SVC ダンプに加えて、EYUXS1019W メッセージで言及されているように、API リソースが孤立する場合があります。

状況詳細の表示

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの状況詳細を表示するには、 COVC 制御パネルから「**Status Details (状況詳細)**」オプションを選択します。

このオプションによって、図 20 に示されているように「**Status Details (状況詳細)**」パネルが開きます。

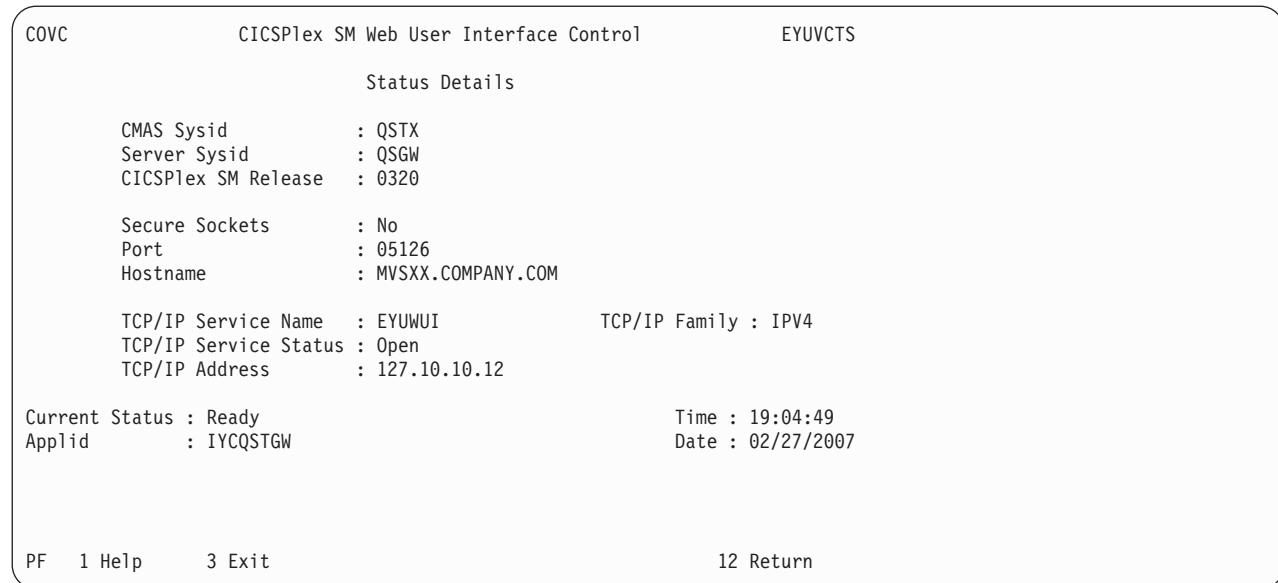


図 20. 「Status Details (状況詳細)」パネル

以下は、図 20 に示されているいくつかのフィールドについての説明です。

- **CMAS Sysid (CMAS システム識別名)**

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの接続先となる CMAS のシステム ID。

- **Secure Sockets (セキュア・ソケット)**

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、TCPIPSSL Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターで定義されているように、Secure Sockets Layer (SSL) を使用しているかどうかを示します。

- **Port (ポート)**

TCPIPPORT Web ユーザー・インターフェースのサーバー初期設定パラメーターに指定された TCP/IP ポート番号です。

- **Hostname (ホスト名)**

TCPIPHOSTNAME Web ユーザー・インターフェースのサーバー初期設定パラメーターに指定された TCP/IP ホスト名です。

- **TCP/IP Service Name (TCP/IP サービス名)**

Web ユーザー・インターフェースによって使用されている TCPIPSERVICE の名前です。

- **TCP/IP Service Status (TCP/IP サービス状況)**

Web ユーザー・インターフェースによって使用されている TCPIPSERVICE の状況です。

- **TCP/IP Address (TCP/IP アドレス)**

CICS Transaction Server の CICSPlex SM エレメントを使用している場合、Web ユーザー・インターフェースによって使用されている TCPIPSERVICE のコロン 16 進またはドット 10 進の IP アドレスです。

- **TCP/IP Family (TCP/IP ファミリー)**

CICS Transaction Server の CICSPlex SM エレメントを使用している場合、Web ユーザー・インターフェースによって使用されている TCPIPSERVICE の IP アドレスのアドレス・フォーマットです。

コントロール・パネルに戻るために PF12 を押した場合は、メッセージ EYUVS0906I が表示されて、操作が完了したことが示されます。

ユーザー・セッションの表示

ユーザー・セッションに関する情報を表示するには、COVC 制御パネルから「**User Sessions (ユーザー・セッション)**」オプションを選択します。

これによって、「**User Sessions (ユーザー・セッション)**」パネルが、63 ページの図 21 に示されているように開きます。

CICSplex SM Web User Interface Control						
User Sessions				Page 1 of 1		
Current No. of Users : 1		Inactive Timeout : 30 (mins)				
Maximum No. of Users : 20						
Userid	USERGrp	Inact	TimeA	Win	D	Status
OPS1	OPSWUI1	4	3:17	7	10.10.10.25	
WUIADM	ADMWUIG	0	2:04	1	10.10.10.3	
MONCNSL	MONITOR	0	1:59	3	10.10.10.74	ENDING
Current Status : Ready				Time : 11:29:05		
Applid : IYCSZGW0		Date : 10/19/2006				
PF 1 Help	3 Exit	7 Up	8 Down	12 Return		

図21. 「User sessions (ユーザー・セッション)」パネル

以下は、図21に示されているいくつかのフィールドについての説明です。

Maximum No. of Users (ユーザーの最大数)

同時ユーザーの最大許可数で、MAXUSERS 初期設定パラメーターに指定された値です。

Inactive Timeout (非アクティブ・タイムアウト)

非アクティブなユーザー・セッションを強制終了するまでの期間で、INACTIVETIMEOUT 初期設定パラメーターに指定された値です。非アクティブのタイムアウトに達したとき、ユーザー・セッションは終了します。

Userid Web ユーザー・インターフェースにサインオンしたユーザーのユーザーID。

UserGrp

ユーザーが属するユーザー・グループ。

Inact ユーザー・セッションが非アクティブとなっている期間。

TimeA ユーザーがログオンしている期間。

Win このユーザー・セッションが現在開いているウィンドウの数。この数値は、ユーザーがナビゲーション・フレームで「New window (新規ウィンドウ)」または「View Editor (ビュー・エディター)」ボタンを選択するか、またはビュー・エディターで「New Editor (新規エディター)」または「New Home window (新規ホーム・ウィンドウ)」ボタンを選択するたびに増分します。

注: この数値は、ユーザーがウィンドウを閉じるときには必ずしも減分しません。閉じられたウィンドウは、リソースが再利用されるまでアクティブのままになります。

D データ・インターフェース使用の標識。

ClientIP

クライアント Web ブラウザまたはプロキシー TCP/IP アドレス。

TCP/IP が IPv6 アドレスに対応する場合は、アドレスが 2 行になるため、1 ページあたりに表示されるユーザーの数が減少することになります。IPv4 アドレスは 1 行で表示されます。

Status パージ状況の標識。

コントロール・パネルに戻るために PF12 を押した場合は、メッセージ EYUVS0906I が出されます。

ユーザー・セッションの終了

「User Sessions (ユーザー・セッション)」 COVC パネルから、ページの **P** または強制ページの **F** をユーザー ID に対して入力し、Enter キーを押すことによって、ユーザー・セッションを終了できます。

ページ要求が成功したことを示すメッセージ EYUVS0912I が発行されます。ユーザー・セッションが終了すると、メッセージが EYULOG にも書き込まれます。

注: 強制ページ・コマンドを使用してユーザーを終了すると AEXY 異常終了が発生し、いくつかのリソースが再利用されない可能性もあります。

WUI 定義のインポートおよびエクスポート

COVC を使用して、WUI データ・リポジトリの WUI 定義をバックアップし、リストアすることができます。

COVC のインポートおよびエクスポート機能を使用して、WUI パネル構造の安全なコピーを作成し、その後、以下を行うことができます。

- それらを他の WUI サーバーに配布する。
- プログラム一時修正 (PTF) によってサービス変更を適用する。
- 他のリリースへ定義を移行する。

WUI サーバーおよび WUI サーバー・リポジトリのコンテンツのアップグレードについて詳しくは、WUI および WUI サーバー・リポジトリのコンテンツのアップグレード (EYUWREP) を参照してください。

COVC を使用した WUI 定義のインポート

COVC インポート機能を使用して、外部ファイルから WUI データ・リポジトリ一定義をインポートします。使用できるファイルは、MVS 順次データ・セットか、MVS 区分データ・セットのメンバーのいずれかです。

定義が順次ファイル内に含まれている場合、そのデータ・セットは CICS 区画外データ・セットに関連付けられていなければならず、ファイルがリンクされている CICS 一時データ・キューナーを介してインポートする必要があります。「**Import command (インポート・コマンド)**」パネルの「Import from a TDQ (TDQ からのインポート)」オプションを使用する必要があります。定義が MVS 区分データ・セットのメンバー内に含まれている場合、「**Import command (インポート・コマンド)**」パネルの後に表示される「**Import from a data set (データ・セットからのインポート)**」で、データ・セットとメンバー ID を直接指定できます。

ビューア定義のデータは以下で構成されます。

- ・ ビュー・セットおよびメニュー
- ・ WUI マップ・オブジェクト
- ・ ユーザー・オブジェクト
- ・ ユーザー・グループ・プロファイル

IBM 提供の WUI ビューおよびメニュー定義のセットが SEYUVIEW 区分データ・セットに含まれているため、「**Import command** (インポート・コマンド)」パネルで「Import from a data set (データ・セットからのインポート)」機能を指定する必要があります。このインポート・オプションを使用する利点は、このパネルで個々のメンバー名を指定できるため、バックアップしたビュー・セットのコンテンツの個々の要素を選択的にリストアできることです。

COVC インポート機能でエクスポートおよびインポートされるビュー・セットには、以下の特定のファイル定義要件があります。

- ・ 順次ファイルは、以下のように定義されていなければなりません。

レコード・フォーマット: VB
論理レコード長: 32000
ブロック・サイズ: 32004

- ・ 区分データ・セットは、以下のように定義されていなければなりません。

レコード・フォーマット: VB
論理レコード長: 32000
Block size: 32760

TD キュー COVE および COVI 用に標準の一時データ・キュー定義が提供されています。それらは、WUI サーバー JCL に組み込むために、EYUCOVE および EYUCOVI という DD 名に関連付けられています。これらの TDQUEUE 定義を、以降のインポート/エクスポートの区画外キュー用のモデルとして使用できます。

区画外 TDQ に関連付けられた順次ファイルから定義をインポートするには、以下を行います。

1. 制御パネルから「Import (インポート)」オプションを選択するか、または **COVC IMPORT** コマンドを使用して「Import (インポート)」パネルを開きます。
2. 「Import (インポート)」パネルで「Import from a TDQ (TDQ からのインポート)」を選択して、「Import a TDQ (TDQ のインポート)」パネルを開きます。
以下の図は、TDQ パネルからの「Import (インポート)」を表しています。

COVC	CICSPlex SM Web User Interface Control	EYUVCTW
Import from a TDQ		
Input TDQ name : Name of extrapartition TDQ for import Type : MEnu Viewset USERGrp User MAp All Import option : Skip Overwrite DELETE		
Current Status : Ready Applid : CICSHW61		Time : 08:53:57 Date : 03/27/2007
PF	1 Help	3 Exit
		12 Return

図22. 「Import from a TDQ (TDQ からのインポート)」パネル

3. 定義が現在保持されている区画外一時データ・キューの名前 (例えば COVI) を入力します。
4. 他のブランク・フィールドに、以下のように入力します。

Type (タイプ)

以下のいずれかのタイプを入力します。

MEnu メニューだけをインポートします。

Viewset

ビュー・セットだけをインポートします。

User ユーザー・オブジェクトだけをインポートします。

USERGrp

ユーザー・グループ・プロファイルだけをインポートします。

MAp マップ・オブジェクトだけをインポートします。

All すべてのタイプの定義をインポートします。

注: 「Type (タイプ)」のいずれかをインポートするには、関連する ESM プロファイルへの UPDATE アクセスが必要です。

- MENU : ESM プロファイル EYUWUI.*.MENU.menuuname
- MAP : ESM プロファイル EYUWUI.*.MAP.mapname
- VIEW set : ESM プロファイル EYUWUI.*.VIEW.viewsetname
- USER および USERGRP : ESM プロファイル EYUWUI.*.USER
- ALL : 上記すべてのプロファイル

インポート・オプション (Import option)

入力データ・セットに重複した定義が見つかった場合にサーバーが取るべきアクションを入力します。つまり、既存の定義が保持されるか、上書きされるか、削除されるかのいずれかです。

Skip **Skip** を指定した場合、入力データ・セットに既に存在しているもの以外の定義だけがインポートされます。

Overwrite

Overwrite を指定した場合、入力データ・セットに既に存在する定義は上書きされます。

DELETE

選択したタイプの一致する定義は、リポジトリー・データ・セットから除去されます。例えば、リポジトリーから選択的にレコードを除去するには、除去したいオブジェクトをエクスポートしてから、エクスポートされたそのファイルをインポート削除機能で使用して、それらのオブジェクトを除去することができます。

注: 同じ名前のビュー・セットとメニューを持つことができます。

5. **Enter** を押して、操作を開始します。

区分データ・セットから定義をインポートするには、以下を行います。

1. 制御パネルから「Import (インポート)」オプションを選択するか、または **COVC IMPORT** コマンドを使用して「Import (インポート)」パネルを開きます。
2. 「Import (インポート)」パネルで「Import from a data set (データ・セットからのインポート)」を選択して、「Import from a data set (データ・セットからのインポート)」パネルを開きます。以下の図は、「Import from a data set (データ・セットからのインポート)」パネルを表しています。

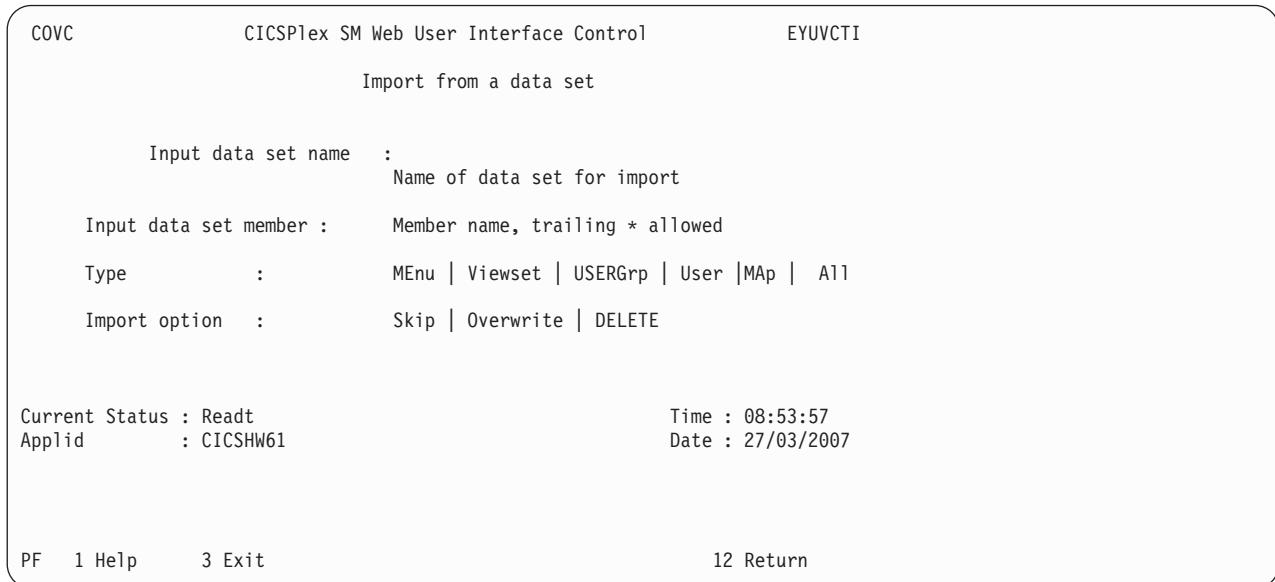


図23. 「Import from a data set (データ・セットからのインポート)」パネル

3. インポートする、供給されたビューおよびメニュー定義を含むデータ・セット・メンバーの名前を入力します。入力ストリングの末尾にアスタリスクを使用して、データ・セット・メンバーのグループを指定することができます。例えば、EYUEA* と入力すると、名前が文字 EYUEA で始まるすべてのメンバー (IBM 提供の SEYUVIEW データ・セットに含まれるすべての英語のメニューおよびビューのセット) がインポートされます。

注: メンバー名をブランクのままにすることはできません。そのようにすると、パネルのダイアログで、要求が拒否されます。順次ファイルからインポートする

場合、そのファイルは区画外 TD キューと関連付けられていなければならず、
「Import from a TD Queue (TD キューからのインポート)」副次機能を使用して、そのレコードを WUI データ・リポジトリに転送しなければなりません。

4. 他のブランク・フィールドに、以下のように入力します。

Type (タイプ)

以下のいずれかのタイプを入力します。

Menu メニューだけをインポートします。

Viewset

ビュー・セットだけをインポートします。

User ユーザー・オブジェクトだけをインポートします。

USERGrp

ユーザー・グループ・プロファイルだけをインポートします。

MAp マップ・オブジェクトだけをインポートします。

All すべてのタイプの定義をインポートします。

注: 「Type (タイプ)」のいずれかをインポートするには、関連する ESM プロファイルへの UPDATE アクセスが必要です。

- MENU : ESM プロファイル EYUWUI.*.MENU.menuName
- MAP : ESM プロファイル EYUWUI.*.MAP.mapName
- VIEW set : ESM プロファイル EYUWUI.*.VIEW.viewSetName
- USER および USERGRP : ESM プロファイル EYUWUI.*.USER
- ALL : 上記すべてのプロファイル

インポート・オプション (Import option)

入力データ・セットに重複した定義が見つかった場合にサーバーが取るべきアクションを入力します。つまり、既存の定義が保持されるか、上書きされるか、削除されるかのいずれかです。

Skip **Skip** を指定した場合、入力データ・セットに既に存在しているもの以外の定義だけがインポートされます。

Overwrite

Overwrite を指定した場合、入力データ・セットに既に存在する定義は上書きされます。

DELETE

選択したタイプの一一致する定義は、リポジトリ・データ・セットから除去されます。例えば、リポジトリから選択的にレコードを除去するには、除去したいオブジェクトをエクスポートしてから、エクスポートされたそのファイルをインポート削除機能で使用して、それらのオブジェクトを除去することができます。

注: 同じ名前のビュー・セットとメニューを持つことができます。

5. **Enter** を押して、操作を開始します。

インポートの完了:

インポート操作の開始のしとしてメッセージ EYUVS1016I が出され、その正常終了を示すものとして EYUVS0916I が「Import (インポート)」パネルに出されます。

インポートが失敗した場合には、既に正常に読み取られた完全なビュー・セットおよびメニュー定義は、リポジトリにとどまりますが、失敗した定義とそれに続く一切のものはインポートされません。インポートが失敗したことを示すものとしてメッセージ EYUVS0917E が出され、WUI サーバーの EYULOG またはオペレーター・ログにメッセージが書き込まれます。

自分が更新アクセス権限を持っているビュー・セットおよびメニューだけをインポートできます。必要なアクセス権限を持っていないリソースはスキップされ、EYULOG メッセージ EYUVS1014W が出されます。ビュー・セットおよびメニューへのアクセス・レベルの設定のガイダンスについては、82 ページの『Web ユーザー・インターフェース・リソースへのアクセス制御』を参照してください。

コントロール・パネルに戻るために PF12 を押した場合は、メッセージ EYUVS0906I が出されます。

WUI 定義のエクスポート

COVC エクスポート機能を使用して、WUI データ・リポジトリ定義を外部ファイルにエクスポートします。このファイルは抽出元の WUI に対するバックアップとして使用できます。また、カスタマイズした WUI 環境を CICSplex で複製するために、他の WUI 領域に配布することもできます。

使用できるファイルは、MVS 順次データ・セットか、MVS 区分データ・セット (PDS) のメンバーのいずれかです。

エクスポート・ターゲットが MVS 順次データ・セットの場合、以下の定義属性が必要です。

レコード・フォーマット: VB
論理レコード長: 32000
ブロック・サイズ: 32004

エクスポート・ターゲットが PDS のメンバーである場合、以下の定義属性が必要です。

レコード・フォーマット: VB
論理レコード長: 32000
Block size: 32760

エクスポート操作が完了すると、そのターゲット・ファイルはエクスポートされたレコードのオフライン・バックアップとなり、CICSplex で WUI 定義を移行するために、他の WUI 領域におけるその後のインポート操作で使用できます。

注: インポート操作 (インポート元として PDS メンバーか区画外 TD キューのいずれかを選択できる) とは異なり、エクスポート操作は TD キュー名に対してのみ実行できます。

WUI パネル構成をカスタマイズし、その構成を (表示の一貫性や WUI バージョンの移行のために) CICSplex 内の他の WUI 領域に渡す場合、COVC トランザクションを使用して WUI 定義をエクスポートする必要があります。そうすることにより、他の WUI サーバーに定義を配布したり、新しいリリースにアップグレードするときに定義を転送したりすることができます。

区画外 TD キュー COVI および COVE 用にサンプル定義が提供されています。WUI 定義の別々の要素を別々のデータ・セットにエクスポートする場合、各エクスポート操作に対してターゲットとして別の TD キュー(と関連データ・セット)を提供する必要があります。同じターゲット TD キューに対して連続したエクスポート要求を実行する場合、各操作で、その前の操作の内容が上書きされます。

WUI リポジトリから定義をエクスポートするには、コントロール・パネルから「Export (エクスポート)」オプションを選択するか、または **COVC EXPORT** コマンドを使用します。これによって、COVC エクスポート (Export) パネルが、図 24に示されているように開きます。

COVC	CICSplex SM Web User Interface Control	EYUVCTE
Export		
Output TDQ Name :	Name of extrapartition TDQ for export	
Type :	MEnu Viewset USERGrp MAp User All	
Name :	* Specific or generic name of a definition to export	
Lock option :	NONE None LOCK	
Current Status : Ready	Time : 08:58:55	
Applid : CICSHW61	Date : 09/12/2004	
PF 1 Help	3 Exit	12 Return

図 24. エクスポート (Export) パネル

「エクスポート」パネルのブランク・フィールドに、以下のように入力します。

- 「Output TDQ Name (出力 TDQ 名)」は、定義のエクスポート先となる区画外一時データ・キューの名前(例えば COVE)です。
- 以下のいずれかのタイプを入力します。

MEnu メニューだけをエクスポートします。

Viewset ビュー・セットだけをエクスポートします。

User ユーザー・オブジェクトだけをエクスポートします。

MAP マップ・オブジェクトだけをエクスポートします。

USERGrp

ユーザー・グループ・プロファイルだけをエクスポートします。

All すべてのタイプの定義をエクスポートします。

注: 「Type (タイプ)」のいずれかをエクスポートするには、関連する ESM プロファイルへの READ または UPDATE アクセスが必要です。

- MENU : ESM プロファイル EYWUWUI.*.MENU.menuuname
- MAP : ESM プロファイル EYWUWUI.*.MAP.mapname
- VIEW set : ESM プロファイル EYWUWUI.*.VIEW.viewsetname
- USER および USERGRP : ESM プロファイル EYWUWUI.*.USER

- ALL : 上記すべてのプロファイル
- **Name** は、エクスポートするオブジェクトの具体的な名前または総称名です。 エクスポートの際に総称名を使用する場合の規則は次のとおりです。
 - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 これはストリング内の最後の文字か唯一の文字でなければなりません。 例えば、次のようにになります。
 - EYU* は、文字 EYU で始まる名前を持つすべての定義を意味します。
 - * はすべての定義を意味します。

エクスポートされるオブジェクトの名前の一部としてアスタリスク (*) が含まれる場合、それは総称的にのみエクスポートできます。 例えば、3 つのオブジェクト *GROUP1、GROUP*2、および GROUP3 がある場合、* の Name 値を使用して *GROUP1 をエクスポートする必要があります (そして、オブジェクト GROUP*2 および GROUP3 もエクスポートされます)。

GROUP* の Name 値を使用してオブジェクト GROUP*2 をエクスポートできます (それにより GROUP3 もエクスポートされます)。

- ロック (Lock) オプションは、エクスポートされた定義にロックを掛けることを可能にします。 ロックされた定義を後にリポジトリにインポートした場合、ビュー・エディターを使用してそれらを変更したり削除したりすることはできません。 ロックされた定義のロックを解除することはできません。 それらは「**Import (インポート)**」パネルで削除オプションを使用することによってのみ、削除することができます。

NONE アンロック状態の定義はロックしません。 ロックされている既存の定義は、ロックされた定義としてエクスポートされます。

LOCK エクスポートされるすべての定義をロックします。

注: アンロック状態の定義のセットを、ロックされたセットで上書きした場合、ロックを解除する唯一の方法は、アンロック状態の定義のセットを再インポートして、ロックされたセットを上書きすることです。 この理由のため、アンロック状態の定義のセットをロック済みのセットで置き換える前に、アンロック状態の定義のセットのバックアップを取っておくとよいでしょう。

すべてのフィールドが完成したら、Enter を押して、ビューまたはメニューの定義をエクスポートします。

メッセージ EYUVS0919I が「**Export (エクスポート)**」パネルに出された場合は、エクスポートが成功したことと示し、書き出されたオブジェクトの数が示されます。 エクスポートが失敗した場合は、書き出し先の TDQ 内のデータは不完全であり、廃棄する必要があります。 メッセージ EYUVS0920E が出された場合は失敗したことと示しており、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの EYULOG にメッセージが書き込まれます。

エクスポートできるのは、自分が読み取りまたは更新のアクセス権限を持っている定義だけです。 必要なアクセス権限を持っていないリソースはスキップされ、EYULOG メッセージ EYUVS1015W が出されます。 詳細については、82 ページの『Web ユーザー・インターフェース・リソースへのアクセス制御』を参照してください。

コントロール・パネルに戻るために PF12 を押した場合は、メッセージ EYUVS0906I が表示されます。

トレース・フラグの設定

動的にトレース・フラグを設定するには、制御パネルから「Trace Flags (トレース・フラグ)」オプションを選択します。

重要: トレースは、IBM サポート・センターの担当者の依頼があった場合にのみアクティブにすることをお勧めします。

「Trace Flags (トレース・フラグ)」パネルが、図 25 に示されているように表示されます。

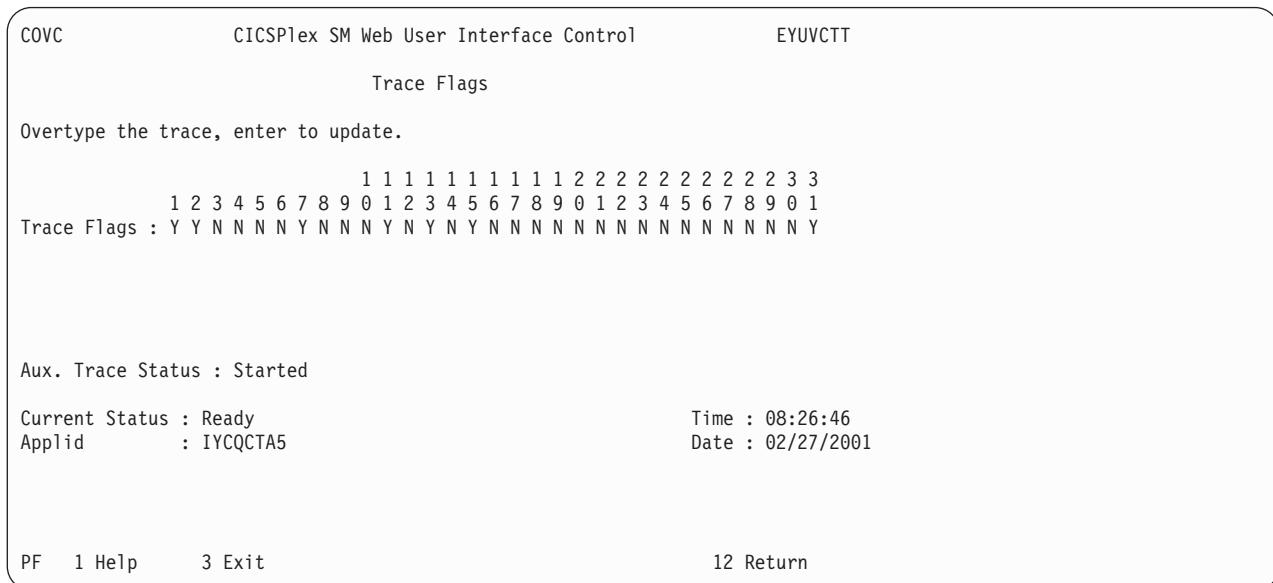


図 25. 「Trace flags (トレース・フラグ)」パネル

いずれかの適切なトレース・フラグを設定することにより、生成されるトレース情報の量を制御できます。31 の個別のトレース・フラグが提供されています。いずれかのフラグに Y または N を上書きしてから Enter を押すことにより、設定を変更できます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ

Web ユーザー・インターフェース (WUI) サーバー・リポジトリには、WUI サーバによって保守されるすべてのリカバリ可能リソースが入っています。これには、以下のものが含まれています。

- ビューおよびメニューの定義
- マップ・オブジェクトの定義
- ユーザー・プロファイル
- ユーザー・グループ・プロファイル

WUI サーバー・リポジトリは、WUI を使用する前に作成される、可変長レコードの、キー・シーケンス VSAM ファイルで構成されます。デフォルトで、WUI サーバーごとに、共用されない 1 つのリポジトリがあります。

WUI サーバー・リポジトリの DD 名を、WUI サーバー用の始動 JCL に含める必要があります。

データ・リポジトリからの定義をインポートおよびエクスポートできるので、定義をバックアップしたり、他の Web ユーザー・インターフェース・サーバーに定義を配布したり、プログラム一時修正 (PTF) の結果としてサービス変更を適用したり、他のリリースに定義をマイグレーションすることができます。エクスポートは、COVC トランザクションを使用して実行します。インポートは、COVC を使用するか、または WUI サーバーを始動するときに自動インポート初期設定パラメーターを指定することにより、実行します。

IBM 提供のビュー定義およびメニュー定義のセット

デフォルト・マップ・オブジェクトを含むビュー・セット定義およびメニュー定義のサプライ・セットは、CICSTS53.CPSM.SEYUVIEW データ・セットに入れて提供されます。

データ・セットは、いくつかのメンバーによって構成されます。各メンバーには、以下の 1 つが含まれています。

- マップ・オブジェクト定義。
- ユーザー・オブジェクト定義。
- ユーザー・グループ・プロファイル定義。
- メニュー・オブジェクト。
- 1 つの CICSplex SM オブジェクトに関連付けられたすべてのビュー・セット定義。

現在は 3 つある提供されている言語ごとに、別個のメンバーがあります。

データ・セット・メンバーの名前は、EYUltccc という形式になっています。

- 1 は、言語を示します。現在は、E は英語、S は中国語 (簡体字)、K は日本語です。
- t は、ビュー・セットを示します。現在用意されている WUI のビューとメニューはすべて、A という文字になります。
- ccc は、ビューに関連したリソースを示します。

メンバー名は、INITPARM CICS システム初期設定パラメーターに指定された 3 文字の言語 ID と一致します。これらは、以下のとおりです。

表 13. 提供されるビューのセットのためにサポートされている言語

言語	言語 ID
米国英語	ENU
日本語	JPN
中国語 (簡体字)	CHS

提供されるビューの命名規則

提供されるすべてのビューの名前は、文字 EYUSTART から開始します。

提供されるビューアイデアおよびメニュー定義のセットの命名規則は、以下のとおりです。

ビュー EYUSTART*objectname.viewtype*。ここで *objectname* はリソースの名前、*viewtype* は以下のいずれかです。

- TABULAR

表形式ビュー。

- DETAILED

詳細ビュー。場合によっては、複数のものが表形式ビューに関連付けられているとき、詳細ビューの名前は DETAIL1、DETAIL2、などとなります。

- アクション名

作成などのアクションのデータ入力パネル、または確認パネル

メニュー

EYUSTART*menuname*

menuname はメニューの名前です。例えば、EYUSTARTMENU は提供されるホーム・メニューおよびナビゲーション・フレームを表示します。

マップ・オブジェクト

EYUSTARTMAP*type*。ここで *type* は以下のいずれかです。

BAS

MON

RTA

WLM

出力ログ (EYULOG)

Web ユーザー・インターフェースは Web ユーザー・インターフェース・サーバー (CMAS ではない) の CICSplex SM EYULOG を使用して、オペレーター・メッセージの大部分を記録します。その他のメッセージは、オペレーター・ログに書き込まれます。

EYULOG メッセージ (EYUVS1101I または EYUVS1102I) は、ビュー・セットまたはメニューが作成、変更、または削除されるごとに発行されます。メッセージ EYUVS1016I は、インポートの開始を記録するために発行されて、ユーザー ID およびソース一時データ・キューを含んでいます。これは Web ユーザー・インターフェースの更新アクティビティーを追跡するために役立つ監査証跡を提供します。

さらに、各ビュー・セットおよびメニュー定義には、ユーザー ID および時刻を含む最終変更についての詳細が記録されます。この情報は、ビュー・セットがエクスポートまたはインポートされるときに保存されます。

カスタマイズ可能なヘルプのソース

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプは、ビューおよびメニュー用に追加のヘルプを提供する場合に作成できるヘルプです。

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプに対しては、以下の 2 つの方法でサービスを提供できます。

- Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって。 Web ユーザー・インターフェースによってサービスを提供される場合、カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプは、区分データ・セットにメンバーとして保管される任意の HTML メンバーのセットから構成されます。 CICS Web インターフェース・テンプレート・マネージャーを使用して、 Web ブラウザーに送信するこの区分データ・セットのメンバーにサービスを提供できます。
- 任意の外部 Web サーバーによって。

区分データ・セットの DD 名が、 Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始 JCL に指定されている必要があります。

Web ユーザー・インターフェースから外部サーバーへのアクセス

Web ユーザー・インターフェースは、他の Web ベースのツールにアクセスできます。

これは、次のように行うことができます。

- 外部 Web サーバーによってサービスされる、カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプへのリンク
- 外部 Web サーバーによってサービスされるページへのメニュー選択リンク

詳細については、 87 ページの『第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ』を参照してください。

WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供

Web ユーザー・インターフェースへは、標準的な Web ブラウザー・ソフトウェアを使用してアクセスします。 WUI へは、 Web ブラウザーを起動できれば、有効な URL を指定することによってどの場所からでもリンクできます。

Web ユーザー・インターフェースにアクセスするたびに、データの新しいインスタンスを表示した新しいウィンドウが開きます。 データのインスタンスが異なる場合、それらは互いに独立しています。 一度に開けるウィンドウの最大数の詳細については、 30 ページの『新規ウィンドウのオープン』 を参照してください。

この URL は、予約済みの安全でない文字に標準 HTTP の「%nn」表記 (nn は ISO-8859-1 コード・ページ上の 16 進表記) を使用したエスケープを使用して、 HTTP または HTTPS 要求用に正しくフォーマット設定されている必要があります。 例えば、「%7E」はチルダ（「~」）文字を表します。「http」または「https」の接頭部以外、一般に URL には大/小文字の区別がありません。 例外として、 クエリ変数の値には大/小文字の区別があります。

HTTP 規格の詳細については、RFC2068 - Hypertext Transfer Protocol - HTTP/1.1 を参照してください。

URL は、次のように作成されます。

`prefix:path?selection criteria`

注: HTTP クエリー変数として指定されるパスと選択基準は、疑問符 (?) で区切れられます。 選択基準がない場合、「?」は指定しないでください。

接頭部

接頭部は、WUI サーバーの構成に依存しています。 それは http か、または SSL が使用されている場合には https です。

パス

WUI サーバー・パスには、いくつかの可能な構成があります。

パスは以下のいずれかになります。

- `//hostname:port/CICSplexSM`

これにより、「Begin Signon (サインオンの開始)」ボタンのある「Welcome (ウェルカム)」パネルが表示されます。

- `//hostname:port/CICSplexSM/code page`

これにより、「Begin Signon (サインオンの開始)」ボタンのある「Welcome (ウェルカム)」パネルが表示されます。ここに指定するコード・ページは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの開始 JCL で INITPARM システム初期設定パラメーターに指定されたコード・ページを指定変更します。

`code page` をブランクのままにすることにより、デフォルト・コード・ページを指定できます。例:

`//hostname:port/CICSplexSM//`

- `//hostname:port/CICSplexSM/code page userid`

これにより、現在の Web ブラウザー・セッションに既にサインオンしている場合には、ホーム・メニュー (DEFAULTMENU システム初期設定パラメーターに指定されたメニュー) が直接表示されます。

現在の Web ブラウザー・セッションにサインオンしていない場合、25 ページの『WUI でのサインオン』で説明されているプロセスを経ることになります。

- `//hostname:port/CICSplexSM/code page userid/MENU/menuname`

これにより、現在の Web ブラウザー・セッションに既にサインオンしている場合には、`menuname` という名前のメニューが直接表示されます。

現在の Web ブラウザー・セッションにサインオンしていない場合、URL で指定されたメニューが表示される前に、25 ページの『WUI でのサインオン』で説明されているサインオン・プロセスを経ることになります。

- `//hostname:port/CICSplexSM/code page userid/VIEW/viewsetname`

これにより、現在の Web ブラウザー・セッションに既にサインオンしている場合には、*viewsetname* という名前のビュー・セット内のデフォルト・ビューが直接表示されます。

現在の Web ブラウザー・セッションにサインオンしていない場合、URL で指定されたビュー・セット内のデフォルト・ビューが表示される前に、25 ページの『WUI でのサインオン』で説明されているプロセスを経ることになります。

- `//hostname:port/CICSPlexSM/code page/userid/VIEW/viewsetname.viewname`

これにより、現在の Web ブラウザー・セッションに既にサインオンしている場合には、*viewsetname* という名前のビュー・セット内に含まれる *viewname* という名前のビューが直接表示されます。

現在の Web ブラウザー・セッションにサインオンしていない場合、URL で指定されたビューが表示される前に、25 ページの『WUI でのサインオン』で説明されているサインオン・プロセスを経ることになります。

- `//hostname:port/CICSPlexSM/code page/userid/OBJECT/objectname`

これにより、現在の Web ブラウザー・セッションに既にサインオンしている場合には、オブジェクト *objectname* のデフォルト・ビュー・セットが直接表示されます。

現在の Web ブラウザー・セッションにサインオンしていない場合、URL で指定されたオブジェクトのデフォルト・ビューが表示される前に、25 ページの『WUI でのサインオン』で説明されているサインオン・プロセスを経ることになります。

オブジェクトに対して任意のオブジェクト名を指定することができ、デフォルト・ビュー・セットは EYUSTART*objectname* となります。*objectname* は URL の値です。すべての CICSPlex SM オブジェクトに開始セットのビュー・セットがあるとは限らないことに注意してください。

以下の Web ユーザー・インターフェース・サーバーのシステム・パラメーターを使用して、CPSM オブジェクトのサブセットのためにデフォルト・ビュー・セットを変更できます。

WUI サーバー・システム・パラメーター	Objectname
DEFAULTCICSPLEX	CICSPLEX
DEFAULTCICSRGN	CICSRGN
DEFAULTCONNECT	CONNECT
DEFAULTCSYSGRP	CSYSGRP
DEFAULTDB2SS	DB2SS
DEFAULTEJCOBEAN	EJCOBEAN
DEFAULTEJDJBEAN	EJDJBEAN
DEFAULTEVENT	EVENT
DEFAULTLOCFILE	LOCFILE
DEFAULTLOCTRAN	LOCTRAN
DEFAULTPROGRAM	PROGRAM

WUI サーバー・システム・パラメーター	Objectname
DEFAULTREMFILE	REMFILE
DEFAULTREMTRAN	REMTRAN
DEFAULTTASK	TASK

注:

1. *hostname* および *port* は、CICS Web Interface リスナーまたはセキュア・サーバーの IP アドレスを表し、それぞれ TCPIPHOSTNAME および TCPIPPORT の Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター上に指定されます。
2. *code page* を指定する必要があるのは、INITPARM システム初期パラメーターに指定されたコード・ページを指定変更する場合だけです。

選択基準

URL で、選択基準は HTTP 照会変数として指定されます。

各照会変数は、変数名とそれに続く '=' および値として指定されます。 変数名および値は、必要な箇所で、HTTP 標準表記を使用してエスケープさせなければなりません。 複数の照会変数は、アンパーサンド (&) 文字によって分離する必要があります。

Web ユーザー・インターフェースは、以下のように照会変数をサポートします。

- メニューおよびビューに使用できる照会変数
- ビューだけに使用できる照会変数

メニューおよびビューに使用できる照会変数

特定の照会変数をメニューとビューの両方に使用できます。

これらは、以下のとおりです。

- CONTEXT

CICSplex の名前です。

- CMASCONTEXT

CMAS の名前です。

- SCOPE

CICSplex、CICS グループ、MAS、または論理スコープ名です。

ビューだけに使用できる照会変数

いくつかの照会変数は、ビューにのみ使用できます。

これらの追加の照会変数は、以下のとおりです。

- A_attrname。attrname は属性の名前です。

これは属性フィルターです。 任意の数の属性を URL に指定できます。 文字、数値、CVDA、または EYUDA 値を指定できます。 属性フィルターのデフォルト

演算子は、等価 (=) です。異なる演算子を使用する場合には、その演算子の値を O_attrname 照会変数に指定できます。演算子とそれらの値のリストについては、表 14を参照してください。

- FILTERC。1 に設定されると、この要求はビューが表示されるときにフィルター確認処理を強制します。

FILTERC が存在しないか、または 1 に設定されていない場合でも、GLOBALPREFILTER Web ユーザー・インターフェースのシステム・パラメーターまたはユーザー・グループ・オプション「**Force filter confirmation** (フィルターの確認を強制)」に応じて、フィルター確認が生じることがあります。

- P_parmname。parmname はパラメーターの名前です。

これは CICSplex SM API GET コマンドに使用されるパラメーター・フィルターです。

- O_attrname。attrname は属性の名前です。

これは A_attrname 照会変数と共に指定されて、等価 (=) デフォルト・オペレーターを変更します。O_attrname 照会変数に指定可能な演算子の値のリストは、表 14を参照してください。

注: 一般値を使用するとき、等号 (=) および不等号 (<>) 演算子だけが有効です。

表 14. O_attrname 照会変数の演算子の値

演算子の値 (簡略記号)	演算子の値 (数字)	意味
EQ	1	等しい
NE	2	等しくない
GT	3	より大きい
LT	4	より小さい
GE	5	より大か等しい
LE	6	より小か等しい

WUI オブジェクト名の指定

ビュー・セット名を指定しないでオブジェクト名を指定する場合、指定されたオブジェクトを表す、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定操作オプション・パラメーターで指名されたビュー・セットが開きます。

指定されたオブジェクトを表すビュー・セットが指名されていない場合、デフォルト・ビュー・セットの EYUSTARTobjectname が開きます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定操作オプション・パラメーターのリストについては、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定を参照してください。

例

以下の例は、有効な URL フォーマットを示しています。

- 1.

```
http://MVSXX.COMPANY.COM:04445/CICSPLEXSM//JSMITH/MENU/OURHOME?  
CONTEXT=FRED&SCOPE=FRED
```

これはコンテキスト FRED およびスコープ FRED を使用して、ユーザーに OURHOME という名前のホーム・メニューを直接表示する要求です。

2.

```
http://MVSXX.COMPANY.COM:04445/CICSPLEXSM//JSMITH/VIEW/OURLOCTRAN?  
CONTEXT=FRED&SCOPE=FRED&A_TRANID=PAY*
```

これはコンテキスト FRED およびスコープ FRED を使用して、ユーザーにビュー・セット OURLOCTRAN 内のデフォルト・ビューを直接表示し、TRANID が文字 PAY で開始するすべてのローカル・トランザクションを示すようにする要求です。

3.

```
http://MVSXX.COMPANY.COM:04445/CICSPLEXSM//JSMITH/VIEW/OURWLMWAOR.TABLE1?  
P_WORKLOAD=WLDPAY01
```

これはユーザーにビュー・セット OURWLMWAOR 内の TABLE1 ビューを直接表示し、DEFAULTCONTEXT Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターで指定されたデフォルト・コンテキストを使用して、ワークロード WLDPAY01 に関するアクティブなワークロード情報を示すようにする要求です。

4.

```
http://MVSXX.COMPANY.COM:04445/CICSPLEXSM//JSMITH/VIEW/OURLOCTRAN?  
A_TRANID=P*&O_TRANID=NE
```

これはユーザーにビュー・セット OURLOCTRAN 内のデフォルト・ビューを直接表示し、TRANID が文字 P で開始しないすべてのローカル・トランザクションを示すようにする要求です。

5.

```
http://MVSXX.COMPANY.COM:04445/CICSPLEXSM//JSMITH/VIEW/OURTASK?  
A_PRIORITY=200&O_PRIORITY=GT
```

これはユーザーにビュー・セット OURTASK 内のデフォルト・ビューを直接表示し、PRIORITY が 200 よりも大きいすべてのタスクを示すようにする要求です。

6. [http://MVSXX.COMPANY.COM:44455/CICSPLEXSM//TOXTETH/VIEW/EYUSTARTPROGRAM.TABULAR
?FILTERC=1](http://MVSXX.COMPANY.COM:44455/CICSPLEXSM//TOXTETH/VIEW/EYUSTARTPROGRAM.TABULAR?FILTERC=1)

これはユーザーに EYUSTARTPROGRAM TABULAR ビューのフィルター確認画面を表示する要求です。

セキュリティーに関する考慮事項

個別のホスト・リソースを表示して操作するためのユーザー認証と許可は、RACF などといった既存の外部セキュリティー・マネージャー (ESM) により制御されます。

セキュリティーをアクティブにしての Web ユーザー・インターフェース・サーバーの実行

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、CICS システム初期設定パラメーター **SEC** を YES に設定して実行している場合、ユーザーに対して、誰が Web ユーザー・インターフェースにアクセスできるか、どのリソースが表示されるか、どのアクションが実行可能か、およびビュー・エディターの使用を制御できます。

CICSPlex SM セキュリティーを CICSPlex SM API で使用するように既にセットアップした場合、ユーザーは、Web ユーザー・インターフェースを使用するときには API を使用するときと同じアクセス・レベルを持つことになります。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーへの接続を試行すると、CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースの「Signon (サインオン)」パネルが表示されます。このパネルに入力されるユーザー ID およびパスワードは、SSL サポートを使用している場合を除き、TCP/IP 接続を経由してプレーン・テキストで Web ユーザー・インターフェース・サーバーに渡されてから、外部セキュリティー・マネージャーによって検査されます。外部セキュリティー・マネージャーが大/小文字混合のパスワードをサポートする場合、この機能がアクティブであれば、サインオンのときにパスワード・フィールドの隣にアイコンが表示されます。

Web ユーザー・インターフェースに正常にサインオンするすべてのユーザーは、Web ユーザー・インターフェースによってカスタマイズ可能ビューとメニュー・ヘルプのサービスが提供されている場合、それらすべてのカスタマイズ可能ビュー・ページとメニュー・ヘルプ・ページへのアクセス権を持っています。

セキュリティーがアクティブの場合、検査システムのプログラミング・インターフェース・コマンドによって作成されるメッセージには、WUI にログオンするのに使用するユーザー ID が含まれます。『Developing system programs』の『SPI commands that can be audited』を参照してください。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーへのサインオンを許可されるユーザーを制御するために、Web ユーザー・インターフェースの CICS アプリケーション ID を RACF APPL 検査を使用して保護できます。システム・リソースを保護するための RACF クラスを参照してください。

管理対象リソースへのアクセスには、CPSMOBJ クラス内のプロファイルを使用する、標準の CICSPlex SM セキュリティーが使用されます（『Securing』の『CICSPlex SM security』を参照）。例えば、CICS 領域ビューを表示するには、CPSMOBJ クラス・プロファイル OPERATE.REGION.context.scope を介して、Web ユーザー・インターフェースのユーザーに READ 権限が必要です。

CICS リソースへのアクセス、およびビュー内でのリソースに対するアクションは、CICSPlex SM のシミュレートされた CICS セキュリティー検査（『Securing』の『CICSPlex SM security』を参照）を使用します。これは通常の CICS RACF リソースおよびコマンド・セキュリティー・プロファイルを使用します。例えば、CICS 領域に対してシャットダウン・アクションを発行するためには、コマンド・セキュリティーがターゲット CICS 領域でアクティブな場合、Web ユーザー・インターフェースのユーザーは CCICSCMD クラスでの SHUTDOWN コマンドに対する UPDATE 権限を必要とします。

Web ユーザー・インターフェース・リソースへのアクセス制御

外部セキュリティー・マネージャーを使用して、ビュー、メニュー、エディター、ヘルプ情報へのユーザー・アクセスを制御できます。また COVC を使用して、ビュー、メニュー、マップ、ユーザー・グループ、およびユーザー・オブジェクトのインポートとエクスポートを制御できます。

ナビゲーション・フレームは、セキュリティー検査を受けません。ユーザー・アクセスを制御するには、適切なプロファイルを FACILITY クラスに作成する必要があります。以下の ESM FACILITY プロファイルを使用できます。

EYUWUI.wui_server_applid.VIEW.viewsetname

- ビュー・セットの保護に使用されます。

EYUWUI.wui_server_applid.MENU.menuuname

- メニューの保護に使用されます。

EYUWUI.wui_server_applid.MAP.mapname

- マップの保護に使用されます。

EYUWUI.wui_server_applid.HELP.helpmembername

- ヘルプ・ページの保護に使用されます。

EYUWUI.wui_server_applid.EDITOR

- ビュー・エディターの保護に使用されます。

EYUWUI.wui_server_applid.USER

- ユーザーおよびユーザー・グループと共にユーザー・エディターの保護に使用されます。

wui_server_applid は、サーバーの CICS アプリケーション ID です。

ユーザーには、WUI リソースに対する読み取りまたは更新アクセス権限を与えることができます。

- 読み取り -- メイン・インターフェースのビュー、メニュー、マップ、およびヘルプ情報を使用したり、COVC を使用してビュー、メニュー、マップ、ユーザー・グループ、またはユーザー・オブジェクトをエクスポートしたりします。
- 更新 -- エディターにアクセスして項目を作成、更新、削除したり、COVC を使用してビュー、メニュー、マップ、ユーザー・グループ、またはユーザー・オブジェクトをインポートしたりします。

使用している ESM がプロファイルへのアクセスを付与も拒否もしない場合（例えば、RACF プロファイルが定義されていない場合など）、Web ユーザー・インターフェースに正常にサインオンしたすべてのユーザーは、リソースへのアクセス権限を持つことになります。総称プロファイルをセットアップすることによって、not authorized をデフォルトにすることができます。

注: このセキュリティーの保護対象として意図されているのはビューおよびメニュー自体であって、ビューおよびメニューが管理するオブジェクトではありません。それらは、通常の CICSPlex SM セキュリティーで保護されます。

ビュー・エディターの中で編集または削除するビュー・セット、マップまたはメニューを選択するときには、自分が更新アクセス権限を持っている項目しかリストされません。ただし、コピーする項目を選択するときは、自分が読み取りアクセス権

限を持っているすべての項目が表示されます。このようにすることによって、自分が読み取り専用のアクセス権限を持っているオブジェクトを、更新可能なネーム・スペースの専用コピーとしてコピーすることができます。

アクセス可能なビューをブラウズするときは、セキュリティー例外はログに記録されません。ユーザーに対して表示されるのは、アクセス不能なビューをフィルターに掛けて除去した後のリストです。ただし、ユーザーが未許可のアクション（例えば、拒否されたネーム・スペースにビューを作成するなど）をしようとすると、EYULOG セキュリティー例外メッセージ EYUVS1100E が発行されます。

WUI セキュリティー・プロファイルの例

以下の例では、RACF TSO コマンド構文を使用します。デフォルトの CICS RACF クラスが使用されること、およびセキュリティー・プレフィックシングは使用されないことが想定されています。

これは適切なプロファイルを定義するための唯一の方法ではありません。これらの例を調整して、インストール先環境の要件および規格に適合させることができます。

これらの例で、小文字のストリングは適切な使用 ID またはリソースに置き換える必要があります。

- 例 1

Web ユーザー・インターフェースのユーザー・グループを作成します。

```
ADDGROUP (WUISERV,WUIADM,WUIUSER,WUIEDIT)
```

- 例 2

Web ユーザー・インターフェースのトランザクションを保護するためにプロファイルを定義します。

```
RDEFINE GCICSTRN WUISYS UACC(NONE) ADDMEM(COVP,COVU,COVE)
RDEFINE GCICSTRN WUIADMIN UACC(NONE) ADDMEM(COVG,COVC)
RDEFINE TCICSTRN COVA UACC(NONE)
```

- 例 3

ユーザー・グループに適切なプロファイルへの権限を与えます。

```
PERMIT WUISYS CLASS(GCICSTRN) ID(WUISERV) ACCESS(READ)
PERMIT WUIADMIN CLASS(GCICSTRN) ID(WUIADM) ACCESS(READ)
PERMIT COVA CLASS(TCICSTRN) ID(WUIUSER,WUIEDIT) ACCESS(READ)
```

- 例 4

トランザクション・セキュリティー・プロファイルをリフレッシュします。

```
SETROPTS RACLIST(TCICSTRN) REFRESH
```

- 例 5

ビュー・エディター・プロファイルを定義して、ユーザー・グループに適切なアクセス権限を与えます。

```
RDEFINE FACILITY EYUWUI.wui_server_applid.EDITOR UACC(NONE)
PERMIT EYUWUI.wui_server_applid.EDITOR CLASS(FACILITY) ID(WUIEDIT) ACCESS(UPDATE)
```

- 例 6

ビュー・セット・プロファイルを定義して、ユーザー・グループに適切なアクセス権限を与えます。

```
RDEFINE FACILITY EYUWUI.wui_server_applid.VIEW.viewsetname UACC(NONE)
PERMIT EYUWUI.wui_server_applid.VIEW.viewsetname CLASS(FACILITY) ID(WUIUSER)
ACCESS(READ)
```

- 例 7

ユーザーを適切な Web ユーザー・インターフェース・グループに接続します。

```
CONNECT wui_server_dfltuser GROUP(WUISERV)
CONNECT (wui_server_pltpiusr,wui_administrator) GROUP(WUIADM)
CONNECT (wui_administrator,wui_view_designer) GROUP(WUIEDIT)
CONNECT (wui_operator1,wui_operator2...) GROUP(WUIUSER)
```

- 例 8

Web ユーザー・インターフェース領域で CICS 代理ユーザー・セキュリティーがアクティブな場合、以下のものに類似した定義が必要になります。

```
DEFINE SURROGAT wui_administrator.DFHSTART UACC(NONE)
PERMIT wui_administrator.DFHSTART CLASS(SURROGAT) ID(WUIADM) ACCESS(READ)
DEFINE SURROGAT wui_view_designer.DFHSTART UACC(NONE)
PERMIT wui_view_designer.DFHSTART CLASS(SURROGAT) ID(WUIADM) ACCESS(READ)
DEFINE SURROGAT wui_operator1.DFHSTART UACC(NONE)
PERMIT wui_operator1.DFHSTART CLASS(SURROGAT) ID(WUIADM) ACCESS(READ)
DEFINE SURROGAT wui_operator2.DFHSTART UACC(NONE)
PERMIT wui_operator2.DFHSTART CLASS(SURROGAT) ID(WUIADM) ACCESS(READ)

SETROPTS RACLIST(SURROGAT) REFRESH
```

セキュリティーがアクティブでない Web ユーザー・インターフェース・サーバーの実行

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが CICS システム初期設定パラメーター **SEC=NO** を指定して実行している場合、Web ユーザー・インターフェースのユーザーは、COVC トランザクションで「セッション」の識別に使用されたユーザー ID を入力する必要があります。ユーザーは、パスワードを入力する必要はありません。

ユーザー ID は、外部セキュリティー・マネージャーに定義されている必要はありません。ビューおよび CICS リソースへのアクセスに対するアクセス検査は、Web ユーザー・インターフェース・サーバー CICS 領域の **DFLTUSER** に基づいています。すべての Web ユーザー・インターフェース・ユーザーには、ビュー・エディターおよびすべてのメニュー、ビュー・セット、ヘルプのメンバーに対するアクセス権限があります。

セキュリティーがアクティブでない場合、検査システムのプログラミング・インターフェース・コマンドによって作成されるメッセージには、CMAS か MAS のいずれかのデフォルトのユーザー ID が含まれます。アップグレード資料にある SPI の変更点を参照してください。

CMAS および MAS トレース・フラグの設定

WUI を使用して、CMAS および MAS トレース・フラグを設定できます。

「CMAS detail (CMAS の詳細)」(EYUSTARTCMAS TRACE) ビューを使用して CMAS トレース・フラグを設定し、「MASs known to CICSplex (CICSPlex 認知の MAS)」(EYUSTARTMAS TRACE) ビューを使用して MAS トレース・フラグを設定します。

第 5 章 Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ

WUI には、いくつかのカスタマイズ機能が備わっています。

メニューとビューのカスタマイズを行う前に、Web ユーザー・インターフェースのメニューとビューの操作に精通しておく必要があります。

ユーザーのお気に入りの管理

ユーザーのお気に入りによって、すべての WUI ユーザーは表形式ビューおよび詳細ビューをアクセスが容易で編集可能なお気に入りメニューとして隨時に保管できるようになります。こうすると、頻繁に使用されるビューにたった 1 回のクリックでアクセスできるようになります。管理者には、他のユーザーのお気に入りを更新する追加の権限があります。

ユーザーのお気に入りへのハイパーリンクは、WUI ビューおよびメニューのナビゲーション・フレームにある見出し「**Favorites (お気に入り)**」の下に表示されます。

お気に入り機能は、WUI 表形式ビューおよび詳細ビューで使用できますが、マップ画面では使用できません。マップ画面に直接ハイパーリンクすることはできません。

新しいユーザーのお気に入り項目を作成するには、作業フレームの右上にある「**お気に入りへの追加**」アイコンをクリックします。「お気に入りへの追加」画面が開きます。オプションで、新しいお気に入りのタイトルを入力してから「**OK (了解)**」をクリックして、それをお気に入りリストに追加することもできます。

注: 同じユーザー ID に対する別の WUI ウィンドウを開く場合、どちらのセッションでもお気に入りを更新できなくなるロック問題が発生することがあります。

お気に入りのエディターを使用して、お気に入りに対するさらに多くの操作を実行できます。これにより、開始のコンテキストおよびスコープ設定を指定すること、およびリンク・タイトルなどの他の情報を更新することができます。お気に入りのエディターにアクセスするには、ナビゲーション・フレーム内のハイパーリンクをクリックします。お気に入りのエディターを使用して自分のお気に入りを管理する方法については、88 ページの『お気に入りのエディターによるお気に入りの管理』を参照してください。他の WUI ユーザーのお気に入りを管理する方法については、90 ページの『他の WUI ユーザーのお気に入りの作成および管理』を参照してください。

ユーザーのお気に入りに関する情報は、ユーザーと呼ばれるオブジェクトに保持されています。ユーザー・オブジェクトは、ユーザーのお気に入りのハイパーリンクを含むメニュー・グループを保持しています。ユーザー・オブジェクトを作成するには、以下の 2 つの方法があります。

- ユーザーが最初にお気に入りを作成するときに、作成することができます。ユーザーがお気に入りを作成すると、WUI はそのユーザーの ID と一致する ID を持

つユーザー・オブジェクトを検索します。一致するユーザー・オブジェクトが見つからない場合、WUI サーバーはそのユーザー用の一致するユーザー・オブジェクトを自動的に作成します。

- ユーザー・エディターで管理者が作成できます。

お気に入りのエディターによるお気に入りの管理

「add to favorites (お気に入りへの追加)」() アイコンを使用して自分のお気に入りリストにビューを追加できると共に、お気に入りのエディターを使用してお気に入りを処理することもできます。

このエディターを開くには、WUI ナビゲーション・フレームの「特殊」の下にある「お気に入りのエディター」をクリックします。

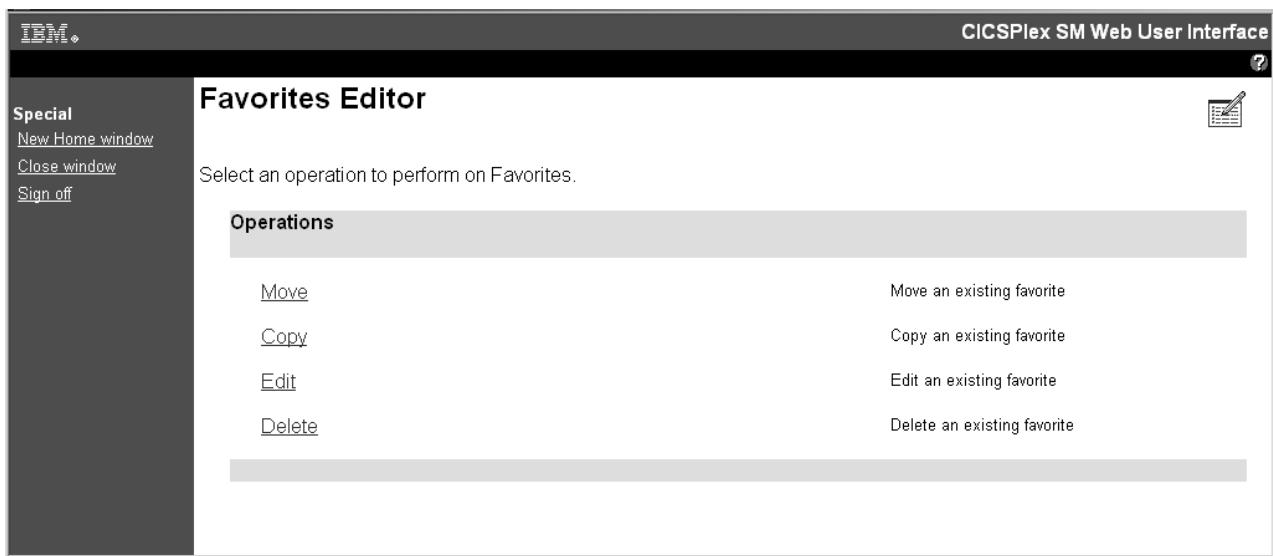


図26. お気に入りのエディター

「Favorites Editor (お気に入りのエディター)」画面は、いくつかのオプションを提供します。

移動 既存のお気に入りでのリスト位置を変更します。

「Move (移動)」をクリックし、リストからお気に入りを選択して、「OK (了解)」をクリックします。次に、お気に入りの新しい位置を選択して、「OK (了解)」をクリックします。選択されたお気に入りをリストの最後に移動するには、事前に新しい位置を選択しないで「OK (了解)」をクリックします。

コピー 既存のお気に入りをコピーして、それに新しいタイトルを指定します。

「Copy (コピー)」をクリックし、リストからお気に入りを選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、「Copy Favorite (お気に入りのコピー)」画面が開きます。

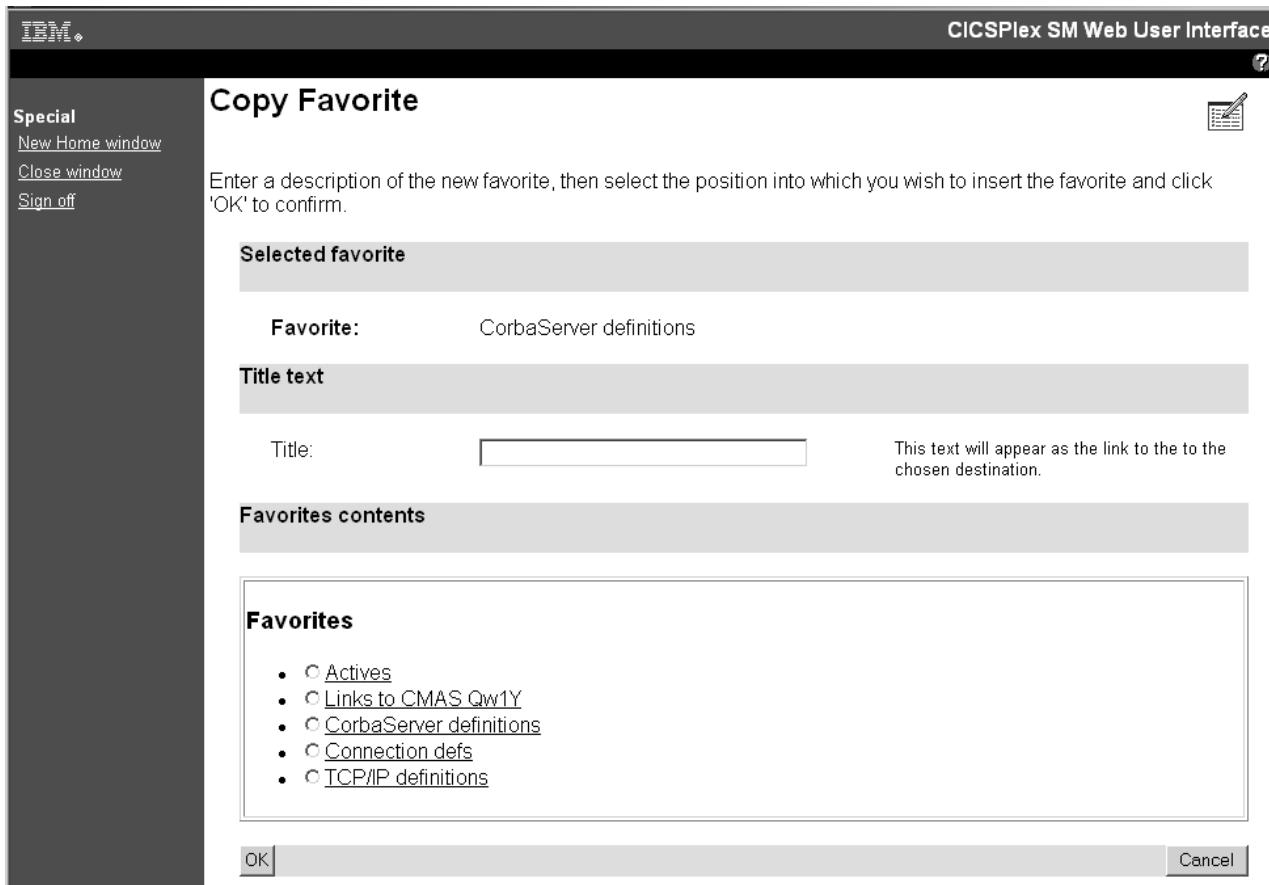


図 27. 「Copy Favorite (お気に入りのコピー)」画面

次に、コピーに新しいタイトルを指定して、新しいコピーをその上に配置する既存のお気に入りをリストから選択することにより、お気に入りリストでの位置を選択できます。新しいコピーをリストの下に配置する場合には、既存のお気に入りを選択しないでください。「OK (了解)」をクリックして、操作を確定します。

編集 タイトル、宛先、コンテキスト、スコープ、およびフィルター設定を含む、お気に入りのコンポーネントを変更します。

「Favorites Editor (お気に入りのエディター)」画面で、「編集 (Edit)」をクリックします。編集するお気に入りをリストから選択して、「OK (了解)」をクリックすることにより、「Components of Favorite (お気に入りのコンポーネント)」画面を開きます。これにより、以下の 2 つのオプションが提供されます。

- 「Title and annotation (タイトルと注釈)」をクリックして、選択されたお気に入りへのリンクのテキストを変更します。新しいテキストを「Title (タイトル)」フィールドに入力して、「OK (了解)」をクリックします。
- 「Destination (宛先)」をクリックして、コンテキストおよびスコープの設定を変更すること、または属性およびパラメーターをフィルターに掛けることができます。

- 「**Context and Scope settings** (コンテキストとスコープの設定)」をクリックすると、「**View Link Context and Scope Settings** (ビュー・リンク・コンテキストおよびスコープ設定)」画面が開きます。コンテキストおよびスコープのための新しい値を入力するか、または現在のメニューまたはビューから値を継承することを選択できます。
- 「**Filter attributes and parameters** (フィルター属性とパラメーター)」をクリックすると、「**View Link Filters** (ビュー・リンク・フィルター)」画面が開きます。これにより、選択されたお気に入りの、属性およびパラメーターのフィルター設定を処理することができます。フィルター式を付加、挿入、編集、または削除することができます。ただし、特定の属性に対して複数のフィルター式を含めないようにしてください。同じ属性に複数のフィルター式を指定すると、予期されない結果が生じます。フィルターについて詳しくは、46 ページの『データのフィルタリング』を参照してください。

削除 お気に入りのリストから項目を除去します。

「**Delete (削除)**」をクリックし、リストからお気に入りの 1 つを選択して、「**OK (了解)**」をクリックして確定します。

お気に入りのエディターによって、ユーザーは自分のお気に入りのリストを編集できます。これによって他のユーザーのお気に入りを管理することはできません。ユーザー・エディターへのアクセス権限を持つ WUI 管理者だけに、これを行う権限があります。

他の WUI ユーザーのお気に入りの作成および管理

他の WUI ユーザーのお気に入りを作成および管理するには、ESM 機能プロファイル EYUWUI.wui_server_applid.USER. に対して少なくとも更新アクセス権限を持つ管理者であることが必要です。

必要なアクセス権限がある場合、ユーザー・エディターを開始するハイパーリンクは、ナビゲーション・フレームの「**Special (特殊)**」セクションに表示されます。このハイパーリンクをクリックすると、新しい Web ブラウザー・ウィンドウで「**CICSplex SM Web User Interface User Editor** (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・ユーザー・エディター)」が開始します。お気に入りを処理するには、「**Users (ユーザー)**」を選択します。これにより、「**User Editor (ユーザー・エディター)**」画面が開きます。

91 ページの図 28 は、ユーザーのお気に入りの編集に使用されるユーザー・エディターの画面を図示しています。

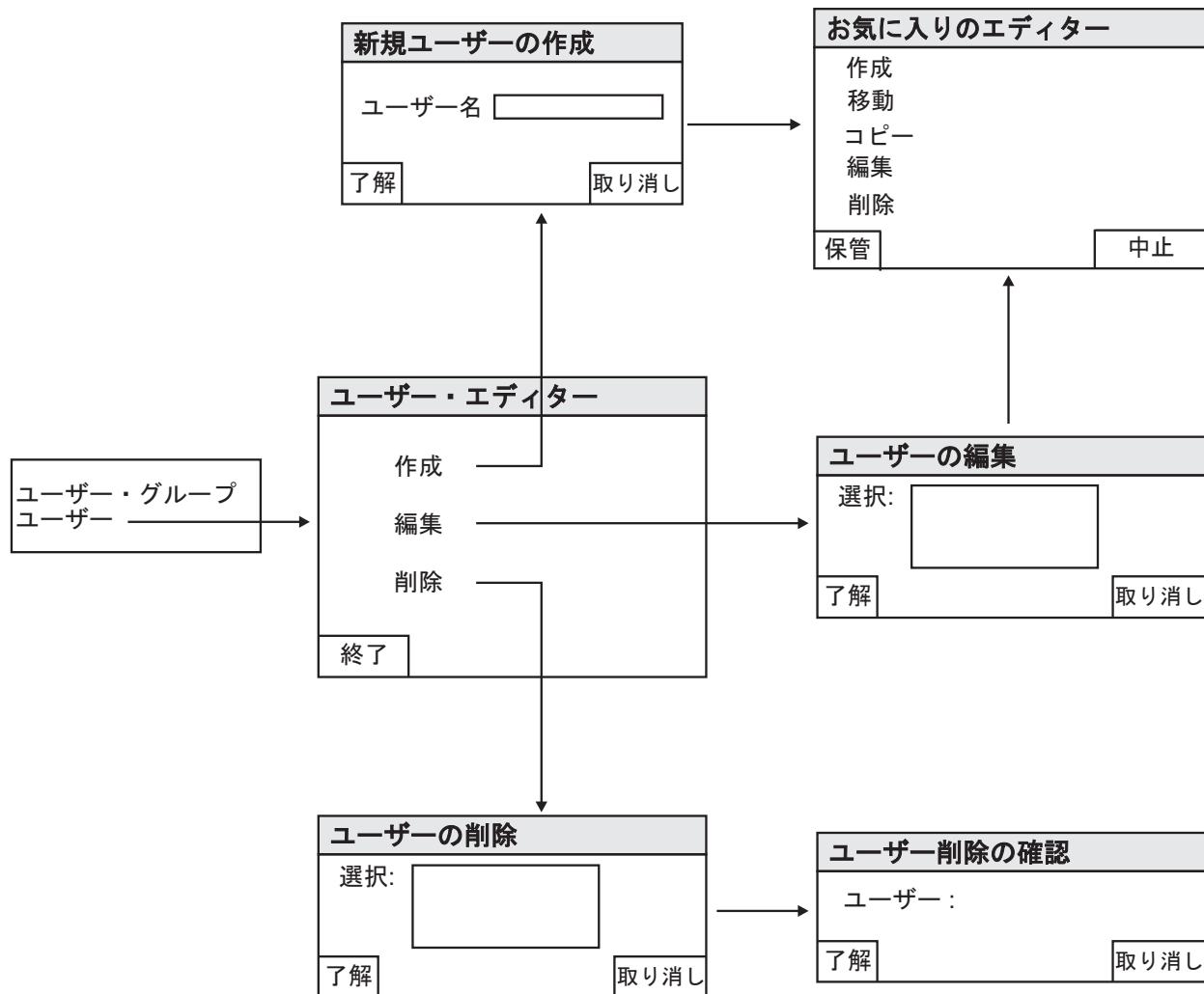


図 28. ユーザー・エディター内のユーザー画面

この画面では、以下のオプションが提供されます。

- 作成** このオプションを使用して、リポジトリ内にユーザー・オブジェクトを作成します。各ユーザーには、お気に入りのリストを保持するためのユーザー・オブジェクトが必要です。WUI は、ユーザーが初めてお気に入りを作成するときにユーザー・オブジェクトを（まだ存在しなければ）自動的に作成するので、ほとんどの既存のユーザーはすでにユーザー・オブジェクトを持っています。ユーザー・オブジェクトが作成された後に、「Favorites editor (お気に入りのエディター)」画面が表示されて、新しいユーザーのためのお気に入りを作成および編集できるようになります。
- 編集** このオプションを使用して、既存のユーザーのお気に入りを処理します。これにより、ユーザーのお気に入りを作成、移動、コピー、編集、および削除できます。
- 削除** このオプションを使用して、ユーザー・オブジェクトをリポジトリから削除します。これにより、そのユーザーの既存のお気に入りも削除されます。

以下の手順に従って、ユーザー・エディターを使用してユーザー・オブジェクトを作成し、いくつかのお気に入りを追加します。

1. 以下の方法で、新しいユーザー・オブジェクトを作成します。
 - a. ナビゲーション・フレームで「User editor (ユーザー・エディター)」をクリックして、新しい「CICSplex SM Web User Interface User editor (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・ユーザー・エディター)」ウィンドウを開きます。
 - b. 「User (ユーザー)」をクリックして、「User Editor (ユーザー・エディター)」画面を開きます。
 - c. 「Create (作成)」をクリックして、「Create user (ユーザーの作成)」画面で、新しいユーザー名を入力します。ユーザー名は最大 8 文字に制限されています。有効な文字は、A-Z、0-9、# (X'23')、\$ (X'24')、および @ (X'40')です。
 - d. 「OK (了解)」をクリックします。これにより操作が確定して、ユーザーのお気に入りのリストを作成および管理するための「Favorites Editor (お気に入りのエディター)」画面が開きます。
2. 以下の方法で、新しいお気に入り項目を作成します。
 - a. 「Favorites Editor (お気に入りのエディター)」画面で、「作成 (Create)」をクリックします。これにより、ユーザー・エディターが詳細項目を編集するために使用する編集画面が表示されます。この画面から、ビュー・エディターのメニュー項目で可能な、お気に入りについてのすべてのアクションを実行できます。
 - b. 新しいお気に入りにタイトルを指定して、ターゲット・ビューまたはメニュー、コンテキストおよびスコープの設定、およびフィルター設定を入力することにより、この画面を完成させます。
 - c. 「Save (保管)」をクリックします。これにより、リポジトリ内に更新内容が保管されて、「User (ユーザー)」画面に戻ります。「Abandon (中止)」をクリックすると、新しいユーザー・オブジェクトを含むすべての変更内容が廃棄されます。
3. 以下の方法で、さらに多くのお気に入りを作成して、それらを新しいユーザー・オブジェクトに追加します。
 - a. 「User (ユーザー)」画面で、「Edit (編集)」をクリックします。これにより、「Edit user (ユーザーの編集)」画面が開きます。
 - b. 新しく作成されたユーザー ID を選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、「Favorites Editor (お気に入りのエディター)」画面に戻ります。
 - c. 以前と同じ方法で新しいお気に入り項目を作成して、更新内容を保管します。

新しいユーザー・オブジェクトに追加するお気に入りごとに、この手順を繰り返します。

ユーザー・グループ・プロファイル

個々のユーザーが WUI にログオンする時に何が表示され、何を行うかを、これらのユーザーが所属しているユーザー・グループのプロファイルを使用して制御できます。

これにより、WUI 管理者はさまざまなユーザーのグループの必要に合わせて WUI を調整できるようになります。 例えば、ビュー・エディターを使用して操作ビューのみが含まれている新規の WUI メニューを作成し、ユーザー・グループのデフォルトのメニューにできます。 こうすることにより、この種のタスクのみを実行する必要があるユーザー用に簡略化された操作 WUI が提供されることになります。

ユーザー・グループ・プロファイルには、以下の情報を組み込むことができます。

- 結果セット警告のカウント
- デフォルト・メインメニューの名前
- デフォルト・ナビゲーション・メニューの名前
- デフォルト・コンテキスト
- デフォルト有効範囲
- デフォルトの CMAS コンテキスト
- 強制フィルター確認のフラグ
- デフォルト・マップ・オブジェクト

プロファイルにこれらの値のいくつかが指定されていない場合、例えばデフォルト・メニュー値がブランクの場合には、JCL に指定された対応する WUI パラメーター値が使用されます。 プロファイルに無効値が設定された場合、例えば指定されたデフォルト・メニューが存在しない場合なども、そのようになります。

ユーザー・グループ・プロファイルは、必要な権限を持つ管理者が WUI ナビゲーション・メニューからアクセス可能な、ユーザー・エディターを使用して作成および管理されます。 詳しくは、「Web ユーザー・インターフェース・リソースへのアクセス制御」を参照してください。

これを容易にするために、CICSplex SM はユーザー・グループと呼ばれるオブジェクトを使用します。 ユーザー・グループ・オブジェクトは、ビューおよびメニュー・オブジェクトと同様に、COVC トランザクションを使用してインポートおよびエクスポートできます。

ユーザー・グループ・プロファイルは、Web ユーザー・インターフェースでセキュリティーがアクティブである場合にのみ使用できます。 ユーザー・グループ・オブジェクトは、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) 内のグループ名に関連しています。 ユーザーが Web ユーザー・インターフェースにサインオンすると、ユーザー・グループ・オブジェクトが SIGNONPANEL Web ユーザー・インターフェース・システム・パラメーターに応じてさまざまな方法で割り当てられます。

SIGNONPANEL(ENHANCED)

これはデフォルトです。 以下のように、GROUP オプションがサインオン画面に表示されます。

- ユーザーが値を入力しない場合、ユーザー・グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに応じて設定されます。
- ユーザーが値を入力する場合、サインオンが続行します。
- ユーザー ID が指定されたグループに接続している場合、このグループは WUI ユーザー・グループ・プロファイルとして使用されます。
- ユーザー ID が指定されたグループに接続されていない場合、またはグループ名が無効な場合には、サインオンは続行しますが WUI ユーザー・グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに基づいて設定

されて、サインオンが完了するとメッセージ EYUVC1227W が WUI ユーザーに発行され、メッセージ EYUVS0024W が WUI サーバーの EYULOG に書き込まれます。

注: GROUP オプションは、サインオンしているユーザーの現行接続グループを変更しません。 WUI によって構築されるセキュリティー環境は、常にユーザーのデフォルト・グループに基づいています。 WUI サインオン画面でのグループ・オプションによる効果は、ユーザーをどの WUI ユーザー・グループ・プロファイルに関連付けるかを指定することだけです。 外部セキュリティー・マネージャによるセキュリティー上の決定は変更されません。

SIGNONPANEL(BASIC):

- GROUP オプションがサインオン画面に表示されません。
- ユーザー・グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに応じて設定されます。

Web ユーザー・インターフェースのユーザー・グループ・プロファイルが、デフォルト・グループに基づいて設定されても、または GROUP オプションに指定されても、一致する Web ユーザー・インターフェースのグループ・プロファイルが見つからない場合には、通常はユーザー・グループ・プロファイルによって設定される値はシステム・デフォルトに基づいて設定されます。

注: Web ユーザー・インターフェースは、以下の文字だけを含むユーザー・グループ名をサポートします。

- A から Z (小文字を入力できますが、それらは大文字に変換されます)
- 0 から 9
- # (X'7B')、£ (X'5B')、@ (X'7C')、* (X'5C')、& (X'50')、= (X'7E')、および ? (X'6F')

使用される ESM によっては、これらのすべての文字をグループ名に指定することはできません。

ユーザー・グループ名に * (X'5C') を使用すると、COVC EXPORT 機能が使用される場合にいくつかの制限が生じます。 詳しくは、69 ページの『WUI 定義のエクスポート』の名前フィールドに関する説明を参照してください。

ユーザー・グループ・プロファイルを管理するために、管理者には EYUWUI.wui_server_applid.USER という名前の新しい ESM 機能プロファイルへの更新アクセスが必要です。ここで、wui_server_applid は、このプロファイルに関連した WUI サーバーのアプリケーション ID です。

ユーザー・グループ・プロファイルの作成および管理

新しいユーザー・グループの設定には、以下の 3 つのステップが含まれます。

このタスクについて

1. ユーザー・エディターを使用して WUI に新しいユーザー・グループ・プロファイルを作成する。
2. ESM 内に同じ名前のユーザー・グループを作成する。

3. そのユーザー・グループを ESM 内で 1 つ以上のユーザーのデフォルト・ユーザー・グループに設定する。

このセクションでは、ユーザー・エディターでユーザー・グループ・プロファイルを作成および管理する方法について説明します。ユーザー・エディターは、ユーザー・プロファイルの作成にも使用されます。

ユーザー・エディターを起動するハイパーリンクは、ナビゲーション・フレームの「**Special (特殊)**」セクションに表示されます。サインオンしているユーザーには、ESM 機能プロファイル `EYUWUI.wui_server_applid.USER` に対する少なくとも更新アクセス権限があれば、ユーザー・エディターのハイパーリンクが表示されます。ここで、`wui_server_applid` は、WUI サーバーのアプリケーション ID です。このハイパーリンクをクリックすると、新しい Web ブラウザー・ウィンドウが起動します。

ユーザー・エディターを起動するとき、ユーザー・グループまたはユーザーのどちらを編集するかを選択できます。96 ページの図 29 は、ユーザー・エディターのユーザー・グループ・セクションにある複数の画面の間の関係を図示しています。

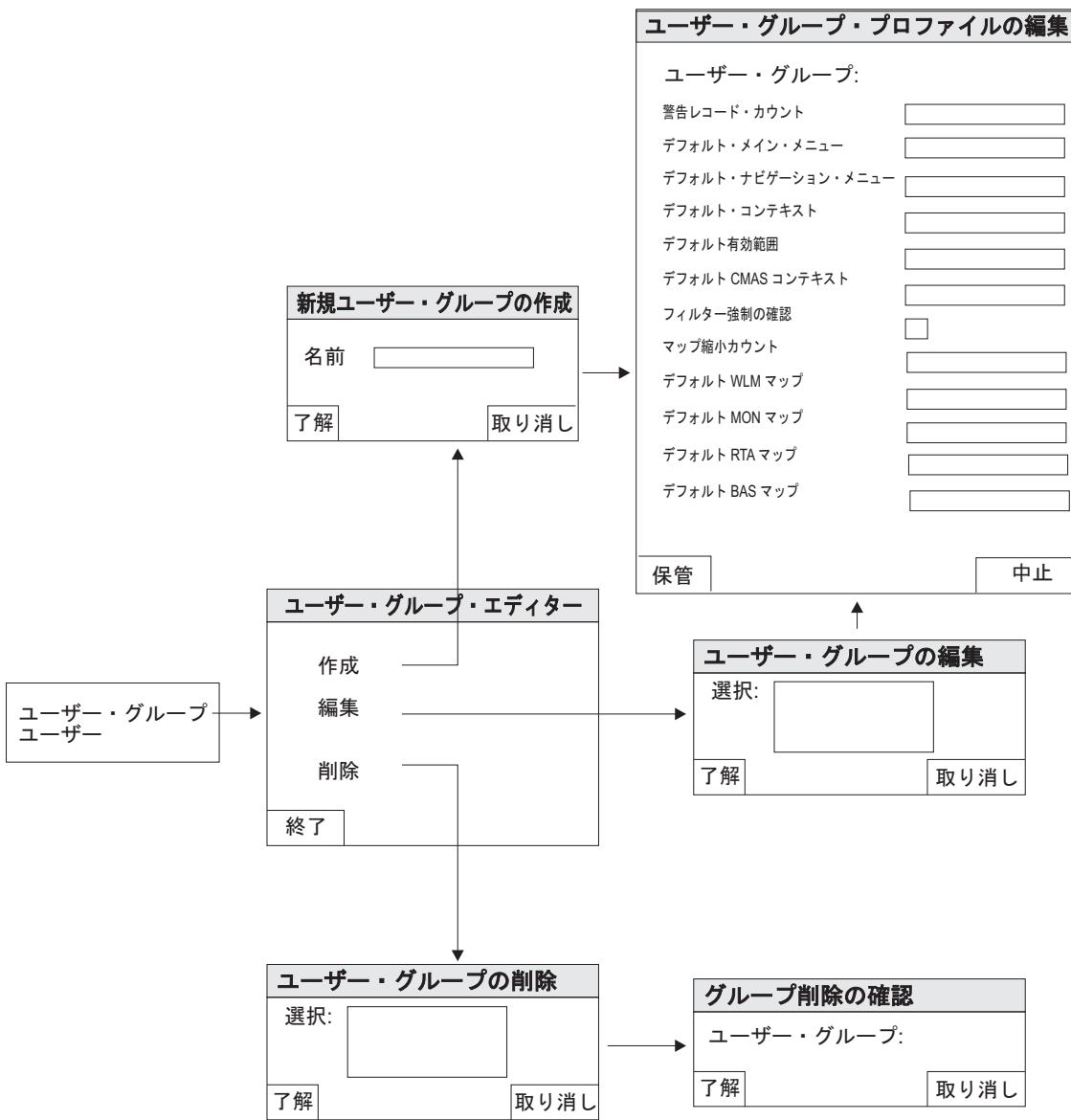


図29. ユーザー・エディター内のユーザー・グループ画面

ユーザー・エディターは簡単に使用できます。 例えば、新しいユーザー・グループ・プロファイルを作成するには、以下の手順に従います。

1. 「Create Group (グループの作成)」画面にナビゲートします。
 - a. ナビゲーション・フレームで「User editor (ユーザー・エディター)」をクリックして、新しい「CICSPlex SM Web User Interface User editor (CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース・ユーザー・エディター)」ウィンドウを開きます。
 - b. 「User Groups (ユーザー・グループ)」をクリックして、「User Group Editor (ユーザー・グループ・エディター)」画面を開きます。この画面は、プロファイルを作成、編集、または削除するオプションを提供します。
 - c. 「Create (作成)」をクリックして、「Create New User Group (新規ユーザー・グループの作成)」画面を開きます。

2. 新しいグループ・プロファイルに名前を指定します。
 - a. 新しいグループの名前を入力します。名前は最大 8 文字に制限されています。ESM の場合と同様に、許可される文字は A-Z (大文字)、0-9、#、\$、および @ です。
 - b. 「OK (了解)」をクリックします。これにより操作が確定して、「Edit User Group Profile (ユーザー・グループ・プロファイルの編集)」画面が開きます。
3. ユーザー・グループの詳細を入力します。以下の情報の一部または全部を提供する必要があります。ブランクのままにしたか、間違って入力したフィールドは、既存のデフォルトに戻ります。

警告レコード・カウント

警告メッセージなしで表示されるレコードの最大数。値は 0 から 99999999 です。

デフォルト・メインメニュー

デフォルト・メインメニューの名前

デフォルト・ナビゲーション・メニュー

デフォルト・ナビゲーション・メニューの名前

デフォルト・コンテキスト

デフォルトの 8 文字のコンテキスト設定

デフォルト有効範囲

デフォルトの 8 文字の有効範囲設定

デフォルトの CMAS コンテキスト

デフォルトの 8 文字の CMAS コンテキスト設定

フィルターの確認を強制

ビューが表示される前にユーザーがフィルター基準を指定するように強制するフラグ

マップ縮小カウント

マップ画面が開くときに表示されるレコードの最大数。この数よりも多いレコードがある場合、マップは縮小された状態で表示されます。値は 0 から 99999999 です。

デフォルト WLM

マップ ワークロード管理タイプのリソース・マップの生成に使用されるマップ・オブジェクトの名前。

マップ名は、最大 16 文字の英数字で構成されます。

デフォルト MON マップ

モニター・タイプのリソース・マップの生成に使用されるマップ・オブジェクトの名前。

デフォルト RTA マップ

リアルタイム分析タイプのリソース・マップの生成に使用されるマップ・オブジェクトの名前。

デフォルト BAS マップ

ビジネス・アプリケーション・サービス・タイプのリソース・マップの生成に使用されるマップ・オブジェクトの名前。

4. 「Save (保管)」をクリックして新しいプロファイルを作成するか、または「Abandon (中止)」で操作を取り消します。

注: ユーザー・グループを使用する前に、一致するユーザー・グループ名が ESM に定義されている必要があります。

グループを編集するには、「ユーザー・グループ・エディター」画面で「編集」をクリックして、「ユーザー・グループの編集」画面を開きます。既存のグループを選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、選択されたグループの詳細を含む「Edit User Group Profile (ユーザー・グループの編集)」画面が開きます。変更を行って、「Save (保管)」をクリックし、プロファイルを更新します。

グループを削除するには、「ユーザー・グループ・エディター」画面で「削除」をクリックして、「ユーザー・グループの削除」画面を開きます。既存のグループを選択して、「OK (了解)」をクリックし、「Confirm User Group Delete (ユーザー・グループ削除の確認)」画面を開きます。再び「OK (了解)」をクリックして、操作を確定します。

カスタマイズされた WUI メニュー、ビュー、およびマップ

WUI メニュー、ビュー、およびマップをカスタマイズして、固有の作業環境を作成できます。

CICSplex SM WUI には、提供されたまま使用したり、独自のカスタマイズされた WUI を作成する際の基礎として使用できる、提供されたビューおよびメニューのセットが含まれています。例えば、特定のタスクまたはデータのセットに適用されるビューを作成できます。

提供されたメニュー、ビュー、またはマップ・オブジェクトをモデルに使用して独自のバージョンを作成すること、または最初から開始することができます。

関連トピック

112 ページの『ビュー・エディターの使用』

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのビュー・エディターは、メニュー、ビュー、およびマップ・オブジェクトをカスタマイズするためのツールです。

113 ページの『Web ユーザー・インターフェース提供のビューおよびメニュー』

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースには、提供されたまま使用したり、独自のカスタマイズ・ビューおよびメニューを作成する基として使用できる、ビューおよびメニューのセットが含まれています。

125 ページの『カスタマイズしたマップ・オブジェクトの使用』

ビュー・エディターを使用して、カスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成および編集できます。

75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』

Web ユーザー・インターフェースへは、標準的な Web ブラウザー・ソフトウェアを使用してアクセスします。WUI へは、Web ブラウザーを起動できれば、有効な URL を指定することによってどの場所からでもリンクできます。

カスタマイズされたビュー・セットおよびビュー

ビュー・セットは、同じ管理下オブジェクト、つまりリソース・テーブルで表される CICS または CICSplex SM リソースを管理するために、一緒に使用される関連した複数のビューです。特定の管理下オブジェクトに対して、必要な数のビュー・セットを作成できます。

ビューは、特定の方法で管理下オブジェクトと対話するために使用される表示です。 各ビューはビュー・セットに組み込まれていて、常に Web ユーザー・インターフェース表示の作業フレーム内に表示されます。 ビューには、以下のようないくつかのタイプがあります。

- 表形式ビュー。『表形式ビュー』を参照してください。
- 詳細ビュー。100 ページの『詳細ビュー』を参照してください。
- 確認パネル。101 ページの『確認パネル』を参照してください。
- マップ。51 ページの『CICSplex SM 定義をマップする方法』を参照してください。

一般的な使用の場合、ビュー・セットおよびビューは、最大 16 文字までの英数字から成る名前で識別します。 ビュー・セット名は、そのサーバー・リポジトリ内では固有である必要があります。 ビューネ名は、ビュー・セット内で固有です。 ビュー・セットおよびビューの命名の際は、命名規則を採用することをお勧めします。

注: IBM の用法、および、独立系ソフトウェア・ベンダー (ISV) の用法では、下線 (_) をビュー・セットの名前に使用することが許されています。 IBM_ および EYU で始まるビュー・セット名およびメニュー・セット名は、IBM が使用するために予約されています。

Web ユーザー・インターフェースには、提供されたまま使用したり、独自のカスタマイズ・ビューを作成する基として使用できる一組のビュー・セットが含まれています。

表形式ビュー

表形式ビューを使用して、以下のものを表示します。

- 管理下オブジェクトの複数インスタンスから選択された属性。
- 管理下オブジェクトで選択された 1 つの属性に基づく集計レコード。

テーブル表示を作成するとき、まず管理下オブジェクトを選択して、次に表示する属性を選択します。 ビュー・エディターは、その管理下オブジェクトで使用可能なすべての属性を選択項目として示します。 管理下オブジェクトごとに 1 つ以上の表形式ビューを作成することができます。 それぞれの表形式ビューには、特定のタスクに関連した属性が含まれます。

テーブル表示内のフィールドは、テキストまたはグラフィカル表現として定義できます。 それらは表示専用で、変更できません。 その属性のデータを昇順および降順でソートできるかどうか、およびその属性を集計ビューの基礎として使用できるかどうかを指定できます。 列に含まれるデータのタイプに応じて、同じビュー内の別の属性が集計ビューの基礎として使用されるときに、この属性を集計ビューで集計する方法も指定できます。

注: 属性に集計タイプを指定すると、その同じ集計タイプが、ビューで同じ属性名を使用するすべてのフィールドに設定されます。

ユーザーが実行するタスクに応じて、表形式ビューから 1 つ以上の表形式ビューおよび詳細ビューにリンクできます。 例えば、タスク・リソースの表形式ビューか

ら、クロック設定、端末詳細、その他を示す詳細ビューにリンクできます。 これを行う方法について詳しくは、 103 ページの『ビューのコンポーネント』を参照してください。

表形式ビューに、即時に処置を実行するボタンを追加すること、または確認パネルを表示するように選択することができます。 詳細については、 101 ページの『確認パネル』を参照してください。

表形式ビューごとに使用可能な表示オプションを制御できます。 これらの表示オプションにより、以下を行うことができます。

- この表形式ビューを、ビュー・セットのデフォルト・ビューにします。 このオプションを選択した場合、このビューはビュー・セット内の特定のビューをターゲットにしないビュー・リンクのために使用されます。 デフォルト・ビューの詳細については、 103 ページの『デフォルト・ビュー』を参照してください。
- このビューのために自動最新表示オプションを使用可能にするかどうかを選択します。
- このビューのすべてのオブジェクト・インスタンスを同時に選択してそれらすべてにアクションを実行できるようにするか、または各オブジェクト・インスタンスを順番に選択する必要があるかを選択します。
- このビューの 1 ページに表示できる最大行数を選択します。
- 定義オブジェクトに関連したビューの場合、関連付けられた定義のマップを生成するために「Map (マップ)」ボタンを組み込むかどうかを選択します。 マップ機能についての詳細は、 51 ページの『CICSplex SM 定義をマップする方法』を参照してください。

集計ビューは表形式ビューの特殊なケースです。 表形式ビューを作成するとき、ビュー内のどの属性を集計ビューの基礎として使用できるかを指定します。 任意の数の属性を選択することができ、何も選択しないこともできます。 表形式ビューを集計するとき、その同じビューが集計データの表示に使用されます。

詳細ビュー

詳細ビューを使用して、リソースの特定インスタンスに関する属性情報の選択を表示します。 さらに、ユーザーが属性値を変更できるようにします。

情報を、1 列で表示するか 2 列で表示するかを選択できます。 2 列の詳細ビューでは、画面に表示できるデータの量が増加し、画面をスクロールする必要が減ります。 各列には、属性名、属性値、およびオプションの注釈が含まれています。 2 列のビューを作成する方法については、 135 ページの『2 列の詳細ビューの作成』を参照してください。

属性値フィールドを、以下のように定義できます。

- 読み取り専用の、属性値のテキスト表記。
- ユーザーが他の値を入力可能にするための、変更可能フィールド。
- 属性値のグラフィカル表現。

オプションの注釈テキストは属性値の隣に表示されて、名前、有効値、警告などの追加情報を提供するために使用できます。

注釈テキストは短くすることをお勧めします。そのようにしないと、詳細ビューの内容が不鮮明になることがあります。

詳細ビューに空白（ブランク行）を組み込んで、属性のグループを分離できます。関連する属性フィールドのグループのタイトルを指定するため、または明示的にラベル付けされた他のビューへのリンクを設定するために使用できる、静的テキストを組み込むこともできます。

詳細ビューを使用してユーザーに情報を提供できますが、詳細ビューを使用して SET アクションをインプリメントし、ユーザーが管理下オブジェクトの選択済みインスタンスの 1 つ以上の属性を変更可能にすることもできます。

ユーザーが実行するタスクに応じて、詳細ビューから 1 つ以上の詳細または表形式ビューにリンクできます。例えば、タスク・リソースの詳細ビューから、クロック設定、端末詳細、その他を示す他の詳細ビューにリンクできます。これを行う方法について詳しくは、103 ページの『ビューのコンポーネント』を参照してください。

詳細ビューに、即時に処置を実行するボタンを追加すること、または確認パネルを表示するように選択することができます。詳細については、『確認パネル』を参照してください。

詳細ビューごとに使用可能な表示オプションを制御できます。これらの表示オプションにより、以下を行うことができます。

- この詳細ビューを、ビュー・セットのデフォルト・ビューにします。このオプションを選択した場合、このビューはビュー・セット内の特定のビューをターゲットにしないビュー・リンクのために使用されます。デフォルト・ビューの詳細については、103 ページの『デフォルト・ビュー』を参照してください。
- このビューのために自動最新表示オプションを使用可能にするかどうかを選択します。
- 定義オブジェクトに関連したビューの場合、関連付けられた定義のマップを生成するために「Map (マップ)」ボタンを組み込むかどうかを選択します。マップ機能についての詳細は、51 ページの『CICSplex SM 定義をマップする方法』を参照してください。

確認パネル

確認パネルの外観は詳細ビューと似ています。

確認パネルは、以下の目的で使用されます。

- 直前のビューで選択されたアクションを確認します。
- 何らかのパラメーター値を提供します。
- 1 つ以上の属性を 1 つのリソースの多数のインスタンス上に SET (設定) するためのパネルを作成します。
- データの取り出しを開始する前に、フィルター値を確定または指定変更する機会を提供します。

注: いくつかのアクションには、必須またはオプションのパラメーターがあります。例えば、CICSRGN 管理下オブジェクト上の SNAP アクションにはパラメーター DUMP CODE が必要です。特定のパラメーターが必須かまたはオプションかを判別するために、 を参照できます。

「**No to all (すべていいえ)**」、「**Yes (はい)**」、および「**No (いいえ)**」アクション・ボタンがビュー・エディターによって自動的に追加されます。必要に応じて、「**Yes to all (すべてはい)**」ボタンを追加することもできます。さらに、確認パネル上でのアクションのためにパラメーターのリストを組み込むこともできます。

例えば、CICS 領域のシャットダウンはシステム上のユーザーに大きな影響を与える可能性があるので、ユーザーがシャットダウンする CICS 領域を選択するための表形式ビューを備えることができます。表形式ビューには、確認パネルにリンクされた「**Shutdown (シャットダウン)**」というラベルのアクション・ボタンを備えることもできます。確認パネルでは、シャットダウン・アクション用に IMMEDIATE や NORMAL などのパラメーターをリストすることができます。

定義アクションの作成および更新を起動する確認パネルは、他のアクションに関連付けられた確認パネルといくらか異なります。ビュー・エディターを使用して作成アクション用の確認パネルを設計するとき、その同じパネルを更新アクション用に使用することもできます。パネルを起動するアクション・ボタンは、どちらのアクション用に使用されているかを判別します。これにより、設計プロセスのステップで、別々でありながら同じ形の作成および更新画面を持つことに関連した潜在的な問題を回避できます。

フィルター確認画面

フィルター確認画面によって、WUI がビュー用のデータを取り出す前にフィルター基準を指定できます。

ビュー・エディター内でビューを設計するとき、データ検索を実行する前にフィルター確認画面が表示されるように指定するオプションがあります。提供されたビューには、フィルター確認画面が関連付けられていません。典型的なフィルター確認画面は、103 ページの図 30 に示されています。

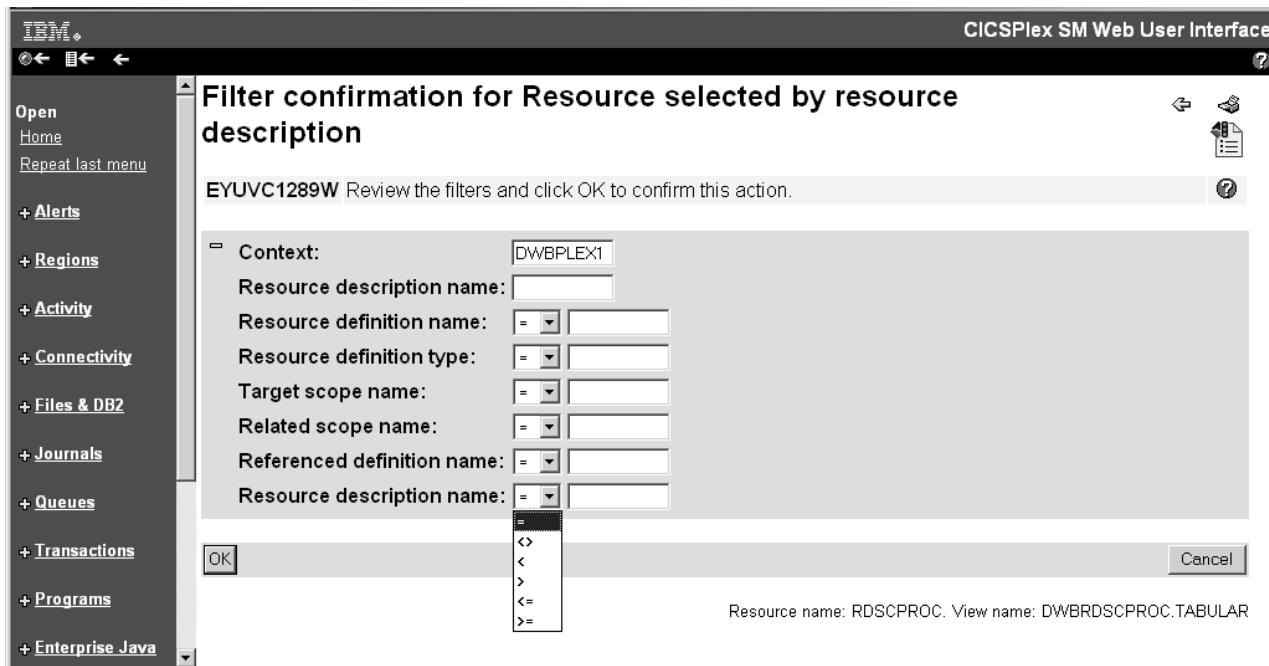


図 30. フィルター確認画面

フィルター確認を設定する方法については、138 ページの『フィルター確認画面の作成』を参照してください。

デフォルト・ビュー

デフォルト・ビューは、ビュー・セットが開かれるときに、リンクで特定のビューが指名されていない場合に表示されるビューです。ビュー内の 1 つのビューが、デフォルト・ビューとして設定されます。

デフォルト・ビューは、通常は表形式ビューですが、必要であれば詳細ビューとすることもできます。メニューからビュー・セットへのリンク、または 1 つのビュー・セットから別のビュー・セットへのリンクを構築するとき、デフォルト・ビューが表示されるように指定できます。デフォルト・ビュー・セットを表示するように選択したためにリンクで明示的なビューを指名しない場合、ビュー・セットへのすべてのリンクを修正しなくともデフォルト・ビューを変更または置換できます。

デフォルト・ビュー・セットは、オブジェクト名を指定してもビュー・セット名を指定しない外部要求に対して使用されます。デフォルト・ビュー・セットは、指定されたオブジェクトを表す、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定操作オプション・パラメーターで名前が指定されます。

ビューのコンポーネント

ビューのコンポーネントの一部または全部を定義できます。

ビューの内容

ビューに表示されるデータの列または項目。

タイトル

ビューのタイトルは、ページの上部に表示されます。

ビューの注釈

任意のビューに、注釈としてテキストを追加できます。それはデータ表示の下に示されます。注釈は任意のテキストであり、各国語で記述できます。例えば、ビューが手順の一部を成している場合、次に何をすべきかをユーザーに案内することができます。

アクション・ボタン

ビューには必要な数のアクション・ボタンを追加できます。実行するアクション、およびボタンに表示するテキストを選択します。詳細については、111ページの『アクション・ボタン』を参照してください。

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプへのリンク

このリンク（定義されている場合）は、ビュー・タイトルの横にあります。カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプについて詳しくは、111ページの『カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ』を参照してください。

選択基準

選択基準は、コンテキストおよびスコープの設定、およびユーザーが使用可能な任意のフィルターです。コンテキストおよびスコープのフィールドを、非表示、読み取り専用、またはユーザーによる変更可能にするかどうかを定義できます。

さらに、フィルターとしてユーザーが常に使用可能な属性またはパラメーターも指定できます。

自動最新表示

Javascriptを使用可能なブラウザのユーザーは、定期的にビューを更新できます。自動最新表示が使用可能として定義されている場合、入力フィールドおよびチェック・ボックスが選択基準および最新表示の領域に表示されます。その後、ユーザーは自動最新表示機能をオンまたはオフに切り替えること、および最新表示の間隔を変更することができます。

リンク リンクは、1つのビューのフィールドを、別のビュー（同じビュー・セット内のものでもそうでないものでも可）の関連情報に接続します。

同じビュー・セット内のビューへのリンク

トランザクション名などの特定の属性から、同じビュー・セット内の詳細ビューへのリンクを作成できます。それらのビューは同じビュー・セットのものなので、表示される詳細は最初のビューが作成されたときのトランザクションの状態を反映します。つまり、データは最新表示されません。

別のビュー・セット内のビューへのリンク

タスクからトランザクションへなど、別のビュー・セット内の関連リソースへのリンクを作成できます。この場合、新しいデータが収集されて、リンクにフィルターを定義できます。例えば、ターゲット・ビューにスコープを設定できます。

条件付きリンク

リンクをビューで常に使用可能にするか、またはリンク・ソースの属性値に基づいて条件的にするかを指定できます。属性値をテストできる条件には、以下のものがあります。

- 属性が CICS のこのリリースで有効であり、属性値が指定の値と等しいかどうか。
- 属性が CICS のこのリリースで有効であり、属性値が指定の値と異なるかどうか。
- 属性が CICS のこのリリースで有効かどうか。

各リンクには 1 つだけの条件を指定できますが、多くのリンクを定義することができます。

条件付きリンクの設定方法の例は、130 ページの『ビュー・リンクおよび属性フィルターの使用』を参照してください。

カスタマイズされたメニュー

メニューは、ユーザーが 1 つ以上の項目を選択できる、関連したトピックのリストです。

メニューは 16 文字までの英数字による名前で識別されます（ただし以下の注を参照してください）。メニュー名はサーバー・リポジトリ内に固有でなければなりませんが、メニューはビュー・セットと同じ名前を持つことができます。メニューの命名の際は、命名規則を採用することをお勧めします。

注: IBM の用法、および、独立系ソフトウェア・ベンダー (ISV) の用法では、下線 (_) をメニューの名前に使用することが許されています。 IBM_ で始まるビュー・セット名およびメニュー・セット名は、IBM が使用するために予約されています。

メニューの構成要素

作業フレーム・メニュー用にいくつかの構成要素を定義できますが、いくつかの構成要素はメニューがナビゲーション・フレームであるときには使用されません。

タイトル

メニューの上部に表示されるタイトル。この構成要素は、ナビゲーション・フレーム・メニューでは使用されません。

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプへのリンク

このリンク（定義されている場合）は、メニュー・タイトルの横にあります。カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプについて詳しくは、111 ページの『カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ』を参照してください。この構成要素は、ナビゲーション・フレーム・メニューでは使用されません。

コンテキストおよびスコープ

コンテキストおよびスコープのフィールドを、非表示、読み取り専用、またはユーザーによる変更可能にするかどうかを定義できます。この構成要素は、ナビゲーション・フレーム・メニューでは使用されません。

メニュー・グループのタイトル

各グループにグループ・タイトルを指定することによって、メニュー選択をグループ化できます。

メニュー選択

各メニュー選択はリンクとなっていて、以下のものである可能性があります。

- 別のメニューへのリンク。コンテキストおよびスコープを設定する場合があります。
- ビューへのリンク。コンテキストおよびスコープを含む選択基準を設定する場合があります。
- 外部 Web サーバーによってサービスが提供される場所への外部リンク。外部ロケーションの内容は別の Web ブラウザー・ウィンドウ内に表示されます。

リンクのタイプおよび宛先に加えて、メニュー選択ごとにコンテキストおよびスコープ設定を定義して、例えば以下を作成できるようにすることができます。

- CICSplex 名のメニュー。各 CICSplex 名は同じメニューにリンクしますが、コンテキストは異なります。
- アプリケーション名のメニュー。それぞれのアプリケーションで同じメニューが表示されますが、論理スコープは異なります。

メニュー選択ごとに他の選択基準を定義して、例えば以下を表示することができます。

- 特定のワーカロード用のアクティブ・ワーカロード・ビュー
- 総称名と一致する端末のビュー

メニュー注釈

一般的な注釈をメニューに追加できます。メニューの内容の上に表示されるメニュー注釈を使用して、例えばメニューまたはメニューについて説明するコメントの使用方法に関する指示を示すことができます。

メニュー選択注釈

注釈を個別のメニュー選択に追加できます。メニュー選択の注釈は、メニュー選択の下に表示されて、メニュー選択を説明するため、またはそれを選択することの効果について説明するために使用できます。

ナビゲーション・フレーム

メニューは通常は作業フレームに表示されますが、1つのメニューを選択してナビゲーション・フレームに表示することができます。

このメニューはすべてのユーザーに対して同じものなので、さまざまなユーザー役割またはタスクを反映するようにメニュー選択をグループ化できます。各グループにグループ・タイトルを指定することによって、メニュー選択をグループ化できます。グループは、展開可能で縮小可能なグループとして自動的に表示されます。ナビゲーション・フレームに表示されるメニューは、DEFAULTNAVIGATE Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定環境オプション・パラメーターで名前が指定されます。

カスタマイズされたマップ・オブジェクト

ビュー・エディターを使用して、独自のカスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成、編集、コピー、または削除できます。カスタマイズされたマップ・オブジ

エクトには、指定したビューへのハイパーリンクが含まれることがあります。 マップ・ボタンを追加して、カスタマイズされた定義ビューへのマップ機能を使用可能にすることもできます。

マップに関連した以下のタスクのために、ビュー・エディターを使用できます。

- カスタマイズ・ビューでマップ機能を使用可能にする。

マップ機能は、定義オブジェクトに関連した表ビューおよび詳細ビューの両方から使用することができます。

- カスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成または編集する。

特定のビューから生成されるマップは、デフォルトでは選択されたリソース・タイプに対する IBM 提供のマップ・オブジェクトです。 しかし、ビュー・エディターを使用してユーザーのマップ・オブジェクトを作成し、WUI サーバーの初期設定パラメーターを設定することで、特定のリソースにそれらをリンクすることもできます。 特定のグループのユーザーに対しては、これはユーザー・グループ・プロファイルで行うことができます。

マップ・オブジェクトを作成すると、生成されたマップに表示されているリソース名からハイパーリンクの宛先を指定することができます。 このようにして、生成されたマップからカスタマイズ・ビューへのリンクを指定できます。

データの表示

多くの場合、ビューの上でデータが表示され、変更され、選択される方法を制御できます。

表示専用フィールド

データは、変更できない表示専用フィールドとして表示できます。

入力フィールド

入力ボックスでは、ユーザーは属性またはパラメーター値を入力できます。

選択リスト

選択リストには、このビューで、指定の属性またはパラメーターに対してユーザーが使用可能なすべての値が含まれています。 ユーザーに値の入力が要求される場面では、適切な値を含む選択リストを作成できます。 選択リストを作成すると、ビューの使用が容易になり、選択項目として許容値をユーザーに提示することによりデータの確認レベルが向上します。

グラフィカル表示

属性のタイプに応じて、データをグラフィカルに表示するために、警告ライト またはバー・ゲージ を選択できます。

警告ライト

さまざまな色の警告ライトを使用して、属性の値を示すことができます。 表示しきい値 (单一の値、または数値属性のときのみ、値の範囲) を設定して、それぞれに異なる色を割り当てることができます。 さらに、ユーザーに対する追加の警報として警告ライトを明滅させることもできます。 オプションで、警告ライトの隣に属性の値を表示させることもできます。

例えば、CICS 領域でシステム使用可能性モニター・イベントの重大度を示すために、明滅する赤色を非常に高位の重大度 (VHS) および高位の重大度 (HS)、オレンジ色を高位の警告 (HW) および低位の警告 (LW)、黄色を重大度の最低レベルである低位の重大度 (LS) および非常に低位の重大度 (VLS) に使用できます。これを行う方法の例については、132 ページの『警告ライトの使用』を参照してください。

バー・ゲージ

数値データ・タイプの属性だけがバー・ゲージを使用できます。バー・ゲージは、属性値を表す水平バーです。属性の数値またはバー・ゲージのサイズを範囲の全体に対するパーセンテージで表示することもでき、その両方を表示することもできます。

範囲の上限と下限の値を指定します。それらは指定された固定値となるか、または同じ管理下オブジェクト (リソース・テーブル) 内の数値属性の値となります。例えば、CICS 領域内の負荷を、現行タスクを最大タスクと比較することによって、バー・ゲージで表示することができます。

限度内で、警告ライトの場合と同じ方法でしきい値を指定して表示色を割り当てることができます。

数値データ・タイプ

「*CICSplex SM Resource Tables Reference*」を参照することにより、属性のデータ型を判別できます。

以下の表に示されているリソース・テーブル参照のデータ型は数値として扱われ、サーバー用に構成された小数点を使用して、小数点以下の桁数が 1 または 3 の 10 進数として表示されます。

表 15. 10 進数として表示される数値データ型

小数点 1 桁の名前	小数点 3 桁の名前	説明
AVG	AVG3	平均
PCT	PCT3	パーセンテージ
RATE	RATE3	使用率
SUM	SUM3	値の合計

以下のリソース・テーブル参照のデータ型は数値として扱われ、10 進整数値として表示されます。

BIN バイナリー値

CODEBIN

CICS コード化バイナリー値

DEC 10 進値

SCLOCK および **SCLOCK12** (「Count (カウント)」フォーマットのみ)

CMF インターバル・ストア・クロック、8 バイトおよび 12 バイト。これらのデータ型は、その属性に対して「Count (カウント)」フォーマット・オプションが選択されている場合にのみ、数値として扱われます。通常はそう

であるように、時間フォーマット・オプションの 1 つが使用されるときには、データ型は数値として扱われません。

以下のリソース・テーブル参照のデータ型は数値として扱われ、パック 10 進値として内部的に保持されます。

DEC 10 進値

属性

属性は、WUI ビュー内にフィールド値を提供します。

属性フィールド

属性フィールドには、オブジェクト・インスタンスの属性値を組み込みます。

ビューを作成するときには、以下のような作業が可能です。

- 空のビューを作成し、個々に選択した属性を後から追加します。
- キー属性でビューを初期化します。 後から、必要な属性を追加したり、不要な属性を削除したりできます。
- 使用可能なすべての属性でビューを初期化し、後から不要な属性を削除します。

特定タイプの属性（クロック・データなど）については、さまざまな表示フォーマットが用意されています。 ビューに属性を追加すると、複数の表示フォーマットが用意されている属性は、使用可能な属性のリストに複数回表示されることになります。 対象の表示フォーマットの属性を選択できます。

時刻フィールドの表示フォーマット

クロック・データは、データ型にもよりますが、最大で 4 種類の形式で表示できます。

12 バイトの CMF インターバル・ストア・クロックを使用するデータ型 SCLOCK12 の属性は、あらゆる時刻形式で表示できます。 データ型 SCLOCK (8 バイトのストア・クロック) の属性では、特定の時刻形式だけを使用できます。

秒の小数部を含んだ時刻形式の *t* は 10 分の 1 秒、*h* は 100 分の 1 秒、*m* はミリ秒、*i* は 10000 分の 1 秒、*j* は 100000 分の 1 秒、*u* はマイクロ秒にそれぞれ相当します。

- HHHH:MM:SS.thmiju**。時間の桁数が 4 桁で、小数点以下の桁数が 6 桁になります（つまり、マイクロ秒までの表示です）。 この形式は、データ型 SCLOCK12 のデフォルトです。 SCLOCK では使用できません。 この形式は、CICS 統計レポートで使用されている形式と同じです。
- DDD.HH:MM:SS.thmiju**。日数が含まれており、小数点以下の桁数が 6 桁になります（つまり、マイクロ秒までの表示です）。この形式は、データ型 SCLOCK12 で使用できます。 SCLOCK では使用できません。
- HH:MM:SS.thmi**。時間の桁数が 2 桁で、小数点以下の桁数が 4 桁になります（つまり、10000 分の 1 秒までの表示です）。この形式は、データ型 SCLOCK のデフォルトです。 SCLOCK12 でも使用できます。

- HH:MM:SS。時間の桁数が 2 桁で、小数点以下の桁がありません。この形式は、データ型 SCLOCK でも SCLOCK12 でも使用できます。

大きな時刻値（実行時間の長いタスクの時刻値や最大の精度が必要な時刻値など）には、長い時刻形式を選択してください。

データ型 SCLOCK12 と SCLOCK の属性では、カウントも表示できます。カウントは、クロック・データの最後の 4 バイトから取られます。このカウントによって、クロックのタイマー・コンポーネントで記録する時刻を集計していた測定期間の数を判別できます。

属性フィルター

属性フィルターを使用すれば、ビューに表示するレコードを選択して絞り込むことができます。属性フィルターは、入力フィールドとして用意することも、有効な属性値の選択リストとして用意することも可能です。さらに、ビューを使用する環境に合わせて、選択リストを編集することもできます。このビューのユーザーは、それらの属性フィルターをいつでも使用できます。

注: EYU_CICSNAME 属性または EYU_CICSREL 属性、さらには最大長が 256 バイトを超える属性を属性フィルターとして指定することはできません。

パラメーター

パラメーターは、CICSPlex SM 内の各管理対象オブジェクトに使用可能です。

それぞれの管理対象オブジェクトで使用できるパラメーターは、「*CICSPlex System Manager Resource Tables Reference Vol 1*」にリストされています。

アクション・パラメーター・フィールド

アクション・パラメーターを確認パネルに組み込んで、そのアクションが実施される前にユーザーにその 1 つを選択するように要請できます。

パラメーター・フィルター

パラメーター・フィルターは、特定のリソース・タイプに対してのみ使用可能で、「*CICSPlex System Manager Resource Tables Reference Vol 1*」に CICSPlex SM API GET コマンドへのパラメーターとしてリストされています。パラメーター・フィルターを使用すれば、ビューに表示するレコードを選択して絞り込むことができます。パラメーター・フィルターは、ユーザーが値を入力できる入力フィールド、またはユーザーが値を選択する選択リストとして表示できます。このビューのユーザーは、それらのパラメーター・フィルターをいつでも使用できます。

アクション・ボタン

アクション・ボタンによって、リソースを操作することができます。これらのボタンは、表形式ビューおよび詳細ビューにあります。

「create (作成)」アクション・ボタンを除くすべてのアクション・ボタンは、ユーザーによって選択されたビューでそれらのオブジェクトに対して作動します。例えば、CICS 領域の表形式ビューで、シャットダウンする 1 つ以上の CICS 領域を選択して「Shutdown (シャットダウン)」アクション・ボタンを選択すると、選択したすべての領域がシャットダウンされます。詳細ビューでは、アクションはビューに

表示された管理対象オブジェクトだけに影響を与えます。 例えば、ユーザーがファイル・リソースを使用可能または使用不可にできるようにするには、ファイル属性 FILESTATUS の詳細ビューを作成して、属性 CVDA 値の ENABLED および DISABLED が選択リストに表示されるようにすることができます。 ユーザーは必要な値を選択して、「SET (設定)」アクション・ボタンを選択できます。 そのアクション・ボタンのラベルはデフォルトで「Set」となっていますが、そのラベルをカスタマイズして任意のテキストを表示できます。 ユーザーの各国語で表示できる可能性もあります。

作成アクションは、ビューで選択されたオブジェクトには関連していません。 ビュー上に存在するときには作成アクションは常に使用可能であり、表示するデータのないビュー上でも機能します。

アクション・ボタンは、次のいずれかを行うことができます。

- 適切なコマンドを発行します。 これは、確認を必要としない直接のアクションの場合です。 または、
- アクションを確認するためのパネルを表示します。 そのパネルには、追加の入力のためのフィールドがある場合もあります。 これらのアクション・ボタンでは、ラベルの末尾に省略符号が自動的に付加されます。

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースで提供される Web ユーザー・インターフェース・ヘルプに加えて、カスタマイズされたビューおよびメニューに合わせて調整され、自分のビジネス手順に関連した情報を提供するヘルプを作成できます。

ヘルプ・テキストは、ユーザーの各国語で記述することができ、例えば、サイトに特定の連絡名と電話番号または特別な手順などを含むことができます。 カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプは、いくつかの方法で作成できます。 例:

- テキスト・エディターまたは HTML エディターを使用して、HTML を編集できます。
- それをワード・プロセッサーからエクスポートできます。
- Lotus[®] Domino など、Web ブラウザーを介してデータベースへのアクセスを提供するサーバーにリンクできます。

ヘルプ・ページは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーまたは外部サーバーによってサービスが提供されます。

ビューを作成するときに、ビュー・エディターを使用して、カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプへのリンクを組み込むことができます。 オプションは以下のとおりです。

- デフォルトのビュー特定のヘルプ。
- DFHHTML から Web ユーザー・インターフェースによってサービスが提供されるヘルプ・ページのメンバー名。
- 別の HTTP サーバーによってサービスが提供される外部ヘルプ・ページの URL。 外部ヘルプ・ページは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーをターゲットにすべきではありません。

23 ページの『Web ユーザー・インターフェースのヘルプ』
ヘルプ情報は WUI のすべてのビューおよびメニューからアクセス可能です。 3 つのレベルのヘルプが使用可能です。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーによってサービスが提供されるページを作成する際の考慮事項

Web ユーザー・インターフェース・サーバーによってサービスが提供されるヘルプ・ページを作成するとき、以下を考慮する必要があります。

- ヘルプ・ページの名前は 8 文字を超えることができず、大文字と数字から構成される必要があります。
- ワークステーション上でヘルプ・ページを開発するとき、プラットフォームに適した以下のいずれかの拡張子を使用してファイルに名前を付けます。
 - .htm
 - .html
 - .HTM
 - .HTML
- ヘルプ・ページを DFHHTML データ・セットにアップロードするときは、メニュー名として 8 文字のページ名（拡張子を除外して）を使用します。

必要であれば、コンテンツ・ページを作成するなどの目的で、複数のヘルプ・ページ間にリンクを作成することもできます。これを行うには、パスのないページ名（拡張子を含む）を指定する必要があります。例えば、次のようにします。

```
<A HREF="PAGE2.HTM">Another Page</A>
```

これにより、ヘルプ・ページを DFHHTML データ・セットにアップロードする前に、それらのページおよびそれらの間のリンクをテストすることができます。

ヘルプ・ページを DFHHTML データ・セットにアップロードするときは、使用した拡張子には関係なく Web ユーザー・インターフェース・サーバーがページを認識するので、どのリンクも変更する必要はありません。

ビュー・エディターの使用

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのビュー・エディターは、メニュー、ビュー、およびマップ・オブジェクトをカスタマイズするためのツールです。

Web ユーザー・インターフェース表示のナビゲーション・フレームには、ビュー・エディターへのリンクが含まれます。ただし、Web ユーザー・インターフェース・サーバーがセキュリティーをアクティブにして実行している場合、ビュー・エディターは指名されたユーザーだけに制限されます。必要な権限がない限り、ビュー・エディターへのリンクは表示されません。

「CICSplex SM Web User Interface Editor (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・エディター)」画面に戻るか、またはサインオフすることにより、ビュー・エディターを終了する必要があります。

注:

1. INACTIVETIMEOUT 期間に達したために Web ブラウザー・セッションがタイムアウトになる場合、セッションがタイムアウトになる前に保管されていない変更内容は失われます。
2. この情報では、ビュー・エディターを使用してビューを編集する方法の例を示すために、提供されたビューが使用されています。ただし、提供されるビューおよびメニューに対する変更は、保管できません。必要なビュー・セットをコピーしてから、そのコピーを編集する必要があります。130 ページの『タスクの例』を参照してください。
3. ビュー・セット、メニュー、またはマップ・オブジェクトは、編集のために開かれるときには常にロックされます。ビュー・セットまたはメニューが最終的に保管されるか、または編集が中止されるまで、変更内容はコミットされません。ロック中に、他のユーザーは同じビュー・セットまたはメニューを編集できません。ユーザーはビュー・セットまたはメニューの編集中もその使用を続けることができます。その場合、変更内容がコミットされた後にそれが開かれるまでは、ビュー・セットまたはメニューの元のバージョンが使用されます。

ビュー・エディターのアクセス

ビュー・エディターにアクセスするには、ナビゲーション・フレームで「View editor (ビュー・エディター)」を選択します。

ビュー・エディター・セッションが新規ウィンドウで開いて、「CICSplex SM Web User Interface Editor (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・エディター)」画面が表示されます。いつでも同時に複数のビュー・エディター・セッションを実行できます。

Web ユーザー・インターフェース提供のビューおよびメニュー

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースには、提供されたまま使用したり、独自のカスタマイズ・ビューおよびメニューを作成する基として使用できる、ビューおよびメニューのセットが含まれています。

メニューまたはビューの操作時には、システムに提供されたメニュー・セットおよびビュー・セットが選択ボックスにリストされます。そこから、独自のカスタマイズ・ビューの基とするセットを選択することができます。

注: システムに提供されたビュー・セットおよびメニュー・セットへの変更を保管することはできません。EYU で始まるビュー・セット名およびメニュー・セット名は、IBM が使用するために予約されています。システムに提供されたビュー・セットまたはメニュー・セットから必要なものをコピーしてから、コピーを編集してください。

システムに提供されたビューにはすべて EYUSTARTobject という名前が付いています。ここで、object は、CICSplex SM リソース・テーブル名です。

カスタマイズされたメニューの作業

メニューを処理するには、「CICSplex SM Web User Interface Editor (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・エディター)」画面で「Menus (メニュー)」オプションを選択します。

新しいメニューの作成、既存のメニューの編集、既存のメニューのコピー、またはメニューの削除のオプションがあります。

カスタマイズされたビュー・セットの作業

ビューを処理するには、「CICSplex SM Web User Interface Editor (CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・エディター)」画面で「View sets (ビュー・セット)」オプションを選択します。

これによって、「View Set Editor (ビュー・セット・エディター)」画面が、図31に示されているように開きます。新しいビュー・セットの作成、既存のビュー・セットの編集、既存のビュー・セットのコピー、またはビュー・セットの削除のオプションがあります。

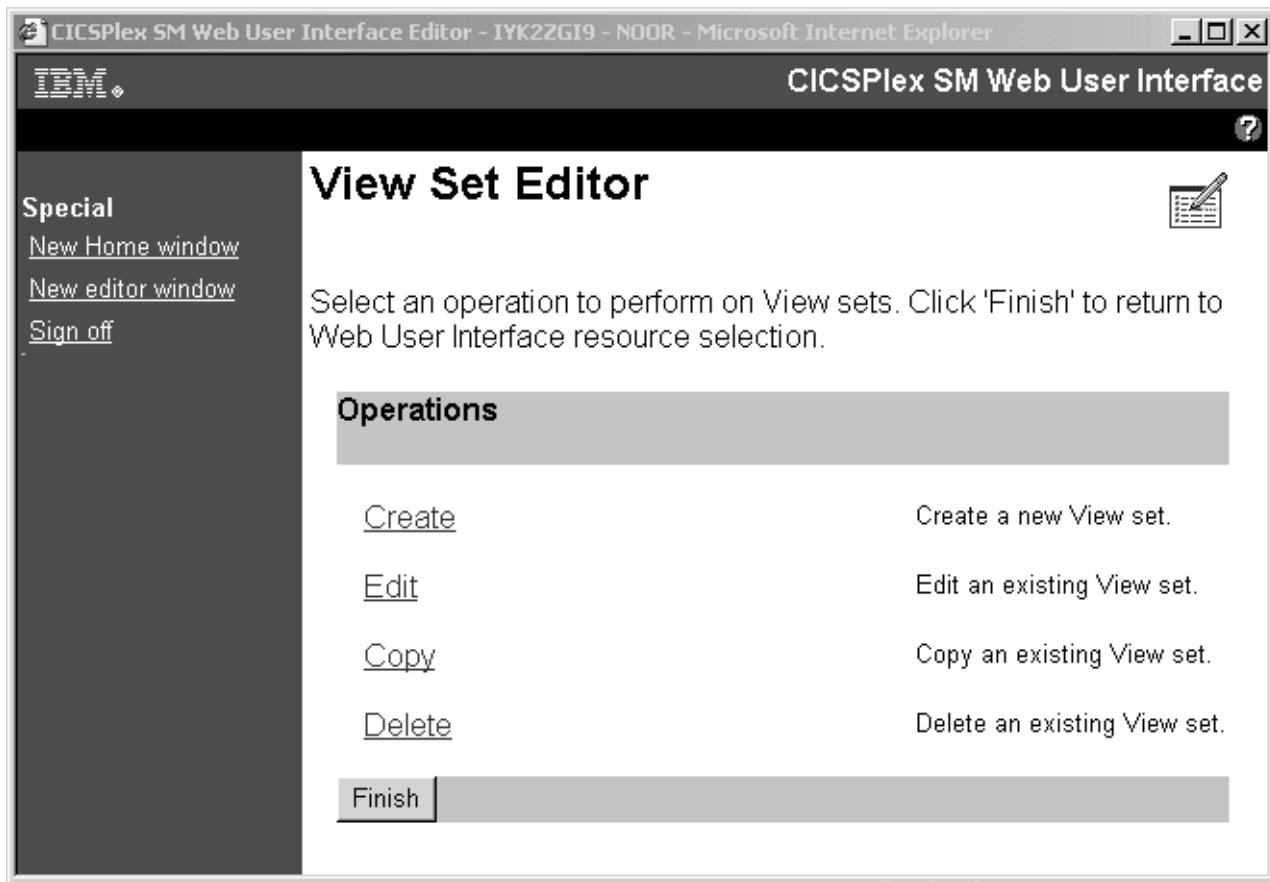


図31. 「View Set Editor (ビュー・セット・エディター)」画面

作成する各ビュー・セットは、操作ビューまたはリソース・タイプなどの 1 つの管理下オブジェクトに基づいています。ビュー・セットが既に作成されている場合、指定されたオブジェクトに基づいて、1 つ以上のビューを作成できます。

既存のビューを編集するには、「View Set Editor (ビュー・セット・エディター)」画面の「Edit (編集)」リンクをクリックします。「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面が、115 ページの図32に示されているように表示されます。

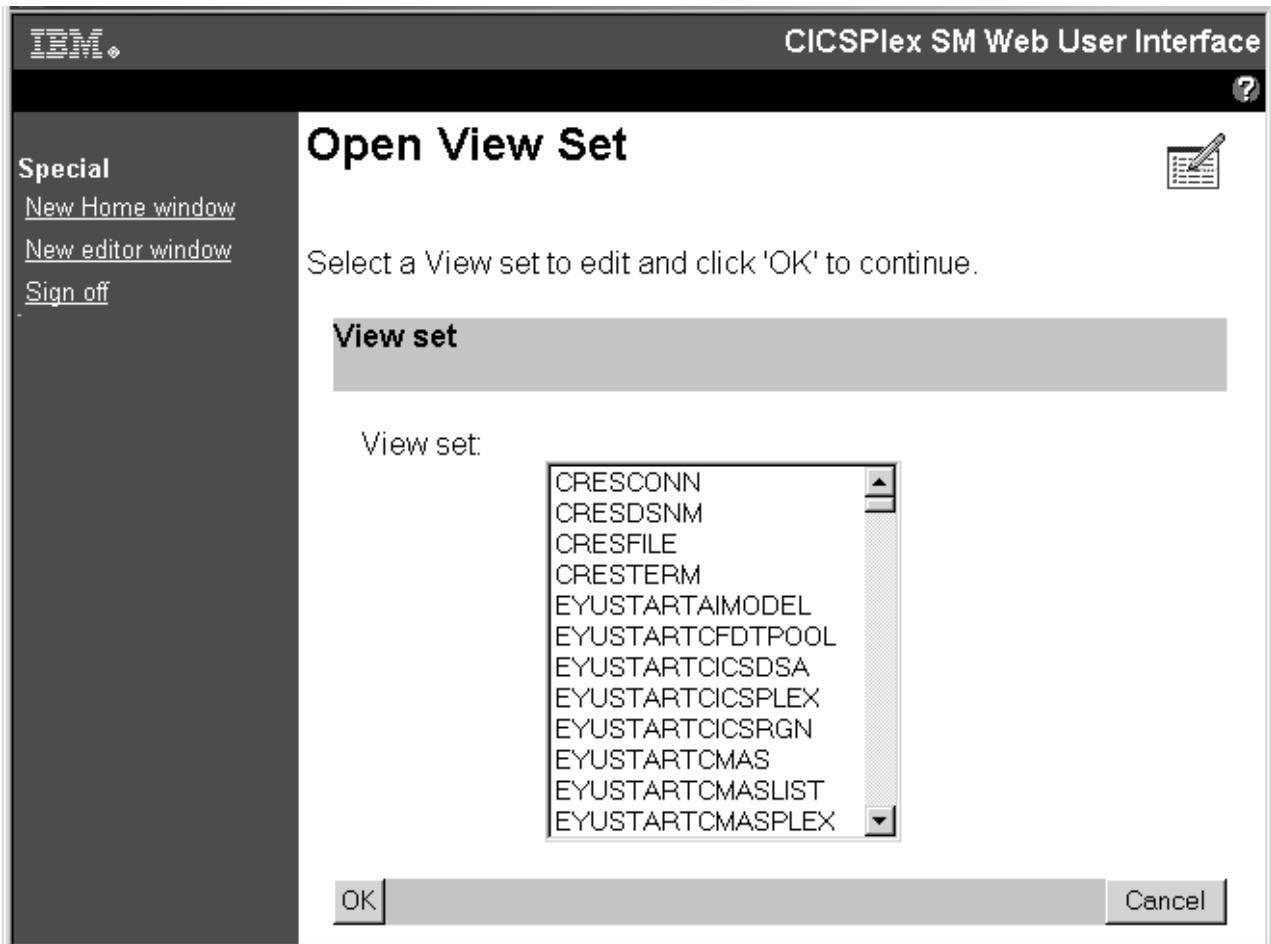


図32. 「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面

「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面で、116ページの図33に示されている画面に似た「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で表示するために編集するビュー・セットを選択できます。この画面は、選択されたビュー・セット EJBS に表形式ビューおよび詳細ビューが含まれることを示しています。

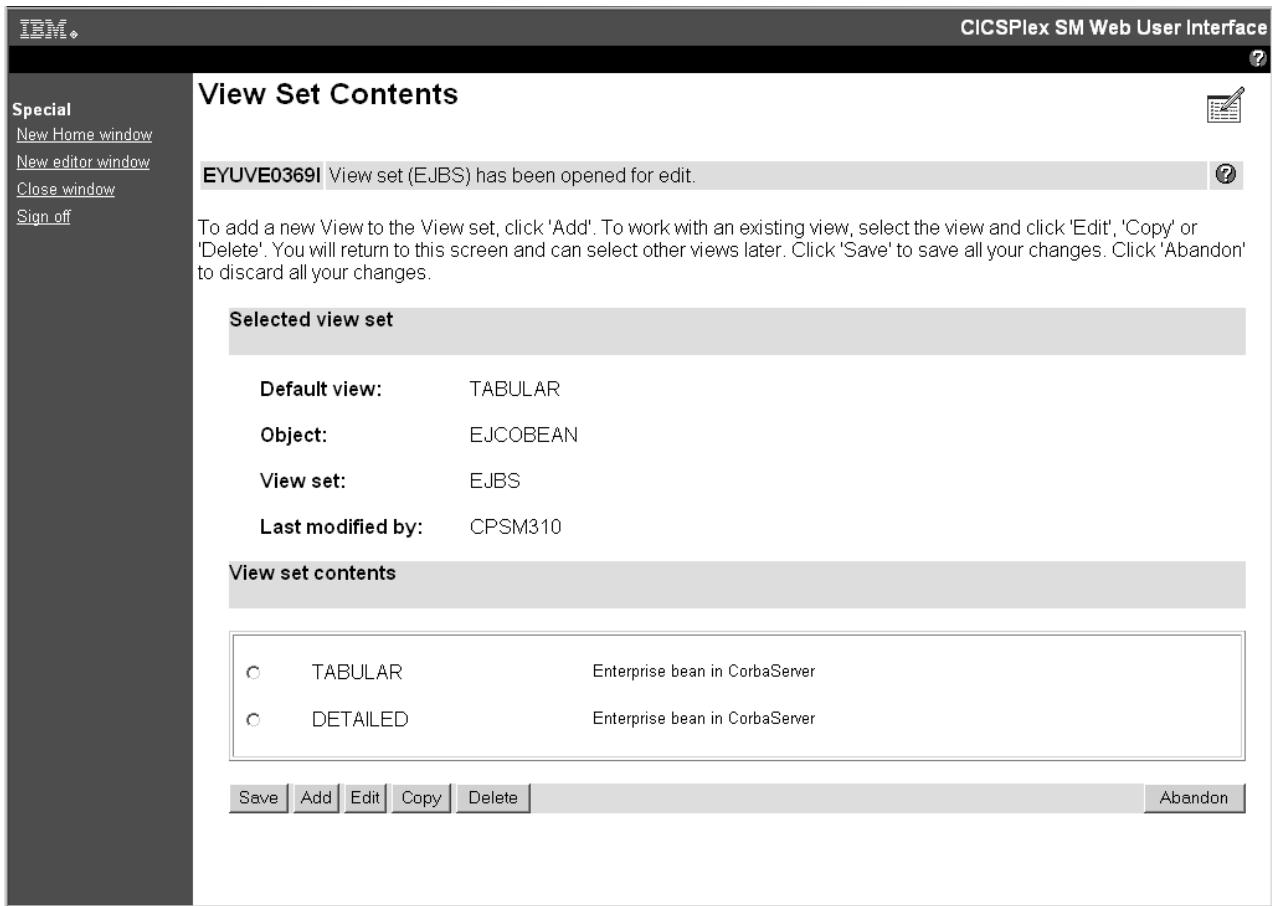


図33. 「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面

「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で、作業中のビュー・セットに対して、新規のビューの追加、既存のビューの編集、コピー、または削除ができます。

カスタマイズされたビューの作業

既存のビューを編集するには、「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面でビューに対するラジオ・ボタンを選択してそのビューを選択してから、「Edit (編集)」をクリックします。

一度に 1 つのビューを選択して編集できます。ビューを編集した後に「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面が再表示されて、必要であれば別のビューを選択して編集できるようになります。

例えば、「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で表形式ビューを選択すると、117 ページの図 34 に示されている「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面が表示されます。

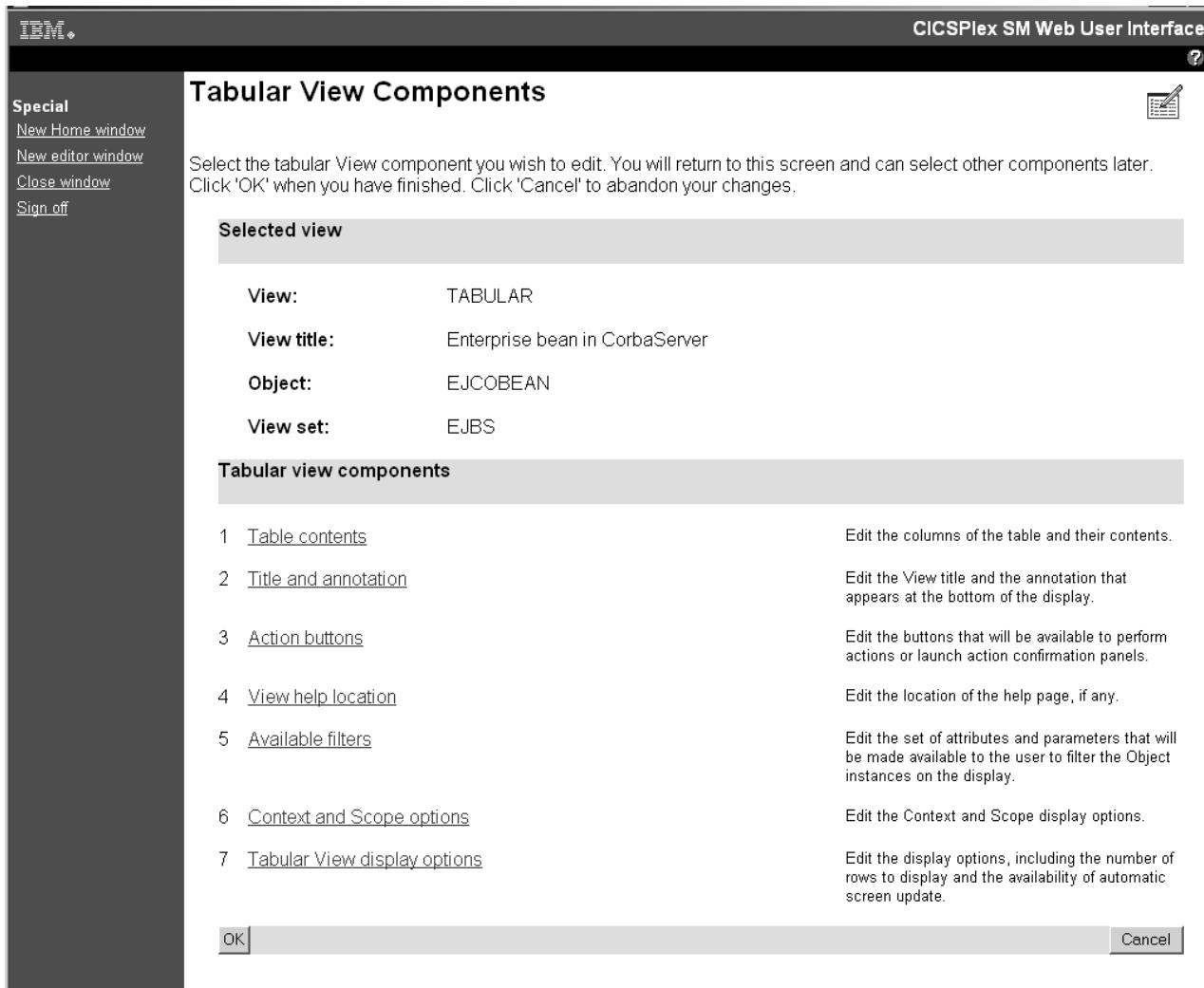


図34. 「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面

「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面で、編集するコンポーネントを選択すると、新しい画面が表示されます。選択結果の編集が終了すると「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面に戻って、別のコンポーネントを選択して編集できるようになります。「OK (了解)」をクリックして「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面に戻るか、または「Cancel (取り消し)」をクリックしてこのビューで行ったすべての変更内容を放棄してから「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面に戻ります。

例えば、EJBS 表形式ビューの列および内容を編集するには、「Table contents (テーブル内容)」コンポーネントを選択します。これにより、118 ページの図 35 に示されている「Table Contents (テーブル内容)」画面が表示されます。

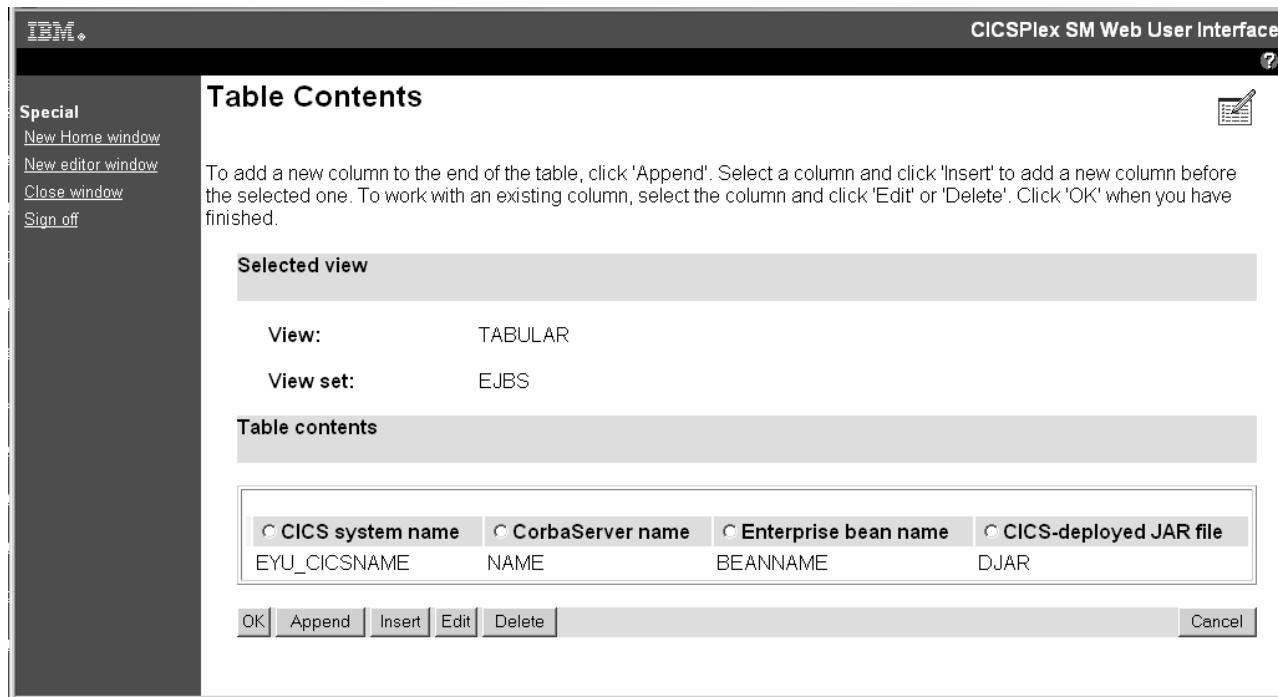


図 35. 「Table Contents (テーブル内容)」画面

「Table Contents (テーブル内容)」画面から、以下のことを行えます。

- ・「Append (追加)」をクリックして、列が選択されている場合でも、テーブルの最後に新規列を追加します。
- ・列を選択し、「Insert (挿入)」をクリックすると新規の列が選択された列の前に追加されます。
- ・列を選択し、「Edit (編集)」をクリックすると、列の内容を編集できます。
- ・列を選択し、「Delete (削除)」をクリックすると、列が削除されます。

列を選択するには、列のタイトル・ボックスにあるラジオ・ボタンを選択します。

「Table Contents (テーブル内容)」画面の編集が終了したときには、「OK (了解)」をクリックして「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面に戻ります。この画面から、「Journal Name (ジャーナル名)」ビューで使用可能なアクション・ボタンの作業を行う決定をすることができます。

EJBS ビューで使用可能なアクション・ボタンを編集するには、アクション・ボタン・コンポーネントを選択します。これにより、「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面が表示されます。

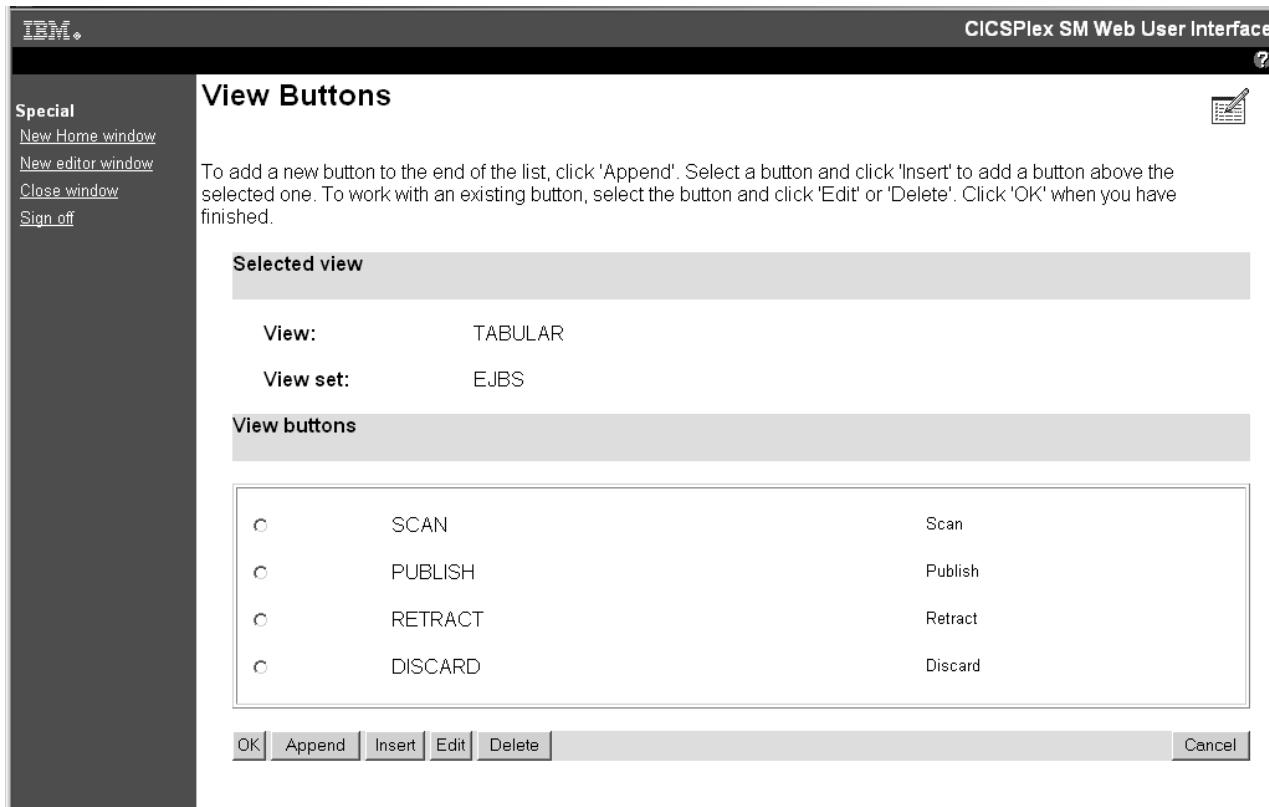


図36. 「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面

「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面で、新規のボタンを追加できます。この画面で指示されているように、「Append (追加)」ボタンをクリックして、「New View Button (新規ビュー・ボタン)」を表示します。

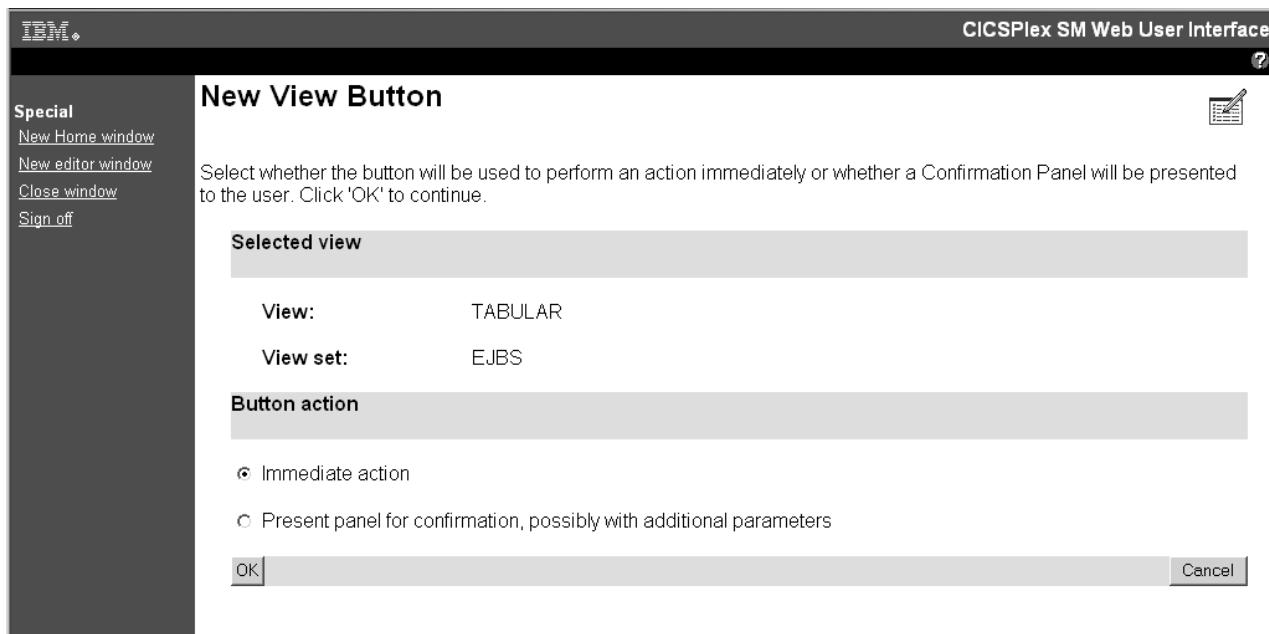


図37. 「New View Button (新規ビュー・ボタン)」画面

「New View Button (新規ビュー・ボタン)」画面で、以下のようにボタン・アクションを選択できます。

- ・「Immediate Action (即時アクション)」ラジオ・ボタンを選択すると、遅れることなくアクションを実行します。
- ・確認画面のラジオ・ボタンを選択すると、アクションが実行される前に確認画面が表示されます。

確認画面のオプションを選択した場合、「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面が表示されます。

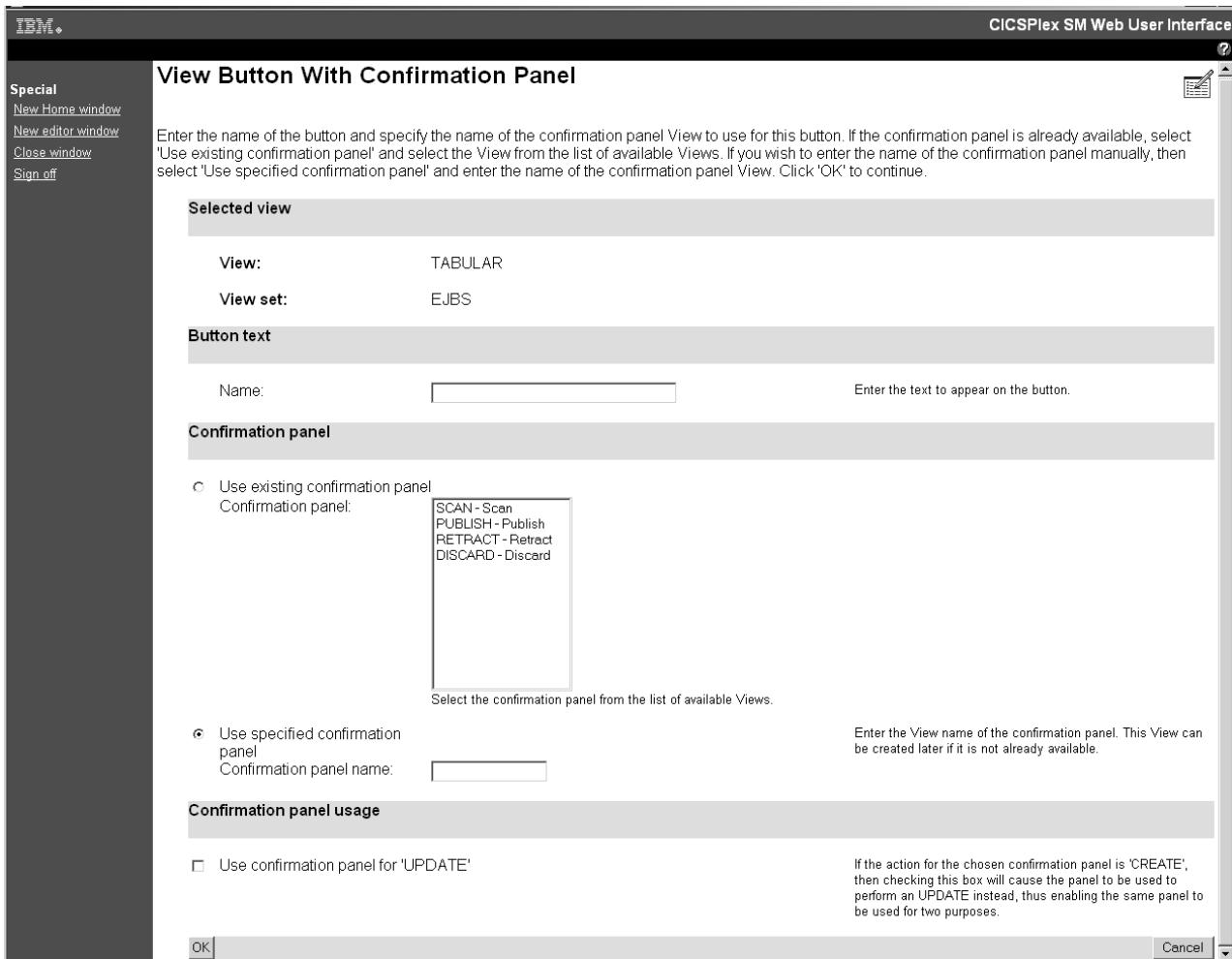


図38. 「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面

「View Button With Confirmation Panel (確認パネルのビュー・ボタン)」で指示されているように、「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面でボタンの名前を指定してから、使用可能なビューのリストから既存の確認画面を選択するか、または新規の確認画面名を入力します。新規の確認画面が存在しない場合には、後で作成できます。

新しいボタンが作成アクションに使用するためのものである場合、画面の確認パネル使用セクションにあるチェック・ボックスを選択することにより、それを更新アクションに使用するように設定することもできます。

表形式ビューを編集した後に 117 ページの図 34 に示されている「**Tabular View Components** (表形式ビューのコンポーネント)」画面で「OK (了解)」ボタンをクリックすると、116 ページの図 33 に示されている「**View Set Contents** (ビュー・セットの内容)」画面が再表示されて、変更内容を表形式ビューに保管すること、またはビュー・セット内の別のビューを扱うことができます。

注: いくつかの属性フィールドは CICS CMF パフォーマンス・クラスのモニター・データから派生したものです。これらのフィールドが正常に機能するためには、CICS システム初期設定パラメーター MNPER および MNRES を YES に設定することにより、CICS モニター機能をアクティブにする必要があります。

ビュー・コンポーネントの作業

「**Tabular View Components** (表形式ビューのコンポーネント)」画面で、編集するコンポーネントを選択すると、新しい画面が表示されます。

選択結果の編集が終了すると「**Tabular View Components** (表形式ビューのコンポーネント)」画面に戻って、別のコンポーネントを選択して編集できるようになります。「OK (了解)」をクリックして「**View Set Contents** (ビュー・セットの内容)」画面に戻るか、または「Cancel (取り消し)」をクリックしてこのビューで行ったすべての変更内容を放棄してから「**View Set Contents** (ビュー・セットの内容)」画面に戻ります。

例えば、**EJBS** 表形式ビューの列および内容を編集するには、「**Table contents** (テーブル内容)」コンポーネントを選択します。これにより、図 39 に示されている「**Table Contents** (テーブル内容)」画面が表示されます。

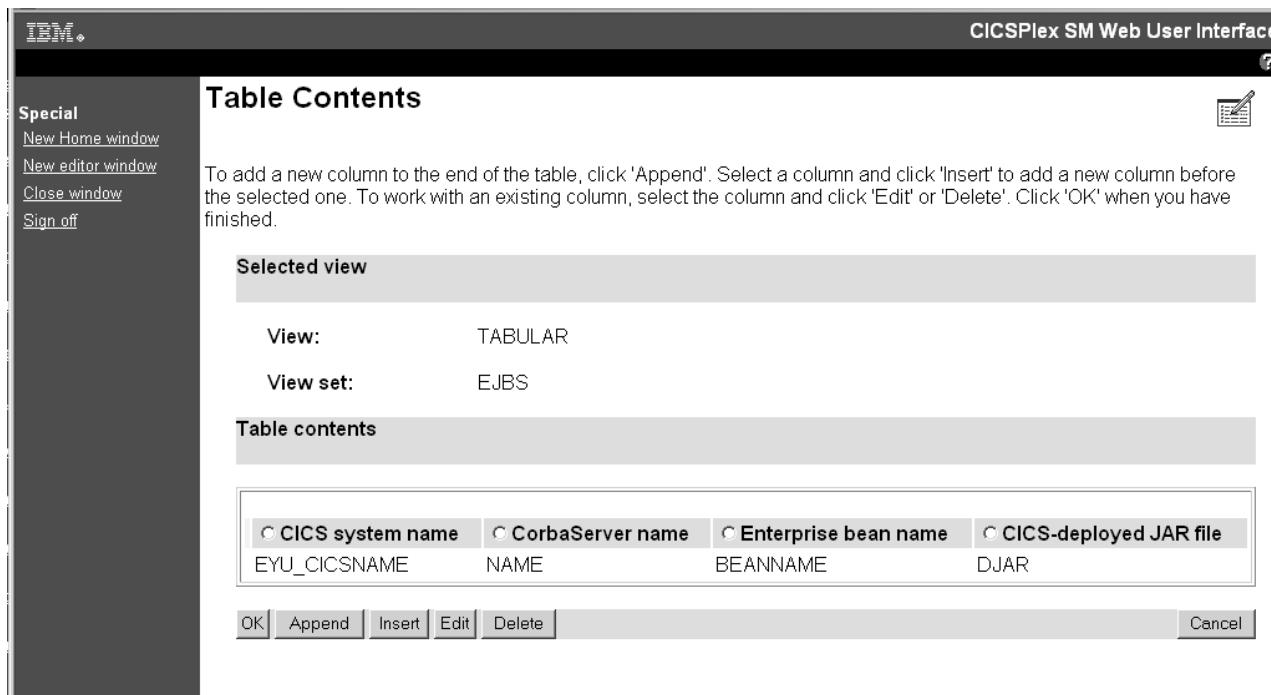


図 39. 「Table Contents (テーブル内容)」画面

「Table Contents (テーブル内容)」画面から、以下のことを行えます。

- ・「Append (追加)」をクリックして、列が選択されている場合でも、テーブルの最後に新規列を追加します。
- ・列を選択し、「Insert (挿入)」をクリックすると新規の列が選択された列の前に追加されます。
- ・列を選択し、「Edit (編集)」をクリックすると、列の内容を編集できます。
- ・列を選択し、「Delete (削除)」をクリックすると、列が削除されます。

列を選択するには、列のタイトル・ボックスにあるラジオ・ボタンを選択します。

「Table Contents (テーブル内容)」画面の編集が終了したときには、「OK (了解)」をクリックして「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面に戻ります。この画面から、「Journal Name (ジャーナル名)」ビューで使用可能なアクション・ボタンの作業を行う決定をすることができます。

EJBS ビューで使用可能なアクション・ボタンを編集するには、アクション・ボタン・コンポーネントを選択します。これにより、図 40 に示されている「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面が表示されます。

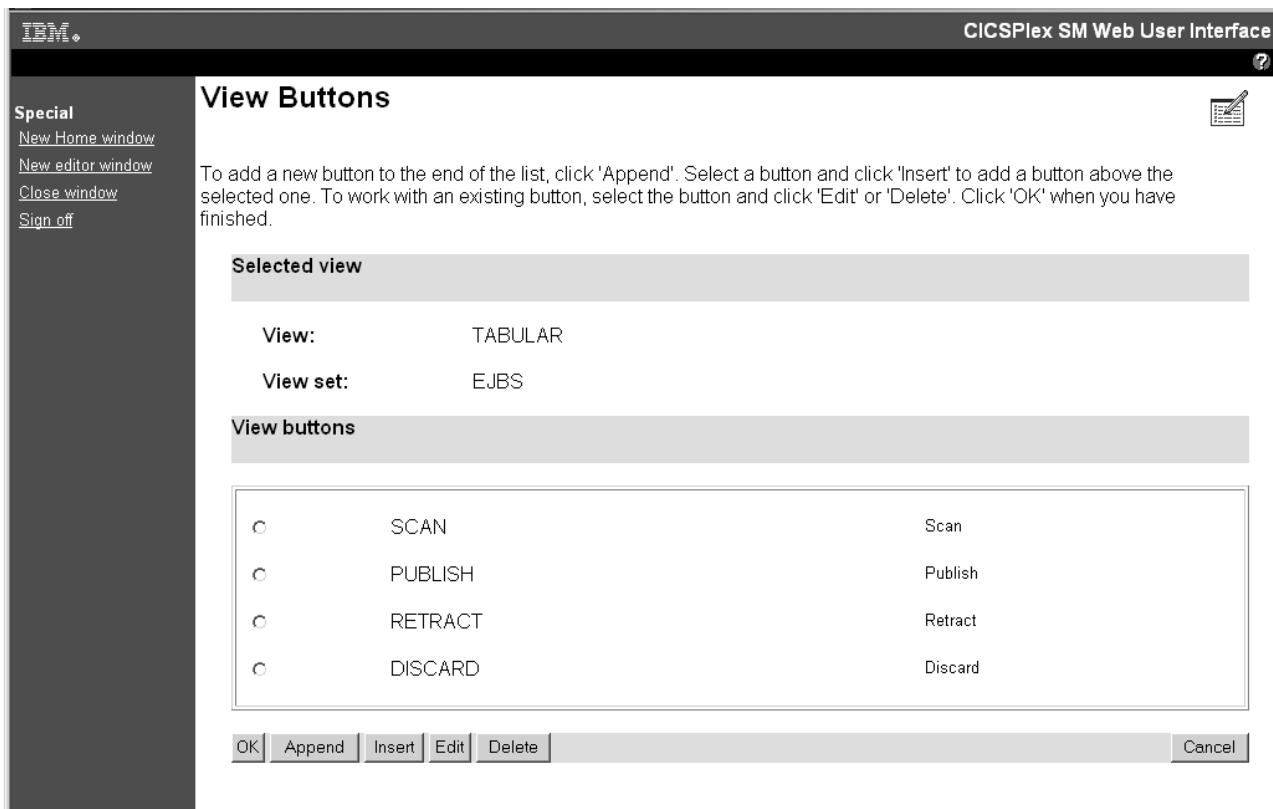


図 40. 「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面

「View Buttons (ビュー・ボタン)」画面で、新規のボタンを追加できます。この画面で指示されているように、「Append (追加)」ボタンをクリックして、123 ページの図 41 に示されている「New View Button (新規ビュー・ボタン)」を表示します。

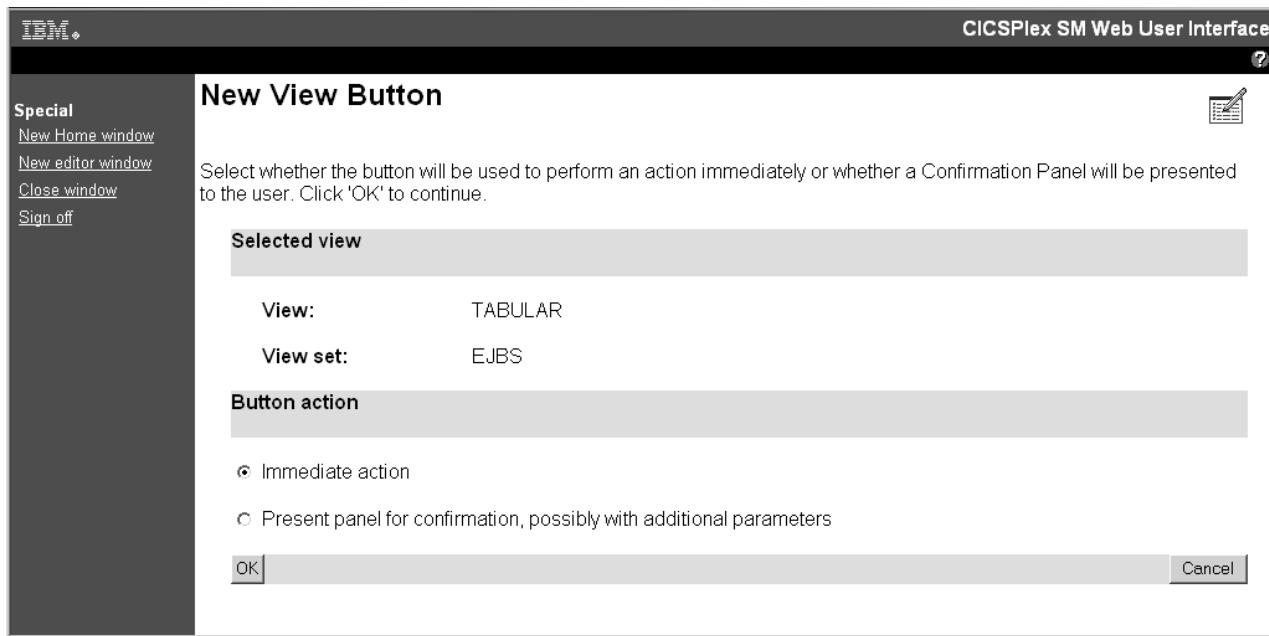


図 41. 「New View Button (新規ビュー・ボタン)」画面

「New View Button (新規ビュー・ボタン)」画面で、以下のようにボタン・アクションを選択できます。

- ・「Immediate Action (即時アクション)」ラジオ・ボタンを選択すると、遅れることなくアクションを実行します。
- ・確認画面のラジオ・ボタンを選択すると、アクションが実行される前に確認画面が表示されます。

確認画面のオプションを選択した場合、124 ページの図 42 に示されている「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面が表示されます。

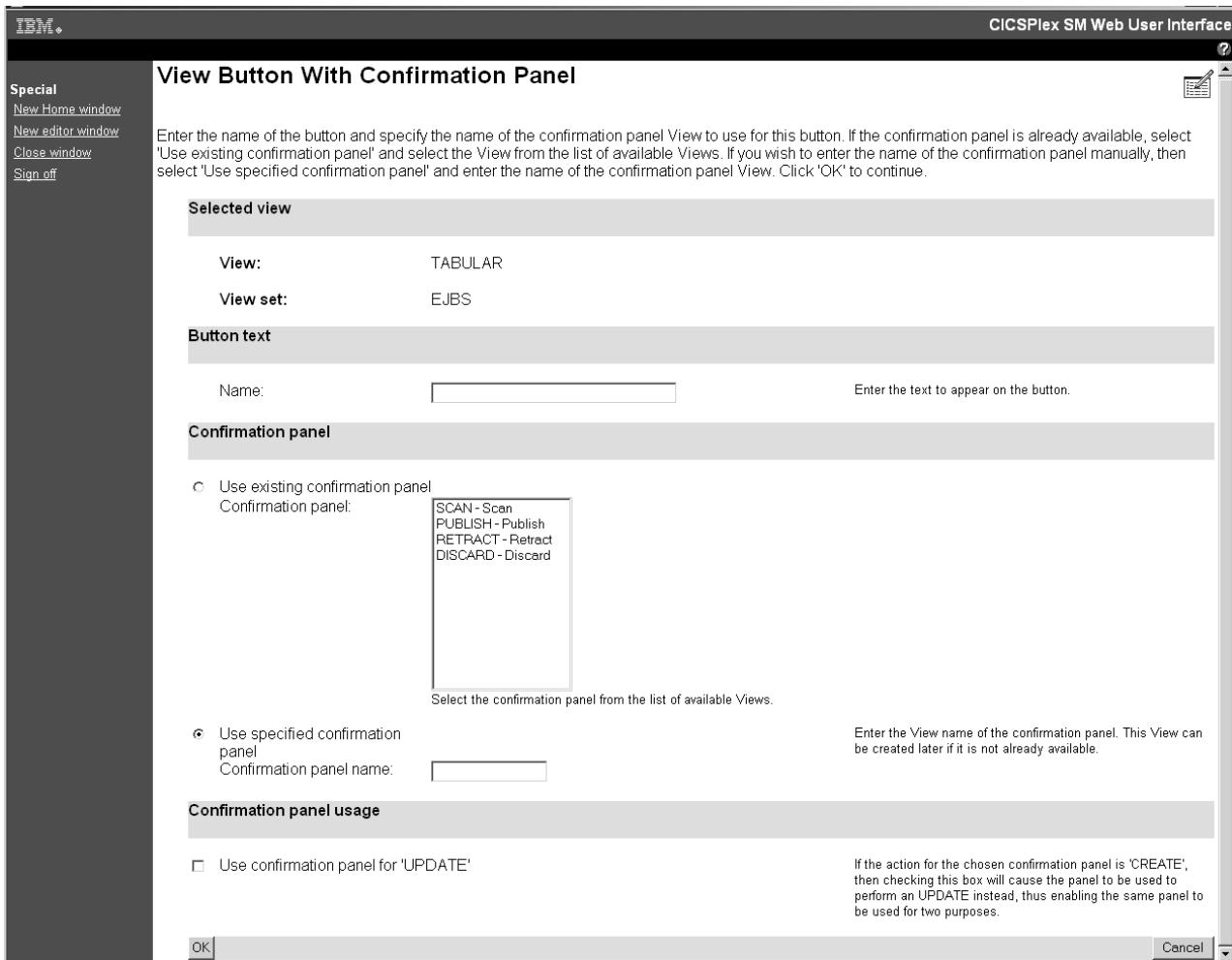


図 42. 「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面

「View Button With Confirmation Panel (確認パネルのビュー・ボタン)」で指示されているように、「View Button With Confirmation (確認のあるビュー・ボタン)」画面でボタンの名前を指定してから、使用可能なビューのリストから既存の確認画面を選択するか、または新規の確認画面名を入力します。新規の確認画面が存在しない場合には、後で作成できます。

新しいボタンが作成アクションに使用するためのものである場合、画面の確認パネル使用セクションにあるチェック・ボックスを選択することにより、それを更新アクションに使用するように設定することもできます。

表形式ビューを編集した後に 117 ページの図 34 に示されている「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面で「OK (了解)」ボタンをクリックすると、116 ページの図 33 に示されている「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面が再表示されて、変更内容を表形式ビューに保管すること、またはビュー・セット内の別のビューを扱うことができます。

注: いくつかの属性フィールドは CICS CMF パフォーマンス・クラスのモニター・データから派生したものです。これらのフィールドが正常に機能するためには、CICS システム初期設定パラメーター MNPER および MNRES を YES に設定することにより、CICS モニター機能をアクティブにする必要があります。

カスタマイズしたマップ・オブジェクトの使用

ビュー・エディターを使用して、カスタマイズされたマップ・オブジェクトを作成および編集できます。

カスタマイズされたビュー上のマップ機能の使用可能化

カスタマイズされたビュー上のマップ機能を使用可能にするには、ビュー・エディターを使用してマップ・ボタンを追加します。

始める前に

マップ・ボタンは、定義オブジェクトに関連する任意の表形式ビューまたは詳細ビューに追加できます。

このタスクについて

以下のタスクは、マップ・ボタンを表形式ビューに追加する方法を説明しています。 タスクは、この操作のターゲットとして表形式ビューを既に作成していることを想定します。 マップ・ボタンを詳細ビューに追加する場合、手順は同じですが、「**Tabular View Components** (表形式ビューのコンポーネント)」画面は「**Detailed Form Components** (詳細フォームのコンポーネント)」画面に置き換えられます。

手順

1. ビュー・エディターを開いて、「View sets (ビュー・セット)」>「Edit (編集)」とクリックしてから、ターゲット・ビューを含むビュー・セットをリストから選択します。
2. 「OK (了解)」をクリックして、選択されたビュー・セット内のすべてのビューをリストする「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」パネルを開きます。
3. リストからターゲット・ビューを選択して、「Edit (編集)」をクリックすることにより、「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」パネルを開きます。
4. 「Tabular View display options (表形式ビューの表示オプション)」をクリックして、「View display options (ビューの表示オプション)」パネルを開きます。 パネルには、いくつかの見出しが表示されます。
5. 「Map button (マップ・ボタン)」セクションにスクロールして、「Map button available (マップ・ボタン使用可能)」を選択します。「OK (了解)」をクリックして、「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」パネルに戻ります。
6. ビューに対してそれ以上の変更を行わないと想定して、「OK (了解)」をクリックして「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」パネルに戻ってから、「Save (保管)」によって操作を確定します。

タスクの結果

これで、ビューにマップ・ボタンが含まれるようになりました。期間定義での「Monitoring (モニター)」および「RTA」などのように、選択されたリソース・タイプが複数のタイプのマップを生成できる場合、ビューにはマップ・ボタンの隣にある使用可能なすべての選択項目をリストしたドロップダウン・ボックスも含まれます。

次のタスク

新しくカスタマイズされたビューで「Map (マップ)」をクリックすると、関連定義のマップが生成されます。別の方法を指定したのではなければ、生成されるマップは、そのリソース・タイプのデフォルトで提供されるマップ・オブジェクトをベースとします。カスタマイズされたマップを、システム・セットアップ中に WUI サーバー初期設定パラメーターに指定するか、またはユーザー・グループ・プロファイル内の特定のユーザー・グループに対して指定することにより、この動作を変更することができます。

カスタマイズしたマップ・オブジェクトの作成

リソース・タイプ用に独自のマップ・オブジェクトを作成して、マップのハイパーリンクをカスタマイズすることができます。このプロセスには、2つの段階があります。最初にビュー・エディターを使用してマップを作成し、次にそれをリソースと関連付けてアクセス可能にします。

始める前に

ビュー・エディターには、127 ページの図 43 に示されているように、ユーザーが独自のマップを作成および編集するためのいくつかのパネルが組み込まれています。

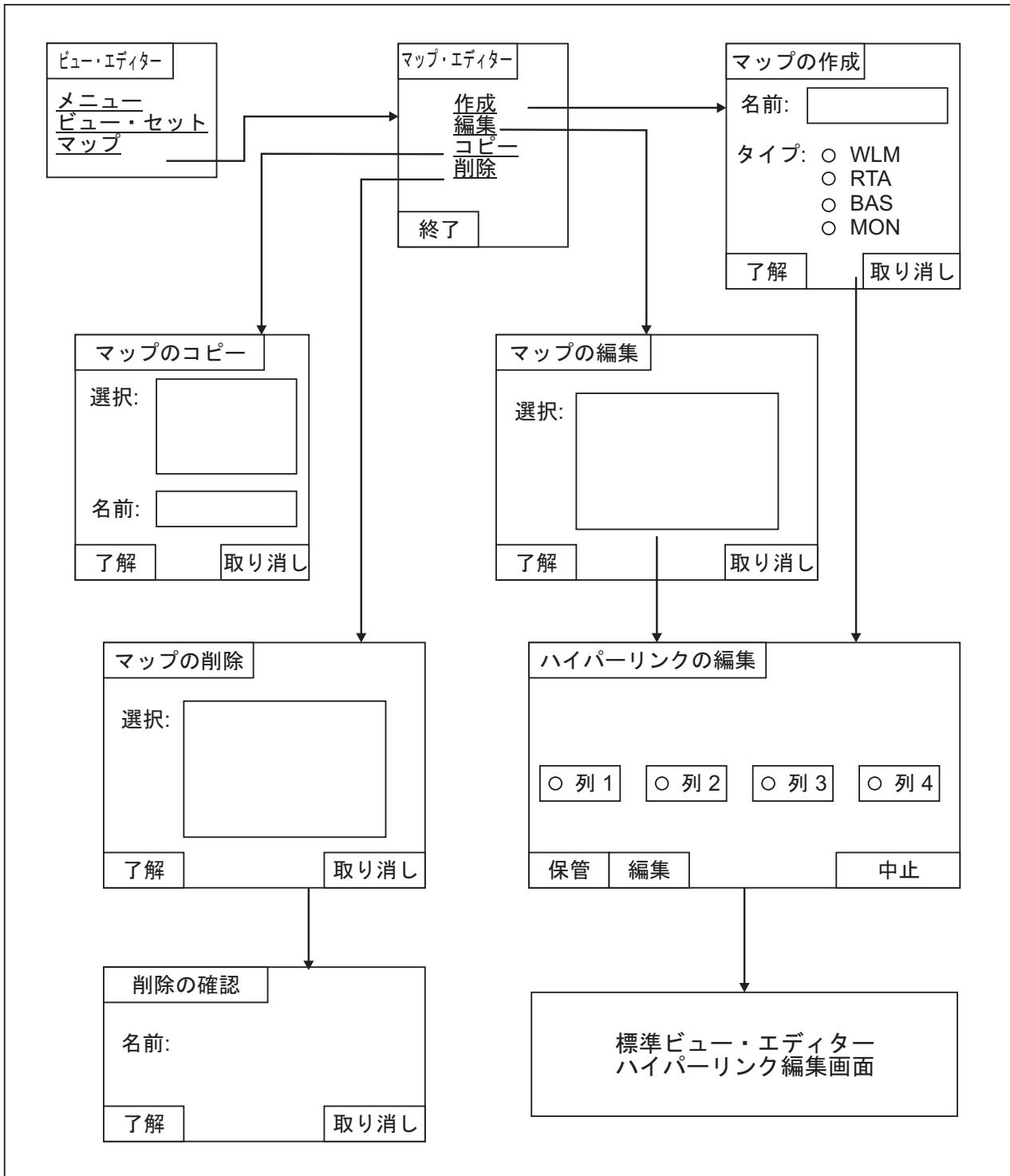


図43. ビュー・エディター内のマップ編集パネル

マップに含まれるもののはほとんどは、変更できない標準の要素です。独自のマップ・オブジェクトを作成する目的は、マップのハイパーリンクをカスタマイズすることです。提供されたマップでは、リソース名の1つをクリックすると、そのリソース定義の詳細ビューが表示されます。カスタマイズされたマップ・オブジェクトでは、カスタマイズされたビューを含む同じオブジェクト・タイプに関連する任意の詳細ビューにリンクするように、この動作を変更できます。例えば、

CSYSDEF リソースから任意の CSYSDEF 関連のビューにリンクできます。ただし、CSYSDEF リソースから例えば PROGDEF 関連のビューにはリンクできません。

マップを作成および編集するためには、その前にマップ・オブジェクトに最も適合するセキュリティー・プロファイルに対する更新権限を持っている必要があります。フォーム **EYWUW1.wui_server_applid.MAP.mapname** のセキュリティー・プロファイルは、外部セキュリティー・マネージャー内のマップ・オブジェクトへのアクセスを管理します。

COVC トランザクションを使用して、カスタマイズされたマップ定義をインポートおよびエクスポートできます。

このタスクについて

新しいマップ・オブジェクトを作成する方法は 2 つあり、既存のものをコピーして名前変更するか、または最初から新規に作成します。それらの手順はよく似ています。最初から作成するためには、以下の手順に従ってください。

手順

1. ビュー・エディターを開き、「Maps (マップ)」をクリックしてメインの「Map Editor (マップ・エディター)」パネルを開きます。そこからマップの作成、編集、コピー、または削除を作成できます。
2. 「Create (作成)」をクリックして、「Create Map (マップの作成)」パネルを開きます。
3. 新しいマップ・オブジェクトの名前を入力します。マップ・オブジェクト名は文字と数字で 16 文字以内にしてください。
4. 作成するマップのタイプを、ワーコロード管理 (WLM)、リアルタイム分析 (RTA)、ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS)、またはモニター (MON) から選択します。いずれかを選択し、「OK (了解)」をクリックして続行します。「Edit Hyperlinks (ハイパーリンクの編集)」パネルが開いて、新しいマップでのリソース列が表示されます。列の数は、作成するマップのタイプによって異なります。BAS、WLM、およびモニター・マップには 5 のリソース列があり、RTA マップには 6 あります。
5. 列を選択し、「Edit (編集)」をクリックして、ハイパーリンクを設定します。「Target view set (ターゲット・ビュー・セット)」パネルが開きます。
6. ハイパーリンクのターゲット・ビューを含むビュー・セットを選択するか、またはビュー・セットの名前を入力して、「OK (了解)」をクリックします。
7. これにより、「Target View (ターゲット・ビュー)」パネルが開きます。このパネルには、以下の 3 つの選択項目があります。
 - 「Default View name (デフォルト・ビュー名)」を選択すると、リソース・タイプに対してデフォルトの提供されたビューにリンクします。
 - 「Use an existing View (既存のビューを使用)」を選択してリストからビューを選択すると、既存の提供されたビューまたはカスタマイズされたビューにリンクします。
 - 「Use a specified View (指定のビューを使用)」を選択してビュー名を入力すると、まだ作成されていない新しいビューにリンクします。

いずれかを選択し、「OK (了解)」をクリックして続行します。これにより、「Edit Hyperlinks (ハイパーアリンクの編集)」パネルに戻ります。ステップ 7 で選択した列に対するハイパーアリンクが設定されました。これで、ステップ 5 から 7 を繰り返すことにより、他の列の設定を続行できます。

8. ハイパーアリンクの設定が終了したとき、「Edit Hyperlinks (ハイパーアリンクの編集)」パネルで「Save (保管)」をクリックして、新しいマップ画面をデータ・リポジトリに保管します。メッセージ EYUVE1030I により、操作が正常に完了したことを見つめます。

タスクの結果

新しいマップ・オブジェクトを作成するための代わりの方法は、既存のものをコピーして編集することです。これを行うには、「Map Editor (マップ・エディター)」パネルから「Copy (コピー)」を選択し、既存のマップを選択してからそれに新しい名前を指定します。ここで、「Map Editor (マップ・エディター)」パネルから「Edit (編集)」を選択して、新しいマップのハイパーアリンクを更新できます。

マップ・オブジェクトを作成したら、それを使用する前に適切なリソース・タイプと関連付ける必要があります。以下の 2 つの方法でこれを行うことができます。

- 以下の WUI サーバー初期設定パラメーターを使用して、WUI を構成するときに関連を指定できます。

DEFAULTMAPBAS、BAS マップ用
DEFAULTMAPMON、モニター・マップ用
DEFAULTMAPRTA、RTA マップ用
DEFAULTMAPWLM、WLM マップ用

- ユーザー・グループ・プロファイル内で関連を指定することにより、異なるユーザーのグループに異なるマップ関連を指定できます。この方式を使用すると、WUI サーバーを停止して再構成する必要がありません。

更新の適用または拒否

ビュー・エディターには、更新をコミットまたは取り消すためのボタンが備わっています。

取り消し

画面によって表される操作、およびその操作の一部として行われた変更を取り消します。

了解 変更を実行依頼して続行します。

終了 前の画面に戻ります。

保管 ビュー・セットまたはメニューに関連付けられた変更を、Web ユーザー・インターフェース・サーバーのリポジトリに保管します。

中止 ビュー・セットまたはメニューに関連付けられた変更を、Web ユーザー・インターフェース・サーバーのリポジトリに保管しません。

ビュー・エディター・パネルでは、「Cancel (取り消し)」と「OK (了解)」ボタン、および「Save (保管)」と「Abandon (中止)」ボタンが一緒に表示されます。

注: INACTIVETIMEOUT 期間に達したために Web ブラウザー・セッションがタイムアウトになる場合、セッションがタイムアウトになる前に保管されていない変更内容は失われます。 を参照してください。

タスクの例

2 つの典型的なタスクにより、Web ユーザー・インターフェースのビュー・エディターによって提供されるいくつかのカスタマイズ機能が例示されています。 どちらの場合も、提供されるビュー・セットが開始点となります。

ビュー・エディターは、スクリーン内の追加の指示によってガイドします。

ビュー・リンクおよび属性フィルターの使用

このサンプル・タスクは、基本設備が端末である場合に、タスク・リソースの表形式ビューから端末情報を表示する詳細ビューにリンクする方法を説明しています。

このタスクには、提供されたビューのコピーを編集して FACILITY 属性のための新しい列を追加すること、条件付きリンクを設定すること、および属性フィルターを提供することが含まれます。

FACILITY 属性列は、属性に端末 ID が含まれる場合に、TERMNL リソースのビューにリンクするために定義されます。 これは、FACILITYTYPE 属性の値によって条件付けられるリンクを作成することと、属性フィルターを使用してターゲット・リソースの TERMID がソースの FACILITY と等しくなるように指定することによって行われます。

属性について詳しくは、「*CICSPlex System Manager Resource Tables Reference*」を参照してください。

1. ビュー・セットの準備

- a. 提供されたビュー・セット EYUSTARTTASK を新しい名前 TASKVIEWSET でコピーします (この名前は例にすぎません)。
- b. 「View Set Editor (ビュー・セット・エディター)」画面で「Edit (編集)」をクリックして、「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面でリストから TASKVIEWSET を選択します。
- c. 「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で、TABULAR という名前のビューを選択して、「Edit (編集)」ボタンをクリックします。

2. 列の追加

- a. 「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面で、「Table contents (テーブル内容)」を選択します。 テーブルのレイアウトが表示されます。
- b. 列見出しにあるラジオ・ボタンを選択して、「User ID (ユーザー ID)」列を選択します。「Insert (挿入)」ボタンをクリックします。 これにより、新しい列が「User ID (ユーザー ID)」列の前に挿入されます。
- c. 「New Table Column Attribute (新規テーブル列の属性)」画面で、属性リストから FACILITY を選択して「OK (了解)」をクリックします。

3. 条件付きリンクの作成

- a. 「Table Column Components (テーブル列のコンポーネント)」画面で、「View links (ビュー・リンク)」をクリックします。

- b. 「View Links (ビュー・リンク)」画面で、「Append (追加)」をクリックします。
 - c. 「New View Link Type (新規ビュー・リンク・タイプ)」画面で、「View set (ビュー・セット)」ラジオ・ボタンを選択して別のビュー・セット内のビューにリンクしてから、「OK (了解)」をクリックします。
 - d. 「View Link Condition (ビュー・リンク条件)」画面で、「View link conditional on Attribute (属性によって条件付けられるビュー・リンク)」チェック・ボックスがデフォルトで選択されます。 FACILITYTYPE を選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - e. 「View Link Components (ビュー・リンク・コンポーネント)」画面で、「Condition test (条件テスト)」を選択します。
 - f. 「View Link Condition (ビュー・リンク条件)」画面で、条件属性テストのラジオ・ボタン「Is valid and equal to (有効かつ等しい)」を選択して、選択リストから TERM を選択します。「OK (了解)」をクリックします。
4. ターゲット・ビュー・セットおよびビューの指定
 - a. 「View Link Components (ビュー・リンク・コンポーネント)」画面で、「Target (ターゲット)」を選択します。
 - b. 「Local Target Link (ローカル・ターゲット・リンク)」画面で、「Target view set selected from list (リストから選択されるターゲット・ビュー・セット)」ラジオ・ボタンがデフォルトで選択されます。 提供されているビューの名前 EYUSTARTTERMNL を選択リストから選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - c. 「Confirm Object for View Set (ビュー・セットに対するオブジェクトの確認)」画面で、オブジェクト・タイプ TERMNL が既に強調表示されていることを確認してから、「OK (了解)」をクリックします。
 - d. 「Target View (ターゲット・ビュー)」画面で、「Target view selected from list (リストから選択されるターゲット・ビュー)」ラジオ・ボタンを選択してから、DETAILED という名前のビューを選択して、「OK (了解)」をクリックします。
5. ターゲット選択基準の指定
 - a. 「View Link Components (ビュー・リンク・コンポーネント)」画面で、「Context and Scope (コンテキストおよびスコープ)」を選択します。
 - b. 「View Link Context and Scope Settings (ビュー・リンク・コンテキストおよびスコープ設定)」画面で、コンテキストおよび CMAS コンテキスト・デフォルトを保持します。「Set to value of attribute (属性の値に設定)」ラジオ・ボタンを選択して、スコープ設定を変更します。 EYU_CICSNAME を選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - c. 「View Link Components (ビュー・リンク・コンポーネント)」画面で、「Filter attributes and parameters (フィルター属性とパラメーター)」を選択します。
 - d. 「View Link Filters (ビュー・リンク・フィルター)」画面で、「Append (追加)」ボタンをクリックします。「View Link Filter Type (ビュー・リンクのフィルター・タイプ)」画面で、「Attribute filter (属性フィルター)」ラジオ・ボタンがデフォルトで選択されます。「OK (了解)」をクリックします。

- e. 「View Link Filter (ビュー・リンク・フィルター)」画面で、TERMID フィルター属性を選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - f. 「View Link Filter Settings (ビュー・リンク・フィルター設定)」画面で、等号演算子がデフォルトで選択されます。FACILITYTYPE フィールドに値 TERM が含まれる場合、FACILITY フィールドには端末 ID が含まれます。「Value of attribute (属性の値)」ラジオ・ボタンを選択して、フィルター値 FACILITY を選択リストから選択します。(FACILITYTYPE フィールドに TERM が含まれる場合、FACILITY フィールドには端末 ID が含まれます。)「OK (了解)」をクリックします。
6. 変更内容を保管します。
- a. 画面上で変更内容を保管するための適切なボタンを選択して、「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面に戻ります。ボタンには機能に応じた異なる名前があり、「OK (了解)」または「Finish (終了)」というラベルが付いていることがあります。
 - b. 「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で、変更内容を保管または廃棄することを選択できます。

メニューからリンクを作成して、ビューをテストできます。または、ビューを直接表示する方法については、75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』を参照してください。

警告ライトの使用

このサンプル・タスクは、表形式ビュー内にあるイベントの重大度データのテキスト表現を警告ライトに置き換える方法を説明しています。

133 ページの図 44 は、このタスクの基礎として使用される、提供されたままの状態のリアルタイム分析 (RTA) 未解決イベント・ビュー (EYUSTARTEVENT.TABULAR) の詳細を示しています。このサンプル・タスクは、非常に高い重大度レベルに対して明滅する赤色の警告ライトを設定します。他のイベントの重大度レベルについては、独自の選択を行うことができます。

Select record	Event name	Current event target	Event severity	Event priority	Event sequence number	Name of context to which event applies	Event description	Date and time when event was created
	!ISAMSDM	IYCSST20	VHS	255	4	HYPERION	ID=XS0001 CIRP KENSHOL	2001/10/10 15:18:40
	WLMJTCB	IYCQSQ22	LW	240	303	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:24:43
	WLMJTCB	IYCQST22	VLS	240	297	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:54:36
	WLMJTCB	IYCQST23	LW	240	298	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:23:43
	WLMJTCB	IYCQST24	VLS	240	294	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:54:36
	WLMJTCB	IYCQST25	LS	240	295	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:22:43

6 records, page 1 of 1.

図44. イベント重大度レベルのテキスト表現があるビューの詳細

Select record	Event name	Current event target	Event severity	Event priority	Event sequence number	Name of context to which event applies	Event description	Date and time when event was created
	!ISAMSDM	IYCSST20	■VHS	255	4	HYPERION	ID=XS0001 CIRP KENSHOL	2001/10/10 15:18:40
	WLMJTCB	IYCQSQ22	■LW	240	303	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:24:43
	WLMJTCB	IYCQST22	■VLS	240	297	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:54:36
	WLMJTCB	IYCQST23	■LW	240	298	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:23:43
	WLMJTCB	IYCQST24	■VLS	240	294	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:54:36
	WLMJTCB	IYCQST25	■LS	240	295	HYPERION	Actual JVMTCB level	2001/10/11 09:22:43

6 records, page 1 of 1.

Resource name: EVENT. View name: EVENTVIEWSET.TABULAR

図45. イベント重大度レベルの警告ライト表現があるビューの詳細

1. ビュー・セットの準備

- 提供されたビュー・セット EYUSTARTEVENT を新しい名前 EVENTVIEWSET でコピーします。

- b. 「View Set Editor (ビュー・セット・エディター)」画面で「Edit (編集)」をクリックして、「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面でビュー・セット・リストから EVENTVIEWSET を選択します。
 - c. 「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で、TABULAR という名前のビューを選択して、「Edit (編集)」をクリックします。「Tabular View Components (表形式ビューのコンポーネント)」画面で、「Table contents (テーブル内容)」を選択します。テーブルのレイアウトが表示されます。
2. 警告ライトを「Event Severity (イベントの重大度)」列に追加します。
 - a. 列見出しにあるラジオ・ボタンを選択して、「Event Severity (イベントの重大度)」列を選択します。「Edit (編集)」をクリックします。
 - b. 「Table Column Components (テーブル列のコンポーネント)」画面で、「Presentation options (表示オプション)」を選択します。
 - c. 「Presentation type (表示タイプ)」画面で、「Warning lights (警告ライト)」ラジオ・ボタンを選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - d. 「Presentation Options (表示オプション)」画面で、「Show value (値表示)」ラジオ・ボタンを選択します。値を色のライトと共に表示することは良い方法です。「OK (了解)」をクリックします。
 3. 色のしきい値を設定します。
 - a. 「Presentation thresholds (表示しきい値)」画面で「Append (追加)」ボタンをクリックし、「Presentation Threshold Components (表示しきい値のコンポーネント)」画面で「Threshold range (しきい値範囲)」を選択します。
 - b. 「Presentation Threshold Range (表示しきい値範囲)」画面で、「Equal to (次の値に等しい)」フィールドがデフォルトで選択されます。入力フィールドに、属性値 VHS を入力します。これが、この色を発生させる値です。「OK (了解)」をクリックします。
 - c. 「Presentation Threshold Components (表示しきい値のコンポーネント)」画面で、「Threshold color (しきい値の色)」を選択します。
 - d. 「Presentation Threshold Color (表示しきい値の色)」画面で、色「RED」を選択します。「Flashing (明滅)」チェック・ボックスを選択して、「OK (了解)」をクリックします。
 - e. 「Presentation Threshold Components (表示しきい値のコンポーネント)」画面で、「Finish (終了)」をクリックして「Presentation Thresholds (表示しきい値)」画面に戻ります。
 - f. 色を定義する値ごとに、必要な色を選択してこれらのステップを繰り返します。すべての表示しきい値を作成したら、「Presentation Thresholds (表示しきい値)」画面で「OK (了解)」ボタンをクリックします。

特定の値に指定された色がないとき、表示での色はグレーになります。
 4. 変更内容を保管します。
 - a. 画面上で変更内容を保管するための適切なボタンを選択して、「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面に戻ります。ボタンには機能に応じた異なる名前があり、「OK (了解)」または「Finish (終了)」というラベルが付いています。
 - b. 「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面で、変更内容を保管または廃棄することを選択できます。

メニューからリンクを作成して、ビューをテストできます。または、ビューを直接表示する方法については、75ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』を参照してください。ビューは、133ページの図45にある例のようであるはずです。

2列の詳細ビューの作成

WUI ビュー・エディターを使用して、2列の詳細ビューを作成できます。

このタスクについて

1. ビュー・エディターを開いて、「Add View (ビューの追加)」画面にナビゲートします。
 - a. メインメニューのナビゲーション画面から、「View editor (ビュー・エディター)」>「View sets (ビュー・セット)」>「Edit (編集)」とクリックします。これにより、「Open View Set (ビュー・セットのオープン)」画面が開きます。
 - b. 新しい詳細ビューが属することになるビュー・セットを選択してから、「OK (了解)」をクリックして「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面を開きます。
 - c. 「Add (追加)」をクリックします。これにより、選択されたビュー・セット用の新しいビューを作成するために使用される、「Add View (ビューの追加)」画面が開きます。
2. 新しいビューの名前を指定して、その表示タイプを定義します。
 - a. 新しいビューの名前を「View name (ビュー名)」フィールドに入力します。
 - b. ビュー・タイプのリストから、「Two column detail form (2つのカラム詳細フォーム)」を選択します。
 - c. 事前充てんオプションのリストから「Key attributes (キー属性)」を選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、「Detailed Form Components (詳細フォームのコンポーネント)」画面が開きます。
3. 左の列に属性を追加します。

2列の詳細ビューに項目を追加することを選択すると、その新しいエレメントは左の列に配置されます。左右の位置合わせをするために、新しい項目の反対側の右の列に空白エレメントが自動的に配置されます。

- a. 「Form contents (フォーム内容)」を選択します。これにより、136ページの図46に示されているような「Form contents (フォーム内容)」画面が開きます。

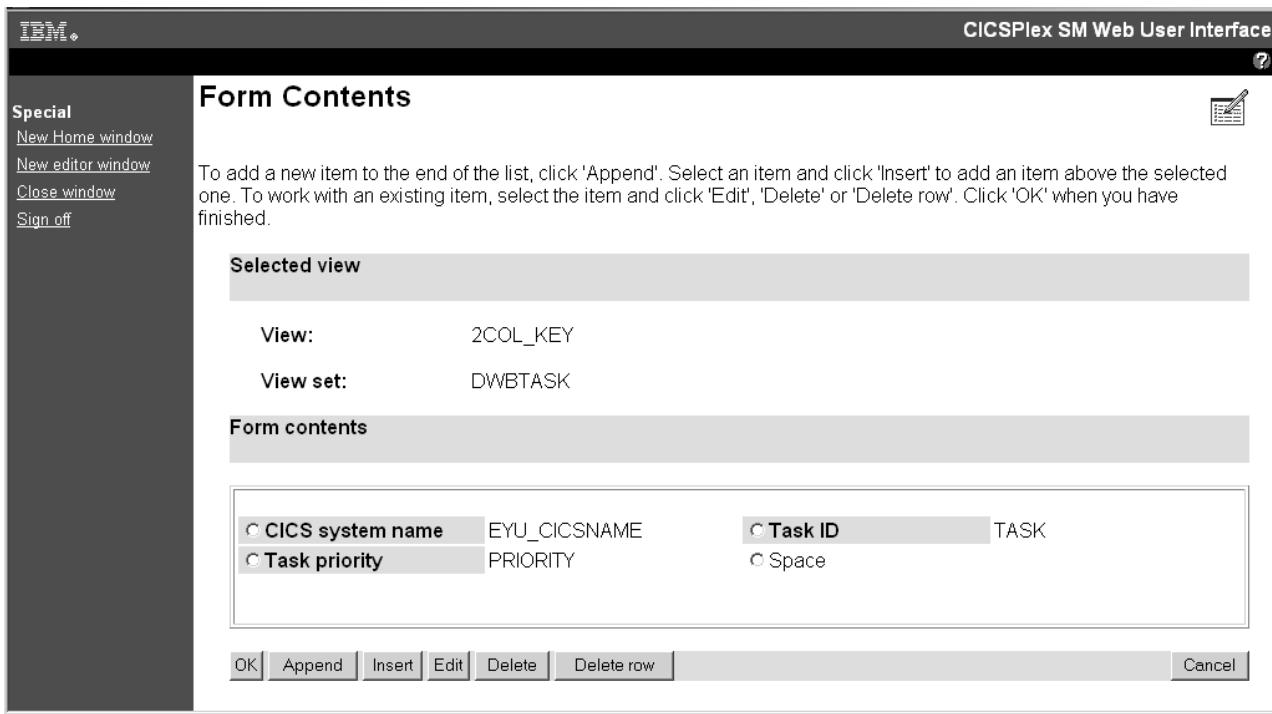


図 46. 2 列の詳細ビューの「Form contents (フォーム内容)」画面

これには、2列の画面を作成する際に右列と左列のバランスを保つために必要なスペース・エレメント・タイプが含まれることに注意してください。

- b. 「Append (追加)」をクリックします。これにより、「Form Item Type (フォーム項目タイプ)」画面が開きます。
 - c. 「Attribute field (属性フィールド)」を選択して「OK (了解)」をクリックし、「Form Attribute Field (フォーム属性フィールド)」画面が開きます。この画面には、属性名、データ・フォーマット、および簡略説明を含む属性のリストが含まれています。
 - d. リストから属性を選択して「OK (了解)」をクリックし、「Form Item Components (フォーム項目コンポーネント)」画面を開きます。
 - e. 属性のラジオ・ボタンを確認して、以下のように新しい属性の定義を完了します。
 - 属性のタイトルおよび任意の注釈を入力します。
 - 表示オプションとして、ノーマルまたはグラフィカルのどちらかを選択します。
 - 新しいビュー・リンクがあれば追加します。
 - f. 「Finish (終了)」をクリックして、新しい属性を新しいビューに追加します。これにより、「Form Contents (フォーム内容)」画面に戻ります。
4. ビューの右側の列に属性を追加します。

エレメントを右側の列に追加するために、以下のように空白エレメントを選択してからそれを編集して、必要なタイプのエレメントに変更しなければなりません。

- a. ステップ 3 で作成した空白エレメントを選択して、「Edit (編集)」をクリックします。これにより、「Form Item Type (フォーム項目タイプ)」画面が開きます。

- b. 右側の列に追加するエレメントのタイプを選択してから、ステップ 3 に示されている手順に従ってそれを定義します。
- c. 「Finish (終了)」をクリックして、右側のエレメントをビューに追加します。

ステップ 3 および 4 を必要な回数だけ繰り返して、さらに多くのエレメントを左および右の列に追加できます。

右側の列から項目を除去する場合、それを選択してから「Delete item (項目の削除)」をクリックします。これにより、項目が変換されて空白エレメントに戻ります。

注: 個別の空白エレメントは削除できませんが、「Delete row (行の削除)」をクリックすることにより、両方の列の隣接エレメントを除去できます。

5. ビュー定義を完了します。

- 「Form Contents (フォーム内容)」画面で「OK (了解)」をクリックして、「Detailed Form Components (詳細フォームのコンポーネント)」画面に戻ります。
- ここで、新しいビューの残りのコンポーネント (タイトル、アクション・ボタン、フィルター、コンテキスト、スコープなど) を追加します。
- 必要なすべてのコンポーネントを追加したときに、「OK (了解)」をクリックして新しいビューを保管してから、「View Set Contents (ビュー・セットの内容)」画面に戻ります。

138 ページの図 47に、2 列の詳細ビューの例を示します。

IBM. CICSplex SM Web User Interface

Terminal

EYUVC1280I 2 records collected at 09/07/04 13:52:23.

CMAS context: IYK3ZDB1
Context: DWBPLEX1
Scope: DWBPLEX1

Refresh

CICS system name IYK3ZDB3 **Terminal ID** CBRF
Access method Vtam **Acquire status** Notapplic
Alternate page height 0 **Alternate page width** 0
Alternate printer **Hardware COPY feature for alternate printer** Notapplic
Alternate screen height 0 **Alternate screen width** 0
Alternate-map-set suffix '00'X **APL keyboard feature** Noaplybd
APL text feature Noapltxt **ASCII data stream type** Notapplic
Automatic transaction initiation (ATI) status Ati **Audible alarm feature** Audalarm
Session binding status Notapplic **Background transparency feature** Backtrans
Extended color feature Color **Console ID**
Copy feature in control unit Nocopy **Correlation ID**
Session creation status Notapplic **Device data stream type** Ds3270
Default page height 24 **Default page width** 80
Default screen height 24 **Default screen width** 80
Device type T3277r **Device busy status** Not applicable
Disconnect Requests status Disreq **Dual-case keyboard status** Nodualcase
Exit tracing status Notapplic **Extended data stream support** Extendeddds
Function management header (FMH) option Nofmhparm **Forms feed feature** Noformfeed
Graphic character set global ID 0 **Code page global ID** 0
Horizontal form feature Nohform **Extended highlight feature** Hilight
Number of input messages 0 **Katakana terminal** Nokatakana
Selector pen feature Nolightpen **Real link connection for remote TOR**
Last map referenced in SEND MAP command **Last map set referenced in SEND MAP command**
Mode name **Magnetic slot reader** Msrcontrol
National language ID E **Terminal definition type** Model
Network name CBRF **Next transaction ID**
Network qualified name **Outboard formatting support** Noobformat
Outboard operator IDs used Nooboperid **Operator ID**

図 47. 2 列の詳細ビューの例

フィルター確認画面の作成

ビュー・エディターを使用して、既存の（ユーザー設計）ビューにフィルター確認を設定できます。

1. ビュー・エディターを開始して、「メニュー」をクリックすることにより、「メニュー・エディター」を開きます。

- 「Edit (編集)」をクリックして、リストから目的のビューへのハイパーリンクを含むメニューを選択します。これにより、「Menu Components (メニュー・コンポーネント)」画面が開きます。
- 「Menu Contents (メニュー内容)」をクリックしてから、「Menu Contents (メニュー内容)」画面の下部をスクロールして、「Append (追加)」をクリックします。これにより、「New Menu Item (新規のメニュー項目)」画面が開きます。
- 「Menu choice (メニュー選択)」ラジオ・ボタンを選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、「Menu Choice Components (メニュー選択のコンポーネント)」画面が開きます。
- 「Destination (宛先)」をクリックして、「Menu Choice Type (メニュー選択タイプ)」画面を開いてから、「View link (ビュー・リンク)」ラジオ・ボタンを選択します。これにより、図48に示されているものに似た「Target View Set (ターゲット・ビュー・セット)」画面が開きます。

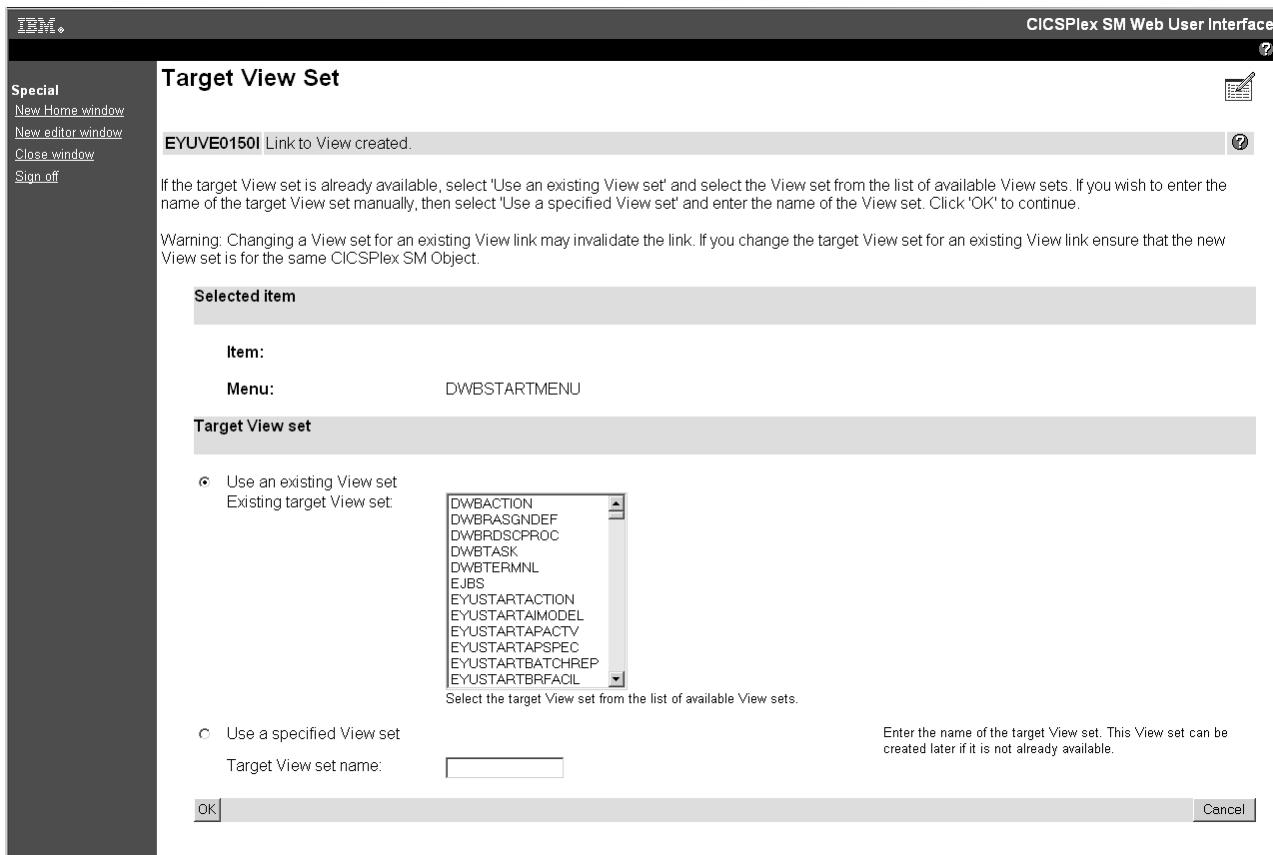


図48. 「Target View Set (ターゲット・ビュー・セット)」画面

- ターゲット・ビューを含むビュー・セットを選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、「Confirm Object for View Set (ビュー・セットに対するオブジェクトの確認)」画面が開きます。
- 単に確認のために、選択されたビュー・セットに関連付けられているオブジェクトを選択して、「OK (了解)」をクリックします。これにより、140ページの図49に示すような「Target View (ターゲット・ビュー)」画面が開きます。

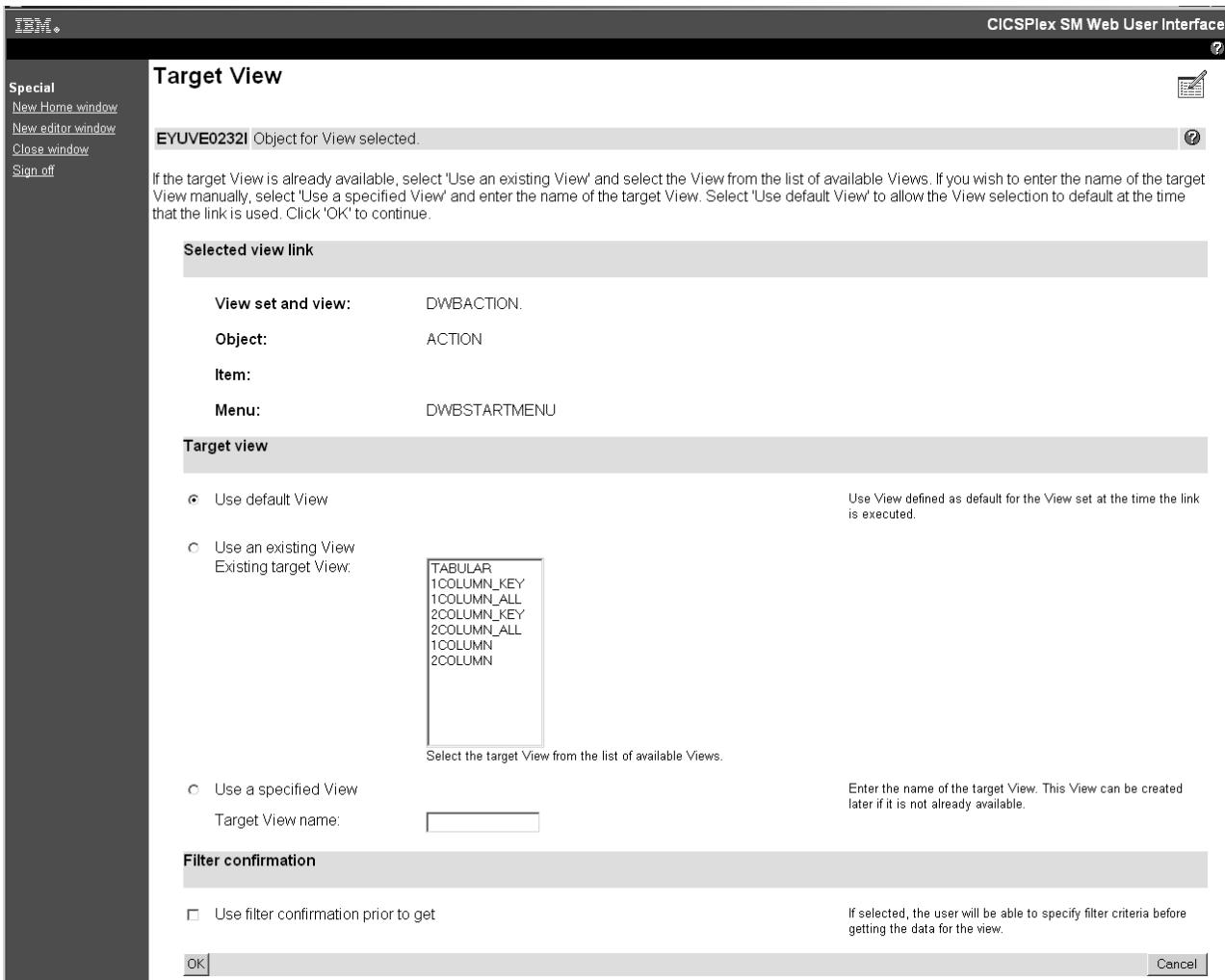


図49. フィルター確認ボックスを示している「Target View (ターゲット・ビュー)」画面

8. 選択されたビューに関連付けられるフィルター確認画面を作成するには、画面の下部にスクロールしてから、「**Use filter confirmation before get (取得前のフィルター確認の使用)**」というラベルのあるボックスを選択します。「OK (了解)」をクリックして、確定します。

ここで、ターゲット・ビューを開く前に、フィルター確認画面が表示されて、データ検索が実行される前にユーザーがフィルター基準を指定できるようになります。

第 6 章 クライアント・アプリケーション・データ・インターフェース

WUI クライアント・アプリケーション・データ・インターフェースは、クライアント・アプリケーションから WUI サーバーへのアクセスを提供して、クライアント・アプリケーションがいくつかのサービスを使用できるようにします。

概説

データ・インターフェースによって、クライアント・アプリケーションは Web ユーザー・インターフェース・サーバーに接続して CICSplex SM-managed CICS 領域に関するデータを取得できます。

事実上、データ・インターフェースは Web ユーザー・インターフェース・サーバーを CICSplex SM へのゲートウェイとして使用します。これを 図 50 で示します。

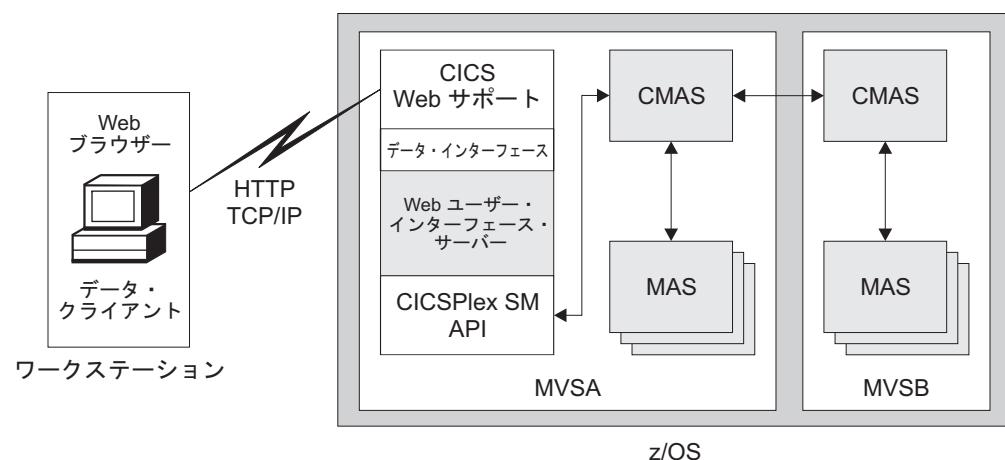


図 50. データ・インターフェースの使用方法の概念ビュー

データ・インターフェースは、表 16 に示されているコマンドを提供します。

表 16. データ・インターフェースのコマンド

データ・インターフェース・コマンド	機能
DATA/CONNECT	Web ユーザー・インターフェース・サーバーにサインオンして、CICSplex SM との接続を確立します。
DATA/GET	照会のデータを収集して、結果セットに保管します。
DATA/GETDEF	CICSplex SM メタデータ・オブジェクトを収集します。
DATA/FETCH	事前に収集された結果セットから、いくつかのレコードをダウンロードします。
DATA/DISCARD	結果セット、フィルター、またはビューを廃棄します。
DATA/PASSTICKET	RACF PassTicket を取得します。

表 16. データ・インターフェースのコマンド (続き)

データ・インターフェース・コマンド	機能
DATA/DISCONNECT	CICSplex SM から切断します。

このデータ・インターフェースを使用するために、クライアント・アプリケーションは HTTP 要求の形式のコマンドを Web ユーザー・インターフェース・サーバーに対して発行します。各要求からの結果は、HTTP 応答に戻されます。

HTTP のレベル

クライアント・アプリケーションはどちらも Web ユーザー・インターフェースでサポートされている HTTP 1.0 または HTTP 1.1 を使用してデータ・インターフェース・コマンドを発行できますが、コマンドは使用する HTTP の仕様に従って正しく形成されている必要があります。

Hypertext Transfer Protocol — HTTP/1.0 および HTTP/1.1 について詳しくは、それぞれ Network Working Group 文書の RFC1945 および RFC2068 を www.ietf.org/rfc/ で参照してください。クライアント・アプリケーションが SSL サポートを有効にして実行している Web ユーザー・インターフェース・サーバーに対してデータ・インターフェース・コマンドを発行する場合、クライアント・アプリケーションも SSL (つまり HTTPS) を使用する必要があることに注意してください。

HTTP プロキシーの使用

クライアントがプロキシーを介して使用に適した HTTP 構文をインプリメントしている場合には、クライアント・アプリケーションは HTTP プロキシーを介して Web ユーザー・インターフェース・サーバーと通信できます。

GET および POST メソッド

Web ユーザー・インターフェース・セッションへのアクセスを取得するには、クライアント・アプリケーションは GET および POST の両方の HTTP メソッドをインプリメントする必要があります。

クライアント・アプリケーションは、cookie を扱える必要があります。 cookie について詳しくは、Cookie および Set-Cookie ヘッダーを使用する HTTP 要求および応答によってステートフル・セッションを作成する方法を説明している、RFC2109 の「HTTP State Management Mechanism」文書を参照してください。

応答

Web ユーザー・インターフェース・サーバーがクライアント・アプリケーションのデータ・インターフェース・コマンドに戻す応答は、適切なレベルの HTTP を使用して作成された標準 HTTP 応答です (つまり、応答に使用される HTTP のレベルは要求に使用される HTTP のレベルよりも高くありません)。

例えば、クライアント・アプリケーションが HTTP 1.1 を使用してデータ・インターフェース・コマンドを発行する場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーは HTTP 1.0 または 1.1 を使用して応答できます。

データ・インターフェースと HTTP

データ・インターフェースは、HTTP を広範囲に使用します。

HTTP 要求 URL フォーマット

データ・インターフェース・コマンドは、既存の Web ユーザー・インターフェース・コマンドの拡張であり、コマンドの指定には HTTP URL を使用します。

すべてのデータ・インターフェース・コマンドは、以下の形式になります。

/CICSPlexSM/ENU1/userid/DATA/command

ENU1

クライアント・コード・ページ ID を米国英語の ENU1 に指定します。

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェースは言語およびコード・ページをサポートしますが、データ・インターフェースは常に ISO-8859-1 コード・ページを使用します。

userid

Web ユーザー・インターフェース・サーバーにサインオンしたユーザーのユーザー ID を指定します。

DATA

要求がデータ・インターフェース・コマンドであることを示します。

command

データ・インターフェース・コマンドの名前を指定します。これは、141 ページの表 16 にリストされたいずれかのコマンドとすることができます。

コマンド構造のこの部分の要素は、大/小文字を区別しません。

コマンド上に必要な追加のオプションを、標準の URL エンコード照会ストリングとして指定します。CONNECT を除くすべてのコマンドでは HTTP GET メソッドを使用するので、以下の DATA/FETCH の例に示されているように、オプションは URL の後に示されます。

/CICSPlexSM/ENU1/user1/DATA/FETCH?option1&...&...

DATA/CONNECT コマンドでは、POST メソッドを使用します。この場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーでは、Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) タイプの本体が *application/x-www-form-urlencoded* となること、および URL エンコード HTTP 照会ストリングを POST 要求の本体として送信が必要です(つまり、コマンドは Web ブラウザーからの HTML フォームの実行依頼のようになります)。

HTTP 要求を使用して Web ユーザー・インターフェース・サーバーにアクセスする方法の詳細については、75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』を参照してください。

HTTP 応答およびコード

クライアント・アプリケーションが Web ユーザー・インターフェース・サーバーとの TCP/IP ソケット接続を正常に確立すると、サーバーは HTTP 応答によってデータ・インターフェース・コマンドに応答します。これにはエラー応答コードが含まれていることがあります。

HTTP 応答コードが 200 (OK) の場合、HTTP 応答の本体にはクライアント・アプリケーションによって発行されたコマンドに対する応答が含まれます。その応答は、標準の URL エンコードを使用してエンコードされた 1 つ以上の自己記述型レコードから構成されます。クライアント・アプリケーションはこれを検査して、適切な処置を実行する必要があります。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、データ・インターフェースからの HTTP 200 応答のコンテンツの MIME タイプを、`application/x-ibm-eyu-data-urlencoded` に設定します。クライアント・アプリケーションが HTTP 応答コードの 200 を受け取っても、コンテンツの MIME タイプが `application/x-ibm-eyu-data-urlencoded` ではない場合、それは以下のいずれかの理由によります。

- クライアントが接続されている Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、クライアント・アプリケーションのデータ・インターフェースをサポートしていない。
- それが接続されていない HTTP サーバーが、Web ユーザー・インターフェース・サーバーではありません。

HTTP 応答コードが 200 ではない場合、HTTP 応答の本体はクライアント・アプリケーションによって無視されることがあります。この場合、その本体は、Web ブラウザーで表示するために HTTP プロキシーまたは Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって生成された HTML ページである可能性があります。クライアント・アプリケーションには、HTTP 応答コードを解釈して適切な処置を実行する責任があります。例えば、以下は Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって生成されることがある 2 つの HTTP 応答です。

404 - Not found

HTTP URL で指定されたリソースが見つかりません。

503 - Service temporarily unavailable

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのアドレス・スペースはアクティブ (つまり CICS が実行していてポートが開いている) ですが、Web ユーザー・インターフェース・サーバー・アプリケーションは現在実行していません。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって生成される、他の HTTP エラー応答 (例えば、応答コード 500 の内部サーバー・エラー) は、追加の診断情報を必要とすることがある例外条件です。そのような情報のソースとして役立つのは、EYULOG データ・セットにログとして記録されている Web ユーザー・インターフェース・サーバーのメッセージ、およびサーバーによって CICS 補助トレース・データ・セットに書き込まれる例外トレース項目です。クライアント・アプリケーションがプロキシーを介して接続している場合、HTTP エラー応答は Web ユーザー・インターフェース・サーバーからではなくプロキシーからのものとなることがあります。

応答レコード

各データ・インターフェース応答には、1つのヘッダー・レコードと、それに続くゼロ個以上のデータ・レコードが含まれています。

応答に複数のレコードが含まれている場合、各レコードは改行シーケンスによって次のレコードから分離されます。データ・インターフェース要求からの HTTP 応答の構造の例については、148 ページの図 51 を参照してください。

クライアント・アプリケーションは標準の URL エンコードを使用してデータ・インターフェース・コマンド・オプションをエンコードし、Web ユーザー・インターフェース・サーバーは応答レコードのために同じ手法を使用します。例えば、2つのレコード・フィールドとそれらの値は、以下のように表されます。

```
field1=value1&field2=value2
```

フィールド名および値に特殊文字（スペース、&、= を含む）をエンコードするには、URL 仕様で説明されているエスケープ体系に従ってエスケープ文字を使用します。URL エスケープ体系では、エスケープ文字は % (パーセント記号) とそれに続く 2 つの 16 進数字 (ASCII コードによる) で表されると明記しています。（いくつかの文字が『% HEX HEX』を使用してエスケープできるエンコード・ストリングについて詳しくは、www.ietf.org/rfc/ で Uniform Resource Locators (URL) の覚え書き RFC1738 を参照してください。）

データ・インターフェースは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの現在の言語またはロケールの設定に関係なく、Web ユーザー・インターフェース ENU 変換テーブルを使用して、ISO-8859-1 コード・ページ内のすべてのデータ・フローをエンコードし、標準の文字表現に従うようにします。クライアントがサーバーと同じ言語およびコード・ページを使用していることを保証する必要はありません。ただし、クライアント・アプリケーションでは、データ・インターフェースで使用されるいくつかの文字表現をクライアント・アプリケーションで必要とされるものに変換しなければならない場合があります。例えば時刻および日付フィールドで異なる分離文字を使用する場合などです。

応答ヘッダー・フィールド

正常な HTTP 応答とは、コマンドが成功したという意味ではありません。それは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーがコマンドを解釈できしたこと、および結果状況がヘッダー・レコードに示されていることだけを示します。

各ヘッダー・レコードには、少なくとも表 17 に示されるフィールドが含まれています。148 ページの『データ・インターフェース・コマンド解説書』で個別のコマンドに関して説明されているように、他のヘッダー・フィールドが含まれていることもあります。ヘッダー・レコード内でヘッダー・フィールドが出現する順序は、定義されていません。

表 17. HTTP ヘッダー・レコードの基本フィールド

ヘッダー・フィールド	説明
CMASSYSID	既知の場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの接続先となる CMAS の SYSID。

表 17. HTTP ヘッダー・レコードの基本フィールド (続き)

ヘッダー・フィールド	説明
CPSMREL	CICSplex SM のバージョンおよびリリース番号の文字ストリング。
SERVERAPPLID	Web ユーザー・インターフェース・サーバーの CICS APPLID。
STATUS	メインの応答の状況標識。 詳細については、表 18を参照してください。
TASKID	応答を生成した CICS タスクのタスク ID。

表 18. HTTP ヘッダー・レコードの STATUS 値

状況	意味
BADCOMMAND	指定されたコマンドが不明です。
BADTICKET	チケット (cookie) が無効であるかまたは欠落していました。例えば、ユーザー・セッションの有効期限が切れているなどの可能性があります。
FAILURE	コマンドは、未定義のエラーによって失敗しました。
OK	コマンドは正常に実行されました。コマンドによっては、追加のヘッダー・フィールドに結果が含まれています。
TIMEOUT	コマンドがタイムアウトになりました。『タイムアウト障害の処理』を参照してください。

タイムアウト障害の処理

データ・インターフェース・コマンド、特に GET コマンドは、非常に長い時間を要することがあります。その結果の 1 つとして、応答が使用可能になるときまでに、クライアント・アプリケーションと Web ユーザー・インターフェース・サーバーとの間の HTTP ソケット接続の有効期限が切れている可能性があります。この状態を回避するため、Web ユーザー・インターフェース・サーバーは元の要求の処理を続行しながら、早い時点での TIMEOUT 状況の応答を出すことができます。

元の要求の結果を取得するには、クライアント・アプリケーションは TIMEOUT 応答に対する返信としてサーバーに別の要求を送信する必要があります。この新しい要求では、クライアント・アプリケーションは TIMEOUT 応答から取得した TIMEOUTTOKEN の照会ストリングと値を指定します。サーバーが TIMEOUTTOKEN の指定された要求を受け取る場合、サーバーは元の要求に対して作成された応答を送信するか、その後しばらくしても用意ができていなければ別の TIMEOUT 応答を送信します。

クライアント・アプリケーションが TIMEOUT 応答に返信しなかった場合、元の要求に対する結果はアクセス不能になりますが、ユーザー・セッションのリソースが引き続き使用されます。そのため、クライアント・アプリケーションがすべての TIMEOUT 応答に返信することは重要です。

注: TIMEOUTTOKEN 値はクライアント・アプリケーションに対して「ブラック・ボックス」であり、クライアント・アプリケーションは TIMEOUTTOKEN を変更しないでサーバーに戻す必要があります。また、データ・インターフェースの将来のリリースで変更がある可能性に対する保護として、クライアント・アプリケーションは TIMEOUTTOKEN 値が可変長であることを想定する必要があります。

データ・インターフェース・スタブ

結果セットに関連した要求のシーケンスを相関させるために、データ・インターフェースは STUB ヘッダーを DATA/GET、DATA/FETCH、および DATA/DISCARD コマンドに使用します。

スタブ・ヘッダーは、1 つの要求に対してのみ有効であることを除いて、CICSplex SM API 結果セット・トークンに似ています。各 DATA/GET および DATA/FETCH コマンドは新しい STUB ヘッダーを生成するので、クライアント・アプリケーションはその新しい値を結果セットに対する次の要求に使用する必要があります。正しい STUB 値を使用しないと、BADSTUB 応答が出されます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、各アクティブ・データ・インターフェースの結果セットを单一のユーザー・セッション・ウィンドウとして管理します。各ユーザー・セッションでは、どの時点でも最大 64 のウィンドウをアクティブにことができ、それらはクライアント・アプリケーションのデータ・インターフェースと HTML Web ブラウザー・インターフェースとの間で共用されます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、STUB オプションの指定されていない DATA/GET コマンドに応答して、新しい結果セットを作成します。クライアント・アプリケーションは、DATA/GET コマンドに既存の結果セットの STUB 値を指定して発行することにより、結果セットの内容を新しい照会の結果に置き換えるようにサーバーに要求できます。

データ表記

CICSplex SM リソース・テーブルの属性で使用される表記は、属性タイプによって異なります。

一般的に、表記は「*CICSplex SM Resource Tables Reference*」に記述されているおりになります。ただし、データ・インターフェースによって使用される以下の規則に注意してください。

小数点

これらは、常に . (ピリオド) によって表記されます。

時刻および日付フィールド

時刻フィールドの分離文字は常に : (コロン) であり、日付の分離文字は常に / (スラッシュ) です。日付に使用される表記は、常に YYYY/DD/MM の形式になります。

印刷不可能な文字

印刷不可能な文字を含む文字ストリングは、引用符で囲まれた 16 進形式で示されます。例えば、'DDFF0400DDFF0400'X などです。

特殊文字

特殊文字 (例えばアポストロフィなど) を含む文字ストリングは、引用符付きストリングとして示されます。次の例では、単一のアポストロフィを含む It's raining again という語句が、このようにエンコードされます。

'It''s raining again.'

データ・レコード

データ・インターフェース要求からの HTTP 応答の本体は、常にヘッダーを含んでいて、その HTTP ヘッダーの後に 1 つ以上のデータ・レコードを戻すこともできます。

それぞれの個別のコマンドに関する説明には、どのコマンドがデータ・レコードを戻すかが示されています（『データ・インターフェース・コマンド解説書』を参照してください）。データ・インターフェース要求に対する完全な HTTP 応答の構造は、図 51 に示されています。そこには、DATA/FETCH 要求に対する応答が図示されています。



図 51. データ・インターフェース要求に対する HTTP 応答の構造

データ・インターフェース・コマンド解説書

7 つのデータ・インターフェース・コマンドがあります。

DATA/CONNECT

DATA/DISCONNECT

これらのコマンドを使用して、Web ユーザー・インターフェース・サーバーとの接続を確立し、その接続が必要なくなったときにはそれを終了します。

DATA/GET
DATA/FETCH
DATA/DISCARD
DATA/GETDEF

これらのコマンドを使用して、CICSplex SM によって管理されるリソースについての情報を取得します。これらのコマンドによって、クライアント・アプリケーションは、(1) 特定の照会に適合するレコードの結果セットの作成を要求すること (GET)、(2) 結果セットからレコードのページをダウンロードすること (FETCH)、および (3) アプリケーションが終了したときに結果セットを解放すること (DISCARD) ができます。DATA/GETDEF コマンドは、CICSplex SM メタデータを取り出すことを除いて、DATA/GET コマンドに似ています。

DATA/PASSTICKET

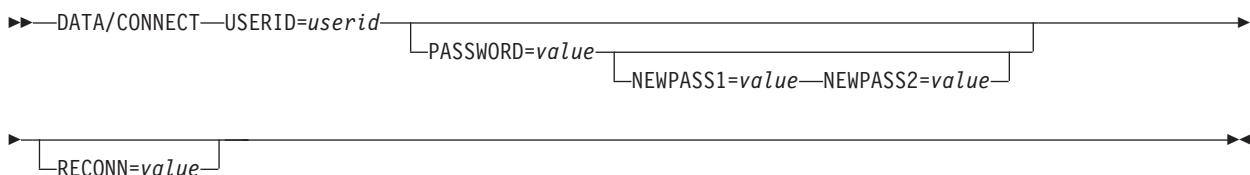
このコマンドを使用して PassTicket を取得します。それは、クライアント・アプリケーションが、そのクライアント・アプリケーションと同じ CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーに接続する Web ブラウザー・ウインドウを起動できるようにするために必要です。

これらの各データ・インターフェース・コマンドについては、続くセクションで詳しく説明されています。

DATA/CONNECT

クライアント・アプリケーションと CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーとの間のセッションを確立します。

DATA/CONNECT



説明

DATA/CONNECT コマンドによって、クライアント・アプリケーションから Web ユーザー・インターフェースのユーザー・セッションを取得できます。Web ユーザー・インターフェース・サーバーがセキュリティを有効にして実行されている場合、接続コマンドに正しいパスワードまたはパスワード・フレーズを含める必要があります。有効なパスワードまたは有効なパスワード・フレーズのいずれかを使用してサインオンできます。入力するパスワードが 1 文字から 8 文字の場合は、標準パスワードと見なされます。長さが 9 文字から 100 文字の場合は、パスワード・フレーズと見なされます。新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを指定することもできます。ただし、認証用に標準パスワードを使用して新規パスワード・フレーズを設定することはできず、また認証用にパスワード・フレーズを使用して新規パスワードを設定することもできません。

DATA/CONNECT コマンドにはパスワードの詳細を含めることができるので、サーバーは HTTP POST メソッドだけを使用して接続要求を受け入れます。

1 つのユーザー ID は、特定の Web ユーザー・インターフェース・サーバーについて、1 つのセッションだけを持つことができます。 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースに直接サインオンしたユーザー ID が、さらにデータ・インターフェースを使用してクライアント・アプリケーションからサインオンすることはできません。ただし、RECONN オプションを使用して、既存のセッションを引き継ぐことはできます。

ユーザー・セッションが確立されると、**DATA/CONNECT** コマンドに対する応答が出され、それにはセッションへのチケットとして機能する HTTP cookie が含まれています。 クライアント・アプリケーションはその応答から cookie を取り出して、そのユーザー・セッションのために Web ユーザー・インターフェース・サーバーに対して出すすべての後続の要求にそれを含める必要があります。

注: cookie の名前と値はクライアント・アプリケーションに対して「ブラック・ボックス」であり、クライアント・アプリケーションはその cookie を変更せずにサーバーに戻す必要があります。 また、データ・インターフェースが将来のリリースで変更されたときのための保護として、クライアント・アプリケーションは cookie の名前と値が可変長であると想定している必要があります。

cookie にはパスワード情報は含まれていませんが、Web ユーザー・インターフェースのユーザー・セッションへのアクセスを表しているので、適切に保護される必要があります。 クライアントは、HTTP cookie 応答ヘッダー内に設定された制限に従う必要があります。 cookie を他のホスト名やパスに送信したり、cookie をファイルに書き込んだりしないでください。

データ・インターフェース・クライアントは、要求ごとに正しい cookie を送信すれば、複数の接続 (同じユーザー ID のためのさまざまなサーバーに対する接続、または同じサーバー上のさまざまなユーザー ID に対する接続) を作成することができます。 ただし、通常の Web ユーザー・インターフェース・サーバーの制約事項が以下のとおりに適用されます。

- 各サーバー上の特定のユーザー ID に対して 1 つだけのアクティブ・セッションが許可されます。
- Web ユーザー・インターフェース・サーバー上のセッションの総数は、サーバー初期設定パラメーター **MAXUSERS** によって制限されます。

ユーザー・セッションが必要なくなったときは、**DATA/DISCONNECT** コマンドを使用してそれを終了できます。 これによりユーザー・セッションが終了すると、クライアント・アプリケーションによって既に起動されている Web ブラウザー・セッションも切断されます。 同様に、起動済みの Web ブラウザー・ウィンドウでユーザーが **SIGNOFF** コマンドを発行する場合、クライアント・アプリケーション・セッションも切断されます。

DATA/CONNECT コマンドが STATUS OK で完了する場合、**DATA/CONNECT** コマンド応答は以下の追加のヘッダー・フィールドを戻すこともあります。

表 19. DATA/CONNECT コマンド応答ヘッダーで戻されるデータ

ヘッダー・フィールド	説明
DATEFORMAT=	<p>Web ユーザー・インターフェースの表示で日付を表記するために、このセッションで使用されるフォーマットを示します。データ・インターフェース・クライアントは、HTML ビューを起動するときに日付フィルターとしてこのフォーマットを使用する必要があります。可能な値は以下のとおりです。</p> <p>YYMMDD DDMMYY MMDDYY YYYYMMDD DDMMYYYY MMDDYYYY</p> <p>注: データ・インターフェースの要求および応答で使用されるフォーマットは、常に YYYYMMDD です。</p>
DATESEPARATOR=	<p>Web ユーザー・インターフェースの表示で日付要素を分離するために、このセッションで使用される文字を示します。データ・インターフェース・クライアントは、HTML ビューを起動するときに日付フィルターとしてこの文字を使用する必要があります。</p> <p>注: データ・インターフェースの要求および応答で使用される文字は、常にスラッシュ (/) です。</p>
DECIMALSEPARATOR=	<p>Web ユーザー・インターフェースの表示で小数点を示すために、このセッションで使用される文字を示します。データ・インターフェース・クライアントは、HTML ビューを起動するときに数値フィルターとしてこの文字を使用する必要があります。</p> <p>注: データ・インターフェースの要求および応答で使用される文字は、常にドット (.) です。</p>
DAYSLEFT=	<p>ユーザーのパスワードが期限切れになるまでの日数を示します。このヘッダー・フィールドは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーでセキュリティーが使用可能になっている場合にのみ示されます。</p>
INTERFACELEVEL=	<p>Web ユーザー・インターフェース・サーバーによってインプリメントされたクライアント・アプリケーション・データ・インターフェースのサポート・レベルを、10 進整数で示します。特定の INTERFACELEVEL 値の要件は、該当するデータ・インターフェース・コマンドおよびオプションに関する説明の中に記述されています。これらのオプションを使用するためには、クライアントが INTERFACELEVEL 値を調べて、それが必要なサポート・レベル以上であることを確認する必要があります。</p> <p>INTERFACELEVEL ヘッダーが存在しない場合、クライアントは値を 0 と想定する必要があります。</p>
LASTUSETIME=	<p>ユーザー ID が最後に使用された日時を、yyyy/mm/dd hh:mm:ss の形式で示します。このヘッダー・フィールドは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーでセキュリティーが使用可能になっている場合にのみ示されます。</p>
TCPIPHOSTNAME=	<p>Web ユーザー・インターフェースの TCPIPHOSTNAME 初期設定パラメーターに指定されている、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの完全修飾ホスト名を戻します。</p>

表 19. DATA/CONNECT コマンド応答ヘッダーで戻されるデータ (続き)

ヘッダー・フィールド	説明
TIMESEPARATOR=	<p>Web ユーザー・インターフェースの表示で時、分、および秒を分離するために、このセッションで使用される文字を示します。</p> <p>データ・インターフェース・クライアントは、HTML ビューを起動するときに時間フィルターとしてこの文字を使用する必要があります。</p> <p>注: データ・インターフェースの要求および応答で使用される文字は、常にコロン (:) です。</p>

DATA/CONNECT コマンドは、応答ヘッダー・フィールドの後にデータ・レコードを戻しません。

注: クライアント・アプリケーションが Web ユーザー・インターフェースの **INACTIVETIMEOUT** パラメーターで指定された時間よりも長い期間ユーザー・セッションに要求を発行しない場合、すべてのブラウザー・ウィンドウおよびクライアント・アプリケーションは自動的に切断されます。 サーバーがクライアント・アプリケーションまたは起動した Web ブラウザー・ウィンドウから要求を受け取ると常に、サーバーはユーザー・セッションでの非アクティブ時間を測定している「クロック」をリセットします。

オプション

NEWPASS1=value

現在のパスワードまたはパスワード・フレーズを変更する場合、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを指定します。 パスワードを変更しない場合は、このオプションを省略します。 PASSWORD に 8 文字以下の値を指定した場合は、標準パスワードと見なされ、NEWPASS1 の値も 8 文字以下である必要があります。 PASSWORD に 9 文字から 100 文字までの値を指定した場合は、パスワード・フレーズと見なされ、NEWPASS1 の値も 9 文字から 100 文字である必要があります。

注: パスワード・フレーズの最小の長さは、RACF パスワード・フレーズ出口 ICHPWX11 で制御できます。 ICHPWX11 が存在し、この出口で許可される場合、9 文字から 100 文字のパスワード・フレーズを指定できます。 ICHPWX11 が存在しない場合は、14 文字から 100 文字のパスワード・フレーズを指定する必要があります。

NEWPASS2=value

新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再指定し、それが NEWPASS1 の値と同じであることを確認します。 これは省略できます。

PASSWORD=value

Web ユーザー・インターフェース・サーバーにサインオンするためのユーザーのパスワードまたはパスワード・フレーズを指定します。 セキュリティーが非アクティブ状態で実行されている (つまり、CICS システム初期設定パラメーターとして SEC=NO が指定されている) Web ユーザー・インターフェース・サーバーの場合は、PASSWORD オプションは必要ありません。 入力するパスワードが 1 文字から 8 文字の場合は、標準パスワードと見なされます。 長さが 9 文字から 100 文字の場合は、パスワード・フレーズと見なされます。

RECONN={N | J | Y}

ユーザー・セッションが既にアクティブであった場合に必要となる再接続アクションを指定します。

N 既存のユーザー・セッションを破棄してクライアント・アプリケーションのユーザーを新しいセッションで接続することにより再接続することはありません。

J 既存のユーザー・セッションと結合します。

Y 既存のユーザー・セッションを破棄して、指定されたユーザー ID の新しいセッションを作成します。

USERID=value

セッションを作成するユーザー ID を指定します。これは、URL 内の **DATA/CONNECT** コマンドの基本部分に指定されたユーザー ID と一致する必要があります。

STATUS 値**BADCOMMAND**

データ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されていません。

CICSESMMNOTINITIALIZED

CICS 外部セキュリティー・マネージャーが初期化されていません。CICS 外部セキュリティー・マネージャーを初期化してください。

CONNECTIONFAILURE

新しいユーザー・セッションの CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) に接続しようとして失敗しました。

ESMNOTRESPONDING

外部セキュリティー・マネージャーが応答していません。外部セキュリティー・マネージャーが正常に稼働していることを確認してください。

GROUPLENGERR

グループの長さが正しくありません。サポートされる長さのグループを指定してください。

GROUPUNKNOWN

Web ユーザー・インターフェース・サーバーはサインオン・セキュリティーを使用可能にして実行していますが、指定されたグループは ESM に認識されていません。

INCOMPATIBLEPASSWORDS

パスワード・フレーズを変更するためにパスワードを使用することはできず、またパスワードを変更するためにパスワード・フレーズを使用することはできません。パスワードを変更する場合は新規パスワードを指定し、パスワード・フレーズを変更する場合は新規パスワード・フレーズを指定してください。

MAXUSERS

Web ユーザー・インターフェース・サーバーへのサインオンが、許可されたユーザーの最大数に達しました。ユーザーの最大数は、サーバー初期設定パラメーター **MAXUSERS** で定義されています

NEWPASSWORDINVALID

新規のパスワードまたはパスワード・フレーズが、ホスト・システムの外部セキ

ユーリティー・マネージャー (ESM) で定義されているパスワードまたはパスワード・フレーズの規則に適合していません。

NEWPASSWORDLENGERR

新規パスワードの長さが正しくありません。 サポートされる長さの新規パスワードまたは新規パスワード・フレーズを指定してください。

NEWPASSWORDMISMATCH

NEWPASS1 と NEWPASS2 に指定された値が異なっています。既存のパスワードまたはパスワード・フレーズを正常に変更するには、これらの値が同じでなければなりません。

PASSWORDEXPIRED

指定されたパスワードまたはパスワード・フレーズは有効期限切れです。
NEWPASS1 と NEWPASS2 を使用して、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを指定してください。

PASSWORDINVALID

指定されたユーザー ID 用に入力されたパスワードまたはパスワード・フレーズが、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) による認証に失敗しました。

PASSWORDLENGERR

パスワードの長さが正しくありません。 サポートされる長さのパスワードまたはパスワード・フレーズを指定してください。

PASSWORDREQUIRED

DATA/CONNECT 要求に、パスワードまたはパスワード・フレーズが指定されていません。 Web ユーザー・インターフェース・サーバーはサインオン・セキュリティーを有効にして実行されているため、パスワードまたはパスワード・フレーズが必要です。

RECONNECTREQUIRED

ユーザーは既にサインオンしていますが、RECONN オプションに J も Y も指定されていませんでした。

USERIDCONTAINSBLANKS

ユーザー ID は、無効な位置にブランク文字が含まれています。外部セキュリティー・マネージャーで定義されたユーザー ID 規則に適合する有効なユーザー ID を指定してください。

USERIDLENGERR

ユーザー ID の長さが正しくありません。 サポートされる長さのユーザー ID を指定してください。

USERIDREQUIRED

DATA/CONNECT コマンドでは、Web ユーザー・インターフェースとのセッションを確立するためにユーザー ID が必要です。

USERIDREVOKED

Web ユーザー・インターフェース・サーバーはサインオン・セキュリティーを使用可能にして実行していますが、外部セキュリティー・マネージャーはユーザー ID を取り消しました。

USERIDUNKNOWN

Web ユーザー・インターフェース・サーバーはサインオン・セキュリティーを使用可能にして実行していますが、指定されたユーザー ID は ESM に認識されません。

DATA/DISCARD

DATA/GET コマンドで作成された結果セットを解放します。

DATA/DISCARD

►—DATA/DISCARD—STUB=*value*—►

説明

このコマンドは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーに、指定されたスタブに関連付けられている結果セットのすべてのリソースを解放するように要求します。 サーバーはクライアント・アプリケーションに応答を送信しますが（つまり要求を待機させることはできません）、結果セットによって使用されたリソースを即時に廃棄することはしません。 結果セットには廃棄済みのマークが付けられて、クライアントがアクセスできなくなります。 新規の照会には、DATA/DISCARD および DATA/GET のシーケンスを使用する代わりに、必要なくなった古いスタブを指定して DATA/GET 要求を使用することを検討してください。

結果セットの廃棄が遅延すると、ユーザー・セッション・ビューに表示されるウィンドウ（63 ページの図 21 を参照）の数が、アクティブなウィンドウの数よりも大きくなることがあります。

データ: DATA/DISCARD コマンドは、応答ヘッダー・フィールドの後にデータ・レコードを戻しません。

オプション

STUB=*value*

廃棄する結果セットの ID を指定します。

STATUS 値

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

CMASGONE

Web ユーザー・インターフェースと CMAS との接続が失われました。 その結果、クライアント・アプリケーションのユーザー・セッションが終了しました。

BADSTUB

スタブ値が要求に対して無効です。 以下の理由が原因と思われます。

- コマンドを発行したユーザー・セッションに属していないスタブ値が指定されています。

- スタブ値の順序が正しくありません。

BUSYSTUB

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、このスタブに対する前の要求をまだ処理しています。

DATA/DISCONNECT

クライアント・アプリケーションを CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーから切断します。

DATA/DISCONNECT

►►DATA/DISCONNECT—►►

説明

このコマンドによって、クライアント・アプリケーションは、 DATA/CONNECT データ・インターフェース・コマンドで確立されたユーザー・セッションの終了を開始できます。

クライアント・アプリケーションのデータ・インターフェースによって開始されたセッションを含むすべての Web ユーザー・インターフェース・サーバー・セッションは、ある期間非アクティブであった後に自動的なサインオフの対象となります。この期間は、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター INACTIVETIMEOUT によって決まります。元のユーザー・セッションが終了または置換されるとき、EYUTICKET 値は無効になって、Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって無視されます。

データ: DATA/DISCONNECT コマンドは、応答ヘッダー・フィールドの後にデータ・レコードを戻しません。

オプション

なし。

STATUS 値

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

DATA/FETCH

前の DATA/GET コマンドによって結果セット内に作成されたレコードを取り出します。

DATA/FETCH

```
►►—DATA/FETCH—STUB=value— [COUNT=value] [POSITION=value] [FIELDS=value]—►►
```

説明

このコマンドは、DATA/GET または DATA/FETCH コマンドに対する応答としてクライアント・アプリケーションに戻されたスタブ値で識別される結果セットから、レコードを取り出します。

表 20. DATA/FETCH コマンドのヘッダー応答フィールド

ヘッダー・フィールド	説明
COUNT=	この応答に戻されるレコード数。これはゼロとなることがあります。
OBJECT=	CICSplex SM リソースの名前。
REASON=	FETCH (EYUDA 値) の CICSplex SM 理由コード。
RESPONSE=	FETCH (EYUDA 値) の CICSplex SM API 応答コード。
STUB=	結果セットに対する後続の要求で使用するための STUB ヘッダー。
USERID=	セッションのユーザー ID。

結果セットから選択されたレコードの内容は、データ・インターフェース応答内で応答ヘッダー・レコードに続く追加のレコードに含まれています (HTTP 応答パッケージの図は、148 ページの図 51 を参照してください)。それぞれのデータ・レコードは、DATA/FETCH 要求の POSITION= オプションに指定されたレコードから開始して結果セット内に存在する順序で、単一の結果セット・レコードをエンコードしています。

各結果セット・レコードは、一連の属性と値の対として記述されます。属性名は「CICSplex System Manager Resource Tables Reference」での属性名に対応するもので、値は上で説明されているように記述されます。これらの属性が特定の結果セット・レコード内に出現する順序は定義されていないので、クライアント・アプリケーションは特定の属性を属性名で検索する必要があります。 FIELDS= オプションが指定されている場合、DATA/FETCH コマンドは FIELDS= オプションで名前が指定された属性だけを、クライアントによって指定された順序で戻します。 FIELDS= オプションが指定されていない場合は、リソースのすべての属性が戻され、これらの属性が特定の結果セット・レコード内に出現する順序は定義されていません。この場合、クライアント・アプリケーションは各レコード内の特定の属性を属性名で検索する必要があります。

DATA/GET 要求で要求された属性が、結果セットの作成元の CICS のリリースでは無効な場合、その属性はデータ・インターフェース・レコードに組み込まれません。

クライアント・アプリケーションが結果セットの処理を終了したら、
DATA/DISCARD コマンドに正しい STUB 値を指定して使用することにより、それを廃棄できます。

オプション

COUNT=*value*

サーバーが結果セットからクライアント・アプリケーションに戻すレコードの数を指定します。このオプションを省略した場合、サーバーはすべてのレコードを戻します。結果セットが大きい場合には、これによりパフォーマンスに不利な影響が生じことがあります。結果セットのレコード数は、DATA/GET コマンドから戻される COUNT ヘッダー・フィールドに示されています。

FIELDS=*attribute list*

この DATA/FETCH 要求で取り出されるリソース・タイプの 1 つ以上の属性を指定します。応答内の各レコードには必要な属性だけが含まれていて、それらの属性は FIELDS= オプションで指定された順序で出現します。

属性のリストは、コンマで分離して、ピリオドで終了させる必要があります。属性名と分離のためのコンマまたはピリオドとの間には、空白文字があつてはなりません。 FIELDS= 値でピリオドの後に出現する文字は無視されます。

例えば、ローカル・トランザクション (LOCTRAN) レコードごとに、元の CICS 名、トランザクション ID、および使用可能状況の属性だけを検索するには、次のように指定します。

`FIELDS=EYU_CICSDNAME,TRANID,STATUS.`

属性名がリスト内で繰り返される場合、その属性は応答レコード内で繰り返されます。ただし、属性リストに指定された属性の総数は、リソース・タイプ用に定義された属性数を超えることができません。

属性リストが正しくフォーマット設定されていないか、多くの属性を含みすぎているか、または未知の属性名を含んでいる場合は、DATA/FETCH コマンドの RESPONSE ヘッダーには INVALIDPARM が、そして REASON ヘッダーには FIELDS が含まれることになります。データ・レコードは戻されません。

FIELDS= オプションが指定されていない場合、応答には各レコードのすべての属性が未定義の順序で組み込まれます。

注: FIELDS= オプションがサポートされるのは、DATA/CONNECT コマンドで戻される INTERFACELEVEL ヘッダーが 1 以上の場合だけです。クライアントが FIELDS= オプションを以前のデータ・インターフェースのサポート・レベルで使用しようとした場合、そのオプションは無視されます。

POSITION={1}v*value*

このフェッチ・コマンドで取り出される最初のレコードの、結果セット内のレコード番号。デフォルトの数値は 1 で、これは結果セット内の最初のレコードを索引付けします。

STUB=*value*

サーバーがそこからレコードを戻す、結果セットを指定します。指定する値は、以下のいずれかのコマンドの結果から取得したものでなければなりません。

- 結果セットを作成した GET コマンドから戻されたスタブ値
- 前の FETCH コマンドから戻されたスタブ値。

注: クライアント・アプリケーションは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーから受け取るスタブ値を 1 回だけ使用できます。Web ユーザー・インターフェース・サーバーへの要求にスタブ値を指定した後は、その同じ値を再び使用することはできず、その結果セットに戻される次のスタブを使用する必要があります。例えば、DATA/FETCH コマンドにスタブ値を指定するととき、サーバーからの応答には、セットからさらにレコードを取り出すことを可能にするための新しいスタブが含まれています。

STATUS 値

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

BADSTUB

スタブ値が要求に対して無効です。以下の理由が原因と思われます。

- コマンドを発行したユーザー・セッションに属していないスタブ値が指定されています。
- スタブ値の順序が正しくありません。

BUSYSTUB

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、このスタブに対する前の要求をまだ処理しています。

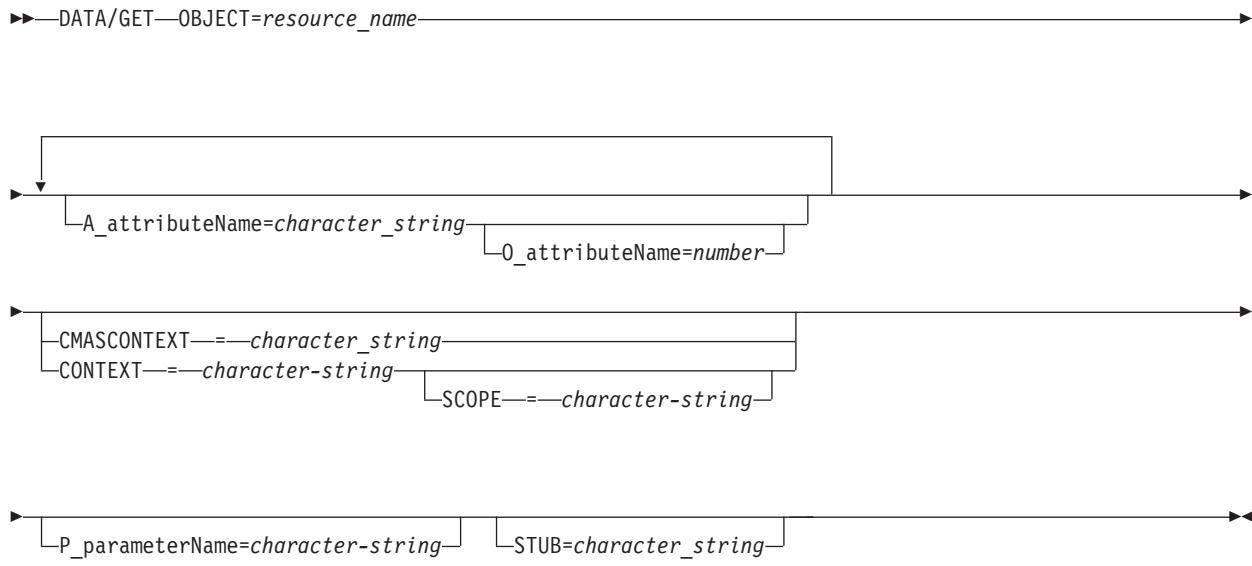
CMASGONE

Web ユーザー・インターフェースと CMAS との接続が失われました。その結果、クライアント・アプリケーションのユーザー・セッションが終了しました。

DATA/GET

CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーに、照会条件を満たすレコードの結果セットの作成を要求します。

DATA/GET



説明

最初に、コマンドに STUB オプションを指定しないで、レコードの新しい結果セットのための DATA/GET 要求を発行します。サーバーからの応答には、結果セットを識別する STUB ヘッダーが含まれています。

別の DATA/GET コマンドに直前のスタブ値を指定して発行することにより、結果セットを再利用することができます。これには、古い結果を廃棄して、新しい DATA/GET 要求の結果を保持するためにリソースを再利用する効果があります。

DATA/GET コマンドが STATUS OK となったときの結果は、表 21 に示されています。

表 21. DATA/GET コマンド応答ヘッダーで戻されるデータ

ヘッダー・フィールド	説明
COUNT=	照会と一致する結果セット内のレコード数。これはゼロの値となることがあります。
OBJECT=	DATA/GET コマンドに指定されている CICSplex SM リソース名。
REASON=	該当する場合、CICSplex SM API 理由コード。
RESPONSE=	CICSplex SM API 応答コード。
STUB=	この照会に関連した次回の要求で使用されるスタブ値。これは、別の GET か、FETCH または DISCARD コマンドとすることができます。
USERID=	この要求に使用される Web ユーザー・インターフェース・サーバー・セッションにサインオンしたユーザー ID。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、各アクティブ・データ・インターフェースの結果セットを单一のユーザー・セッション・ウィンドウとして管理します。 各ユーザー・セッションでは、一度に最大 64 のアクティブ・ウィンドウを持つことができ、それらはクライアント・アプリケーションのデータ・インターフェースと HTML インターフェースとの間で共用されます。

データ: DATA/GET コマンドは、応答ヘッダー・フィールドの後にデータ・レコードを戻しません。 このコマンドは、後続の DATA/FETCH コマンドがそこからレコードを取り出せる結果セットを作成します。

注: DATA/GET コマンドに指定された属性およびパラメーター・フィルターは、常に論理 AND 演算子によってグループ化されます。 OR 演算子と共にフィルターを使用することはできません。

オプション

A_attributeName=value

既知の属性名の値を、 CICSplex SM リソース・テーブルの 1 つから指定します。 例えば、 LOCFILE リソース・テーブルを使用して使用不可にされたすべてのファイルを検索する照会では、キーワード *A_attributeName* は A_ENABLESTATUS になり、オペランドは DISABLED です。

以下の属性データ・タイプをフィルターとして使用できます。

- AVG
- AVG3
- BIN
- CHAR
- CODEBIN
- CVDAS
- CVDAT
- DEC
- EYUDA
- HEX
- INTVSTCK
- PCT
- PCT3
- RATE
- RATE3
- SCLOCK
- SCLOCK12
- SUM
- SUM3

選択基準についての説明は 75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』を、データ表記についての情報は 147 ページの『データ表記』を参照してください。

CONTEXT=value

CICSplex 名を使用するリソースのコンテキストを指定します。 コンテキストは、CICSplex の 1 から 8 文字の名前でなければなりません。

このオプションを省略した場合、サーバーは指定された STUB の最後の CONTEXT を使用するか、または STUB をコマンドに指定しない場合にはサーバー・デフォルトを使用します。

CMASCONTEXT=value

CMAS 名を使用するリソースのコンテキストを指定します。

このオプションを省略した場合、サーバーは指定された STUB の最後の CMASCONTEXT を使用するか、または STUB をコマンドに指定しない場合にはサーバー・デフォルトを使用します。

O_attributeName=value

既知の属性名と共に使用するフィルター演算子を、CICSplex SM リソース・テーブルの 1 つから指定します。オペレーター値とそれらの意味のリストは、79 ページの表 14 を参照してください。例えば、GET 照会が LOCFILE リソース・テーブル内のファイルの使用可能状況に関するものである場合、A_ENABLESTATUS=DISABLED および O_ENABLESTATUS=NE を指定すると、結果として ENABLED、UNENABLED、および DISABLING 状況のすべてのファイル (つまり、DISABLED ではないすべてのファイル) が示されます。

OBJECT=value

A_attributeName が有効な属性である CICSplex SM リソース・テーブルの名前を指定します。このオプションは必須で、有効なリソース・テーブルまたは有効なビューのどちらかの名前を 1 から 8 文字で指定する必要があります。

P_parameterName=value

リソースのパラメーター・フィルターを指定します。 例えば、WLMAWAOR リソース・テーブルの P_WORKLOAD=name があります。ここで、name はアクティブ・ワーカロードの名前です。

すべてのリソースにパラメーターが関連付けられているわけではありません。データ表記の詳細については、147 ページの『データ表記』を参照してください。

SCOPE=value

有効範囲を必要とするリソースの有効範囲を指定します。

STUB=value

以前の要求に対する応答としてサーバーから戻された結果セットのスタブ値を指定します。 これはオプションであり、以下の効果があります。

- STUB オプションを省略した場合、サーバーは新しい結果セットを作成します。 サーバーが前の要求から 1 つ以上の結果セットを作成している場合、それらは保存されて、この要求の影響を受けません。
- STUB オプションを指定した場合、サーバーは保存されている古い結果セットを新しい照会で再利用します。 事実上、DATA/GET 要求にスタブ値を指

定して発行することは、DATA/DISCARD の後に DATA/GET を指定して発行することと同等であり、必要ななくなったシステム・リソースを縛り付けておくことを回避します。

注: クライアント・アプリケーションは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーから受け取るスタブ値を 1 回だけ使用できます。 Web ユーザー・インターフェース・サーバーへの要求にスタブ値を指定した後は、その同じ値を再び使用することはできません。

STATUS 値

BADATTR

A_*attributeName* キーワードが無効です。 DATA/GET コマンドがスタブ値を指定している場合、暗黙の DISCARD が適用され、関連付けられた結果セットは廃棄されます。

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

BADOBJECT

OBJECT オプションに指定された値が無効です。 DATA/GET コマンドがスタブ値を指定している場合、暗黙の DISCARD が適用され、関連付けられた結果セットは廃棄されます。

BADPARM

P_*parameterName* キーワードが無効です。 DATA/GET コマンドがスタブ値を指定している場合、暗黙の DISCARD が適用され、関連付けられた結果セットは廃棄されます。

BADSTUB

スタブ値が要求に対して無効です。以下の理由が原因と思われます。

- コマンドを発行したユーザー・セッションに属していないスタブ値が指定されています。
- スタブ値の順序が正しくありません。

BUSYSTUB

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、このスタブに対する前の要求をまだ処理しています。

CMASGONE

Web ユーザー・インターフェースと CMAS との接続が失われました。 その結果、クライアント・アプリケーションのユーザー・セッションが終了しました。

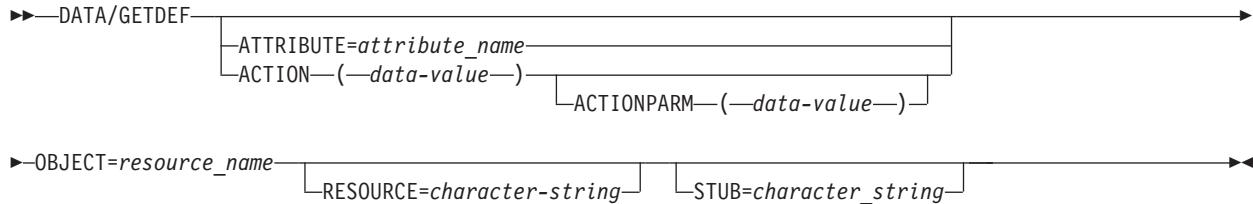
MAXWIN

ユーザー・セッションでのウィンドウの最大数 (64) に達しました。

DATA/GETDEF

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーに、リソース・テーブル用に選択された記述レコード (メタデータ) を含む結果セットの作成を要求します。

DATA/GETDEF



説明

最初に、コマンドに STUB オプションを指定しないで、メタデータ・レコードの新しい結果セットのための DATA/GETDEF 要求を発行します。 サーバーからの応答には、メタデータ結果セットを識別する STUB ヘッダーが含まれています。

別の DATA/GETDEF または DATA/GET コマンドに直前のスタブ値を指定して発行することにより、結果セットを再利用することができます。 これには、古い結果を廃棄して、新しい DATA/GETDEF または DATA/GET 要求の結果を保持するためにリソースを再利用する効果があります。

DATA/GETDEF コマンドが STATUS OK となったときの結果は、 160 ページの表 21 に示されています。

表 22. DATA/GETDEF コマンド応答ヘッダーで戻されるデータ

ヘッダー・フィールド	説明
COUNT=	照会と一致する結果セット内のレコード数。 これはゼロの値となることがあります。
OBJECT=	RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブル用に検索するメタデータのタイプ。
REASON=	該当する場合、CICSplex SM API 理由コード。
RESPONSE=	CICSplex SM API 応答コード。
STUB=	この照会に関連した次回の要求で使用されるスタブ値。 これは、別の GETDEF、GET、FETCH、または DISCARD コマンドとすることができます。
USERID=	この要求に使用される Web ユーザー・インターフェース・サーバー・セッションにサインオンしたユーザー ID。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、各アクティブ・データ・インターフェースの結果セットを单一のユーザー・セッション・ウィンドウとして管理します。 各ユーザー・セッションでは、一度に最大 64 のアクティブ・ウィンドウを持つことができ、それらはクライアント・アプリケーションのデータ・インターフェースと HTML インターフェースとの間で共用されます。

データ: DATA/GETDEF コマンドは、応答ヘッダー・フィールドの後にデータ・レコードを戻しません。 このコマンドは、後続の DATA/FETCH コマンドがそこからレコードを取り出せる結果セットを作成します。

オプション

ACTION(*data-value*)

CPSM MetaData レコードが検索されるリソース・テーブルに対する、12 文字のアクション名。

ACTIONPARM(*data-value*)

CPSM MetaData レコードが検索されるリソース・テーブルに対するアクションの、API パラメーター・ストリングに示されているとおりの 12 文字のパラメータ名。

ATTRIBUTE=*value*

オプションで、CICSplex SM リソース・テーブルの 1 つから、1 つ以上の既知の属性名の値を指定します。

OBJECT パラメーター上で使用される CPSM メタデータ・テーブルに応じて、この値は特定の属性の 1 から 12 文字の名前、またはリソース・テーブル内のすべての属性を表すアスタリスク (*) することができます。 ATTRIBUTE オプションが必須ではない OBJECT に対してそのオプションを指定しない場合、データはリソース・テーブル内のすべての属性に対して検索されます。

OBJECT=*value*

RESOURCE オプションに指定されたリソース・テーブル用に検索するメタデータのタイプを示します。このオプションは必須で、以下のいずれかの CPSM メタデータ・リソース・テーブル名を指定する必要があります。

OBJECT

OBJACT

METADESC

ATTR

ATTRAVA

METANAME

METAPARM

PARMAVA

RESOURCE=*value*

CPSM MetaData レコードが検索されるリソース・テーブルを指定します。

ATTRIBUTE パラメーターを指定する場合、リソース値は、特定の CICSplex SM リソース・テーブルの 1 から 8 文字の名前でなければなりません。 そうでない場合、アスタリスク (*) の値を指定して、すべてのリソース・テーブルのデータを検索できます。

STUB=*value*

以前の要求に対する応答としてサーバーから戻された結果セットのスタブ値を指定します。これはオプションであり、以下の効果があります。

- STUB オプションを省略した場合、サーバーは新しい結果セットを作成します。サーバーが前の要求から 1 つ以上の結果セットを作成している場合、それらは保存されて、この要求の影響を受けません。
- STUB オプションを指定した場合、サーバーは保存されている古い結果セットを新しい照会で再利用します。事実上、DATA/GETDEF 要求にスタブ値を

指定して発行することは、DATA/DISCARD の後に DATA/GETDEF を指定して発行することと同等であり、必要ななくなったシステム・リソースを縛り付けておくことを回避します。

注: クライアント・アプリケーションは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーから受け取るスタブ値を 1 回だけ使用できます。 Web ユーザー・インターフェース・サーバーへの要求にスタブ値を指定した後は、同じ値を再び使用することはできません。

STATUS 値

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

BADOBJECT

OBJECT オプションに指定された値が無効です。 DATA/GETDEF コマンドがスタブ値を指定している場合、暗黙の DISCARD が適用され、関連付けられた結果セットは廃棄されます。

BADSTUB

スタブ値が要求に対して無効です。以下の理由が原因と思われます。

- コマンドを発行したユーザー・セッションに属していないスタブ値が指定されています。
- スタブ値の順序が正しくありません。

CMASGONE

Web ユーザー・インターフェースと CMAS との接続が失われました。その結果、クライアント・アプリケーションのユーザー・セッションが終了しました。

MAXWIN

ユーザー・セッションでのウィンドウの最大数 (64) に達しました。

DATA/PASSTICKET

RACF または他の外部セキュリティー・マネージャー (ESM) の PassTicket を CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーから要求します。

DATA/PASSTICKET

►►DATA/PASSTICKET►►

説明

75 ページの『WUI ビューおよびメニューへのアクセスの提供』は、Web ブラウザを介して Web ユーザー・インターフェースにアクセスする方法について説明しています。 例えば、データ・インターフェースを使用するクライアント・アプリケーションが、ユーザーがクライアント・アプリケーションによって直接サポートされていないいくつかのアクティビティを実行可能にするための、Web ブラウザー・ウィンドウを起動する場合を考えます。しかし、Web ブラウザーは別のアプ

リケーションなのでクライアントの cookie を持つておらず、クライアント・アプリケーションのユーザーは Web ブラウザーを介して Web ユーザー・インターフェース・サーバーに別個にサインオンする必要が生じます。

DATA/PASSTICKET コマンドは、ユーザーが別のサインオンを実行しなくても、クライアント・アプリケーションが認証されたブラウザーを起動できるようにする手段を提供します。この手段は、以下の 2 つの部分から構成されます。

- PassTicket を取得する手段を提供します。これにより、RACF パスワードをクライアント・アプリケーション・サインオンから保管して通信する必要がなくなります。
- 既存の Web ユーザー・インターフェースのユーザー・セッションに参加して、クライアント・アプリケーションと Web ブラウザーとの間でセッション・リソースを共用する機能を提供します。

クライアント・アプリケーションが PassTicket を受け取ると、ユーザーのサインオン詳細を送信する HTTP POST メソッドを使用して Web ブラウザーを開始できます。POST 要求には、USERID=*value*、RECONN=J、および PASSWORD= を含む、DATA/CONNECT コマンドのオプションと一致する変数が組み込まれています。ただし、PASSWORD= オプションでは、パスワードの代わりに PassTicket 値を指定します。必要なメニュー、ビュー、またはオブジェクトを、Web ブラウザー開始要求の URL パスに指定できます。POST 要求の本体に、起動要求に対する追加の照会変数 (CONTEXT など) を含めます。

以下の表では、DATA/PASSTICKET コマンドが STATUS OK で完了する場合の、戻される追加のヘッダー・フィールドについて示しています。

表 23. DATA/PASSTICKET コマンド応答ヘッダーで戻されるデータ

ヘッダー・フィールド	説明
PASSTICKET=	ESM によって生成された PassTicket。この PassTicket は、現在のアプリケーションおよびユーザー ID のためのもので、保護される必要があります。

オプション

なし。

STATUS 値

BADCOMMAND

Web ユーザー・インターフェースによってデータ・インターフェースに渡されたコマンドは、認識されません。

付録. Web ユーザー・インターフェース HTML

このセクションでは、WUI によって生成される HTML について説明します。

Web ユーザー・インターフェースによって生成される HTML は、意図されたプログラミング・インターフェースではありません。HTML エレメントの内容や位置は、サービスを介してまたは将来のリリースで、変更されることがあります。ただし、Web ユーザー・インターフェース HTML の一部を認識可能にするために、以下の項目は識別されます。

- サインオンの後に、Web ユーザー・インターフェースは通常 3 つのフレームを使用します。これらには、以下のような名前が付いています。

ASSIST

支援フレーム

NAVIGATE

ナビゲーション・フレーム

WORKAREA

作業フレーム

- 以下は、(HTML ID 属性を介して) 識別される、アンカー (A) HTML エレメントです。

EYUADDTOAVS

お気に入りへの追加

EYUBACK

直前のビューまたはメニュー

EYUFAVEDITOR

お気に入りのエディター

EYUNAVCLOSE

ウィンドウを閉じる

EYUNAVEDITOR

ビュー・エディター

EYUNAVHOME

新規ホーム・ウィンドウ

EYUNAVNEWWIN

複製の現行ウィンドウ

EYUPRINTPREV

印刷プレビュー

EYUUSEREDITOR

ユーザー・エディター

EYUSIGNOFF

サインオフ

- 以下は、(HTML ID 属性を介して) 識別される、FORM HTML エレメントです。

EYUSETREFRESH

コンテキスト、有効範囲、またはビューのフィルターを設定するために使用します。

- 以下は、(HTML ID 属性を介して) 識別される、HTML エレメントです。

EYUPRESIGNON

「サインオンの開始」画面を識別します。

- 以下は、(HTML ID 属性を介して) 識別される、SPAN HTML エレメントです。

EYUAUTOUUPDATE

自動画面更新制御エレメントを識別します。

これらの名前付きエレメントの利用は、HTTP および HTML を正しくインプリメントおよび処理するコンテキスト内で行う必要があります (例えば、HTTP および HTML はプログラムによって Web ブラウザーによる場合と同様の方法で処理されなければなりません)。プログラムは、他の Web ユーザー・インターフェース HTML エレメントに対して、上で説明されたもの以外の特定の意味を推定するべきではありません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書には、技術的に正確でない記述や誤植がある場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、隨時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行なうことがあります。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。IBM United Kingdom Laboratories, MP151, Hursley Park, Winchester, Hampshire, England, SO21 2JN 本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項を確認ください。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース:

WUI メイン・インターフェース: このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人を識別可能な情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

WUI データ・インターフェース: このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人を識別可能な情報を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

WUI Hello World ページ: このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、個人を識別可能な情報を収集することのないセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICS Explorer: このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、およびシングル・サインオン構成の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名とパスワードを、セッションごとおよび持続的な設定を使用して収集する場合があります。ユーザーのパスワードを暗号化した形式でディスク上に保管することは、サインオンの際にチェック・ボックスにチェック・マークを付けるというユーザーによる明示的な操作によってのみ有効にできますが、上述のそれらの設定を無効にすることはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM のプライバシー・ポリシー』(<http://www.ibm.com/privacy>) および『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および「IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement」(<http://www-01.ibm.com/software/info/product-privacy/>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

参考文献

CICS Transaction Server for z/OS の CICS ブック

一般

- CICS Transaction Server for z/OS Program Directory - base*、GI13-3375
CICS Transaction Server for z/OS Program Directory activation module - base、
GI13-3376
CICS Transaction Server for z/OS Program Directory activation module - Developer Trial、GI13-3377
CICS Transaction Server for z/OS Program Directory activation module - Value Unit Edition、GI13-3378
CICS Transaction Server for z/OS 新機能、GC43-2879
CICS Transaction Server for z/OS CICS TS バージョン 5.3へのアップグレード、GC43-2974
CICS Transaction Server for z/OS インストール・ガイド、GC43-2877

CICSへのアクセス

- CICS インターネット・ガイド*、SC43-2878
CICS Web サービス・ガイド、SC43-2876

管理

- CICS System Definition Guide*、SC34-7428
CICS Customization Guide、SC34-7404
CICS Resource Definition Guide、SC34-7425
CICS Operations and Utilities Guide、SC34-7420
CICS RACF Security Guide、SC34-7423
CICS Supplied Transactions、SC34-7427

プログラミング

- CICS アプリケーション・プログラミング・ガイド*、SC43-2882
CICS アプリケーション・プログラミング・リファレンス、SC43-2875
CICS System Programming Reference、SC34-7429
CICS Front End Programming Interface User's Guide、SC34-7412
CICS C++ OO Class Libraries、SC34-7405
CICS Distributed Transaction Programming Guide、SC34-7410
CICS Business Transaction Services、SC34-7403
CICS での Java アプリケーション、SC43-2885

診断

- CICS Problem Determination Guide*、GC34-7422
CICS パフォーマンス・ガイド、SC43-2881
CICS Messages and Codes Vol 1、GC34-7418
CICS Messages and Codes Vol 2、GC34-7419
CICS Diagnosis Reference、GC34-7409
CICS Recovery and Restart Guide、SC34-7424

CICS Data Areas、GC34-7406
CICS Trace Entries、SC34-7430
CICS Debugging Tools Interfaces Reference、GC34-7408

通信

CICS 相互通信ガイド、SC43-2880
CICS External Interfaces Guide、SC34-7411

データベース

CICS DB2® Guide、SC34-7407
CICS IMS™ Database Control Guide、SC34-7413
CICS Shared Data Tables Guide、SC34-7426

CICS Transaction Server for z/OS の CICSPlex SM ブック

一般

CICSPlex SM 概念および計画、SC43-2883
CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース・ガイド、SC43-2884

管理

CICSPlex SM Administration、SC34-7438
CICSPlex SM Operations Views Reference、SC34-7447
CICSPlex SM Monitor Views Reference、SC34-7446
CICSPlex SM Managing Workloads、SC34-7444
CICSPlex SM Managing Resource Usage、SC34-7443
CICSPlex SM Managing Business Applications、SC34-7442

プログラミング

CICSPlex SM Application Programming Guide、SC34-7439
CICSPlex SM Application Programming Reference、SC34-7440

診断

CICSPlex SM Resource Tables Reference Vol 1、SC34-7449
CICSPlex SM Resource Tables Reference Vol 2、SC34-7450
CICSPlex SM Messages and Codes、GC34-7445
CICSPlex SM Problem Determination、GC34-7448

他の CICS 資料

以下の資料には CICS に関する詳しい情報が含まれますが、これらの資料は CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 5 リリース 3 の一部としては提供されません。

Designing and Programming CICS Applications、SR23-9692
CICS Application Migration Aid Guide、SC33-0768
CICS ファミリー: API の構成、SC88-7261
CICS ファミリー クライアント・サーバー プログラミングの手引き、SC88-7429
CICS Family: Interproduct Communication、SC34-6853
CICS Family: Communicating from CICS on System/390、SC34-6854

CICS Transaction Gateway (OS/390 版) 管理の手引き、SD88-7246
CICS Family: General Information、GC33-0155
CICS 4.1 Sample Applications Guide、SC33-1173
CICS/ESA 3.3 XRF Guide、SC33-0661

アクセシビリティー

アクセシビリティー機能は、運動障害または視覚障害などの身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるように支援します。 CICS Transaction Gateway は、JAWS スクリーン・リーダーと互換性があります。CICS Transaction GatewayCICS Universal Client は、キーボードのみによる操作を可能にすることで、アクセシビリティーを提供します。

IBM のアクセシビリティーへの取り組みについて詳しくは、 IBM Accessibility Center にアクセスしてください。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アイコン 5
印刷プレビュー 6
「右方にマップ」アイコン 6
大文字小文字の区別のあるフィールド 6
お気に入り 6
降順にソート 6, 11, 40
最初に戻る 6, 29
「左方にマップ」アイコン 6
集計 6, 41
縮小 6
昇順にソート 6, 11, 40
すべて縮小 6
すべて展開 6
展開 6
必須パラメーター 6
ヘルプ 6
前のメニューに戻る 6, 29
戻る 6, 29
アクション・パラメーター 110
アクション・ボタン 17, 110
アクセシビリティー 179
アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 141
概要 141
HTTP レベル 142
「印刷プレビュー」アイコン 6
ウィンドウ、閉じる 30
「ウィンドウを閉じる」リンク 30
右方にマップ 52
エクスポート 69
応答コード
HTTP 144
応答状況値
DATA/CONNECT コマンド 153
DATA/DISCARD コマンド 155
DATA/DISCONNECT コマンド 156
DATA/FETCH コマンド 159
大文字小文字の区別のあるフィールド 36
「大文字小文字の区別のあるフィールド」アイコン 6
お気に入り 20, 87
作成 92

お気に入り (続き)
編集 88
「お気に入り」アイコン 6
お気に入りのエディター 87
オブジェクト名 79

[力行]

確認パネル 13, 101
「いいえ (残りの n 個もすべて含む)」ボタン 13
「いいえ」ボタン 13
「はい (残りの n 個もすべて含む)」ボタン 13
「はい」ボタン 13
パラメーター 13, 15
確認ボタン 17
カスタマイズ 87
カスタマイズ可能なビューおよびメニュー
一・ヘルプ 10, 111
作成 111
ソース 75
WUI ヘルプ 23
カスタマイズされたビューおよびメニュー
アクセス 75
カスタマイズされたマップ・オブジェクト
107
関係演算子 47
監査証跡 74
クエリー変数 76
グラフィカル表現 5
グラフィック・シンボル 5
グループ・プロファイル 2, 93
警告ライト、ビュー・エディター 107
警告レコード・カウント
ユーザー・グループ・プロファイルでの設定 97
結果セット警告のカウント 49
「降順にソート」アイコン 6, 11, 40
コンテキスト 21, 38, 39
コンテンツ・タイプ v
コンテンツ・タイプとの対応 v

[サ行]

「最初に戻る」アイコン 6, 29
再接続 26
サインオフ 30
サインオン 25
作業フレーム 5, 8
左方にマップ 52

支援フレーム 5, 9
時刻形式 109
自動最新表示 11, 43
「集計」アイコン 6, 41
集計ビュー 11, 100
拡張 41
集計ビューでの Summunlike 41
集計ビューの展開 41
「縮小」アイコン 6
出力ログ 74
条件
GET コマンド 163, 166
PASSTICKET コマンド 167
詳細
属性 15
詳細ビュー 12, 100
作成 135
属性 12
2 列 100
「昇順にソート」アイコン 6, 11, 40
商標 173
新規ウィンドウ、開く 30
身体障害 179
スコープ 21, 38, 39
「すべて選択」アイコン 11
「すべて選択」ボタン 18
生成される HTML 169
セキュリティー 81
WUI リソースへのアクセス 82
セキュリティーに関する考慮事項
マップ・オブジェクト 128
選択基準 38
コンテキスト 38, 39
スコープ 38, 39
属性フィルター 38, 48
パラメーター・フィルター 38, 48
CMAS コンテキスト 38, 39
選択基準および最新表示域 11
自動最新表示 11, 43
要求時の最新表示 11, 43, 46
選択基準領域 19
選択項目の縮小 29
選択項目の展開 29
選択リスト 15, 36, 48, 107
「選択をすべて解除」アイコン 11
「選択をすべて解除」ボタン 18
総称文字
属性フィルターで 38
属性 12, 15, 45, 47, 109
変更 45

属性値
 フィルタリング 46
 GET コマンド 161
 GETDEF コマンド 165
属性データ・タイプ
 詳細ビューの 136
属性フィルター 38, 48, 110

[夕行]

チェック・ボックス 11
注釈 17
 属性 17
 ビューおよびメニュー 17
 メニュー選択 17
データ
 入力 36
 フィルタリング 46
データのグラフィカル表示 107
データの入力 36
データのフィルタリング 46
 ユーザーのお気に入り 90
データ・インターフェース
 DATA/CONNECT コマンド 149
 DATA/DISCARD コマンド 155
 DATA/FETCH コマンド 157
 DISCONNECT コマンド 156
データ・タイプ
 属性の 136
提供されるビュー
 言語
 EYUEVX01 73
 EYUKVX01 73
 EYUSVX01 73
 命名規則 74
提供されるビューおよびメニュー 113
デフォルト値、設定 93, 94
デフォルト・ビュー 103
「展開」アイコン 6
動的選択リスト 15
トレース・フラグ、CMAS および MAS の設定 85

[ナ行]

ナビゲーション・フレーム 5, 7
ナビゲーション・フレーム・メニュー
 106
入力フィールド 15, 107
入力ボックス 36, 48, 107

[ハ行]

バー・ゲージ 108
ハイパーリンク 30

パスワード、変更 27
パスワード・フレーズ、変更 27
パラメーター 13, 15, 45, 110
 入力 45
パラメーター・フィルター 38, 48, 110
「必須パラメーター」アイコン 6
ビュー 9, 10
 アクション・ボタン 17
 印刷 46
 確認パネル
 パラメーター 13, 15
 確認ボタン 17
 カスタマイズ 116
 カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ 10
 カスタマイズされた 99
 最新表示 42
 集計 41
 詳細 12
 属性 12, 15
 セキュリティーに関する考慮事項 82
 選択 31
 選択基準および最新表示域
 自動最新表示 11, 43
 要求時の最新表示 43, 46
 選択リスト 15
 ソート 40
 注釈 17
 定義のインポートおよびエクスポート
 64
 入力フィールド 15
 ビューの選択基準および最新表示域
 11
 要求時の最新表示 11
 ビューのタイトル
 カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ 10
 ビューのメッセージ領域 10
 表形式 11
 集計 11
 マップ・ボタンの追加 57, 125
 リンク 17
 ビュー、集計 100
 ビュー、詳細 12, 100
 ビュー、デフォルト 103
 ビュー、表形式 11, 99
 ビューの印刷 46
 ビューのタイトル 10
 ビューの命名規則 10
 ビュー・エディター 21, 98
 アクション・ボタン 110
 アクセス 113
 確認パネル 101
 カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプの作成 111
 集計ビュー 11
 レコードの選択および選択解除 11
表示オプション画面の表示 57, 125
表示しきい値、ビュー・エディター 107
フィルター 46
フィルター確認画面 102
フィルター確認フラグ 22
フォーム 11
フレーム
 作業フレーム 5, 8
 支援フレーム 5, 9
 ナビゲーション・フレーム 5, 7
プログラミング・インターフェース情報
 169
プロファイル 2
ヘルプ
 Web ユーザー・インターフェースのヘルプ 23

ヘルプ (続き)
 Web ユーザー・インターフェースのメッセージ・ヘルプ 24
ヘルプ・アイコン 6
ポート 23, 61, 76
ホーム・メニュー 19
ホスト名 23, 61, 76
ボタン 17

[マ行]

「前のメニューに戻る」アイコン 6, 29
マッピングに関するリソース定義 52
マップ 9
 カスタマイズされたマップ・オブジェクト 107
 作成および編集 126
 セキュリティーに関する考慮事項 82
 定義のインポートおよびエクスポート 64
 マップ・オブジェクトの編集 125
 命名規則 74
マップ機能
 カスタマイズされたマップ 126
 セキュリティー・プロファイル 128
 ビューへのマップ・ボタンの追加 125
 マップの表示 57
マップ・オブジェクト 107
 カスタマイズ 125
メインメニュー 28
メッセージ領域 10
メニュー 18, 114
 カスタマイズ 114
 カスタマイズされた 105
選択 20, 31
 外部リンク 20
 ビュー・リンク 20
 メニュー・リンク 20
選択基準領域 19
ホーム 28
 メッセージ領域 19
メニュー選択 20
メニューのメッセージ領域 19
「戻る」アイコン 6, 29

[ヤ行]

ユーザーのお気に入り 20, 87
 作成 92
ユーザー・エディター 22, 90
ユーザー・オブジェクト 87
 作成 92
ユーザー・グループ・プロファイル 22, 93

ユーザー・グループ・プロファイル (続き)
 作成 96
 作成および編集 94
ユーザー・セッションの強制バージ 64
ユーザー・セッションのバージ 64
要求時の最新表示 11, 43, 46

[ラ行]

リソースおよび属性の選択 15
リソース選択リスト 15
リソース定義
 リソースの選択 15
リソースに対する操作 43
リソース割り当て
 マッピング 55
リソース・テーブル 10
リンク 17, 29
 ウィンドウを閉じる 7
 オープン 29
 外部 7, 75
 サインオフ 7
 使用 30
 新規ウィンドウ 7
 ビュー・エディター 7
 ホーム 7, 29
 前のメニューを繰り返す 7, 29
 メニューおよびビュー 7
レコード・カウント警告 49

[数字]

2 列の詳細ビュー 100
 エレメントの削除 137
 作成 135

A

AEXY 異常終了 64
A_attrname 78

C

CICS システム初期設定パラメーター
 MNPER 121, 124
 MNRES 121, 124
CICS モニター・データ 121, 124
CICSPlex SM
 構成の確認 52
CICSPlex SM のマップ機能
 概要 52
CMAS および MAS トレース・フラグの設定 85
CMAS コンテキスト 21, 38, 39

CMAS トレース・フラグ設定 85
CMASCONTEXT オプション
 GET コマンド 162
「Components of Favorite (お気に入りのコンポーネント)」画面 89
CONNECT コマンド
 データ・インターフェース
 DATA/CONNECT 149
CONTEXT オプション
 GET コマンド 162
COUNT オプション
 DATA/FETCH コマンド 158
COVC 59, 64, 69
 インポート 64
 エクスポート 69
 開始 60
 状況詳細 61
 停止 60
 トレース・フラグ 72
 マップ・オブジェクト 128
 ユーザー・セッション 62
 ユーザー・セッションの強制バージ 64
 ユーザー・セッションのバージ 64
COVE 64, 69
COVI 64, 69

D

DATA/CONNECT コマンド 149
 応答状況値 153
 パラメーター 152
DATA/DISCARD コマンド 155
 応答状況値 155
 パラメーター 155
 STUB オプション 155
DATA/DISCONNECT コマンド 156
 応答状況値 156
DATA/FETCH コマンド 157
 応答状況値 159
 COUNT オプション 158
 FIELDS オプション 158
 POSITION オプション 158
 STUB オプション 158
DATA/GET コマンド 160
DATA/GETDEF コマンド 164
DATA/PASSSTICKET コマンド 166
DEFAULTMAPCOLL パラメーター 57
DEFAULTWARNCNT パラメーター 50
DISCARD
 データ・インターフェース
 DATA/DISCARD 155
DISCONNECT コマンド
 データ・インターフェース
 DATA/DISCONNECT 156

E

EYUEVX01 73
EYUKVX01 73
EYULOG 74
EYUSTART 名 74
EYUSVX01 73
EYWREP (Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ) 72

F

FETCH コマンド
データ・インターフェース
DATA/FETCH 157
FIELDS オプション
DATA/FETCH コマンド 158
FILTERC 79

G

GET コマンド
条件 163, 166

H

HTML 169
HTML ヘルプ・ファイル 112
HTTP 23, 75, 78, 170
http 23, 76
HTTP 応答コード 144
HTTP プロキシー
アプリケーション・プログラミング・
インターフェース (API) 142
HTTP 要求フォーマット
URL エンコード 143
HTTP レベル
アプリケーション・プログラミング・
インターフェース (API) 142
HTTPS 23, 75
https 23, 76

I

INACTIVETIMEOUT 63

K

Knowledge Center v
Knowledge Center のコンテンツ・タイプ
v

M

MAS トレース・フラグ設定 85
MAXUSERS 63

N

NEWPASS1 オプション
DATA/CONNECT コマンド 152
NEWPASS2 オプション
DATA/CONNECT コマンド 152

O

OBJECT 値
GETDEF コマンド 165
OBJECT オプション
GET コマンド 162
O_attribute 値
GET コマンド 162
O_attrname 79
演算子の値 79

P

PASSSTICKET コマンド 167
条件 167
PASSWORD オプション
CONNECT コマンド 152
POSITION オプション
DATA/FETCH コマンド 158
P_parameter 値
GET コマンド 162
P_parmname 79

R

RASGNDEF
マッピング 55
RECONN オプション
CONNECT コマンド 153
RESOURCE パラメーター
GETDEF コマンド 165

S

SCOPE オプション
GET コマンド 162
STUB オプション
DATA/DISCARD コマンド 155
DATA/FETCH コマンド 158
GET コマンド 162
STUB パラメーター
GETDEF コマンド 165

T

TCPIPHOSTNAME 61
TCPIPPRT 61
TCPIPSSERVICE 61
TCPIPSSL 61

U

URL 23, 75
接頭部 76
選択基準 78
パス 76
URL の接頭部 76
URL の選択基準の部分
属性フィルター、A_attrname 78
属性フィルター、O_attrname 79
パラメーター・フィルター、
P_parmname 79
CMASCONTEXT 78
CONTEXT 78
FILTERC 79
SCOPE 78
URL の選択基準部分 76
URL のパス 76
USERID オプション
CONNECT コマンド 153

V

「View Link Context and Scope Settings
(ビュー・リンク・コンテキストおよび
スコープ設定)」画面 90
「View Link Filters (ビュー・リンク・フ
ィルター)」画面 90

W

Web ユーザー・インターフェース 5
アクセス 75
外部サーバーへのアクセス 75
ヘルプ情報 23
HTML 169
Web ユーザー・インターフェース・サー
バーの初期設定パラメーター
INACTIVETIMEOUT 63
MAXUSERS 63
TCPIPHOSTNAME 61
TCPIPPRT 61
TCPIPSSL 61
Web ユーザー・インターフェース・サー
バー・リポジトリ (EYWREP) 72
WLM アクティブ・ビュー 38
WUI
管理 59

WUI (続き)
 サインオン 25
 定義のインポートおよびエクスポート
 64
 マップ機能 52
 レコード・カウント警告の設定 49
 DEFAULTWARNCNT 49
WUI アイコン 5
WUI サーバー

- 開始および停止 60
- WUI サーバー初期設定パラメーター 79
- WUI サーバー・リポジトリ 72

WUI データ・リポジトリ

- 定義のインポート 64

WUI 定義のインポート 64
 COVC の使用 64
WUI 定義のエクスポート 64
WUI の管理 59
WUI メッセージ・ヘルプ 24



SC43-2884-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21